

Nikon

デジタルカメラ

D5

使用説明書

- 製品をお使いになる前に本書をよくお読みください。
- 「安全上のご注意」(xiiページ) も必ずお読みになり、正しくお使いください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに保管してください。

Jp

お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を十分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

本文中のマークについて

この使用説明書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときにご活用ください。



カメラを使用する前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。



カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。



使用説明書上で関連情報が記載されているページです。

表記について

- このカメラにはXQDカード対応機種とコンパクトフラッシュカード（CFカード）対応機種の2種類があり、操作説明は共通です。この使用説明書ではXQD対応機種で説明します。
- XQDメモリーカードおよびCFカードを「メモリーカード」と表記しています。ただし、XQDメモリーカードとコンパクトフラッシュカードを区別して説明する必要がある場合は、それぞれ「XQDカード」と「CFカード」と表記しています。
- バッテリーチャージャーを「チャージャー」と表記しています。
- ご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。
- この使用説明書では、カメラの設定が初期設定であることを前提に操作の説明を行っています。



「Nikon Manual Viewer 2」アプリ

ニコンデジタルカメラの説明書をスマートフォンやタブレットで見ることができるとアプリです。App StoreまたはGoogle Playから無料でダウンロードできます。

* アプリおよび使用説明書をダウンロードするには、インターネットに接続できる環境が必要です（通信料が発生します）。

⚠ 安全上のご注意

安全にカメラをお使いいただくために守っていただきたい内容が記載されています。カメラをお使いになる前に必ずお読みください。詳しくは□□xii～xviiiをご覧ください。

D5-a (XQD Card Type)

D5-b (CF Card Type)

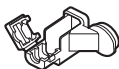
カメラと付属品を確認する

お使いになる前に、カメラと付属品が全てそろっていることを確認してください。万一、付属品がそろっていない場合は、ご購入店にご連絡ください。

- ☐ D5カメラ本体 (☐1)
- ☐ ボディーキャップ
BF-1B (☐24、419)
- ☐ アクセサリーシュー
カバー BS-3 (☐13)



- ☐ Li-ionリチャージャブルバッテリー
EN-EL18c (端子カバー付)
(☐18、21)
- ☐ バッテリーチャージャー MH-26a
(電源コード/接点保護カバー
(2個) 付) (☐18)
- ☐ USBケーブルクリップ (☐267)
- ☐ HDMIケーブルクリップ (☐273)



- ☐ USBケーブルUC-E22 (☐265、270)
- ☐ 使用説明書 (本書)
- ☐ ストラップAN-DC15 (☐18)
- ☐ ネットワークガイド
- ☐ 保証書

- メモリーカードは別売です。
- 日本国内でご購入いただいたカメラは、画面の表示言語を日本語または英語に設定できます。

ニコンソフトウェアViewNX-iとCapture NX-Dについて

ViewNX-iはカメラで撮影した画像の転送や閲覧・調整が、Capture NX-Dは画像の調整やRAW現像ができるニコンのソフトウェアです。下記のホームページでソフトウェアの最新情報や動作環境をご確認の上、ダウンロードしてください。

<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>

目次

カメラと付属品を確認する	i
安全上のご注意	xii
ご確認ください	xix

お使いになる前に 1

各部の名称と機能	1
カメラ本体	1
上面表示パネル	6
背面表示パネル	8
ファインダー	9
タッチパネル	11
アクセサリシューカバー BS-3 の取り付け、取り外し方	13

基本操作 14

メニューの操作方法	14
メニュー項目の設定	15
撮影前の準備	18
ストラップを取り付ける	18
バッテリーを充電する	18
カメラにバッテリーを入れる	21
レンズを取り付ける	24
日付と時刻を設定する	26
メモリーカードを入れる	29
メモリーカードを初期化（フォーマット）する	32
ファインダーを見やすくする（視度調節）	34
撮影と再生の基本操作	36
バッテリーとメモリーカードの残量を確認する	36
カメラを構える	38
ピントを合わせて撮影する	39
撮影した画像を確認する	41
画像を削除する	42

ライブビュー撮影

43

オートフォーカスで撮影する	46
AF モードを変更する	46
AF エリアモードを変更する	47
マニュアルフォーカスで撮影する	49
i ボタンを使う	50
情報表示について	55
表示を切り換える	56

動画撮影と再生

58

動画を撮影する	58
インデックスマーキングについて	60
i ボタンを使う	61
情報表示について	63
動画の最長記録時間について	65
表示を切り換える	66
動画撮影時の画角について	67
動画撮影時の静止画撮影	69
静止画をつないで動画にする（微速度撮影）	73
動画の再生	78
動画の編集	80
動画の必要な部分を残す	80
動画の 1 フレームを JPEG 画像として保存する	83

画像の記録

84

撮像範囲を変更する	84
画質モードを変更する	88
画像サイズを変更する	91
2 枚のメモリーカードに記録する（スロット 2 の機能）	93

フォーカス

94

オートフォーカスで撮影する	94
AF モードを変更する	97
AF エリアモードを変更する	99
フォーカスポイントを自分で選ぶ	103
ピントを固定して撮影する（フォーカスロック）	105
マニュアルフォーカスで撮影する	108

レリーズモード

110

1 コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、レリーズモードを変更する	110
レリーズモードのクイック設定	113
セルフタイマーを使って撮影する（⌚）	114
ミラーアップして撮影する（MUP）	116

ISO 感度

117

ISO 感度を変更する	117
感度自動制御機能を使う	119

測光・露出

122

測光モードを設定する	122
シャッタースピードや絞り値で露出を設定する（露出モード）	124
P（プログラムオート）	125
S（シャッター優先オート）	126
A（絞り優先オート）	127
M（マニュアル）	128
長時間露出で撮影する（露出モード M のみ）	130
シャッタースピードと絞り値をロックする	132
AE ロックして露出を固定する	134
露出補正して画像の明るさを調整する	136
オートブラケティングで露出や調光、ホワイトバランス、 アクティブ D- ライティングを変えながら撮影する	138

ホワイトバランス

149

ホワイトバランスを変更する	149
ホワイトバランスを微調整する	152
色温度設定で色温度を指定する	156
プリセットマニュアルで基準となる白を設定する	159
ファインダー撮影時にプリセットマニュアルデータを 新規取得する	160
ライブビュー時にスポットホワイトバランスで プリセットマニュアルデータを取得する	164
プリセットマニュアルデータを管理する	167

画像処理

170

ピクチャーコントロールを使って画像の仕上がりを簡単に 設定したり、思い通りに調整する	170
ピクチャーコントロールを選ぶ	170
ピクチャーコントロールを調整する	172
カスタムピクチャーコントロールを登録する	175
白とびや黒つぶれを抑えて撮影する	179
アクティブ D- ライティングで撮影する	179
HDR（ハイダイナミックレンジ）合成を行う	181

フラッシュ撮影

186

別売スピードライトをカメラに装着して撮影する	186
カメラに装着したスピードライトの発光モードを設定する	189
フラッシュモードを設定する	191
フラッシュモードを切り換える	192
調光補正してフラッシュの発光量を変更する	193
FV ロックして調光量を固定する	195
複数のスピードライトを同時に発光させる（ワイヤレス増灯撮影）	197
ワイヤレス増灯撮影の準備をする	198
ワイヤレス増灯撮影を行う	202
スピードライトの設定を確認する	209
各発光モードの表示について	209

撮影の便利な機能

212

Info ボタンを使う	212
i ボタンを使う	215
ツーボタンリセットで基本的な機能を初期設定に戻す	216
フリッカー低減機能を使う	218
多重露出撮影で 1 つの画像に重ねて写し込む	220
設定した間隔で撮影する (インターバルタイマー撮影)	225
非 CPU レンズを使う (レンズ情報手動設定)	231
位置情報を画像に記録する	234

画像の再生

237

画像を再生する	237
1 コマ表示モード	237
サムネイル表示モード	237
画像再生時のボタン操作	238
再生時にタッチパネルでできること	240
i ボタンを使う	242
画像情報を表示する	243
画像を拡大表示する	252
プロテクトで画像を削除できないように保護をする	254
画像にレーティングを設定する	255
画像を削除する	256

音声メモ



259



音声メモを録音する	259
撮影時に音声メモを録音する	260
音声メモを再生する	263



パソコンに画像を取り込む方法.....	264
ViewNX-i をインストールする	264
ViewNX-i を使ってパソコンに画像を取り込む	265
有線 LAN/ 無線 LAN を使ってパソコンに画像を転送する	268
画像をプリンターで印刷する	270
カメラとプリンターを接続する	270
1 コマだけプリントする	271
複数の画像をプリントする	272
画像をテレビで見る	273
HDMI ケーブルを使ってテレビと接続する	273
HDMI 対応機器との接続時の設定を変更する	274

メニューガイド

初期設定一覧	276
▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能	285
再生フォルダー設定	286
非表示設定	286
再生画面設定	287
画像コピー	288
撮影直後の画像確認	291
削除後の次再生画像	292
連続撮影後の再生画像	292
縦横位置情報の記録	293
縦位置自動回転	293
スライドショー	294
📷 静止画撮影メニュー：静止画撮影で使える便利な機能	296
静止画撮影メニューの管理	297
静止画撮影メニューの拡張	298
記録フォルダー設定	299
ファイル名設定	302
色空間	302
長秒時ノイズ低減	303
高感度ノイズ低減	303
ヴィネットコントロール	304
自動ゆがみ補正	305

 動画撮影メニュー：動画撮影で使える便利な機能	306
動画撮影メニューのリセット	307
ファイル名設定	307
動画記録先	307
動画 ISO 感度設定	308
ホワイトバランス	308
ピクチャーコントロール	309
カスタムピクチャーコントロール	309
マイク感度	309
録音帯域	310
風切り音低減	310
高感度ノイズ低減	310
フリッカー低減	311
電子手ブレ補正	311
 カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定	312
カスタムメニューの管理	314
a：オートフォーカス	315
a1：AF-C モード時の優先	315
a2：AF-S モード時の優先	316
a3：AF ロックオン	317
a4：3D- トラッキングの顔認識	318
a5：3D- トラッキングの捕捉領域	318
a6：AF 点数切り換え	318
a7：縦 / 横位置フォーカス切替	319
a8：半押し AF レンズ駆動	320
a9：AF エリアモードの限定	320
a10：AF モードの制限	321
a11：フォーカスポイント循環選択	321
a12：フォーカスポイント表示の設定	322
b：露出・測光	322
b1：ISO 感度設定ステップ幅	322
b2：露出設定ステップ幅	322
b3：露出・調光補正ステップ幅	323
b4：露出補正簡易設定	323
b5：マルチパターン測光	324
b6：中央部重点測光範囲	324
b7：基準露出レベルの調節	324

c : AE ロック・タイマー	325
c1 : シャッターボタン AE ロック.....	325
c2 : 半押しタイマー.....	325
c3 : セルフタイマー.....	325
c4 : モニターのパワーオフ時間.....	326
d : 撮影・記録・表示	326
d1 : 連続撮影速度.....	326
d2 : 連続撮影コマ数.....	327
d3 : レリーズモードの限定.....	327
d4 : 連動レリーズモード設定.....	327
d5 : 露出ディレーモード.....	328
d6 : 電子先幕シャッター.....	328
d7 : 連番モード.....	328
d8 : ファインダー内格子線表示.....	329
d9 : イルミネーター点灯.....	330
e : フラッシュ・BKT 撮影	331
e1 : フラッシュ撮影同調速度.....	331
e2 : フラッシュ時シャッタースピード制限.....	332
e3 : フラッシュ使用時の露出補正.....	332
e4 :  使用時の感度自動制御.....	332
e5 : モデリング発光.....	332
e6 : BKT 変化要素 (M モード).....	333
e7 : BKT の順序.....	333
f : 操作	334
f1 : カスタムボタンの機能.....	334
f2 : 中央ボタンの機能.....	345
f3 : シャッタースピードと絞り値のロック.....	347
f4 : コマンドダイヤルの設定.....	347
f5 : マルチセレクターの半押し起動.....	350
f6 : ボタンのホールド設定.....	350
f7 : インジケータの+ / - 方向.....	350
f8 : ライブビューボタンの設定.....	351
f9 :  スイッチの機能.....	351
g : 動画	352
g1 : カスタムボタンの機能.....	352

 セットアップメニュー：カメラを使いやすくする基本設定	356
カードの初期化（フォーマット）	357
言語（Language）	357
地域と日時	358
モニターの明るさ	358
モニターのカラーカスタマイズ	359
水準器表示	360
インフォ画面の表示設定	361
AF 微調節	362
イメージダストオフデータ取得	364
画像コメント	366
著作権情報	367
IPTC	368
音声メモの設定	371
電子音設定	373
タッチ操作	374
リモコン（WR）設定	374
リモコン（WR）の Fn ボタンの機能	375
カードなし時リリース	376
電池チェック	377
カメラ設定の保存と読み込み	378
カメラの初期化	380
ファームウェアバージョン	380
 画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能	381
RAW 現像（パソコンを使わずに RAW 画像を JPEG 画像に変換する）	384
トリミング	386
リサイズ	387
D- ライティング	389
赤目補正	390
傾き補正	390
ゆがみ補正	391
アオリ効果	392
フィルター効果	392
モノトーン	393
画像合成	394
編集前後の画像表示	397

マイメニュー / 最近設定した項目	399
マイメニュー：よく使うメニューを登録する	399
最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる	403

資料

404

使用できるレンズ	404
ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) について	410
使用できるアクセサリ	417
カメラとパワーコネクター、AC アダプターの接続方法	423
カメラのお手入れについて	425
保管について	425
クリーニングについて	425
ローパスフィルターを自動で掃除する (イメージセンサークリーニング)	426
ローパスフィルターをブローで掃除する	428
時計用電池の交換について	431
カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意	433
露出モード P (プログラムオート) のプログラム線図	438
故障かな?と思ったら	439
警告メッセージ	447
主な仕様	454
バッテリーチャージャーMH-26aのキャリブレーションに ついて	464
使用できるメモリーカード	466
記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数	467
撮影可能コマ数 (電池寿命) について	470
索引	472
ニコンプラザについて	481
修理サービスのご案内	482
修理に関するお問い合わせ先	483
製品の使い方に関するお問い合わせ先	483

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。表示と意味は、次のようになっています。



危険

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例



△ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘ 記号は、禁止の行為（してはいけないこと）を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



● 記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

警告 (カメラとレンズについて)



分解禁止

分解したり修理や改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。



接触禁止

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。



すぐに修理依頼を

電池、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



電池を取る

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。



すぐに修理依頼を

電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。

電池を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



水かけ禁止

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらさない

感電や発火などの事故や故障の原因になります。



使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使わない

プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因になります。



使用禁止

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります。



発光禁止

車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないこと

事故の原因となります。



発光禁止

フラッシュを人の目に近づけて発光しない

視力障害の原因になります。

撮影時には、1m以上離れてください。

特に乳幼児の撮影には注意してください。



保管注意

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届くところに置かない

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだときは直ちに医師にご相談ください。



警告

ストラップが首に巻き付かないようにする

特に幼児・児童の首にストラップをかけない

首に巻き付くと窒息の原因になります。



使用禁止

ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと

感電の原因となります。

雷が鳴り止むまで機器から離れてください。



警告

指定の電源（電池、ACアダプター）を使う

指定以外のものを使用すると、事故や故障の原因になります。

注意 (カメラとレンズについて)



感電注意

ぬれた手でさわらない

感電の原因になることがあります。



使用注意

カメラの電源がONの状態、長時間直接触れないこと

使用中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



保管注意

製品は幼児の手の届くところに置かない

ケガの原因になることがあります。



使用注意

逆光撮影では、太陽を画角から充分にすらすること

太陽光がカメラ内部で焦点を結び、火災の原因になることがあります。画角から太陽をわずかに外しても火災の原因になることがあります。



保管注意

使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。



移動注意

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりして、ケガの原因となることがあります。



使用注意

航空機内での使用については、航空会社の指示に従う

病院内での使用については、病院の指示に従う



電池を取る

長期間使用しないときは電源（電池やACアダプター）を外すこと

電池の液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。



プラグを抜く

ACアダプターをご使用の際には、ACアダプターを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



禁止

布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。



放置禁止

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない

故障や火災の原因になることがあります。

危険 (専用リチウムイオン充電電池について)



禁止

電池を火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



分解禁止

電池を分解しない

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



危険

電池、または電池を入れたカメラに強い衝撃を与えたり、投げたりしない

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になることがあります。



危険

専用の充電器を使用すること

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。



危険

ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管したりしない

ショートして液もれ、発熱、破裂、発火の原因になりますので、端子カバーをつけて絶縁してください。



使用禁止

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18cに対応していない機器には使用しないこと

液もれ、発熱、破裂、発火の原因になります。

Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL18cは、D5に対応しています。



水かけ禁止

水につけたり、ぬらさないこと

液もれ、発熱、発火の原因となります。

警告 (専用リチウムイオン充電電池について)



警告

電池からもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること

そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。



保管注意

電池は、幼児の手の届くところに置かない

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。



警告

変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと

液もれ、発熱・破裂、発火の原因になります。



警告

充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときには、充電をやめること

液もれ、発熱・破裂、発火の原因になります。

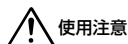
警告（専用リチウムイオン充電機について）



電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときはビニールテープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関やリサイクル協力店にご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。

注意（専用リチウムイオン充電機について）



電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと

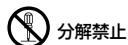
そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。



充電中の電池に長時間直接触れないこと

充電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。

警告（チャージャーについて）



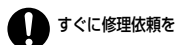
分解したり修理や改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

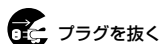


落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。



電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

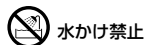


熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。



電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。ニコンサービス機関に修理を依頼してください。



水につけたり、水をかけたり、雨にぬらさない

感電や発火などの事故や故障の原因になります。

警告 (チャージャーについて)



使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使わない

プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因になります。



警告

電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布で拭き取ること

そのまま使用すると火災の原因になります。



使用禁止

雷が鳴り出したら電源プラグに触れないこと

感電の原因となります。

雷が鳴り止むまで機器から離れてください。



禁止

電源コードを傷つけたり加工したりしないこと

また、重いものを載せたり、加熱したり、引っ張ったり、無理に曲げたりしないこと

電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。



感電注意

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと

感電の原因になることがあります。



禁止

チャージャーを海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）やDC/ACインバーターなどの電源に接続して使わないこと

発熱、故障、火災の原因となります。

注意 (チャージャーについて)



感電注意

ぬれた手でさわらない

感電の原因になることがあります。



使用注意

通電中のチャージャーに長時間直接触れないこと

通電中に温度が高くなる部分があり、低温やけどの原因になることがあります。



放置注意

製品は幼児の手の届くところに置かない

ケガの原因になることがあります。



禁止

布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因となる場合があります。

警告 (時計用リチウム電池について)



警告

電池からもれた液が目に入った時はすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること

そのままにしておく、目に傷害を与える原因となります。



禁止

電池を火に入れたり、加熱しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。



分解禁止

電池を分解しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。



警告

電池に表示された警告・注意を守ること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。



警告

CR1616型リチウム電池以外を使用しないこと

液もれ、発熱、破裂の原因となります。



水かけ禁止

水につけたり、ぬらさないこと

液もれ、発熱の原因となります。



保管注意

電池は、幼児の手の届くところに置かない

幼児の飲み込みの原因となります。

万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。



警告

電池の「+」と「-」の向きをまちがえないようにすること

液もれ、発熱、破裂の原因となります。



警告

電池を廃棄する時は、ビニールテープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。



警告

電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと

そのままにしておく、皮膚がかぶれたりする原因となります。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならない場合は、直ちに購入店にご請求ください。

●カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

<http://www.nikon-image.com/support/>

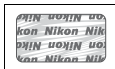
●大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してお使いいただくために

本製品は、当社製のアクセサリ（レンズ、スピードライト、バッテリー、チャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL18cには、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が発揮できないほか、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせると、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。



●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードできます。

<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>

二コサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権について

カメラで著作物を撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、個人として楽しむなどの目的であっても、実演や興行、展示物などは、撮影や録音が制限されている場合がありますのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリーカード内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

メモリーカードを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーカードがいっぱいになるまで、空や地面などの画像で置き換えることをおすすめします。メモリーカードを物理的に破壊して廃棄する場合は、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

本製品を譲渡/廃棄する際は、使用者によって本製品内に登録または設定された、無線LAN接続設定などの個人情報を含む内容を、カメラのセットアップメニュー〔カメラの初期化〕を行って削除してください。

●電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としています。この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

●AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

- (i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）
- (ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。

詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。

<http://www.mpegla.com> をご参照ください。

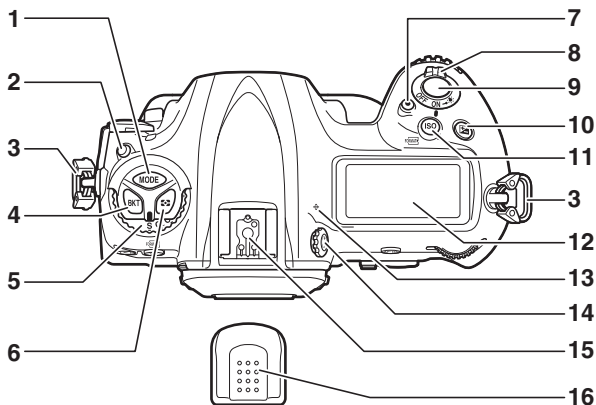
アクセサリーについてのご注意

このカメラには、当社製のアクセサリをお使いいただくことをおすすめします。他社製アクセサリは、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製アクセサリ使用によるカメラの不具合については、保証の対象となりませんので、ご了承ください。なお、このカメラに使用できる別売アクセサリについての最新情報は、最新のカatalogや当社のホームページなどでご確認ください。（□xix）

お使いになる前に

各部の名称と機能

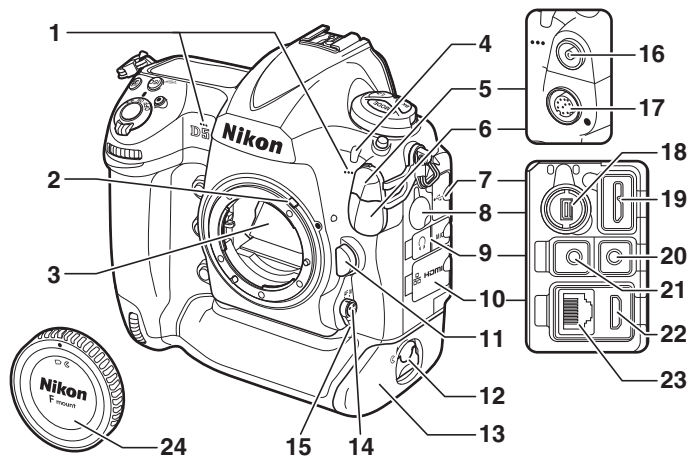
カメラ本体



1	MODE ボタン	124
2	リリースモードダイヤル ロックボタン	110
3	ストラップ取り付け部 (吊り金具)	18
4	BKT ボタン	139、143、146、334
5	リリースモードダイヤル	110
6	AF ボタン	123
7	動画撮影ボタン	59、334
8	電源スイッチ	3

9	シャッターボタン	39、40
10	AF-ON ボタン	136
11	ISO (FORMAT) ボタン	32、117、121
12	上面表示パネル	6
13	距離基準マーク	109
14	視度調節ノブ	34
15	フラッシュ取り付け部 (アクセサリースュー)	13、186
16	アクセサリースューカバー	13、435

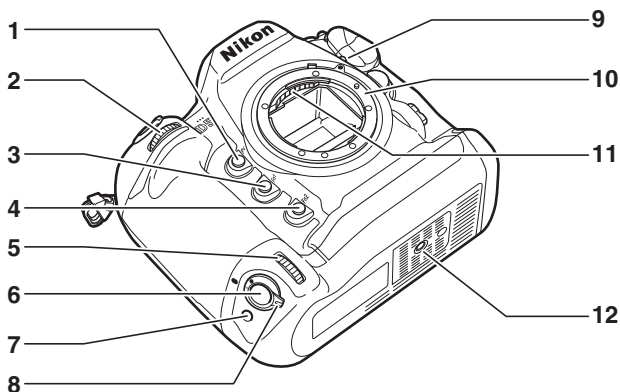
カメラ本体 (つづき)



1	動画用マイク (ステレオ)59、61、309	13	バッテリー室カバー 21
2	露出計連動レバー457	14	AFモードボタン46、48、97、100
3	ミラー116、428	15	フォーカスモードセレクトー46、94、108
4	セルフタイマーランプ114	16	シンクローターミナル187
5	シンクローターミナルカバー187	17	10ピンターミナル 234、420
6	10ピンターミナルカバー234、420	18	拡張端子418
7	USB端子カバー265、270	19	USB端子265、270
8	拡張端子カバー418	20	外部マイク入力端子 71
9	ヘッドホン/マイク端子カバー64	21	ヘッドホン出力端子63、372
10	HDMI/有線LAN端子カバー268、273	22	HDMI端子273
11	レンズ取り外しボタン25	23	有線LAN接続端子268
12	バッテリー室着脱ノブ21	24	ボディーキャップ24、419

端子カバーについて

使用しない場合は、必ず端子カバーを閉じてください。ゴミなどが入ると、誤作動の原因となることがあります。



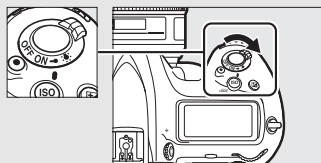
1	Pv ボタン 45、127、334、352	7	縦位置 Fn ボタン 334
2	サブコマンドダイヤル 347	8	縦位置シャッターボタン
3	Fn1 ボタン 334、352		ロックレバー 38
4	Fn2 ボタン 334、352	9	レンズ着脱指標 24
5	縦位置サブコマンドダイヤル 334、347	10	レンズマウント 25、109
6	縦位置シャッターボタン	11	レンズ信号接点
		12	三脚ネジ穴

表示パネルの照明（イルミネーター）について

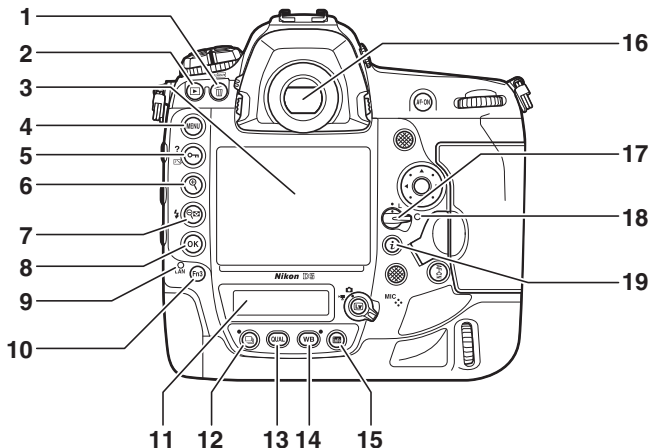
電源スイッチを☼マークの方向に回すと、上面表示パネルや背面表示パネル、ボタンのイルミネーター（照明）が点灯し、電源スイッチを放すと、数秒間点灯し続けます（□330）。ただし、シャッターをきるか、もう一度☼マークの方向に回すと消灯します。

- ボタン照明が点灯すると、暗い場所で操作しやすくなります。

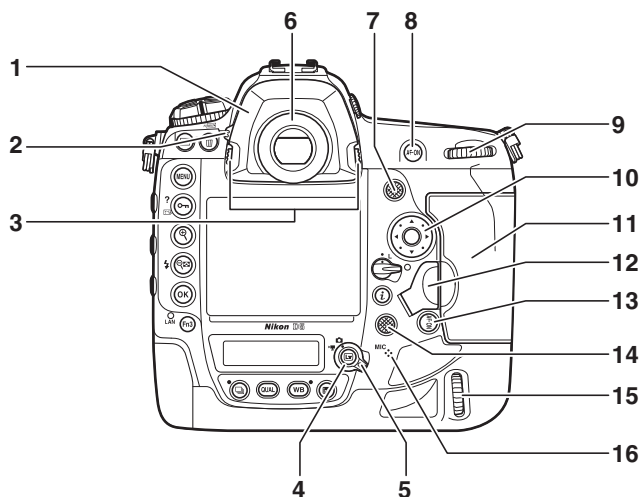
電源スイッチ



カメラ本体 (つづき)



1	🗑️ (FORMAT) ボタン.....32、42、256	11	背面表示パネル.....8
2	▶️ ボタン.....41、237	12	📄 ボタン.....113、115、216
3	画像モニター41、43、58、237、358、359	13	QUAL ボタン.....89、92
4	MENU ボタン.....14、276	14	WB ボタン150、154、158、216
5	🔑 (Fn/?) ボタン15、52、171、254	15	Info ボタン.....212
6	🔍 ボタン.....45、52、252	16	ファインダー接眼窓.....34
7	📷 (📷/🔋) ボタン45、52、192、193、237、252	17	フォーカスポイントロック レバー.....103
8	👉 OK ボタン.....15	18	メモリーカードアクセス ランプ.....30、40
9	ネットワークインジケータ268	19	i ボタン.....50、61、215、383
10	Fn3 ボタン255、259、334、352		



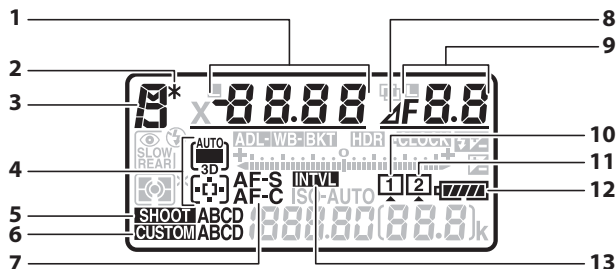
1	アイピースアダプター ... 35、422
2	アイピースシャッターレバー ... 115
3	アイピースアダプター ロックボタン 35、422
4	Lv ボタン 43、58、351
5	ライブビューセレクター 43、58
6	アイピース 35
7	サブセレクター 104、105、134、334、352
8	AF-ON ボタン 98、106、334
9	メインコマンドダイヤル 347

10	マルチセレクター ... 15、40、239
11	メモリーカードカバー 29
12	開閉ロックボタンカバー 29
	開閉ロックボタン (カバー下) ... 29
13	i ボタン 334
14	縦位置マルチセレクター 334
15	縦位置メインコマンドダイヤル 347
	スピーカー 79、372
16	音声メモ用マイク 259

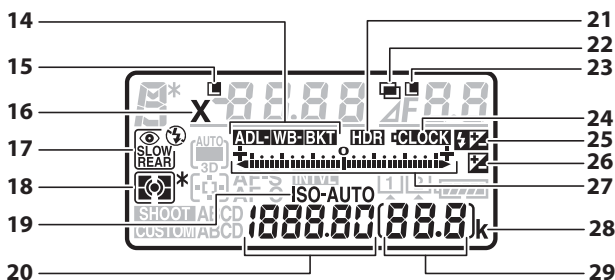
スピーカーについての注意

スピーカーに磁気カードなどの磁気製品を近づけると、記録内容が壊れることがあります。スピーカーに磁気製品を近づけないでください。

上面表示パネル (説明のため、全ての表示を点灯させています)



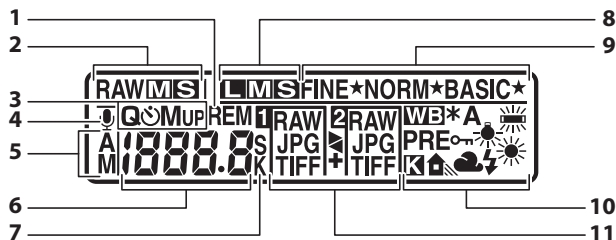
1	シャッタースピード 126、128	9	絞り値 127、128
	AFエリアモード 99、100		絞り込み段数 127、407
	露出補正值 136		オートブラケティング
	調光補正量 193		補正ステップ 140
	オートブラケティング撮影		WBブラケティング補正
	コマ数 139		ステップ 144
	WBブラケティング撮影		ADLブラケティング
	コマ数 143		撮影コマ数 146
	インターバル回数 226		インターバルタイマー撮影
	非CPUレンズ焦点距離 233		コマ数 227
2	プログラムシフトマーク 125		HDR露出差 184
3	露出モード 124		多重露出撮影コマ数 222
4	AFエリアモードマーク 99、101		非CPUレンズ開放絞り値 233
5	静止画撮影メニュー設定表示 ... 297		PC接続中マーク 420
6	カスタムメニュー設定表示 314	10	メモリーカードマーク
7	AFモードマーク 97		(スロット1) 31、32
8	絞り込み段数マーク 127、407	11	メモリーカードマーク
			(スロット2) 31、32
		12	バッテリー残量表示 36
		13	インターバルタイマー設定
			マーク 227
			微速度撮影設定マーク 76



14	ブラケットマーク オートブラケット 139 WBブラケット 143 ADLブラケット 146	25	調光補正マーク 193
15	シャッタースピードロック マーク 132	26	露出補正マーク 136
16	フラッシュシンクロマーク 331	27	インジケータ 露出 129 露出補正 136 オートブラケット 139 WBブラケット 143 ADLブラケット 146 PC接続中 420
17	フラッシュモード 191	28	1000コマ以上補助表示 37
18	測光モードマーク 122	29	記録可能コマ数 37、467 連続撮影可能コマ数 112、467 ホワイトバランス プリセットマニュアルデータ 取得モード表示 161 アクティブD-ライティング 度合い表示 147 HDRモード 184 多重露出モード 222 手動設定レンズNo 233 微速度撮影中マーク 76 PCカメラモード表示 420
19	ISO感度マーク 117 感度自動制御設定マーク 119		
20	撮影コマ数 37 ISO感度 117 減感/増感設定表示 118 ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ番号 160 合成モード 221		
21	HDRマーク 182		
22	多重露出マーク 220		
23	絞り値ロックマーク 132		
24	時計用バッテリーチェック マーク 27、431		



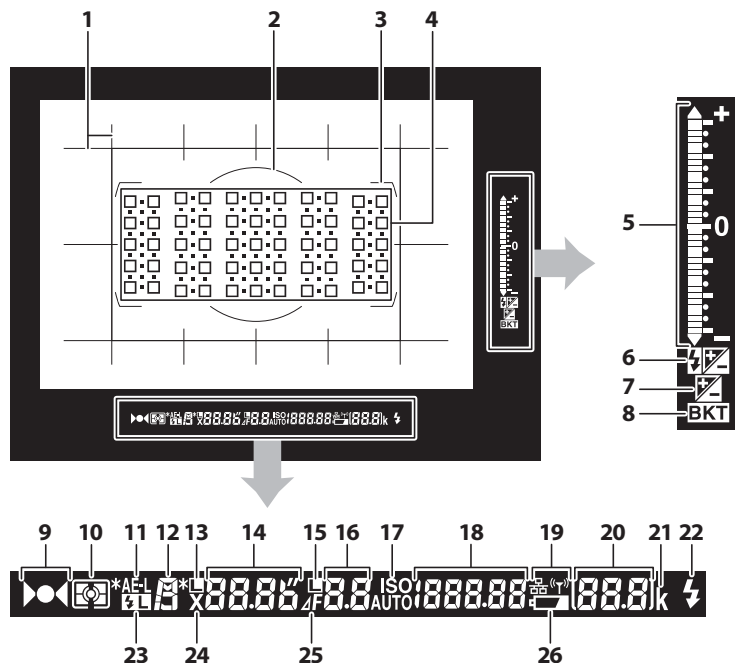
背面表示パネル (説明のため、全ての表示を点灯させています)



1	記録可能コマ数マーク	467
2	画像サイズ (RAW)	92
3	リリースモード	110
4	音声メモ録音状態表示	261、262
5	音声メモ録音モード表示	261
6	リリースモード	110
	連続撮影速度	110、326
	セルフタイマー撮影コマ数/ 作動時間	115、325
	記録可能コマ数	89、92、467
	音声メモ録音/再生残り時間	261
	ホワイトバランス微調整値	154
	ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ番号	160
	ホワイトバランス色温度 ...	149、156
	PC接続中マーク	420

7	1000コマ以上補助表示	37
	ホワイトバランス 色温度表示	158
	秒数補助表示	115、261
8	画像サイズ (JPEG/TIFF)	91
9	画質モード	88
10	ホワイトバランスモード	149
	ホワイトバランス微調整設定 マーク	154
	プリセットマニュアルデータ プロテクトマーク	163
11	スロット2の機能	93
	画質モード	88

ファインダー (説明のため、全ての表示を点灯させています)



✓ ファインダーについてのご注意

カメラにバッテリーが入っていない、またはバッテリー残量がない状態では、ファインダー内が暗くなります。充電したバッテリーを入れると明るくなります。

✓ 高温、低温下での液晶表示について

表示パネルやファインダーの液晶表示は、高温・低温下で色の濃さが変わったり、低温下で応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。



1	構図用格子線.....329 (カスタムメニュー d8 [ファイン ダー内格子線表示] を [する] に 設定している場合のみ表示されま す。)	14	シャッタースピード..... 126、128 AFモード..... 97
2	中央部重点測光参照エリア φ12mm.....122	15	絞り値ロックマーク..... 132
3	AFエリアフレーム.....34	16	絞り値..... 127、128 絞り込み段数..... 127、407
4	フォーカスポイント表示39、103、322、321 スポット測光エリア.....122 AFエリアモード表示.....100 ローリング方向の水準器※1 ...340	17	ISO感度マーク..... 117 感度自動制御設定マーク..... 120
5	インジケーター 露出.....129 露出補正.....136 オートブラケティング.....139 ピッチング方向の水準器※2 ...340	18	ISO感度..... 117 アクティブD-ライティング 度合い表示.....342 AFエリアモード..... 100、101
6	露出補正マーク.....136	19	ネットワーク表示.....268
7	調光補正マーク.....193	20	記録可能コマ数.....37、467 連続撮影可能コマ数39、112、467 ホワイトバランスプリセット マニュアルデータ取得モード 表示.....161 露出補正値.....136 調光補正量.....193 PC接続中マーク.....420 フリッカー検出マーク.....218
8	ブラケティングマーク オートブラケティング.....139 WBブラケティング.....143 ADLブラケティング.....146	21	1000コマ以上補助表示..... 37
9	ピント表示..... 39、109	22	レディーライト※3186、196、458
10	測光モード.....122	23	FVロックマーク..... 196
11	AEロックマーク.....134	24	フラッシュシンクロマーク.....331
12	露出モード.....124	25	絞り込み段数マーク..... 127、407
13	シャッタースピードロック マーク.....132	26	バッテリー残量表示..... 36

※1 カメラを縦位置に構えて撮影するときは、ピッチング方向の水準器になります。

※2 カメラを縦位置に構えて撮影するときは、ローリング方向の水準器になります。

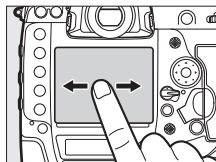
※3 別売のスピードライト (□410) 使用時のみ点灯します。スピードライトの充電が完了してフラッシュ撮影できることを示します。

タッチパネル

このカメラの画像モニターはタッチパネルになっており、指で画面にタッチして操作できます。操作方法は次の通りです。

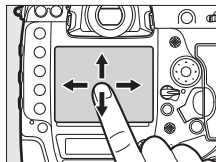
フリック

タッチパネルを指で左右に払う操作です。



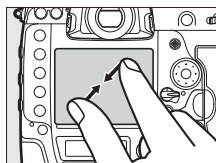
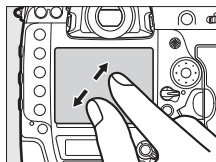
スライド

タッチパネルに触れたまま指を上下左右に動かす操作です。



広げる/つまむ

タッチパネルに2本の指に触れたまま、指の間隔を広げたり、つまむように狭めたりする操作です。



■ タッチ操作でできること

再生時 (□240)

- 前後の画像を表示する
- 静止画を拡大/縮小表示する
- サムネイル表示する
- 動画を再生する

ライブビュー時

- フォーカスポイントを移動する (□48)
- スポットホワイトバランスでプリセットマニュアルデータを取得する (□164)

その他

- 文字を入力する (□176)

✔ タッチパネルについてのご注意

- このカメラのタッチパネルは静電式です。爪でタッチしたり、手袋などはめたままタッチしたりすると反応しないことがあります。
- 先のとがった硬い物で押さないでください。
- タッチパネルを必要以上に強く押したり、こすったりしないでください。
- 市販の保護フィルムを貼ると反応しないことがあります。

✔ タッチパネル操作時のご注意

- タッチパネルに指が触れたまま、別の指でタッチすると、適切に動作しないことがあります。
- スライド/広げる/つまむ操作時に次の操作をすると、適切に動作しないことがあります。
 - タッチパネルをはじく
 - 指を動かす距離が短すぎる
 - タッチパネルを軽くなでるように指を動かす
 - 指を動かす速度が速すぎる
 - 広げるとき/つまむときに、2本の指のタイミングの差が大きい

✎ タッチ操作の有効/無効について

セットアップメニュー [タッチ操作] (□374) で、タッチ操作の有効/無効を切り換えられます。

✎ 関連ページ

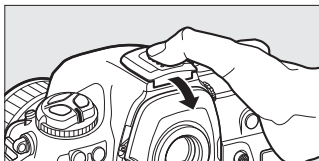
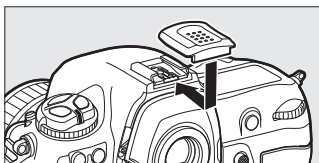
次の画像を表示するときのフリックの方向を変更する → ♪ [タッチ操作] (□374)

アクセサリースューカバー BS-3の取り付け、 取り外し方

このカメラには、フラッシュ取り付け部の写り込みを防止したり、接点を保護するために、アクセサリースューカバーが付属しています。取り付けるには、カバーを右図の向きでカメラのアクセサリースューに差し込みます。

アクセサリースューカバーを取り外すには、親指でカバー全体を押さえながら、右図の矢印の方向にスライドさせます。

- アクセサリースューカバーを取り外すときは、カメラをしっかりと支えてください。



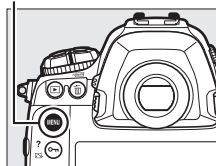
基本操作

メニューの操作方法

撮影や再生、カメラの基本的な設定をするときは、主にメニューを使います。

MENU ボタンを押すと、画像モニターに次のようなメニュー画面（例：セットアップメニュー）を表示します。

MENU ボタン



メニュー切り換えタブ

次の各メニューのアイコンのタブを選ぶと、選んだメニュー画面が表示されます

再生メニュー (📖285)	セットアップメニュー (📖356)
静止画撮影メニュー (📖296)	画像編集メニュー (📖381)
動画撮影メニュー (📖306)	マイメニュー /
カスタムメニュー (📖312)	最近設定した項目 (📖399) ※

※ どちらかに設定できます。初期設定は [マイメニュー] です。



ヘルプあり表示 (📖15)

項目がそのメニュー全体のどの位置にあるかを示しています

各項目の設定をアイコンで表示します

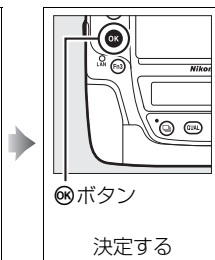
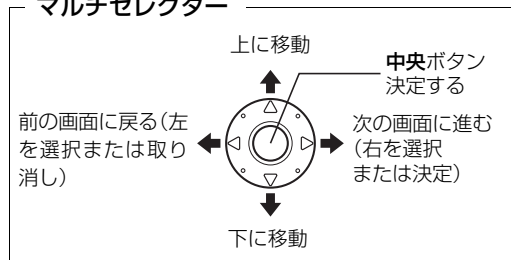
メニュー項目

タブで選んだメニュー内にある設定項目を一覧表示します

メニュー項目の設定

メニューの操作には、マルチセクターとOKボタンを使います。

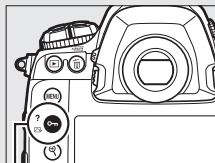
マルチセクター



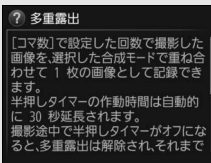
② (ヘルプあり表示)

ヘルプがある場合に **Fn** (Fn/?) ボタンを押すと、その項目のヘルプ (説明) を表示します。

- 説明が2ページ以上ある場合は、**Fn** (Fn/?) ボタンを押しながらマルチセクターの **上** を押して、次のページを表示してください。
- Fn** (Fn/?) ボタンを放すと、メニュー画面に戻ります。



Fn (Fn/?) ボタン

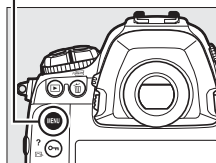


■ メニュー項目の設定方法


1 メニュー画面を表示する

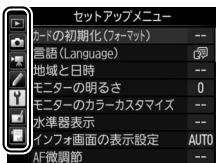
- MENUボタンを押します。

MENUボタン





2 メニューのタブを選ぶ

- を押して、タブのアイコンを黄色く表示します。




3 メニューを切り換える

- またはを押して、メニューのタブを切り換えます。



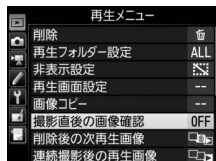
4 選んだメニューに入る

- を押して、選んだメニューに入ります。



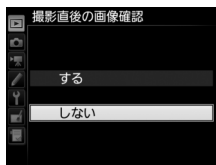
5 メニュー項目を選ぶ

- またはで項目を選びます。



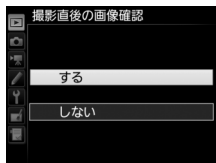
6 設定内容を表示する

- を押して設定内容を表示します。




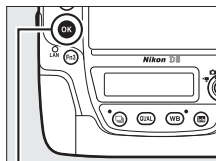
7 設定内容を選ぶ

- またはで設定内容を選びます。






8 決定する

- ボタンを押して決定します。
- メニュー操作をキャンセル（中止）するには、**MENU**ボタンを押してください。
- メニュー画面から撮影に戻るには、シャッターボタンを半押し（□□39）してください。



 ボタン

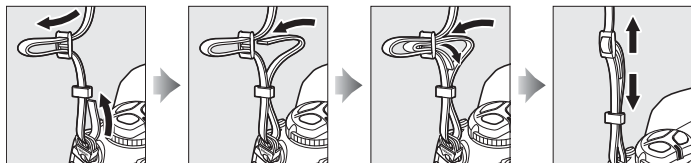
✓ メニュー項目の設定について

- カメラの状態によって、設定できないメニュー項目があります。この場合、その項目はグレーで表示されて選べません。
-  ボタンの代わりにマルチセレクトの  や中央ボタンを押しても決定できますが、画像の削除やメモリーカードの初期化などの重要な設定項目については、 ボタンしか使えない項目があります。

撮影前の準備

ストラップを取り付ける

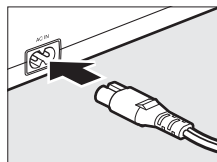
ストラップの取り付け手順は次の通りです。



バッテリーを充電する

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18cは、お使いになる前に付属のバッテリーチャージャー MH-26aでフル充電してください。使い切ったバッテリー 1個を充電するには約2時間35分かかります。

1 チャージャーと電源コードを接続する



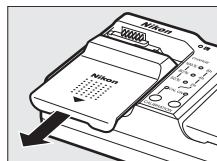
2 電源プラグをコンセントに差し込む

3 バッテリーの端子カバーを取り外す

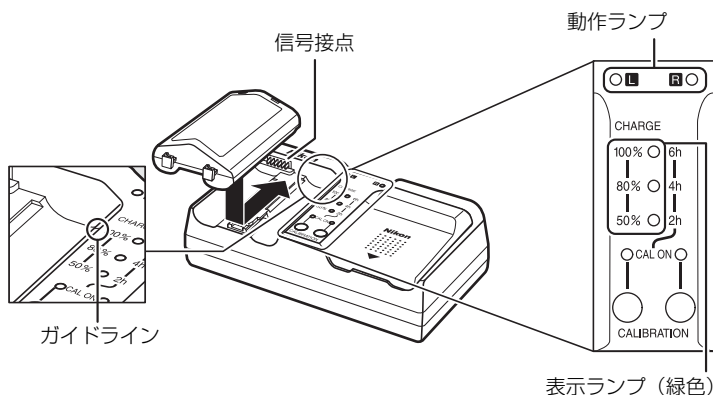


4 チャージャーの接点保護カバーを外す

- チャージャーの接点保護カバーを図の方向にスライドさせて外します。



5 バッテリーを充電する



- バッテリーの先端（端子部）をチャージャーのガイドラインに合わせて置き、矢印の方向にカチッと音がして止まるまでスライドさせて装着します。
- バッテリーを装着した側（LまたはR）の動作ランプが点滅し、充電が始まります。
- 充電した容量に応じて表示ランプが点灯し、3つの表示ランプが全て消灯して動作ランプが点灯したら、充電は完了です。使い切ったバッテリー 1個を充電するには、約2時間35分かかります。
- 充電の状態は動作ランプと表示ランプで確認できます。

		バッテリーの容量に対する充電状況			
		50%未満	50%以上、 80%未満	80%以上、 100%未満	100%
動作ランプL/R		☼ 点滅	☼ 点滅	☼ 点滅	○ 点灯
表示 ランプ	100%	○ 消灯	● 消灯	☼ 点滅	● 消灯
	80%	○ 消灯	☼ 点滅	○ 点灯	● 消灯
	50%	☼ 点滅	○ 点灯	○ 点灯	● 消灯

- ## 6 充電が完了したら、セットしたときと逆の手順でバッテリーをチャージャーから取り外し、電源プラグをコンセントから抜く

付属の電源コードについてのご注意

付属の電源コードは、バッテリーチャージャー MH-26a以外の機器に接続しないでください。この電源コードは、日本国内専用（AC 100V対応）です。海外でお使いになる場合は、別売の専用コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。また、ニコンオンラインショップ（<http://shop.nikon-image.com/>）でもお求めいただけます。

キャリブレーション機能について

バッテリー容量を正確に表示できるかどうか検査し、調整するキャリブレーション機能についての詳しい内容は、「バッテリーチャージャー MH-26aの キャリブレーションについて」をご覧ください（☎464）。

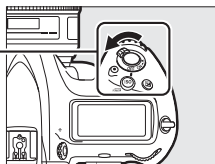
関連ページ

「2本のバッテリーを装着した場合」（☎465）



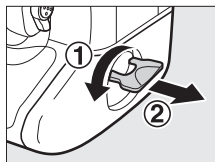
カメラにバッテリーを入れる

1 カメラの電源をOFFにする



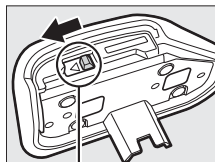
2 バッテリー室カバー BL-6を取り外す

- バッテリー着脱ノブを引き起こしてC方向に回し (①)、バッテリー室カバーを取り外します (②)。

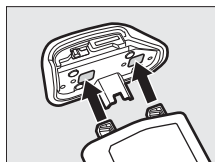


3 バッテリー室カバーをバッテリーに取り付ける

- バッテリーを取り付ける前に、バッテリー室カバー取り外しノブの矢印 (◀) が見える位置にある場合は、矢印 (◀) の方向に端までスライドさせてから取り付けてください。
- 右図のようにバッテリー端の2つの突起をバッテリー室カバーに差し込みます。矢印 (◀) が完全に見える位置までバッテリー室カバー取り外しノブが戻ると、取り付け完了です。



バッテリー室カバー
取り外しノブ



✓ バッテリーを出し入れするときは

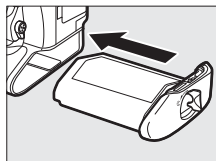
バッテリーをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源スイッチがOFFの位置にあることを確認してください。

✏ バッテリー室カバーをバッテリーから取り外すときは

バッテリー室カバー取り外しノブを、表示されている矢印 (◀) の示す方向に端までスライドさせて、バッテリー室カバーからバッテリー本体を引き出します。

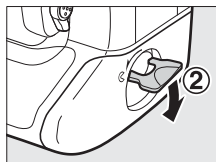
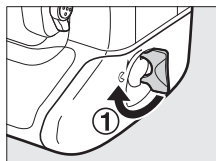
4 カメラにバッテリーを入れる

- バッテリーは右図で示されている向きで奥までしっかりと入れてください。



5 バッテリー着脱ノブをロックする

- バッテリー着脱ノブを右図のように回してから (①)、凹みに倒して収納します (②)。
- カメラの操作中にバッテリーが外れないように、バッテリー着脱ノブがしっかりとロックされていることをご確認ください。

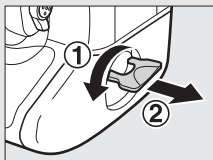


バッテリー室カバーについて

- BL-6以外のバッテリー室カバーは、このカメラには使えません。
- バッテリーはバッテリー室カバーを取り付けた状態でも充電できます。
- バッテリーの充電中などに、取り外したバッテリー室カバーをカメラ本体に取り付けると、ほこりの侵入を防げます。

バッテリーを取り出すときは

電源をOFFにし、バッテリー着脱ノブを引き起こしてから①方向に回してバッテリーを引き出します。



バッテリーとチャージャーの使用上のご注意

- お使いになる前に、必ず「安全上のご注意」(□□xii～xviii)、「カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意」(□□433～437)をお読みになり、記載事項をお守りください。
- バッテリーは 0℃～40℃の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能が劣化したり、故障の原因となります。周囲の温度が5℃～35℃の室内で充電してください。バッテリーの温度が0℃以下、60℃以上のときは、充電をしません。
- バッテリーの温度が0℃～15℃、45℃～60℃のときは、充電できる容量が少なくなる、または充電時間が長くなる場合があります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、セットアップメニューの【電池チェック】(□□377)で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。
- 一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、使用できるバッテリー容量は少なくなります。このカメラでは、温度変化に対して使用できる容量も的確にバッテリー残量として表示します。そのため、十分に充電したバッテリーでも、充電したときよりも温度が低くなると、充電直後から残量が減り始めた表示になることがあります。
- 十分に充電したにもかかわらず、室温での使用状態でバッテリーの使用時間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいリチャージャブルバッテリーをお求めください。
- カメラの使用後は、バッテリーが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- チャージャーの端子をショートさせないでください。発熱、破損の原因となります。
- バッテリーをカメラやチャージャーから取り外しておくときは、ショートを防止するため、付属の端子カバーを取り付けてください。
- チャージャーを使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- バッテリーチャージャー MH-26a対応のバッテリー以外は充電しないでください。

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18cについて

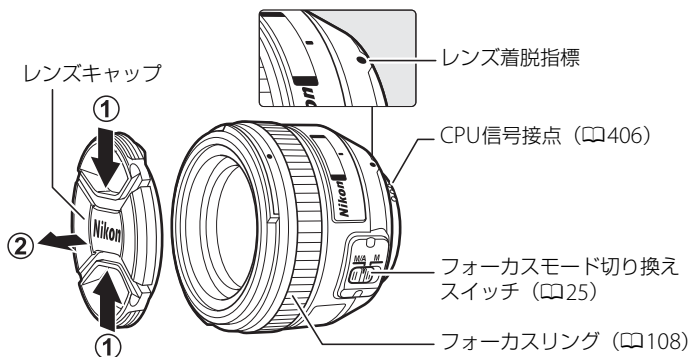
付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18cは、カメラと通信を行い、バッテリーの残量などをカメラに正確に伝えることができます。これによって上面表示パネルでバッテリー残量を6段階で確認することができる(□□36)ほか、セットアップメニューの【電池チェック】でより詳しいバッテリー残量や、直前の充電からの合計撮影回数、バッテリーの劣化度を表示することができます(□□377)。



レンズを取り付ける

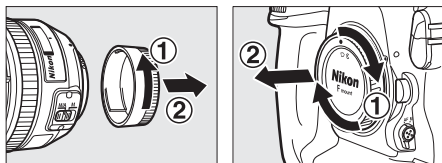
レンズを取り付けるときは、カメラ内部にほこりなどが入らないようにご注意ください。

この使用説明書では、主にAF-S NIKKOR 50mm f/1.4Gのレンズを使用して、説明しています。各部名称は次の通りです。

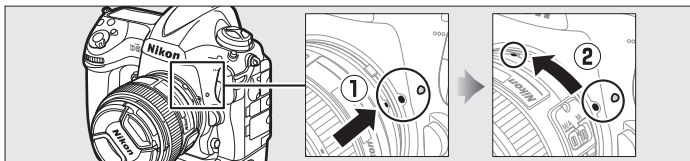


1 カメラの電源をOFFにする

2 レンズの裏ぶたとカメラのボディーキャップを外す



3 レンズとカメラの着脱指標を合わせ (①)、矢印の方向にレンズを回す (②)

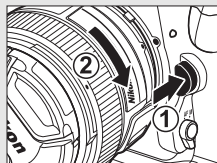


- カチッと音がするまでレンズを回します。このとき、レンズ取り外しボタンは押さないでください。

レンズを取り外すには

カメラの電源をOFFにしてから、カメラ前面のレンズ取り外しボタンを押しながら (①)、レンズを矢印の方向にいっぱいまで回し (②)、引き抜いてください。

- レンズを取り外した後は、カメラのボディーキャップとレンズの裏ぶたをそれぞれ取り付けてください。



A-M切り換えスイッチまたはフォーカスモード切り換えスイッチのあるレンズを使用する場合

オートフォーカス (A、M/A、またはA/M) に設定してください。

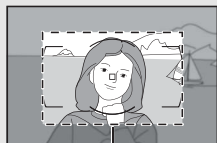


絞りリングのあるCPUレンズについてのご注意

絞りリングのあるCPUレンズ (□406) を取り付ける場合は、最小絞り (最大値) にして、ロックしてください。

撮像範囲について

DXレンズを装着すると、撮像範囲がDXフォーマットに切り替わります (□85)。



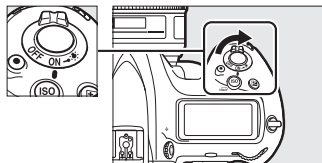
撮像範囲

日付と時刻を設定する

カメラの内蔵時計を合わせます。画像に正しい日時を記録するために、お使いになる前に次の手順で場所と日時を設定してください。

1 カメラの電源をONにする

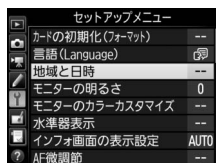
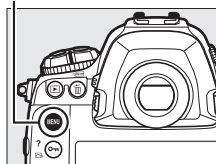
電源スイッチ



2 セットアップメニューの「地域と日時」を選んでマルチセクターの \odot を押す

- ご購入後、初めて電源をONにしてMENUボタンを押したときは、セットアップメニュー画面で「**地域と日時**」が選ばれています。
- メニューの操作方法については、「メニューの操作方法」をご覧ください(□14)。

MENUボタン



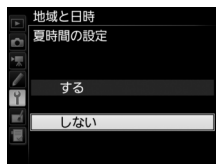
3 現在地を設定する

- 「**地域と日時**」画面で「**現在地の設定**」を選びます。
- 「**現在地の設定**」画面で表示される地図上で、現在地が黄色くハイライトされるようにしてから、 \odot ボタンを押してください。
- 世界地図の上に選択中のタイムゾーンに含まれる主な都市名や、UTC（協定世界時）との時差が表示されます。



4 夏時間を設定する

- [地域と日時] 画面で **[夏時間の設定]** を選びます。
- 現在地で夏時間（サマータイム）制を実施しているときは、**[する]** に、実施していないときは **[しない]** にして、**OK** ボタンを押してください。
- **[する]** にすると、**[しない]** のときよりも時刻が1時間進みます。



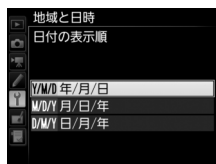
5 日付と時刻を合わせる

- [地域と日時] 画面で **[日時の設定]** を選びます。
- [日時の設定] 画面でマルチセクターを操作して現在地の日時に合わせてから、**OK** ボタンを押してください。



6 日付の表示順を選ぶ

- [地域と日時] 画面で **[日付の表示順]** を選びます。
- 画像モニターに表示する日付の年、月、日の表示順を選んで**OK** ボタンを押します。




7 メニュー操作を終了する

- シャッターボタンを半押しする（軽く押す）と、メニュー操作を終了して、撮影できる状態になります。



時計用電池について

カメラの内蔵時計は、市販のCR1616リチウム電池で作動しており、寿命は約2年です。半押しタイマー作動中に上面表示パネルに時計用バッテリーチェックマーク（) が点灯した場合は、電池残量が少なくなっていますので、市販の新しいCR1616リチウム電池に交換することをおすすめします。時計用電池の交換方法については、「時計用電池の交換について」(□431)をご覧ください。

カメラ内蔵の時計について

カメラの内蔵時計は、一般的な時計（腕時計など）ほど精度は良くありません。定期的に日時設定してください。

GPS機器を使用して日時合わせをする（ 235）

GPS 機器（ 234）との接続時には、GPS 機器が取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせられます。

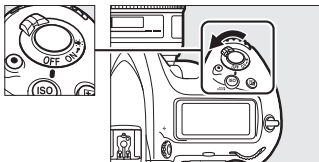


メモリーカードを入れる

撮影した画像は、メモリーカードに記録されます。このカメラはメモリーカードスロットを2つ装備しています。メモリーカードは付属していないため、別途お買い求めください (□466)。

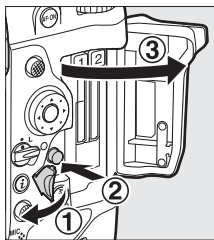
1 カメラの電源をOFFにする

電源スイッチ



2 メモリーカードカバーを開ける

- 開閉ロックボタンカバーを開き (①)、開閉ロックボタンを押すと (②)、メモリーカードカバーが開きます (③)。



✓ メモリーカードを出し入れするときは

- メモリーカードをカメラに入れたり、カメラから取り出したりするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。
- メモリーカードとメモリーカードイジェクトレバーを同時に押さないでください。カメラとメモリーカードを破損するおそれがあります。

✎ CFカード対応機種で使用できるCFカードについて

このカメラで使用できるCFカードは、Type Iのコンパクトフラッシュカード (CFカード) のみです。Type IIのCFカードやマイクロドライブは使用できません。

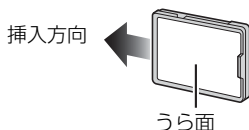
✎ 関連ページ

スロット2への記録方法を設定する → [スロット2の機能] (□93)

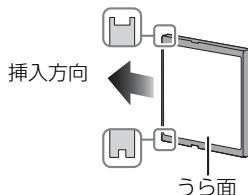
3 メモリーカードを入れる

メモリーカードの向きやスロットを間違えて挿入すると、カメラおよびメモリーカードが破損するおそれがあります。メモリーカードを正しく挿入していることを必ずご確認ください。

— XQDカードの場合 —

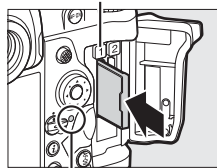


— CFカードの場合 —



- XQDカードまたはCFカードのうら面を画像モニター側に向け、奥まで確実に押し込んでください。メモリーカードが正しく挿入されると、メモリーカードイジェクトレバーが出てくるとともに、メモリーカードアクセスランプ（緑色）が数秒間点灯します。

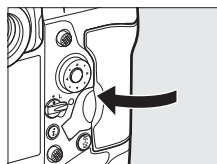
メモリーカード
イジェクトレバー



メモリーカード
アクセスランプ

4 メモリーカードカバーを閉める

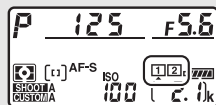
- このカメラに他の機器で使ったメモリーカードを初めて入れたときは、メモリーカードを初期化してください（□32）。



メモリーカード表示について

メモリーカードをカメラに入けると、挿入したメモリーカードのアイコンが上面表示パネルに表示されます（右図は、スロット1とスロット2の両方にメモリーカードを入れた例です）。

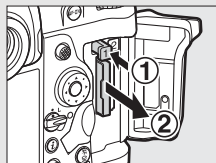
メモリーカードの残量がなくなった場合など、何らかのエラーが発生しているときは、エラーが発生しているメモリーカードのアイコンが点滅します。



上面表示パネル

メモリーカードを取り出すときは

メモリーカードカバーを開ける前に、メモリーカードアクセスランプの消灯を確認して、電源をOFFにしてください。メモリーカードカバーを開けて、メモリーカードイジェクトレバーを奥に押し込むと（①）、カードが押し出されるので、引き抜いて取り出してください（②）。






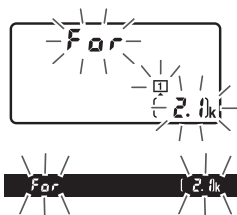
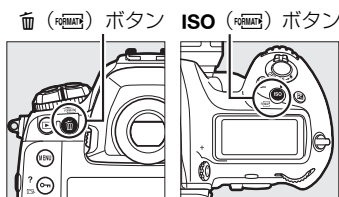
メモリーカードを初期化（フォーマット）する

他の機器で使ったメモリーカードを初めて入れたときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。メモリーカードを初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。必要な画像がある場合は、初期化する前にパソコンなどに保存してください（□265）。

1 カメラの電源をONにする

2 (FORMAT) ボタンとISO (FORMAT) ボタンを同時に押す


- 赤色の  マークがついた  ボタンとISO ボタンを同時に2秒以上押します。
- 上面表示パネルに **For**（フォーマット）とメモリーカードマークが、ファインダー内表示には **For** が点滅します。
- メモリーカードが2枚入っている場合は、上面表示パネルのメモリーカードマークが点滅している側のスロットに入っているメモリーカードを初期化します。**For** が点滅しているときにメインコマンドダイヤルを回すと、初期化するスロットを切り換えられます。
- For** が点滅状態のまま約6秒経過すると、初期化はキャンセルされます。 (FORMAT) ボタンとISO (FORMAT) ボタン以外のボタンを押したときも、初期化をキャンセルします。



3 **For** が点滅している間に、もう一度 (FORMAT) ボタンとISO (FORMAT) ボタンを同時に押す

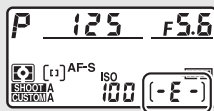
- 初期化が始まります。初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリーやメモリーカードを取り出したりしないでください。

✓ メモリーカード取り扱い上のご注意

- カメラにメモリーカードが2枚入っている場合、 (FORMAT) ボタンとISO (FORMAT) ボタンを押すと、スロット1のメモリーカードマークが先に点滅します。
- カメラの使用後はメモリーカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際はご注意ください。
- メモリーカードの初期化中や画像の記録または削除中、パソコンとの通信時などには、次の操作をしないでください。記録されているデータの破損やメモリーカードの故障の原因となります。
 - メモリーカードの着脱をしないでください
 - カメラの電源をOFFにしないでください
 - バッテリーを取り出さないでください
 - ACアダプターを抜かないでください
- 端子部に手や金属に触れないでください。
- メモリーカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。
- パソコンで初期化しないでください。

📎 メモリーカードが入っていないときの表示について

メモリーカードが入っていないときは、上面表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数表示部に「-E-」マークが表示されます。電源をOFFにしても、バッテリー残量があるときは、上面表示パネルの「-E-」マークは点灯します。



📎 関連ページ

メニュー操作でメモリーカードを初期化する → 📌 [カードの初期化 (フォーマット)]
(☐357)

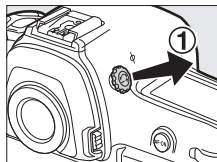


ファインダーを見やすくする（視度調節）

撮影する前に、ファインダー内がはっきり見えるように調節してください。

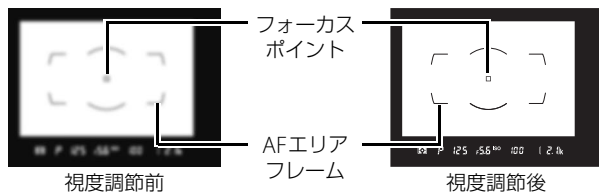
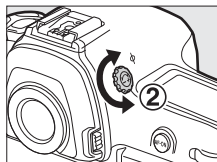
1 レンズキャップを取り外し、カメラの電源をONにする

2 視度調節ノブを引き出す（①）

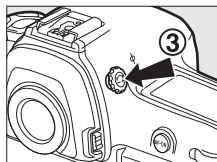


3 視度調節ノブを回して調節する（②）

- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。
- ファインダーをのぞきながら視度調節ノブを回し、フォーカスポイントまたはAFエリアフレームの枠が最もはっきり見えるように調節してください。



4 視度調節ノブを戻す（③）

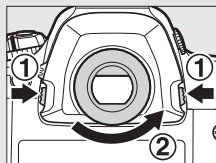


視度調節しても被写体がはっきり見えない場合は

- AFモード (□97) を**AF-S**、AFエリアモード (□99) をシングルポイントAFに設定します。次に、中央のフォーカスポイントを選んで、コントラストの高い被写体にオートフォーカスでピントを合わせます。その状態で被写体が最もはっきり見えるように調節してください。
- 視度調節の範囲を超える補正が必要な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします (□418)。

接眼補助レンズを取り付けるには

別売の接眼補助レンズを取り付けるには、アイピース (DK-17F) を取り外す必要があります。アイピースアダプターの左右のロックボタンを押しながら (①)、アイピースを図の方向に回して取り外します (②)。



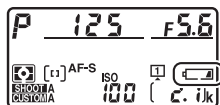
撮影と再生の基本操作

バッテリーとメモリーカードの残量を確認する

撮影を始める前に、バッテリーの残量と記録可能コマ数を確認してください。

■■ バッテリーの残量について

上面表示パネルまたはファインダー内表示で、バッテリーの残量を確認できます。



上面表示パネル

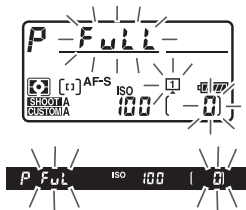
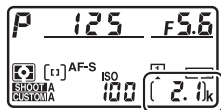


ファインダー内表示

上面表示パネル	ファインダー	意味
	—	残量は充分に残っています。
	—	
	—	
	—	
		残量は残りわずかです。予備のバッテリーを準備するか、バッテリーを充電してください。
 (点滅)	 (点滅)	撮影できません。バッテリーを交換するか、バッテリーを充電してください。

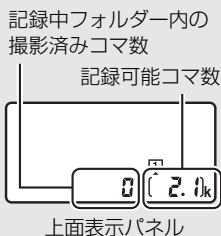
■■ メモリーカード表示と記録可能コマ数について

- 上面表示パネルで記録可能コマ数（これから撮影できるコマ数）を確認します。メモリーカードが2枚入っている場合、画像を記録しているメモリーカードの記録可能コマ数が表示されます。
- 記録可能コマ数が1000コマ以上あるときは「k」マークが点灯します。「k」は1000倍を意味しており、たとえば2100コマ撮影できるときは、右のように表示されます。
- 記録可能コマ数がゼロの場合、上面表示パネルとファインダー内表示のシャッタースピード表示部に **FuLL** (FuL) が、記録可能コマ数表示部に **0** が点滅します。このとき、残量の少ないメモリーカードのアイコンも点滅します。不要な画像を削除するか (256)、別のメモリーカードに交換してください。



🔋 電源OFFの時の表示について

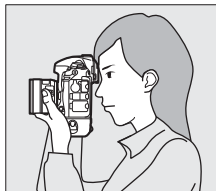
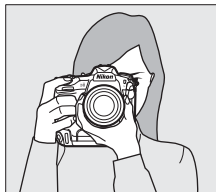
バッテリーが入っていると、カメラの電源がOFFのときも、上面表示パネルのメモリーカードマークと記録中フォルダー内の撮影済みコマ数、記録可能コマ数が点灯します。メモリーカードの種類によっては、電源がOFFのときにメモリーカードを挿入しても、まれにこれらの表示が点灯しないことがあります。この場合、カメラの電源をONにすると点灯します。



カメラを構える

撮影するときは、カメラをしっかりと構え、ファインダーをのぞいて構図を決めます。

- 脇を軽く締め、右手でカメラのグリップを包み込むようにしっかりと持ち、左手でレンズを支えます。
- 片足を少し前に踏み出すと、上半身が安定します。



- 人物などを縦位置で撮影する場合は、カメラを縦位置に構えます。

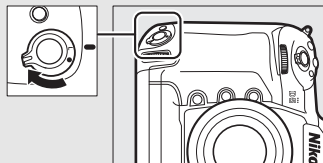


縦位置で撮影するときは

このカメラは、縦位置にカメラを構えて撮影するときには便利な縦位置シャッターボタン、縦位置マルチセクター (□104)、縦位置メインコマンドダイヤル、縦位置サブコマンドダイヤル、縦位置Fnボタン、縦位置AF-ONボタン (□98) を装備しています (□3、5)。

- 縦位置撮影用のボタンやダイヤルを誤って使わないようにロック (固定) するには、縦位置シャッターボタンロックレバーをLの位置に回します。

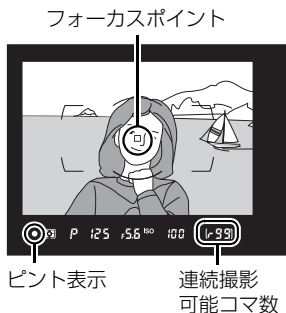
縦位置シャッターボタン
ロックレバー



ピントを合わせて撮影する

1 シャッターボタンを軽く押して（半押しして）、ピントを合わせる


- 被写体を中央のフォーカスポイントに合わせ、シャッターボタンを軽く押す（半押しすると、被写体に自動的にピントが合います。
- ご購入時の設定では、中央のフォーカスポイントに重なっている被写体に自動的にピントが合います。



2 ファインダー内のピント表示（●）を確認する

- ピントが合うとファインダー内のピント表示（●）が点灯します。

ファインダー内ピント表示	意味
●（点灯）	被写体にピントが合っています。
▶（点灯）	目的の被写体よりも手前にピントが合っています。
◀（点灯）	目的の被写体よりも後方にピントが合っています。
▶ ◀（点滅）	オートフォーカスでのピント合わせができません。

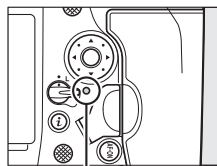
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントは固定されます。
- シャッターボタンを押している間、続けて撮影できるコマ数（連続撮影可能コマ数）がファインダーに表示されます。連続撮影可能コマ数の先頭には、「」（□112）が付きます。



- ピント合わせができない場合の対処方法については「オートフォーカスの苦手な被写体について」（□107）をご覧ください。

3 シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込んで（全押しして）撮影する

- メモリーカードアクセスランプが点灯している間は、画像を記録しています。メモリーカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプター（別売）を取り外さないでください。

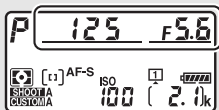


メモリーカード
アクセスランプ

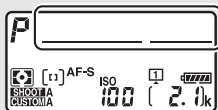


ファインダー撮影時の半押しタイマーについて

このカメラには、バッテリーの消耗を抑えるための「半押しタイマー」という機能があります。半押しタイマーは、シャッターボタンを軽く押す（半押しする）とオンになり、何も操作が行われないまま約6秒経過すると、オフになります。半押しタイマーがオフになると、上面表示パネルのシャッタースピード、絞り値表示とファインダー内の全ての表示が消灯します。もう一度シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーがオンになり、元の状態に戻ります。半押しタイマーの作動時間は、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (□□325) で変更できます。




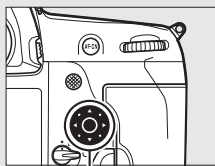
半押しタイマーオン



半押しタイマーオフ

撮影時のマルチセクターの操作について

半押しタイマーがオンのときにマルチセクターの  またはななめを押すと、フォーカスポイントを自分で選べます (□□103)。



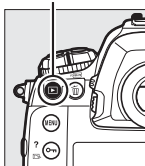
マルチセクター

撮影した画像を確認する

1 □ボタンを押す

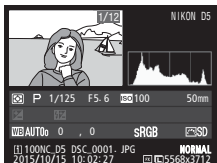
- 撮影した画像をカメラ背面の画像モニターに表示します。
- 表示中の画像がどちらのスロットのメモリーカードに入っているかは、画像の左下のメモリーカードマークで確認できます。

□ボタン



2 マルチセレクターの⌚または⌚を押して他の画像を確認する

- 画面を左右にフリックしても画像を切り換えられます (□240)。
- ⌚または⌚を押すたびに、撮影情報の表示が切り替わります (□243)。
- 撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。



撮影直後の画像確認について

再生メニューの「撮影直後の画像確認」(□291)を「する」に設定すると、□ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に画像モニターに表示します。

関連ページ

画像を表示するスロットを切り換える→「画像再生時のボタン操作」(□238)

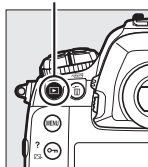
画像を削除する

表示中の画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのご注意ください。

1 削除したい画像を表示する

▶ ボタン

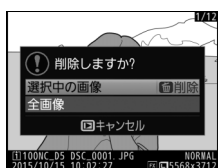
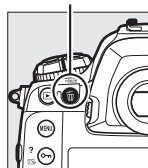
- ▶ ボタンを押して画像モニターに画像を表示してから、マルチセクターの①または②で削除したい画像を選びます。
- 削除する画像がどちらのスロットのメモリーカードに入っているかは、画像の左下のメモリーカードマークで確認できます。



2 𠂇 (FORMAT) ボタンを押す

𠂇 (FORMAT) ボタン

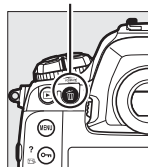
- 𠂇 (FORMAT) ボタンを押すと、削除方法の選択画面が表示されます。
- ▶ ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルします。



3 画像を削除する

𠂇 (FORMAT) ボタン

- 「**選択中の画像**」を選び、もう一度 𠂇 (FORMAT) ボタンを押すと、表示中の画像を削除して、再生画面に戻ります。
- 「**全画像**」を選んだときの操作については、□256をご覧ください。



✓ 再生メニュー [削除]

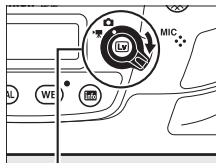
再生メニューの [削除] (□257) では、複数の画像を選んで削除できます。



ライブビュー撮影

画像モニターで被写体を見ながら静止画を撮影できます。

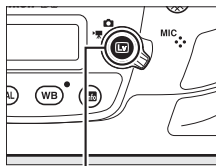
- 1 ライブビューセクターを
📷（静止画ライブビュー）に合わせる



ライブビューセクター

- 2 **Lv** ボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、画像モニターに被写体が表示されます。



Lv ボタン

- 3 フォーカスポイントを被写体に重ねる

- フォーカスポイントの形状はAFエリアモードによって異なります（㊦47）。

4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる



- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。
- フォーカスポイントは、オートフォーカス作動中は緑色で点滅し、ピントが合うと緑色で点灯します。ピントが合わないとき赤色で点滅します。
- 露出を固定（AEロック）するには、サブセレクターの**中央**を押し続けます（□134）。
- ライブビュー時に \odot ボタンを押すと、右のような露出プレビュー画面に切り替わります。露出プレビューに設定すると、表示されたシャッタースピード、絞り値、ISO感度での撮影で、どのような露出（明るさ）になるのかを画像モニターで確認しながら静止画撮影できます。露出補正（□136）は、通常と同じ ± 5 段まで設定できますが、画像モニターで確認できるのは ± 3 段までになります。

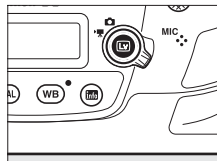


5 シャッターボタンを全押しして撮影する

- 撮影時は画像モニターが消灯します。



6 \odot ボタンを押してライブビューを終了する



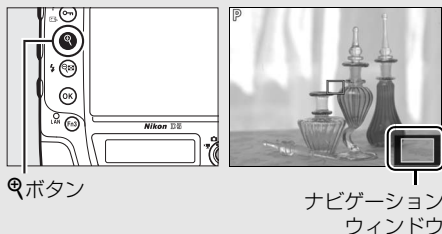
✓ 露出プレビューについて

- シャッタースピードが**1/1000**（バルブ）または**-**（タイム）の場合、露出プレビューには切り替わりません。また、次の場合は、露出プレビューの表示が実際に撮影される画像と異なります。
 - 別売スピードライト装着時
 - 〔アクティブD-ライティング〕（□179）または〔HDR（ハイダイナミックレンジ）〕（□181）を設定した場合
 - ピクチャーコントロールの〔コントラスト〕が〔A〕（オート）の場合（□173）
 - シャッタースピードを**x 250**に設定した場合
 - オートブラケティング撮影時
- 被写体が極端に明るい場合や暗い場合には、画像の明るさを正しく表示できないことがあります（露出インジケーターが点滅します）。

🔗 ライブビュー時の拡大表示

ライブビュー中に \mathcal{Q} ボタンを押すと、拡大表示できます（最大約11倍）。

- \mathcal{Q} ボタンを押すごとに拡大率が上がり、 \mathcal{Q} （⚡）ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- 拡大表示中は、画面の右下に構図のどの部分を拡大しているかを表すナビゲーションウィンドウ（グレーの枠）が表示されます。
- 拡大表示中は、マルチセレクトを操作すると、見たい部分に移動できます。



🔗 ライブビュー時のプレビュー機能

ライブビュー中に**Pv**ボタンを押すと開放絞りになり、ピントが確認しやすくなります。再度**Pv**ボタンを押すか、オートフォーカスでピントを合わせると、設定した絞り値に絞り込まれます。開放絞りにしたままでシャッターボタンを全押しすると、設定した絞り値に絞り込まれてから撮影します。開放絞り中は画像モニターに開放絞りのアイコンが表示されます（□55）。

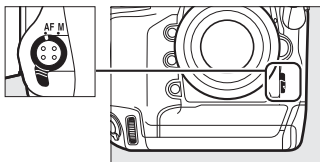
🔗 HDMI接続時の撮影について

HDMI対応機器との接続時には、接続した機器とカメラのモニターに被写体が表示されます。

オートフォーカスで撮影する

フォーカスモードセクターを**AF**に合わせると、オートフォーカスになります。ここでは、ライブビュー時のオートフォーカスでのピントの合わせ方について説明しています。

フォーカスモードセクター



AFモードを変更する

**AF-S シングル
AFサーボ**

静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。

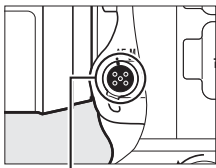
**AF-F 常時AF
サーボ**

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しするまで、カメラは被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。

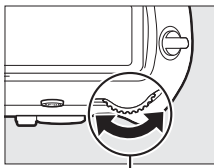
■ ライブビュー時のAFモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- AFモードは画像モニターに表示されます。



AFモードボタン







メインコマンド
ダイヤル



画像モニター

AFエリアモードを変更する

 顔認識AF	<p>記念写真など、人物の顔にピントを合わせたい場合に適しています。カメラが人物の顔を自動的に認識し、フォーカスポイントが黄色の二重枠に変わります。複数の顔を認識した場合（最大35人まで）は、カメラが最も近いと判断した人物の顔を二重枠で表示します。このとき、マルチセクターで二重枠を移動して他の顔を選ぶこともできます。途中で顔が後ろを向くなどしてカメラが顔を認識できなくなると、枠が消えます。</p>
 ワイド エリアAF	<p>風景などを手持ちで撮影する場合に適しています。フォーカスポイントは、マルチセクターで任意の位置に移動できます。中央ボタンを押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。</p>
 ノーマル エリアAF	<p>画面の任意の位置にピンポイントでピントを合わせたい場合に適しています。フォーカスポイントは、マルチセクターで任意の位置に移動できます。中央ボタンを押すと、フォーカスポイントは中央に移動します。三脚の使用をおすすめします。</p>
 ターゲット 追尾AF	<p>指定した被写体に追尾させてフォーカスポイントを動かしたい場合に適しています。フォーカスポイントを被写体に重ねて中央ボタンを押すと、被写体の追尾を開始し、被写体の動きに合わせてフォーカスポイントが移動します。もう一度中央ボタンを押すと、追尾を終了します。</p>



▼ ターゲット追尾AFについてのご注意

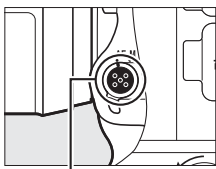
次のような場合は、追尾動作が正常に行われなことがありますので、ご注意ください。

- 被写体の色、明るさが背景と似ている場合
- 被写体の大きさ、色、明るさが著しく変わる場合
- 被写体が大きすぎる/小さすぎる場合
- 被写体が明るすぎる/暗すぎる場合
- 被写体の動きが速すぎる場合
- 被写体が隠れたり、画面から外れた場合

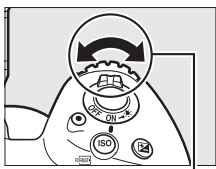
■ ライブビュー時のAFエリアモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- AFエリアモードは画像モニターに表示されます。



AFモードボタン



サブコマンドダイヤル



画像モニター

✓ ライブビュー時のオートフォーカスについてのご注意

- ライブビュー時のオートフォーカスは、通常のオートフォーカスより、ピント合わせに時間がかかります。また、次の被写体はピントが合わない場合がありますので、ご注意ください。
 - 画面の長辺側と平行な線の被写体
 - 明暗差の少ない被写体
 - フォーカスポイント内の被写体の輝度が著しく異なる場合
 - イルミネーション、夜景などの点光源や、ネオンなど明るさが変化する被写体
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が見える場合
 - クロスフィルターなど、特殊なフィルターを使用した場合
 - フォーカスポイントに対して被写体が小さい場合
 - 連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓やブラインドなど）
 - 動く被写体
- オートフォーカス作動中は、画面の明るさが変わることがあります。
- フォーカスポイントが緑色に点滅しているとき（オートフォーカス作動中）は、シャッターはきれません。ただし、赤色に点滅しているとき（ピントがあっていないとカメラが判断したとき）でもシャッターはきれます。
- ピントが合わなくてもピント表示（緑枠）が点灯する場合があります。
- AF-SやAF-P以外のレンズやテレコンバーターを使用した撮影では、十分なピント精度が出ない場合があります。

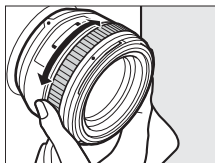
✎ ライブビュー時のタッチ操作について

ライブビュー時に画面をタッチすると、タッチした位置にフォーカスポイントが移動します。

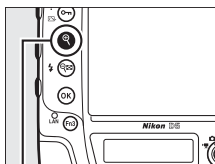


マニュアルフォーカスで撮影する

マニュアルフォーカス (M 108) で撮影するときは、レンズのフォーカスリングを回して、被写体にピントを合わせます。



- ピントの状態を細部まで確認したい場合は、
⌕ ボタンを押して被写体を拡大表示してください (M 45)。



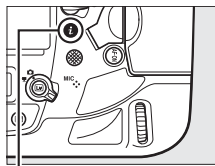
⌕ ボタン



i ボタンを使う

ライブビュー撮影時に **i** ボタンを押すと、次の機能の設定を変更できます。項目を選んでマルチセレクトの **▶** を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

- 設定終了後、**OK** ボタンを押して決定します。
- 撮影に戻るには、再度 **i** ボタンを押してください。



i ボタン


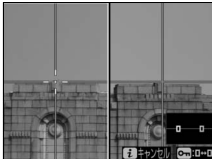


撮像範囲設定	ライブビュー撮影時の撮像範囲を選べます (□84)。
アクティブD-ライティング	アクティブD-ライティングの設定を変えられます (□179)。
電子先幕シャッター	電子先幕シャッターを有効にするかどうかを設定できます (□328)。
モニターの明るさ	<ul style="list-style-type: none"> • ライブビュー時の画像モニターの明るさを、▲ または ▼ を押して調整できます。 • 画像モニターの明るさを調整すると、ライブビュー中の表示に反映されますが、撮影した画像や画像再生時の表示、メニュー表示などには反映されません。



画像再生時やメニュー表示時の明るさについて

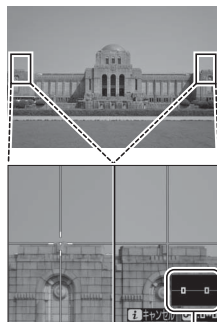
画像再生時やメニュー表示時などの画像モニターの明るさは、セットアップメニューの **【モニターの明るさ】** (□358) で設定してください。

<p>静止画Lv画面の ホワイトバランス</p>	<p>ライブビュー撮影時には、撮影用のホワイトバランス (□□149) とは別に、画像モニター用のホワイトバランス (画像モニターの色み) を設定できます。撮影用のホワイトバランスを [フラッシュ] や [プリセットマニュアル] などに設定していると、実際に撮影される画像の色みと画像モニターで表示されている色みが異なることがあります。あらかじめ画像モニターの色みを撮影する画像の色みに合わせておくことで、撮影画像の仕上がりをイメージしやすくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [撮影時と同じ] を選ぶと、画像モニター用ホワイトバランスは撮影用ホワイトバランスと同じになります。 • [無音撮影] (□□53) を [する] にしている場合は、常に [撮影時と同じ] になります。 • 画像モニター用ホワイトバランスは、カメラの電源をOFFにすると解除されます。WB ボタンを押しながら Lv ボタンを押すと、前回設定した画像モニター用ホワイトバランスの表示でライブビューを開始できます。 	
<p>2点拡大</p>	<p>同じ水平面上の異なる2カ所を同時に拡大表示します。建築物などの水平合わせの確認に便利です (□□52)。</p>	
<p>無音撮影</p>	<p>シャッターを開いたまま撮影するため、シャッター音を出さずに静かに撮影できます (□□53)。</p>	

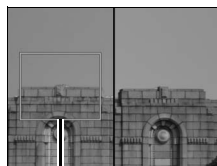
■ 2点拡大

ライブビュー撮影時に **i** ボタンを押して「2点拡大」を選ぶと、左右に並んだ拡大表示画面が表示されます（2点拡大表示）。それぞれの画面には、ナビゲーションウィンドウの2カ所の□部分が拡大されて表示されます。

- **Q** ボタンを押すごとに拡大率が上がり、**Q** (⚡) ボタンを押すごとに拡大率が下がります。
- マルチセレクトの **⬅** または **➡** を押すと、左右それぞれの拡大表示画面を横方向にスクロールできます。左右の画面を切り換える場合は **⏏** (🔍/?) ボタンを押します。
- マルチセレクトの **⬆** または **⬆** を押すと、左右の拡大表示画面が縦方向に同時にスクロールします。
- シャッターボタンを半押しすると、選択されている画面の中心点にピントが合います。



ナビゲーション
ウィンドウ




ピントが合う部分

- **i** ボタンを押すと、2点拡大表示を終了します。

■ 無音撮影

ライブビュー撮影時に **i** ボタンを押して [無音撮影] を [する] に設定するか、静止画撮影メニュー (□296) の [無音撮影 (静止画ライブビュー)] を [する] に設定すると、シャッターを開いたまま撮影するため、シャッター音を出さずに静かに撮影できます。

- シャッターボタンを全押ししている間、レリーズモード (□110) が **CL** の場合は約15コマ/秒、**CH** の場合は約30コマ/秒の高速連続撮影を最大5秒間行えます。静音連続撮影の場合、**CL** として動作します。その他のレリーズモードの場合は、シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。
- 記録可能コマ数の表示部分に、連続撮影できる残り時間が表示されます。
- 画像モニターに  が表示されます。
- 無音撮影時は、画像モニターに表示されている露出 (明るさ) で撮影されます。**OK** ボタンを押すと、露出インジケーター (□129) が表示され、自分で設定した露出値と、カメラが測光した露出値との差を確認できます。もう一度 **OK** ボタンを押すと、露出インジケーターが消えます。
- 露出モード **M** の場合は、シャッタースピードを 1/30～1/8000 秒の範囲で設定できます。
- 露出補正 (□136) の設定は、±3 段までになります。
- 静止画撮影メニュー [画質モード] の設定にかかわらず、画質モードは常に [FINE★] になります。
- 画像サイズ (ピクセル) は、静止画撮影メニュー [画像サイズ] の設定にかかわらず、各撮像範囲 (□84) で次のようになります。
 - **FX (36 × 24) 1.0×** : 2784 × 1856 ピクセル
 - **1.2× (30 × 20) 1.2×** : 2320 × 1544 ピクセル
 - **DX (24 × 16) 1.5×** : 1824 × 1216 ピクセル
 - **5:4 (30 × 24)** : 2320 × 1856 ピクセル
- 露出モードが **M** の場合、ISO 感度 (□117) を ISO 100～Hi 5 の間で設定できます。その他の露出モードでは、ISO 感度をカメラが自動で設定します。

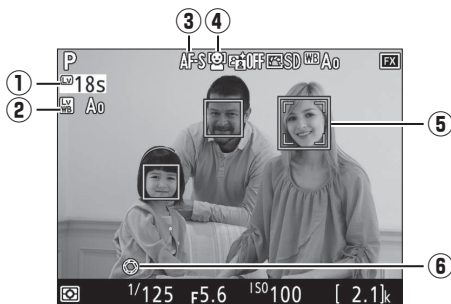
無音撮影について

- 完全に無音にはなりません。ライブビュー開始時と終了時には、ミラーアップ / ミラーダウンの音とシャッター音がします。
- 無音撮影時に絞り値、シャッタースピード、ISO感度を設定できるかどうかは、露出モードによって異なります。

	絞り値	シャッタースピード	ISO感度
P、S	—	—	—
A	○	—	—
M	○	○	○

- 別売のスピードライトは発光しません。
- ⑨に設定していてもセルフタイマー撮影を行いません。
- 次の機能は使用できません。
 - オートブラケティング撮影 (□138)
 - アクティブD-ライティング (□179)
 - HDR (ハイダイナミックレンジ) (□181)
 - ヴィネットコントロール (□304)
 - 自動ゆがみ補正 (□305)
 - 多重露出撮影 (□220)
 - 高感度ノイズ低減 (□303)
 - 露出ディレーモード (□328)
- 静止画撮影メニュー [スロット2の機能] を [RAW+JPEG分割記録] に設定している場合は、両方のスロットにJPEG画像が保存されます。
- 画像モニターの表示に次のような現象が発生することがあり、これらの現象は静止画にも記録されます。
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する (□311)
 - 動きのある被写体が歪む
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する

情報表示について



① ライブビュー残り時間	ライブビューが自動的に終了する30秒前から、ライブビュー残り時間のカウントダウンを表示します。	📖 57
② 静止画Lv画面のホワイトバランス	画像モニターの色み（画像モニター用ホワイトバランス）を表示します。	📖 51
③ AFモード	AFモードを表示します。	📖 46
④ AFエリアモード	AFエリアモードを表示します。	📖 47
⑤ フォーカスポイント	枠内の被写体にピントが合います。フォーカスポイントの形状は、選んだAFエリアモードにより異なります。	📖 47
⑥ 開放絞り表示	Pv ボタンを押して開放絞りにすると表示されます。	📖 45



表示を切り換える

info ボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。

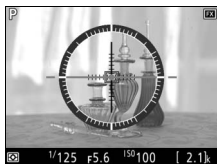
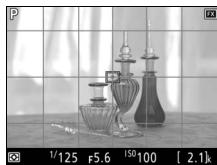
情報表示



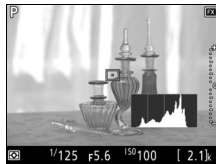
情報表示なし



格子線表示



水準器表示 (□360)



ヒストグラム※

※ 露出プレビュー時 (□44) または無音撮影時 (□53) のみ表示されます。

✓ ライブビュー撮影時のご注意

- 画像モニターの表示に次のような現象が発生することがありますが、実際に記録される画像に影響はありません。
 - 動きのある被写体が歪んで表示される
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪んで表示される
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪んで見える
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
- 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、ライブビュー表示中に画面にちらつきや横縞が生じる「フリッカー現象」は、動画撮影メニューの「フリッカー低減」(□311) で低減できますが、設定しているシャッタースピードによっては、撮影した静止画に記録されることがあります。
- 適正露出や画像に影響を与える接眼部からの逆入射光を防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターを閉じてください (□115)。
- ライブビュー表示中は、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- ライブビュー中は、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (□325) の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。

✓ ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

自動的にライブビューを終了する30 秒前から、画像モニターの左上にカウントダウンを表示します (□55)。

- カスタムメニュー c4 [モニターのパワーオフ時間] (□326) の設定により終了する場合は、終了30秒前から黒字で表示し、終了5秒前から赤字で表示します。[モニターのパワーオフ時間] の「ライブビュー表示」を「制限なし」に設定している場合も、カメラ内部の温度上昇などによりライブビューが終了する場合があります。
- カメラ内部の温度上昇により終了する場合は、終了 30 秒前から赤字で表示します。撮影条件によっては、ライブビュー開始後すぐにカウントダウンが始まる場合があります。

📎 関連ページ

- ライブビュー中の動画撮影ボタンとコマンドダイヤルの機能を設定する
→ 📎 f1 [カスタムボタンの機能] の「動画撮影ボタン+📷」(□341)
- ライブビューの表示時間を設定する → 📎 c4 [モニターのパワーオフ時間] (□326)
- マルチセレクターの中央ボタンを押して、画面中央にフォーカスポイントを移動したり、拡大表示に切り換えられるようにする → 📎 f2 [中央ボタンの機能] (□345)
- ㊄ ボタンの動作を制限する → 📎 f8 [ライブビューボタンの設定] (□351)

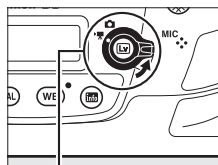


動画撮影と再生

動画を撮影する

画像モニターを見ながら音声付きの動画を撮影できます。

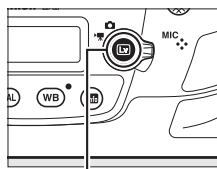
1 ライブビューセクターを （動画ライブビュー）に合わせる



ライブビューセクター

2 ボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、画像モニターに被写体が表示されます。
- ライブビュー中は、実際に撮影される動画や静止画の露出（明るさ）を画像モニターで確認できます。



 ボタン

3 動画撮影時のAFモードを設定する

- 動画撮影時のAFモードの設定方法については、「AFモードを変更する」（□46）をご覧ください。



4 動画撮影時のAFエリアモードを設定する

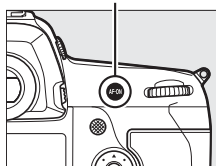
- 動画撮影時のAFエリアモードの設定方法については、「AFエリアモードを変更する」(□47)をご覧ください。



5 AF-ONボタンを押して、ピントを合わせる

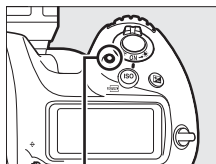
- 動画撮影を開始する前に、被写体にピントを合わせます。

AF-ONボタン



6 動画撮影ボタンを押して、動画記録を始める

- 動画記録中は録画中マークが画像モニターに表示されます。メモリーカードに記録できる残り時間の目安も画像モニターで確認できます。
- 動画記録中も、**AF-ON**ボタンを押すと被写体にピントを合わせられます。
- 内蔵マイク (□2) で音声を記録します。録画中は、マイクを指でふさがないようにしてください。
- 露出を固定 (AEロック) するには、サブセレクトターの**中央**を押し続けます (□134)。
- 動画記録中は±3段の範囲で露出補正ができます (□136)。



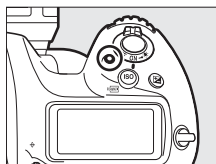
動画撮影ボタン

録画中マーク

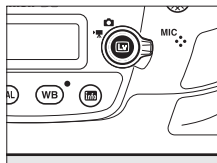


残り時間

7 もう一度動画撮影ボタンを押して、動画記録を終了する



8 ボタンを押してライブビューを終了する



インデックスマーキングについて

動画記録中に、カスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能] (□352) で [インデックスマーキング] を割り当てたボタンを押すと、記録中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます (□79)。インデックスマークは1つの動画に最大20個まで付けられます。




インデックスマーク

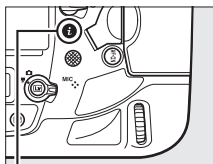
動画撮影時のピント合わせについて

シャッターボタンを半押ししてピントを合わせることもできます。

i ボタンを使う







動画撮影時に **i** ボタンを押すと、次の機能の設定を変更できます。項目を選んでマルチセクターの  を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

- 設定終了後、**OK** ボタンを押して決定します。
- 撮影に戻るには、再度 **i** ボタンを押してください。

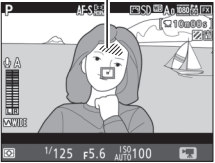






i ボタン



撮像範囲設定	動画撮影時の撮像範囲を選べます (□68)。
画像サイズ/ フレームレート	動画を記録するときの画像サイズ (ピクセル) / フレームレートを設定します (□65)。
動画の画質	動画の画質を選べます (□65)。
マイク感度	<p>内蔵マイクまたは外部マイク (□421) の感度を、 または  を押して調整できます (□309)。</p> 
録音帯域	内蔵マイクまたは外部マイクの周波数特性を設定します (□310)。
風切り音低減	内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えるローカットフィルター機能を有効にするかどうかを設定できます (□310)。
動画記録先	メモリーカードを2枚使用している場合に動画を記録するスロットを設定できます (□307)。
モニターの 明るさ	<ul style="list-style-type: none"> • 動画撮影時の画像モニターの明るさを、 または  を押して調整できます。 • 画像モニターの明るさを調整すると、ライブビュー中の表示に反映されますが、撮影した画像や画像再生時の表示、メニュー表示などには反映されません。 



ハイライト表示	<p>動画撮影時、ハイライト部分（非常に明るい部分）を斜線で表示するかどうかを設定できます。</p>	<p>ハイライト部分</p> 
ヘッドホン音量	<p>ヘッドホン音量を、またはを押して調整できます。</p>	
 電子手ブレ補正	<p>動画撮影時に電子手ブレ補正を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動画の画像サイズ（□□65）が3840×2160または1920×1080クロップの場合、電子手ブレ補正は機能しません。 電子手ブレ補正を「する」に設定すると画角が小さくなるため少し拡大されます。 	

ヘッドホンについて

- 市販のヘッドホンヘッドホン端子に接続すると、音声はヘッドホンから再生されます。
- マイク感度を最大にして撮影した動画を再生すると、大音量で再生される場合がありますので、ヘッドホン使用時は特にご注意ください。

情報表示について





① ヘッドホン音量	市販のヘッドホン接続時に表示されます。ヘッドホン出力の音量レベルを表示します。	📖62
② マイク感度	マイク感度のレベルを表示します。	📖309
③ 音声レベルインジケータ	音声を記録するときの音量レベルを表示します。インジケータの色が赤で表示される場合、音量が大きすぎることを示しています。マイク感度を調節してください。	📖309
④ 録音帯域マーク	録音帯域の設定を表示します。	📖310
⑤ 風切り音低減マーク	風切り音低減が有効の場合に表示します。	📖310
⑥ 動画記録禁止マーク	動画が記録できない状態のとき表示します。	—
⑦ 動画の画像サイズ	動画の画像サイズを表示します。	📖65
⑧ 動画記録残り時間	動画記録時に、メモリーカードに記録できる残り時間を表示します。	📖59
⑨ ハイライト表示マーク	ハイライト表示が有効の場合に表示します。	📖62
⑩ 電子手ブレ補正マーク	電子手ブレ補正が有効の場合に表示します。	📖311



ライブビュー残り時間のカウントダウンについて

- 自動的に動画撮影を終了する30秒前から、画像モニターの左上にカウントダウンを表示します (□55)。
- 撮影条件によっては、動画撮影を開始後すぐにカウントダウンが始まる場合があります。
- 動画記録中にカウントダウンが始まった場合は、画像モニターの右上に表示されている動画残り記録時間にかかわらず、ライブビュー残り時間のカウントダウン時間で動画撮影を自動的に終了します。
















動画撮影中の調整について

- ヘッドホンの音量は変更できません。
- マイク感度を  以外に設定すると、動画記録中にマイク感度を変更できます。  には変更できません。




動画の最長記録時間について

動画撮影メニュー「**画像サイズ/フレームレート**」では、動画を記録するときの画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定します。「**動画の画質**」では、動画の画質を高画質と標準から選べます。それぞれの設定時の最大ビットレートと最長記録時間は次の通りです。

	【画像サイズ/フレームレート】※1	最大ビットレート （【動画の画質】※2： ★高画質/標準）	最長記録時間
	3840×2160 (4K UHD) 30p ※3	144Mbps	29分59秒※4
	3840×2160 (4K UHD) 25p ※3		
	3840×2160 (4K UHD) 24p ※3		
	1920×1080 60p	48Mbps/24Mbps	
	1920×1080 50p		
	1920×1080 30p	24Mbps/12Mbps	
	1920×1080 25p		
	1920×1080 24p		
	1280×720 60p		
	1280×720 50p		
	1920×1080 60p クロップ ※5		
	1920×1080 50p クロップ ※5		
	1920×1080 30p クロップ ※5		
	1920×1080 25p クロップ ※5		
	1920×1080 24p クロップ ※5		

※1 60p：59.94コマ/秒（fps）、50p：50コマ/秒、30p：29.97コマ/秒、25p：25コマ/秒、24p：23.976コマ/秒

※2 「**動画の画質**」が高画質の場合は、アイコンに★が表示されます。画像サイズを3840×2160に設定した場合は、常に高画質で記録されます。

※3 画像サイズを3840×2160に設定した場合はが表示されます。

※4 動画は最大8個のファイルに分割されて記録されます。各ファイルのファイルサイズは最大で4GBです。1回の撮影で作成されるファイルの数と1ファイルあたりの記録時間は「**画像サイズ/フレームレート**」および「**動画の画質**」の設定によって異なります。

※5 画像サイズを1920×1080クロップに設定した場合はが表示されます。



表示を切り換える

info ボタンを押すたびに、次のように画面の表示が切り替わります。

情報表示



情報表示なし



格子線表示



水準器表示 (□360)

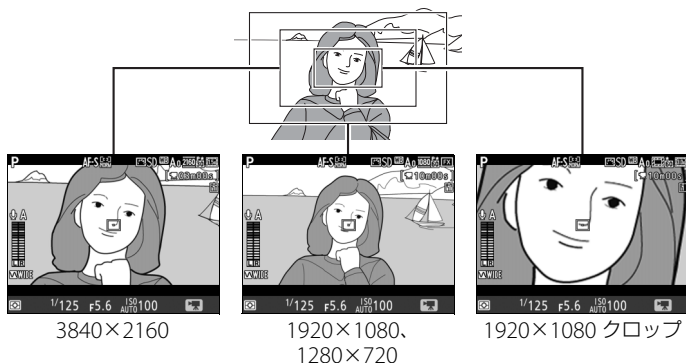


ヒストグラム



動画撮影時の画角について

動画のアスペクト比（縦横比）は、16：9です。動画の画角は、動画の画像サイズ（□65）によって異なります。



- 画像サイズを3840×2160に設定すると、1920×1080および1280×720に設定した場合の焦点距離の約1.5倍に相当する画角になります。
- 1920×1080 クロップに設定すると、1920×1080および1280×720に設定した場合の焦点距離の約3倍に相当する画角になります。



動画撮影時の撮像範囲について

動画の画像サイズを1920×1080または1280×720に設定した場合、動画撮影メニュー「撮像範囲」の「撮像範囲設定」で撮像範囲を変更できます。[FX]に設定した場合はFXベースの（動画）フォーマットに、[DX]に設定した場合はDXベースの（動画）フォーマットになります。動画撮影時の撮像範囲は次の図のようになります。



FX (36×24)



DX (24×16)

- 撮像範囲のサイズは、FXベースの（動画）フォーマットとDXベースの（動画）フォーマットでは異なります。それぞれの撮像範囲のサイズは次の通りです。

フォーマット	サイズ
FXベースの（動画）フォーマット	約35.9×20.2 mm
DXベースの（動画）フォーマット	約23.5×13.2 mm


- 動画撮影メニュー「撮像範囲」の「DX自動切り換え」(□85)を「する」に設定してDXレンズを装着した場合は、DXベースの（動画）フォーマットになります。
- 動画の画像サイズを3840×2160または1920×1080クロップに設定した場合は、撮像範囲を変更できません。DXレンズを装着した場合でも、設定した画像サイズで撮影できます。
- 電子手ブレ補正(□62)を「する」に設定すると画角が小さくなるため少し拡大されます。

動画撮影時の静止画撮影

カスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能]
の [シャッターボタン] (□352) を [静止画撮影]
に設定した場合、動画撮影中 (ライブビュー
時または動画記録時) にシャッターがきれるまで



シャッターボタンを全押しし続けると、静止画を撮影します。撮影される静止画のアスペクト比 (横:縦) は、16:9になります。

- 動画記録中の場合、動画記録は終了し、そこまでの動画を記録します。
- 画質モードは、静止画撮影メニュー [画質モード] (□88) で設定した内容になります。ただし、動画の画像サイズ (□65) を 3840×2160 または 1920×1080 クロップに設定した場合は [FINE★] になります。
- 動画撮影時の静止画撮影の露出は画像モニターでは確認できません。露出モード **P**、**S**、**A** での撮影をおすすめします。露出モード **M** で撮影する場合は、一度ライブビューセクターを  に合わせて露出を確認してから撮影することをおすすめします。



■■ 撮影できる静止画の画像サイズ

撮影できる静止画の画像サイズは、次の通りです。

- 1920×1080、1280×720 の場合、静止画撮影メニュー [画像サイズ] の [JPEG/TIFF] の設定によって、撮影される画像サイズが異なります。


動画の画像サイズ (□65)	撮影される静止画の 画像サイズ (□91)	プリント時の大きさ (出力解像度300dpiの 場合) ※
3840×2160	3840×2160ピクセル	約32.5×18.3 cm
1920×1080、1280×720 (動画撮影メニュー [撮像範囲] が [FX] の場合)	L (5568×3128ピクセル)	約47.1×26.5 cm
	M (4176×2344ピクセル)	約35.4×19.8 cm
	S (2784×1560ピクセル)	約23.6×13.2 cm
1920×1080、1280×720 (動画撮影メニュー [撮像範囲] が [DX] の場合)	L (3648×2048ピクセル)	約30.9×17.3 cm
	M (2736×1536ピクセル)	約23.2×13.0 cm
	S (1824×1024ピクセル)	約15.4× 8.7 cm
1920×1080 クロップ	1920×1080 ピクセル	約16.3× 9.1 cm

※ ピクセル数÷出力解像度 (dpi) ×2.54 cmで計算しています。

画像サイズをクロップに設定している場合の静止画撮影について

動画の画像サイズ (□65) を1920×1080 クロップに設定して静止画を撮影する場合、測光範囲やホワイトバランスの [オート] で色温度を測定する範囲が、実際に記録される範囲と異なります。このため、露出やホワイトバランスが適正に撮影できないことがあります。試し撮りをして、画像を再生して確認することをおすすめします。

動画撮影について

- 使用しているメモリーカードの書き込み速度によっては、最長記録時間 (□65) に満たないで記録が自動的に終了する場合があります。
- 動画撮影時は、AFエリアモードが顔認識AFの場合に認識できる人数が少なくなります。
-  (動画記録禁止) マーク (□63) が表示されているときは、動画記録できません。
- 1つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。
- 動画撮影中は測光モードをスポット測光に設定できません。
- 動画を撮影するときは、常にsRGBの色空間で撮影されます。
- 動画撮影時は、別売のスピードライト (□186) は発光しません。
- 露出モード **P**、**S** で画像が明るくなりすぎたり、暗くなりすぎたりする場合は、ライブビューを終了してからもう一度ライブビューを開始するか、露出モードを **A** にして、絞りの調整を行ってください。
- 動画撮影時に絞り値、シャッタースピード、ISO感度を設定できるかどうかは、露出モードによって異なります。

	絞り値	シャッタースピード	ISO感度 ※1
P、S	—	—	— ※2
A	○	—	— ※2
M	○	○	○ ※3

※1 動画撮影メニューの [電子手ブレ補正] が [する] の場合、ISO感度をHi0.3以上に設定しても102400に制限されます。

※2 動画撮影メニュー [動画ISO感度設定] (□308) の [制御上限感度] でISO感度の上限を設定できます。

※3 動画撮影メニュー [動画ISO感度設定] の [Mモード時の感度自動制御] を [する] に設定した場合、[制御上限感度] でISO感度の上限を設定できます。

- 動画撮影中に **WB** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランスを変更できます (□149)。

マニュアル露出での動画撮影について

露出モード **M** で動画撮影する場合、シャッタースピードを1/25～1/8000秒の範囲で設定できます (動画のフレームレート (□65) によって、低速側の制限が異なります)。

ワイヤレスリモートコントローラーとリモートコードについて

カスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能] (□□352) の [シャッターボタン] を [動画撮影] に設定すると、ワイヤレスリモートコントローラー (□□418) やリモートコード (□□420) のシャッターボタンを半押ししてライブビューを開始したり、全押しして動画記録の開始と終了を行えます。


外部マイクについて

別売のステレオマイクロホンME-1またはワイヤレスマイクロホンME-W1を外部マイク入力端子に接続すると、外部マイクを使用して動画撮影することができます (□□421)。

HDMI接続時の撮影について









HDMI 対応機器との接続時には、接続した機器とカメラのモニターに被写体が表示されます。

動画撮影時のご注意

- 動画撮影中の画像モニターの表示に、次のような現象が発生する場合があります。これらの現象は撮影した動画にも記録されます。
 - 蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明下で、画面にちらつきや横縞が発生する (□□311)
 - 動きのある被写体が歪む
 - 電車や自動車など、高速で画面を横切る被写体が歪む
 - カメラを左右に動かした場合、画面全体が歪む
 - ジャギー、偽色、モアレ、輝点が発生する
 - 周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生する
 - パワー絞りを作動中 (□□352)、画面にちらつきが発生する
- 動画撮影時に、 ボタンで画面を拡大した場合 (□□45)、ノイズ (ざらつき、むら、すじ)、色の変化が発生しやすくなります。
- 次のような場合は、動画記録は自動的に終了します。
 - 最長記録時間に達したとき
 - メモリーカードの残量がなくなったとき
 - ライブビューセクターを切り換えたとき
 - レンズを取り外したとき
- 動画撮影時、太陽など強い光源にカメラを向けないでください。内部の部品が破損するおそれがあります。
- 次のような場合は、動作音が録音されることがあります。
 - オートフォーカス作動中
 - パワー絞りを作動中
 - 絞り値を変更した場合
 - VRレンズ使用時にVR (手ブレ補正) をONにした場合



関連ページ

- 動画撮影時のオートフォーカスについてのご注意 → 「ライブビュー時のオートフォーカスについてのご注意」 (□48)
- レンズのフォーカスリングを使って (マニュアルフォーカスで) ピントを合わせる → 「マニュアルフォーカスで撮影する」 (□49)
- ライブビュー表示中や動画撮影時のフリッカー現象を低減する →  [フリッカー低減] (□311)
- マルチセクターの**中央**ボタンを押して、画面中央にフォーカスポイントを移動したり、拡大表示に切り換えられるようにする →  f2 [中央ボタンの機能] (□345)
-  ボタンの動作を制限する →  f8 [ライブビューボタンの設定] (□351)
- 動画撮影時の**Pv**ボタン、**Fn1**ボタン、**Fn2**ボタン、**Fn3**ボタン、サブセクターの**中央**、シャッターボタンの機能を設定する →  g1 [カスタムボタンの機能] (□352)
- 動画撮影時の**Pv**ボタン、**Fn1**ボタン、**Fn2**ボタン、サブセクターの**中央**で撮像範囲を切り換える →  g1 [カスタムボタンの機能] (□352)
- サブセクターの**中央**を押し続けなくても AE ロック状態を維持できるようにする →  g1 [カスタムボタンの機能] の [サブセクター中央] (□352)
- シャッターボタンでライブビューの開始や動画記録の開始と終了ができるようにしたり、動画撮影しながらシャッターボタンを全押しして静止画を撮影できるようにする →  g1 [カスタムボタンの機能] の [シャッターボタン] (□352)



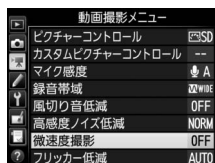
静止画をつないで動画にする (微速度撮影)

微速度撮影では、設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、ファインダー撮影で撮影した静止画をつないで動画として記録できます。動画撮影メニューの[撮像範囲設定] (□68)、[画像サイズ/フレームレート]、[動画の画質] (□65) および[動画記録先] (□307) で設定した内容で動画が記録されます。

■ 微速度撮影の開始

1 動画撮影メニューの[微速度撮影]を選ぶ

- マルチセクターの \odot を押すと、微速度撮影の設定画面が表示されます。



2 微速度撮影の設定をする

- 撮影間隔 (インターバル) を設定する



[撮影間隔] を選んで \odot を押す



撮影間隔 (分、秒) を設定して \odot ボタンを押す

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードよりも長い時間を設定してください。

● 撮影時間を設定する



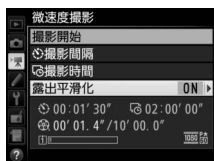
「撮影時間」を選んで
を押す



撮影時間（時、分）を設
定して、OKボタンを押す

- 撮影時間は、最長で7時間59分まで設定できます。

● 露出平滑化をするかどうかを選ぶ



「露出平滑化」を選んで
を押す



露出平滑化をするかど
うかを選んで OK ボタン
を押す

- 「する」を選ぶと、明るさの変化が滑らかになり、より自然な動画を記録します。ただし、露出モードMで静止画撮影メニュー「ISO感度設定」の「感度自動制御」が「しない」の場合、露出の平滑化は行いません。

3 「撮影開始」を選んでOKボタンを押す

- 約3秒後に撮影を開始します。
- 手順2で設定した「撮影時間」内に、設定した「撮影間隔」で撮影を繰り返します。



■■ 微速度撮影を終了するには

- 微速度撮影を終了するには、次の操作を行います。
 - 撮影待機中に動画撮影メニュー「**微速度撮影**」で「**終了**」を選び、**OK** ボタンを押す
 - 微速度撮影の待機状態や撮影直後の画像確認時に **OK** ボタンを押す
- 微速度撮影を終了すると、終了時点までの動画がメモリーカードに記録され、通常の撮影待機状態に戻ります。

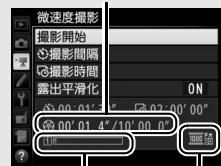
📎 微速度撮影を開始する前に

- 試し撮りをして、画像を再生して確認することをおすすめします。
- カメラを三脚で固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、別売のパワーコネクタとACアダプター、または十分に充電されたバッテリーをお使いください。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを押し上げてアイピースシャッターを閉じることをおすすめします (□115)。

📎 微速度撮影の記録コマ数（撮影回数）と動画の長さについて

- 手順2で設定する撮影時間を撮影間隔で割った数（小数点以下切り上げ）が、記録コマ数（撮影回数）になります。
- 微速度撮影で記録される動画の長さは、上記の記録コマ数 ÷ 動画撮影メニューの「**画像サイズ/フレームレート**」で選んだフレームレートで計算できます（例えば、「**画像サイズ/フレームレート**」が「**1920×1080 24p**」のときに記録コマ数が48コマの場合、記録される動画の長さは約2秒になります）。
- 最長20分の動画を記録できます。

記録時間/
最長記録時間




メモリーカード
使用状況

動画の画像サイズ/
フレームレート

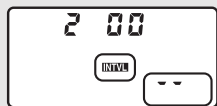


✓ 微速度撮影についてのご注意

- 微速度撮影時には、音声は記録されません。
- 実際の微速度撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した撮影間隔で撮影できないことがあります。
- 次のような場合には、微速度撮影を開始できません。
 - 設定した「撮影時間」が「撮影間隔」より短い場合
 - 「撮影時間」または「撮影間隔」が「00:00'00"」の場合
 - メモリーカードのメモリー残量がない場合
- AFモードが**AF-S**で、被写体にピントが合わないときは、その回の撮影をキャンセルし、次の回から撮影を再開します（撮影ごとにピントを合わせます）。
- 微速度撮影中は、 ボタンを押しても画像の再生はできません。**MENU** ボタンを押すと「微速度撮影」画面が表示され、その他のメニューは選択できません。
- 微速度撮影をする場合、ホワイトバランスを **AUTO**（オート）以外に設定すると色みを固定することができます（□149）。
- 微速度撮影中は、カスタムメニュー c2 「半押しタイマー」（□325）の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになります。
- シャッターボタンを全押しすると、微速度撮影を終了して静止画を撮影します。
- 微速度撮影中にカメラの設定を変更したり、カメラの操作を行ったり、HDMI ケーブルを接続すると、終了時点までの動画を記録して微速度撮影が終了する場合があります。
- 次の場合は動画を記録せずに、微速度撮影が終了します（微速度撮影終了時の電子音は鳴りません）。
 - バッテリーやACアダプターを取り外したとき
 - メモリーカードを取り出したとき

✍ 微速度撮影の待機状態について


- 微速度撮影の待機状態では、上面表示パネルに **INTVL** マークが点滅し、微速度撮影中マークが点灯します。撮影直前になるとシャッタースピード表示部にその回の残りの撮影時間を表示します（時間、分）。
- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影時間を表示します。
- 待機状態で **MENU** ボタンを押すと、画像モニターの微速度撮影画面に撮影間隔と撮影時間、露出平滑化の設定が表示されます。また、「終了」を選んで微速度撮影を終了できます（□75）。



クロップについて

動画の画像サイズ（□□65）を1920×1080 クロップに設定して微速度撮影するとき、測光範囲、調光範囲、およびホワイトバランスの【オート】で色温度を測定する範囲が、実際に記録される範囲と異なるため、露出、調光、およびホワイトバランスが適正に撮影できないことがあります。試し撮りをして、画像を再生して確認することをおすすめします。

撮影直後の画像確認について

微速度撮影中は、 ボタンで画像を表示することはできません。ただし、再生メニューの【撮影直後の画像確認】（□□291）を【する】にすると、撮影のたびに自動的に画像が数秒間画像モニターに表示されます（表示だけを行い、通常の再生時の操作は無効になります）。

微速度撮影動画の記録先について


微速度撮影で撮影した動画は、動画撮影メニューの【動画記録先】（□□307）で選んだスロットに記録されます。

微速度撮影の制限について


微速度撮影は、次の機能とは同時に使用できません。

- ライブビュー撮影（□□43）
- 動画撮影（□□58）
- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影（□□130）
- オートブラケティング撮影（□□138）
- HDR（ハイダイナミックレンジ）（□□181）
- 多重露出撮影（□□220）
- インターバルタイマー撮影（□□225）

レリーズモードについて

- レリーズモードに関係なく、1回の撮影ごとに1コマ撮影します。
-  に設定していてもセルフタイマー撮影を行いません。

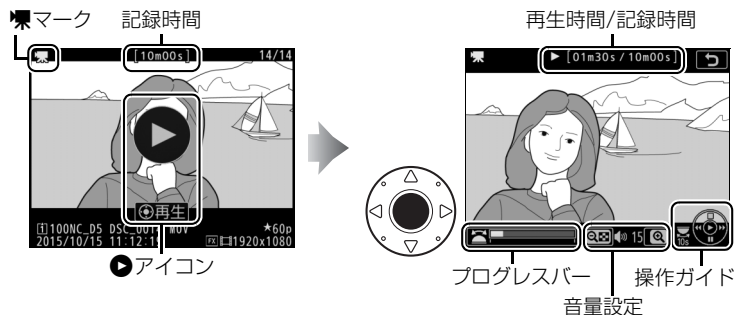
関連ページ

微速度撮影終了時に電子音が鳴るようにする →  【電子音設定】（□□373）











動画の再生

1コマ表示モード（□237）で[●]マークが表示されている画像が動画です。マルチセレクトターの**中央**ボタンを押すか、または画面上の[▶]アイコンをタッチして動画を再生します（プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます）。



動画再生中の操作方法

一時停止する		マルチセレクトターの [□] を押すと一時停止します。
再生を再開する		一時停止中または早送り/巻き戻し中に 中央 ボタンを押すと動画再生を再開します。
巻き戻しする/ 早送りする		<ul style="list-style-type: none"> 動画の再生中に[◀]を押すと巻き戻し、[▶]を押すと早送りします。同じ方向のボタンを押すごとに、巻き戻し/早送りの速度が2倍、4倍、8倍、16倍に切り替わります。 [◀]を押し続けると、最初のコマに移動し、[▶]を押し続けると、最後のコマに移動します。 先頭フレームには[⏮]アイコンが、最終フレームには[⏭]アイコンが、画面右上に表示されます。

コマ戻しする/ コマ送りする		<ul style="list-style-type: none"> 一時停止中に◀または▶を押すと、コマ戻し/コマ送りします。 ◀または▶を押し続けると連続でコマ戻し/コマ送りします。
10秒進める/ 10秒戻す		メインコマンドダイヤルを回すと、10秒前または後に移動します。
インデックス マークに 移動する		動画記録時に設定したインデックスマークに移動するには、サブコマンドダイヤルを回します。サブコマンドダイヤルを回すと、前後のインデックスマークに移動します。
先頭フレームに 移動する/最終 フレームに移動 する		動画にインデックスマークがない場合にサブコマンドダイヤルを回すと、先頭フレームまたは最終フレームに移動します。
音量を調節する		🔊ボタンを押すと音量が大きくなり、🔇(🔊)ボタンを押すと小さくなります。
動画を編集する		一時停止中に <i>i</i> またはOKボタンを押すと、[動画編集] 画面を表示します (□80)。
再生終了		⏮または▶ボタンを押すと1コマ表示モードに戻ります。
撮影に戻る		シャッターボタンを半押しすると画像モニターが消灯し、すぐに撮影できます。



インデックスマーク

インデックスマークが設定された動画 (□60) の場合、1コマ表示画面に📍マークが表示されます。



動画の編集

撮影した動画を編集できます。

 始点/終点の設定	動画の前半、後半、または前後両端を切り取って、選択した範囲だけを残します。
 選択フレームの保存	選択した1フレームを切り出して、JPEG画像として保存します。

動画の必要な部分を残す



1 1コマ表示モード (237) で編集したい動画を表示する

2 切り取りたい位置で動画を一時停止する

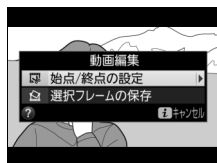
- マルチセレクトターの中央ボタンを押すと、動画が再生されます。再生中にマルチセレクトターの⏸を押すと、一時停止します。
- プログレスバーで再生中の位置の目安を確認できます。
- ⏮または⏭、メインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤルで再生中の位置を調整できます。



プログレスバー

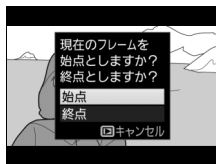
3 [始点/終点の設定] を選ぶ

- iまたはⓧボタンを押して、[始点/終点の設定] を選んで⏹を押します。



4 始点を選ぶ

- **【始点】**を選んで**OK**ボタンを押すと、選んだ始点より後ろの部分が残ります。



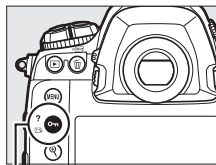
5 手順4で選んだ位置を調整する

- **⏮**または**⏪**を押して、切り取りたい位置を調整します。
- メインコマンドダイヤルを回すと、10秒前または後に移動します。
- サブコマンドダイヤルを回すと、先頭フレームまたは最終フレームに移動します。
- 動画記録時にインデックスマークを設定した場合（□60）は、サブコマンドダイヤルを回すと、前後のインデックスマークに移動します。



6 残したい範囲の末尾の部分（終点）を選ぶ

- **⏭** (**⏮**/?) ボタンを押して**⏭** (終点) に切り換え、手順5と同じ手順で**⏭** (終点) の位置を調整します。



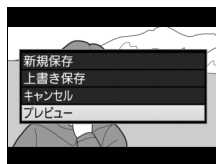
⏭ (**⏮**/?) ボタン



7 **⏭**を押して決定する

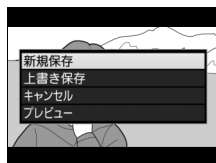
8 保存する動画を確認する

- [プレビュー] を選んで **OK** ボタンを押すと、編集後の動画のプレビューが再生されます（プレビューを終了するには **ESC** を押します）。
- [キャンセル] を選んで **OK** ボタンを押すと、手順5の画面に戻ります。



9 動画ファイルの保存方法を選ぶ

- [新規保存] を選ぶと、編集前の動画とは別に、新しい動画として保存します。[上書き保存] を選ぶと、編集前の画像が上書きされます。





10 動画ファイルを保存する

- **OK** ボタンを押して決定します。

動画編集時のご注意

- メモリーカードに十分な空き容量がない場合、動画編集できません。
- [始点/終点の設定] では、2秒未満の動画は編集できません。
- 動画編集で作成した動画の日時情報は、撮影時の日時になります。

動画の前半または後半だけを残すには

- 動画の前半だけを残したい場合は、手順4で [終点] を選んで **OK** ボタンを押してから、手順6では **On** (/?) ボタンを押さずに手順7に進みます。
- 動画の後半だけを残したい場合は、手順6で **On** (/?) ボタンを押さずに手順7に進みます。

画像編集メニュー [動画編集]

動画編集は、メニュー操作でも行えます（□381）。

動画の1フレームをJPEG画像として保存する

1 保存したい位置で動画を一時停止する

- 動画の再生中にマルチセレクトの \odot を押すと、一時停止します。



2 [選択フレームの保存] を選ぶ

- i または \odot ボタンを押して、[選択フレームの保存] を選んで \odot を押します。



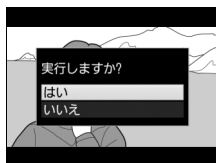
3 JPEG画像として保存したいフレームを決める

- 保存したいフレームを選んで \odot を押します。



4 JPEG画像を作成する

- [はい] を選んで \odot ボタンを押すと、JPEG の画像として保存します。



[選択フレームの保存] で作成した画像について

- 画質モード [FINE★] (□88) のJPEG画像を作成します。
- 画像編集はできません。
- 再生時の画像情報 (□243) で表示されない項目があります。





画像の記録

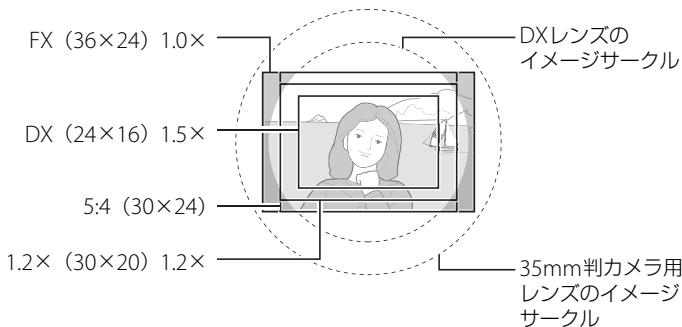
撮像範囲を変更する

撮像範囲を切り換えて撮影できます。

■■ 撮像範囲設定

このカメラで設定できる撮像範囲は次の通りです。撮像範囲は、静止画撮影メニューの「撮像範囲」の「撮像範囲設定」で設定するか（□□86）、ボタンとコマンドダイヤルで設定します（□□87）。

 FX (36×24) 1.0×	35mm判カメラに準じた画角のFXフォーマットで画像を記録します。35mm判カメラ用のニッコールレンズを装着して撮影するときに設定します。
 1.2× (30×20) 1.2×	レンズに表記されている焦点距離の約1.2倍のレンズに相当する画角になります。
 DX (24×16) 1.5×	DXフォーマットで画像を記録します。レンズに表記されている焦点距離の約1.5倍のレンズに相当する画角になります。
 5:4 (30×24)	アスペクト比（縦横比）が5：4の画像を記録します。



■ DX自動切り換え

静止画撮影メニュー「撮像範囲」の「DX自動切り換え」では、DXレンズを装着したときに自動的に撮像範囲を「DX (24×16) 1.5×」(DXフォーマット) に切り換えるかどうかを設定できます。

する	DXレンズを装着すると、自動的に撮像範囲を「DX (24×16) 1.5×」に切り換えます。
しない	自動的に切り換えません。

✓「ケラレ」について

DXレンズは通常の35mm判カメラ用レンズに比べ、イメージサークルが小さくなっています。このため、DXレンズを装着して「DX自動切り換え」を「しない」に設定して「撮像範囲設定」を「FX (36×24) 1.0×」や「1.2× (30×20) 1.2×」、[5:4 (30×24)] にして撮影すると、画面周辺部が黒くなることがあります。これを「ケラレ」といいます。ファインダー上ではケラレがないように見えても、撮影した画像を再生すると周辺部が暗くなっていることや、充分な解像度が得られないことがあります。

✎ ファインダーの表示について

撮像範囲が「1.2× (30×20) 1.2×」、[DX (24×16) 1.5×]、[5:4 (30×24)] のときは、下図のように表示します。記録されない部分は薄暗く表示されます。



1.2× (30×20) 1.2×



DX (24×16) 1.5×



5:4 (30×24)

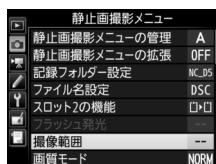
✎ 撮像範囲の表示について

撮像範囲は、インフォ画面に表示されます。



■■ 静止画撮影メニューの【撮像範囲】で設定する場合

1 静止画撮影メニューの【撮像範囲】を選んでマルチセクターの \odot を押す



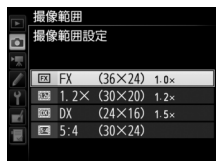
2 【撮像範囲設定】を選ぶ

- 【撮像範囲設定】を選んで \odot を押すと、【撮像範囲設定】画面が表示されます。



3 設定したい撮像範囲を選ぶ

- 設定したい撮像範囲を選んで、 \odot ボタンを押します。
- 設定に応じた撮像範囲がファインダー内で確認できます (□85)。

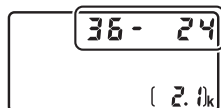


■ ボタンとコマンドダイヤルで設定する場合

1 カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] (□334) で任意のボタンに [撮像範囲選択] を割り当てる

2 [撮像範囲選択] を割り当てたボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回す

- 設定に応じた撮影範囲がファインダー内で確認できます (□85)。
- [撮像範囲選択] を割り当てたボタンを押すと、上面表示パネルやインフォ画面で撮像範囲の設定を確認できます。



撮像範囲	表示
FX (36×24) 1.0×	36 - 24
1.2× (30×20) 1.2×	30 - 20
DX (24×16) 1.5×	24 - 16
5:4 (30×24)	30 - 24

✓ 撮像範囲の切り換えについて

撮像範囲の [DX自動切り換え] を [する] (□85) に設定してDXレンズを装着している場合、[撮像範囲選択] を割り当てたボタンでは撮像範囲は切り換えられません。

📎 撮像範囲を変更したときの画像サイズについて

同じ画像サイズでも、[撮像範囲] の設定により、撮影画像のピクセル数が変化します。

📎 関連ページ

- 「動画撮影時の撮像範囲について」 (□68)
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」 (□467)

画質モードを変更する

■■ 画質モードについて

画像を記録する際の画質モードを選びます。

画質モード	ファイル形式	内容
RAW	NEF	撮像素子の生データを未現像の状態で記録します。撮影時に設定したホワイトバランスやコントラストなどを、撮影後に変更できます。
RAW + FINE★/ RAW + FINE	NEF + JPEG	RAWとJPEG (FINE) の2種類の画像を同時に記録します。
RAW + NORMAL★/ RAW + NORMAL		RAWとJPEG (NORMAL) の2種類の画像を同時に記録します。
RAW + BASIC★/ RAW + BASIC		RAWとJPEG (BASIC) の2種類の画像を同時に記録します。
FINE★/FINE	JPEG	画像データを約1/4に圧縮して記録します (サイズ優先時)。
NORMAL★/ NORMAL		画像データを約1/8に圧縮して記録します (サイズ優先時)。
BASIC★/ BASIC		画像データを約1/16に圧縮して記録します (サイズ優先時)。
TIFF (RGB)	TIFF (RGB)	画像を8ビット非圧縮のTIFF-RGB形式で記録します。多くの画像アプリケーションで使用できます。

🔗 JPEG画像の圧縮方式について

JPEG画像は★の有無によって圧縮方式が異なります。

- ★がある項目は画質優先となり、画質の劣化を抑えて圧縮します。画像によってファイルサイズは異なります。
- ★がない項目はサイズ優先となり、ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。

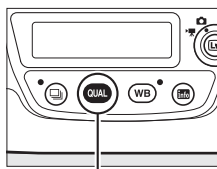
🔗 関連ページ

「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」(□467)

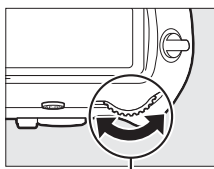
■ 画質モードの設定方法

QUAL ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- 画質モードは、背面表示パネルに表示されます。



QUAL ボタン



メインコマンド
ダイヤル



背面表示パネル

📎 記録可能コマ数について

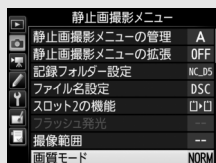
QUAL ボタンを押すと、背面表示パネルに記録可能コマ数が表示されます。画質モードを変更すると、記録可能コマ数も変化します。



背面表示パネル

📎 【画質モード】 について

画質モードは静止画撮影メニュー（☐296）でも設定できます。





📎 RAW画像とJPEG画像の同時記録について

- 画質モード [RAW + FINE★]、[RAW + FINE]、[RAW + NORMAL★]、[RAW + NORMAL]、[RAW + BASIC★]、[RAW + BASIC] で撮影したとき、カメラではJPEG画像のみを再生します。メモリーカードを1枚使用している場合、JPEG画像と同時記録されたRAW画像はパソコンでのみ再生できます。
- メモリーカードを1枚使用している場合や、メモリーカードを2枚使用していても [スロット2の機能]（☐93）が [順次記録] または [バックアップ記録] の場合、RAW画像と同時記録されたJPEG画像をカメラ上で削除すると、RAW画像も削除されます。
- [スロット2の機能] を [RAW+JPEG 分割記録] に設定してメモリーカードを2枚使用している場合、RAW画像がスロット1に、JPEG画像がスロット2に記録されます。RAW画像と同時記録されたJPEG画像を削除する場合は、それぞれのスロットから削除してください（☐256）。

■■ RAW画像の圧縮方式を選ぶ

MENU ボタンを押して、静止画撮影メニュー [RAW記録] で [圧縮方式] を選んで、RAW画像の記録時の圧縮方式を設定します。

ON  ロスレス 圧縮RAW	可逆圧縮します（データを完全に復元できます）。[非圧縮RAW] に対してファイルサイズが約60～80%になります。記録した画像は [非圧縮RAW] と同等の画質になります。
ON  圧縮RAW	非可逆圧縮します（データは完全には復元できません）。[非圧縮RAW] に対してファイルサイズが約45～65%になります。非可逆圧縮ですが、記録した画像は [非圧縮RAW] とほぼ同等の画質になります。
非圧縮RAW	圧縮しないため、[ロスレス圧縮RAW] や [圧縮RAW] に比べ、ファイルサイズが大きくなります。

■■ RAW画像の記録ビット数を選ぶ

MENU ボタンを押して、静止画撮影メニュー [RAW記録] で [記録ビットモード] を選んで、RAW画像の記録ビット数を設定します。

12-bit 12ビット記録	RAW画像を12ビットで記録します。
14-bit 14ビット記録	RAW画像を14ビットで記録します。[12ビット記録] の場合よりもさらに豊かな階調表現になります。画像のファイルサイズは [12ビット記録] よりも大きくなります。

RAW画像について

画像編集メニューの [RAW現像] (□□384)、またはCapture NX-Dなどのソフトウェアを使うと、RAW画像を現像できます。

画像サイズを変更する

画像のサイズ（大きさ）は [サイズ L]、[サイズ M]、[サイズ S] のいずれかに設定できます。画像サイズは撮像範囲との組み合わせで変わります（□84）。

撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ (出力解像度300dpiの場合) ※
FX (36×24) 1.0×	L (5568×3712ピクセル)	約47.1× 31.4 cm
	M (4176×2784ピクセル)	約35.4× 23.6 cm
	S (2784×1856ピクセル)	約23.6× 15.7 cm
1.2× (30×20) 1.2×	L (4640×3088ピクセル)	約39.3× 26.2 cm
	M (3472×2312ピクセル)	約29.4× 19.6 cm
	S (2320×1544ピクセル)	約19.6× 13.1 cm
DX (24×16) 1.5×	L (3648×2432ピクセル)	約30.9× 20.6 cm
	M (2736×1824ピクセル)	約23.2× 15.4 cm
	S (1824×1216ピクセル)	約15.4× 10.3 cm
5:4 (30×24)	L (4640×3712ピクセル)	約39.3× 31.4 cm
	M (3472×2784ピクセル)	約29.4× 23.6 cm
	S (2320×1856ピクセル)	約19.6× 15.7 cm

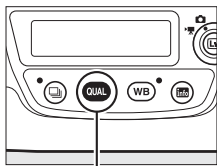
※ ピクセル数÷出力解像度 (dpi) ×2.54 cmで計算しています。



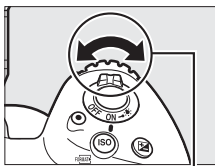
■■ 画像サイズの設定方法

QUALボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

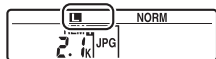
- 背面表示パネルに画像サイズが表示されます。
- RAW画像の画像サイズは静止画撮影メニュー **「画像サイズ」** の **「RAW」** で設定してください。



QUAL ボタン



サブコマンド
ダイヤル



背面表示パネル

📎 記録可能コマ数について

QUAL ボタンを押すと、背面表示パネルに記録可能コマ数が表示されます。画像サイズを変更すると、記録可能コマ数も変化します。



背面表示パネル




📎 【画像サイズ】について

- JPEGまたはTIFFの画像サイズは、静止画撮影メニュー **「画像サイズ」** の **「JPEG/TIFF」** でも設定できます。
- RAW 画像の画像サイズが **「サイズ M」** または **「サイズ S」** の場合、**「RAW 記録」** の **「圧縮方式」** (□90) は **「ロスレス圧縮RAW」** に、**「記録ビットモード」** (□90) は **「12ビット記録」** に固定されます。



2枚のメモリーカードに記録する (スロット2の機能)

静止画撮影メニュー「**スロット2の機能**」を選ぶと、2つあるメモリーカードスロットの両方を使って画像を記録するときのスロット2の機能を設定できます。

 順次記録	スロット1から優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先をスロット2に変更します。
 バックアップ記録	バックアップ用として同じ画像をスロット1、スロット2に記録します。
 RAW+JPEG分割記録	<ul style="list-style-type: none">• 画質モード が [RAW+FINE★]、[RAW+FINE]、[RAW+NORMAL★]、[RAW+NORMAL]、[RAW+BASIC★]、または [RAW+BASIC] の場合、スロット1にRAW画像、スロット2にJPEG画像を記録します。• その他の画質モードの場合は、同じ画像をスロット1とスロット2の両方に記録します。

【バックアップ記録】と【RAW+JPEG分割記録】について

- 上面表示パネルとファインダー内表示の記録可能コマ数には、記録可能コマ数が少ないスロットのコマ数を表示します。
- どちらか一方のスロットの空き容量がなくなると、シャッターがきれなくなります。
- 音声メモ (□259) は、**【順次記録】** の場合は静止画と同じスロットに、**【バックアップ記録】** または **【RAW+JPEG分割記録】** の場合はスロット1に記録されます。

動画を記録するスロットについて

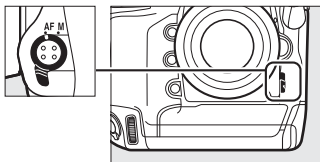
動画撮影メニューの**【動画記録先】**で、記録するスロットを設定できます (□307)。

フォーカス

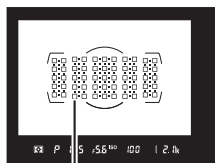
オートフォーカスで撮影する

フォーカスモードセクターを**AF**に合わせると、オートフォーカスになります。ここでは、ファインダーを見ながら撮影するときの、オートフォーカスでのピントの合わせ方について説明しています。

フォーカスモードセクター



- このカメラは、153点のフォーカスポイントを使用してフォーカスを合わせます。そのうちの55点(右図で□で表示されているポイント)は自分で選ぶことができます (□103)。



選択可能な
フォーカスポイント



✎ クロスセンサーについて

使用できるフォーカスポイントのうち、クロスセンサーを使用するポイントは装着しているレンズによって異なります。

装着するレンズ	クロスセンサー ※2 (グレーのエリア内にあるフォーカスポイント)
<p>下記のレンズを除く開放絞り値※1がF4以上明るいAF-S/AF-Pレンズ</p>	 <p>• クロスセンサー 99点</p>
<ul style="list-style-type: none"> • AF-S DX Zoom-Nikkor 12–24mm f/4G IF-ED • AF-S Micro NIKKOR 60mm f/2.8G ED • AF-S NIKKOR 600mm f/4G ED VR • AF-S NIKKOR 600mm f/4E FL ED VR • AF-S Nikkor 600mm f/4D IF-ED II • AF-S Nikkor 600mm f/4D IF-ED 	 <p>• クロスセンサー 63点</p>
<ul style="list-style-type: none"> • AF-S NIKKOR 200–400mm f/4G ED VR II • AF-S VR Zoom-Nikkor 200–400mm f/4G IF-ED • AF-S NIKKOR 500mm f/4G ED VR • AF-S Nikkor 500mm f/4D IF-ED II • AF-S Nikkor 500mm f/4D IF-ED • 開放絞り値※1がF4より暗いAF-S/AF-Pレンズ • AF-S/AF-Pレンズを除くその他のレンズ 	 <p>• クロスセンサー 45点</p>

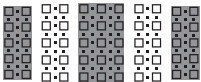
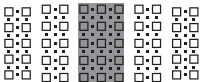
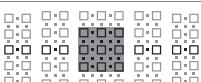
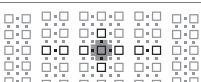

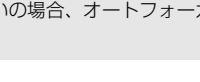

※1 ズームレンズの場合は最も望遠側の開放絞り値。

※2 クロスセンサー以外のポイントは、ラインセンサーで横線を検出します。



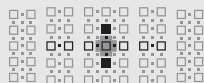
AF-S/AF-Iテレコンバーター使用時のフォーカスポイントについて

AF-S/AF-Iテレコンバーターを使用する場合、オートフォーカスとフォーカスイドが可能なフォーカスポイントは、次の図の通りです（合成絞り値がF5.6より暗い場合は、コントラストの低い被写体や輝度の低い被写体の撮影時にピントが合わないことがあります）。

使用する テレコンバーター	装着するレンズの 開放絞り値※1	使用可能なフォーカスポイント (グレーのエリア内にあるフォーカ スポイントはクロスセンサー ※2)
TC-14E/TC-14E II/TC-14E III TC-17EII TC-20E/TC-20E II/TC-20E III	F2	 <ul style="list-style-type: none"> 153点（選択可能ポイント55点） クロスセンサー 99点
TC-14E/TC-14E II/TC-14E III	F2.8	 <ul style="list-style-type: none"> 153点（選択可能ポイント55点） クロスセンサー 45点
TC-17EII TC-20E/TC-20E II/TC-20E III	F2.8	 <ul style="list-style-type: none"> 153点（選択可能ポイント55点） クロスセンサー 45点
TC-14E/TC-14E II/TC-14E III	F4	 <ul style="list-style-type: none"> 37点（選択可能ポイント17点） クロスセンサー 25点
TC-17EII	F4	 <ul style="list-style-type: none"> 37点（選択可能ポイント17点） クロスセンサー 25点
TC-800-1.25E ED	F5.6	 <ul style="list-style-type: none"> 15点（選択可能ポイント9点） クロスセンサー 5点
TC-20E/TC-20E II/TC-20E III	F4	 <ul style="list-style-type: none"> 37点（選択可能ポイント17点） クロスセンサー 25点
TC-14E/TC-14E II/TC-14E III	F5.6	<ul style="list-style-type: none"> 15点（選択可能ポイント9点） クロスセンサー 5点

※1 ズームレンズの場合は最も望遠側の開放絞り値。

※2 クロスセンサー以外のポイントは、ラインセンサーで横線を検出します。ただし、クロスセンサー 5点の場合、右図の■のポイントのみ縦線を検出します。



• AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-EDをお使いの場合、オートフォーカス撮影はできません。

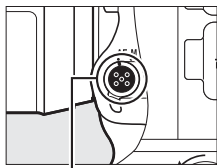
AFモードを変更する

AF-S シングル AFサーボ	<p>静止している被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った時点でフォーカスがロックされます。ピントが合っていないときはシャッターはきれません。</p> <ul style="list-style-type: none">初期設定はピントが合うとシャッターがきれるフォーカス優先モードです (□316)。
AF-C コンティニュアス AFサーボ	<p>ファインダー内のピント表示 (●) がいったん点灯してもフォーカスロックはされず、シャッターをきるまでピントを合わせ続けるモードです。スポーツなど動きのある被写体の撮影に適しています。シャッターボタンの半押しを続けると、被写体が動いている場合には予測駆動フォーカス (□98) に切り替わり、被写体の動きに合わせてピントを追いつけます。</p> <ul style="list-style-type: none">初期設定ではピントの状態に関係なく、いつでもシャッターがきれるレリーズ優先モードです (□315)。

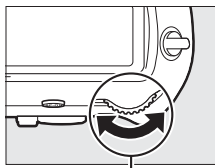
■■ AFモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

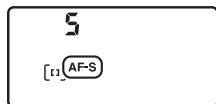
- AFモードは、上面表示パネルとファインダー内表示に表示されます。



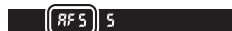
AFモードボタン



メインコマンド
ダイヤル



上面表示パネル



ファインダー内表示



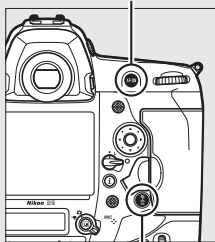
関連ページ

- AF-Cをフォーカス優先モードにする → a1 [AF-Cモード時の優先] (□315)
- AF-Sをレリーズ優先モードにする → a2 [AF-Sモード時の優先] (□316)
- シャッターボタン半押しでオートフォーカスが作動しないようにする → a8 [半押しAFレンズ駆動] (□320)
- AFモードを[AF-S]または[AF-C]に固定する → a10 [AFモードの制限] (□321)
- サブコマンドダイヤルでAFモードを切り換えられるようにする → f4 [コマンドダイヤルの設定] の [メインとサブの入れ換え] (□348)
- ライブビュー/動画撮影時のAFモードを設定する → 「AFモードを変更する」(□46)

AF-ONボタンについて

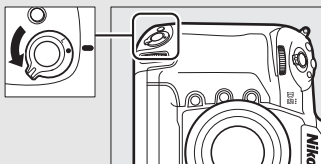
AF-ONボタンを押すと、カメラが自動的に被写体にピントを合わせます。縦位置シャッターボタンロックレバー (□38) のロックを解除して縦位置AF-ONボタンを押したときも、同様の動作になります。

AF-ONボタン



縦位置AF-ONボタン

縦位置シャッターボタン
ロックレバー

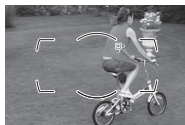
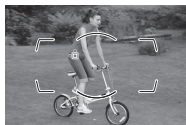
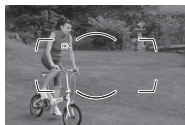


予測駆動フォーカスについて

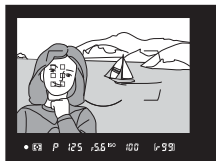
ファインダー撮影時のAFモードがAF-Cのときに、シャッターボタンを半押しするか、AF-ONボタン (縦位置AF-ONボタン) を押してピントを合わせる場合、被写体が近づいてきたり遠ざかっていくのをカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカスが作動すると、シャッターがさける時点での到達位置を予測しながらピントを合わせ続けます。

AFエリアモードを変更する

AFエリアモード	内容
シングル ポイントAF	フォーカスポイントを自分で選べます (□103)。選んだフォーカスポイントだけを使ってピント合わせをします。静止している被写体の撮影に適しています。
ダイナミック AF・9点	AFモードの AF-C (□97) との組み合わせで、撮影者が選んだ1つのフォーカスポイントから被写体が一時的に外れても、周辺のフォーカスポイントからのピント情報を利用してピントを合わせます。
ダイナミック AF・25点	<ul style="list-style-type: none"> ● ダイナミックAF・9点/ダイナミックAF・25点：構図を決めて撮影するときや、被写体の動く方向が予測でき、フォーカスポイントで被写体を捉えやすい撮影に適しています (例：陸上競技やモータースポーツ)。
ダイナミック AF・72点	<ul style="list-style-type: none"> ● ダイナミックAF・72点：動きがランダムで予測しにくい被写体の撮影に適しています (例：フィールドスポーツ)。
ダイナミック AF・153点	<ul style="list-style-type: none"> ● ダイナミックAF・153点：被写体の動きが速く、選んだフォーカスポイントで被写体を捉えにくい場合の撮影に適しています (例：野鳥撮影)。
3D-トラッキング	<p>AFモードのAF-C (□97) との組み合わせで、153点全てのフォーカスポイントを使って被写体を追尾する3D-トラッキングになります。選んだフォーカスポイントで被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間は被写体の動きに合わせて、フォーカスポイントを自動的に切り換えて被写体にピントを合わせ続けます。左右に動く被写体を自由な構図で撮影するのに適しています (例：テニス)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カメラが途中で被写体を見失ってしまった場合は、いったんシャッターボタンを放して、もう一度フォーカスポイントで被写体にピントを合わせてください。



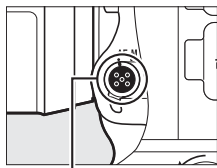
AFエリアモード	内容
グループエリア AF	<p>撮影者が選んだフォーカスポイント（グループ）を使ってピント合わせをします。広い範囲で被写体を捉えるため、誤って背景にピントが合ってしまうことが起こりにくくなります。1つのフォーカスポイントでは捉えにくい被写体を撮影する場合に適しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> AFモードがAF-Sのときは、人物の顔を認識します。その場合は、認識した顔を優先してピントを合わせます。
グループエリア AF (HL)	<p>AFモードのAF-Cとの組み合わせで、撮影者が選んだ横一列または縦一列のフォーカスポイントの中から、最も手前にある被写体を捉えているフォーカスポイントを優先してピント合わせをします。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループエリア AF (HL) は横一列のフォーカスポイントを使用します。マルチセクターの$\odot \ominus$を押してフォーカスポイントを選びます。
グループエリア AF (VL)	<ul style="list-style-type: none"> グループエリア AF (VL) は縦一列のフォーカスポイントを使用します。マルチセクターの$\odot \ominus$を押してフォーカスポイントを選びます。
オートエリア AF	<p>カメラが自動的に全てのフォーカスポイントから被写体を判別してピントを合わせます。また、人物の顔を認識した場合は優先してピントを合わせます。</p> <ul style="list-style-type: none"> AFモードがAF-Sのときは、ピントが合った複数のフォーカスポイントを一瞬表示します。AF-Cのときは、ピントが合った複数のフォーカスポイントを表示します。



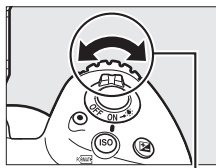
■ AFエリアモードの変更方法

AFモードボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

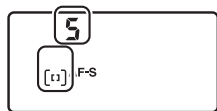
- AFエリアモードは、上面表示パネルとファインダー内表示に表示されます。



AFモードボタン



サブコマンド
ダイヤル



上面表示パネル



ファインダー内表示

✎ マニュアルフォーカス時のAFエリアモードについて

AFエリアモードは自動的にシングルポイントAFになります。

✎ AFエリアモードの表示について

上面表示パネルおよびファインダー内表示の各AFエリアモードの表示は次のようになります。

AFエリアモード	上面表示パネル	ファインダー内 下表示	ファインダー内表示 (撮影時)
シングルポイントAF	S	S	
ダイナミックAF・9点※	d 9	d 9	
ダイナミックAF・25点※	d 25	d 25	
ダイナミックAF・72点※	d 72	d 72	
ダイナミックAF・153点※	d 153	d 153	
3D-トラッキング	3d	3d	
グループエリアAF	G r P	G r P	
グループ エリアAF (HL)	G r P HL	G HL	
グループ エリアAF (VL)	G r P VL	G VL	
オートエリアAF	Auto	Auto	

※ 実際にファインダーに表示されるフォーカスポイントは1点のみです。
ピント情報として利用する周辺のフォーカスポイントの数を選択できます。








3D-トラッキングについて

3D-トラッキングでは、半押ししていったんピントが合った時点で、選んだフォーカスポイント周辺の色を記憶します。そのため、被写体の色が周囲の色と似ていたり、半押し開始時の被写体が小さいと、うまく動作しない場合があります。

AF-S/AF-Iテレコンバーター使用時のAFエリアモードについて

AF-S/AF-Iテレコンバーターを使用して合成絞り値がF5.6より暗い場合、AFエリアモードを3D-トラッキングまたはオートエリアAFに設定していても、シングルポイントAFに変更されます。

関連ページ

- AFロックオンを設定する →  a3 [AFロックオン] (□□317)
- 3D-トラッキング時に顔認識するかどうかを設定する →  a4 [3D-トラッキングの顔認識] (□□318)
- 3D-トラッキング時に追尾する被写体の範囲を設定する →  a5 [3D-トラッキングの捕捉領域] (□□318)
- カメラの縦位置と横位置で個別にフォーカスポイントや AF エリアモードを設定する →  a7 [縦/横位置フォーカス切換] (□□319)
- 使用するAFエリアモードを限定する →  a9 [AFエリアモードの限定] (□□320)
- ダイナミックAF時のフォーカスポイントの見え方を変える →  a12 [フォーカスポイント表示の設定] (□□322)
- メインコマンドダイヤルでAFエリアモードを切り換えられるようにする →  f4 [コマンドダイヤルの設定] の [メインとサブの入れ換え] (□□348)
- ライブビュー / 動画撮影時のAFエリアモードを設定する → 「AF エリアモードを変更する」 (□□47)



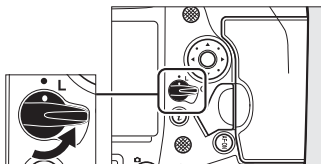
フォーカスポイントを自分で選ぶ

153点のフォーカスポイントのうち、55点を自分で選べます。フォーカスポイントを自分で選ぶことで、構図を自由に変えられます。



1 フォーカスポイントロックレバーのロックを解除する

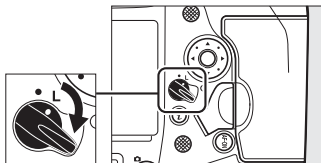
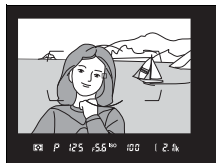
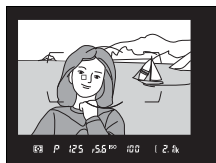
- フォーカスポイントロックレバーを回して・に合わせ、ロックを解除すると、マルチセクターでフォーカスポイントを選べるようになります。



フォーカスポイント
ロックレバー

2 半押しタイマーがオンのときに、ファインダーをのぞきながらマルチセクターでフォーカスポイントを選ぶ

- ファインダー内で、フォーカスポイントが移動します。
- 中央ボタンを押すと、中央部のフォーカスポイントが選ばれます。
- フォーカスポイントロックレバーをLの位置に回すと、フォーカスポイントをロック（固定）します。



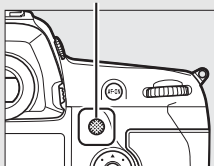
✓ オートエリアAFモードについて

AFエリアモードがオートエリアAFの場合、フォーカスポイントをカメラが自動的に決めるため、自分ではフォーカスポイントを選べません。

サブセクターについて

- マルチセクターの代わりにサブセクターを上下左右に倒してフォーカスポイントを選ぶこともできます。
- サブセクターの**中央**を押している間、AEロック (□134) とフォーカスロック (□105) を同時に行います。
- サブセクターを操作するときは、爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

サブセクター



カメラを縦位置で構えるときは








カメラを縦位置で構えるときは、縦位置マルチセクターを使ってフォーカスポイントを選ぶと便利です。カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] の [縦位置マルチセクター] をご覧ください (□334)。

サブセクターと縦位置マルチセクターの操作について

サブセクターと縦位置マルチセクターは、**中央**を押す操作に加え、右の図のように上下左右に倒して操作することもできます。側面から押すと、正しく動作しないことがあります。



関連ページ

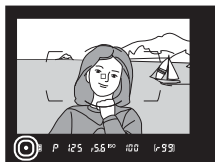
- マルチセクターで選べるフォーカスポイントの数を変える →  a6 [AF点数切り換え] (□318)
- カメラの縦位置と横位置で個別にフォーカスポイントやAF エリアモードを設定する →  a7 [縦/横位置フォーカス切換] (□319)
- フォーカスポイントの選択を循環方式にする →  a11 [フォーカスポイント循環選択] (□321)
- フォーカスポイントの点灯に関する設定を変更する →  a12 [フォーカスポイント表示の設定] (□322)
- サブセクターを上下左右に倒したときの機能を変更する →  f1 [カスタムボタンの機能] の [サブセクター] (□334)
- サブセクターの**中央**を押したときの機能を変更する →  f1 [カスタムボタンの機能] の [サブセクター中央] (□334)
- マルチセクターの**中央**ボタンを押したときの機能を変更する →  f2 [中央ボタンの機能] (□345)

ピントを固定して撮影する（フォーカスロック）

ピントを合わせたい被写体がいずれのフォーカスポイントにも入らないときや、オートフォーカスが苦手な被写体（□107）を撮影するときには、次の手順でピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。フォーカスロックを行う前に、AFエリアモード（□99）をオートエリアAF以外に設定することをおすすめします。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスポイントを重ね、シャッターボタンを半押しする

- ピントが合うと、ファインダー内のピント表示（●）が点灯します。



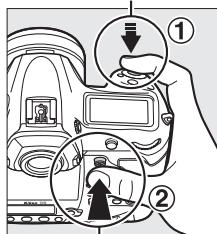
2 ピントを固定する

AFモード（□97）がAF-Cのとき

シャッターボタンを半押ししたまま（①）、サブセレクターの中央を押すと（②）、ピントが固定されます。サブセレクターの中央を押している間は、シャッターボタンから指を放しても、ピントと露出が固定されます。

- サブセレクターの中央を押している間、ファインダー内にはAE-Lマークが点灯します。

シャッターボタン



サブセレクター

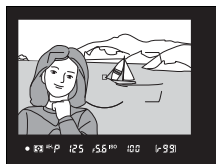


AFモードがAF-Sのとき

シャッターボタンを半押ししている間は、ピントが固定されます。サブセレクターの中央を押してピントを固定することもできます。

3 フォーカスロックを行ったままで構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影する

- 被写体との距離は変えないでください。フォーカスロック後に被写体との距離が変化した場合、いったんフォーカスロックを解除し、ピントを合わせ直してください。



シャッターボタンの半押しで露出を固定するには

カスタムメニュー c1 [シャッターボタンAEロック] を [する (半押し)] に設定すると、シャッターボタンの半押しで露出を固定できます (□325)。

ピントを固定したまま繰り返し撮影したいときは

- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきった後、シャッターボタンを半押しの状態に戻し、そのままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。
- サブセクターの中央を押してフォーカスロックを行った場合は、サブセクターの中央を押したままもう一度シャッターボタンを全押ししてください。

AF-ON ボタンを使ったフォーカスロックについて

- シャッターボタンの代わりに **AF-ON** ボタンを押してピントを合わせすることもできます (□98)。
- ファインダー撮影時にカスタムメニュー a8 [半押し AF レンズ駆動] (□320) が [しない] に設定されている場合は、**AF-ON** ボタンを押したときだけピント合わせを行い、シャッターボタンを半押ししてもピントを合わせません。このとき、**AF-ON** ボタンでピントを合わせた後で **AF-ON** ボタンから指を放してもフォーカスロックの状態を維持します。フォーカスロックを解除してピントを合わせ直すには、もう一度 **AF-ON** ボタンを押してください。

オートフォーカスの苦手な被写体について

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができず、シャッターがきれないことや、ピントが合わなくてもピント表示（●）が点灯し、シャッターがきれることがあります。このような場合は、マニュアルフォーカス（□□108）でピントを合わせるか、フォーカスロック（□□105）を利用してください。



被写体の明暗差がはっきりしない場合

（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）



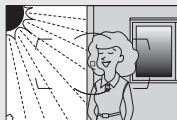
フォーカスポイント内に遠くのと近くのものが入る被写体

（オリの中の動物など）



連続した繰り返しパターンの被写体

（ビルの窓やブラインドなど）



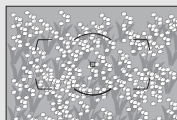
被写体の明暗差が極端に異なる場合

（太陽を背景にした日陰の人物など）



背景に対して被写体が小さい場合

（遠くの建物を背景に近くの人物を撮影する場合など）



絵柄が細かい場合

（一面の花畑など）



マニュアルフォーカスで撮影する

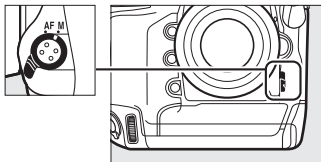
使用するレンズの種類によって、ピントを手動（マニュアル）で合わせるときの設定が異なります。各レンズでのマニュアルフォーカスの設定は次の通りです。

- **AFレンズを使用している場合：**

カメラのフォーカスモードセクターを**M**にしてください。レンズにフォーカスモード切り換えスイッチがある場合は、レンズ側のフォーカスモードも**M**にしてください。

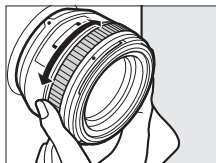
- AF-S レンズやフォーカスモード切り換えスイッチのあるAF-Pレンズを使用している場合は、レンズのフォーカスモード切り換えスイッチを**M**にしてください。カメラのフォーカスモードセクターを切り換える必要はありません。

フォーカスモード
セクター



- **マニュアルフォーカスレンズを使用する場合：**マニュアルフォーカスレンズを使用すると、常にマニュアルフォーカスで撮影できます。

ピントは、レンズのフォーカスリングを回して、ファインダー内のメインの被写体がはっきり見えるように合わせます。

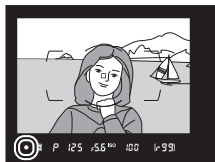


✓ **AF-S/AF-Pレンズ以外のAFレンズでマニュアルフォーカスをする場合のご注意**

必ずカメラのフォーカスモードセクターを**M**にしてください。フォーカスモードセクターが**AF**のままマニュアルフォーカスをする、カメラやレンズの故障の原因になります。

■ フォーカスイドによるピント合わせ

マニュアルフォーカスで撮影するときは、ファインダー内のピント表示（●）でピントが合っているかどうかを確認できます。ピントが合っているかどうかの基準となるフォーカスポイントは55カ所から選べます。




- ピントが合うとピント表示（●）が表示されます（□39）。
- オートフォーカスの苦手な被写体（□107）では、ピントが合っていないくてもピント表示（●）が点灯することがありますので、ファインダースクリーンの像でピントが合っていることを確認してください。
- 別売のAF-S/AF-Iテレコンバーターを装着した場合のフォーカスイドが可能なフォーカスポイントについては、「AF-S/AF-I テレコンバーター使用時のフォーカスポイントについて」（□96）をご覧ください。

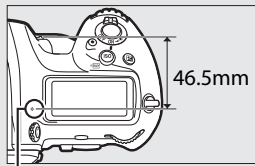



AF-レンズ使用時のマニュアルフォーカスについて

AF-レンズを使ってマニュアルフォーカスでピントを合わせるときに、ファインダー内のピント表示が点滅した場合、それ以上同じ方向にフォーカスリングを回しても、ピントは合いません（ライブビュー撮影時には、画像モニターのフォーカスポイントが点滅します）。

距離基準マークについて

距離基準マーク  は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面（レンズマウント：□3）から撮像面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。



距離基準マーク 

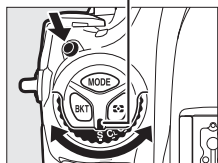
リリースモード

1コマ撮影や連続撮影、静音撮影など、リリースモードを変更する






リリースモードダイヤルロックボタンを押しながら、リリースモードダイヤルを回すと、シャッターをきる（リリースする）ときの動作を設定できます。

- リリースモードのアイコンをリリースモードダイヤル指標に合わせてください。

リリースモード
ダイヤル指標



リリースモード	内容
S 1コマ撮影	シャッターボタンを全押するたびに1コマずつ撮影します。
CL 低速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、設定した速度で連続撮影します（□111）。 <ul style="list-style-type: none">• 撮影速度は [10コマ/秒] ～ [1コマ/秒] の間で設定できます。□ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して設定してください。
CH 高速連続撮影	シャッターボタンを全押ししている間、設定した速度で連続撮影します（□111）。動きのある被写体などに使用すると便利です。 <ul style="list-style-type: none">• 撮影速度は [14コマ/秒（ミラーアップ）] ～ [10コマ/秒] の間で設定できます。□ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して設定してください。

リリースモード	内容
 静音撮影	<p>1コマ撮影時より静かに撮影したい場合に適しています。静音撮影では、シャッターボタンを全押ししている間はミラーダウンしません。シャッターボタンを半押し状態に戻すとミラーダウンするため、ミラーダウン音のタイミングを遅らせることができます。また、ミラーダウンする音も1コマ撮影に比べ静かです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 静音撮影時には、セットアップメニュー[電子音設定] (□373) の設定にかかわらず、電子音も鳴りません。 •  ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、静音連続撮影に切り換えられます。約3コマ/秒で連続撮影できます。静音連続撮影に設定すると、背面表示パネルに[3]が表示されます。
 セルフタイマー撮影	<p>セルフタイマー撮影ができます (□114)。</p>
MUP ミラーアップ撮影	<p>カメラ本体のミラーアップを行い、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます (□116)。超望遠撮影時や接写撮影時に効果的です。</p>
 クイック設定 ポジション	<p> ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してリリースモードを変更できます (□113)。</p>

連続撮影速度について

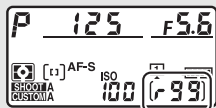
- **CL**または**CH**時の連続撮影速度は、カスタムメニュー d1 [連続撮影速度] (□326) でも設定できます。
- 連続撮影速度は、AFモードが**AF-C**、露出モードが**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピードで、その他が初期設定のときの値です。次の場合などは連続撮影速度が遅くなることがあります。
 - シャッタースピードが低速の場合
 - 感度自動制御を[する]にして感度が自動制御されているとき (□119)
 - 静止画撮影メニュー[フリッカー低減]の[フリッカー低減機能]が[有効]のときに、フリッカーが検出されている場合 (□218)
 - レンズの絞りを著しく絞り込んだ場合
 - VRレンズ使用時にレンズの手ブレ補正機能をONにしたとき
 - バッテリー残量が少ないとき
 - 一部のレンズを使用したとき
 - 非 CPU レンズ装着時およびカスタムメニュー f4 [コマンドダイヤルの設定] の[絞り値の設定方法]を[絞りリング]に設定した場合 (□348)

14コマ/秒（ミラーアップ）について

- [14コマ/秒（ミラーアップ）] に設定した場合、シャッターボタンを全押しするとミラーアップした状態で連続撮影を行います。
- ピントと露出は1コマ目と同じ条件に固定されます。
- シャッターボタンを全押ししている間はファインダーで構図を確認できません。
- 別売のスピードライトは発光しません。

連続撮影可能コマ数について



- シャッターボタンを半押しすると、連続撮影可能コマ数が上面表示パネルとファインダー内に表示されます。右図の場合、最低99コマ続けて撮影できることを示しています。
- 「r00」と表示されたとき、連続撮影速度が低下します。
- 表示される連続撮影可能コマ数は、おおよその目安です。撮影条件によって増減することがあります。





連続撮影についてのご注意

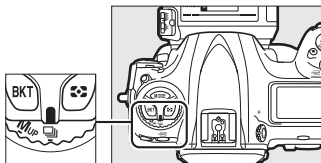
- メモリーカードの性能や撮影条件によっては、数十秒から1分間程度メモリーカードアクセスランプが点灯します。メモリーカードアクセスランプの点灯中にカメラからメモリーカードを取り出さないでください。データが消失するだけでなく、カメラとメモリーカードに不具合が生じるおそれがあります。
- メモリーカードアクセスランプ点灯中に電源をOFFにすると、撮影された全ての画像がメモリーカードに記録されてから電源が切れます。
- 連続撮影時にバッテリーの残量がなくなった場合は、撮影は行わず、撮影済みの画像データがメモリーカードに記録されて終了します。

関連ページ


- 連続撮影した画像を最初のコマから再生するか最後のコマから再生するかを設定する →  [連続撮影後の再生画像] (□292)
- 連続撮影時に撮影コマ数を制限する →  d2 [連続撮影コマ数] (□327)
- 「記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数」 (□467)

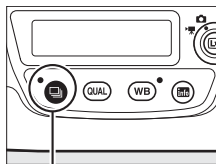
リリースモードのクイック設定

リリースモードダイヤルを  に合わせると、 ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、リリースモードを変更できます。



リリースモードダイヤル

-  ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、それぞれのリリースモードの設定を変更できます。





 ボタン

- リリースモードと設定の内容は、背面表示パネルに表示されます。



背面表示パネル

関連ページ

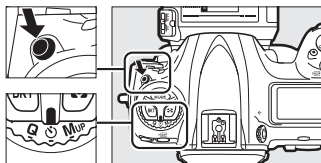
 ボタンを押して変更できるリリースモードを制限する →  d3 [リリースモードの限定] (p327)

セルフタイマーを使って撮影する (Ⓢ)

セルフタイマーによる撮影は記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたいときなどに便利です。セルフタイマー撮影時は、三脚などを使ってカメラを固定してください。

1 リリースモードダイヤルをⓈ（セルフタイマー撮影）に合わせる

- リリースモードダイヤルロックボタンを押しながら、Ⓢに合わせます。



リリースモード
ダイヤル

2 構図を決め、ピントを合わせる

- AFモードがAF-Sでピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。




3 セルフタイマー撮影を開始する

- シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが約8秒間点滅後、約2秒間点灯して合計で約10秒後にシャッターがきれます。
- リリースモードダイヤルを他のモードに切り換えると、セルフタイマーは解除されます。



セルフタイマーの作動時間を設定する

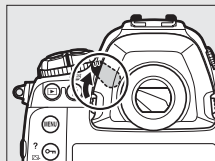
 ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、セルフタイマーの作動時間を20秒、10秒、5秒、2秒から設定できます。設定の内容は背面表示パネルで確認できます。





背面表示パネル

ファインダーから顔を離して撮影するときは

ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーから入った光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを押し上げてアイピースシャッターを閉じることをおすすめします。



関連ページ

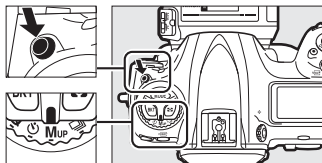
- セルフタイマーの作動時間、撮影コマ数、撮影間隔を設定する →  c3 [セルフタイマー] (□325)
- セルフタイマー撮影時の電子音を設定する →  [電子音設定] (□373)



ミラーアップして撮影する (MUP)

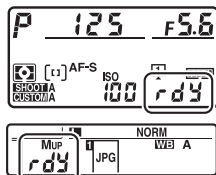
ミラーアップ撮影すると、撮影時にミラーアップの振動によるブレを防ぐことができます。

- レリーズモードダイヤルロックボタンを押しながら、レリーズモードダイヤルを**MUP**（ミラーアップ撮影）に合わせます。



レリーズモード
ダイヤル

- シャッターボタンを半押ししてピントと露出を合わせた後、全押しするとミラーアップします。ミラーアップ時は上面表示パネルと背面表示パネルに「rdy」が表示されます。
- もう一度シャッターボタンを全押しすると撮影できます。



✓ ミラーアップ中のご注意

- ファインダーで構図を確認できません。
- オートフォーカスと測光は使えません。

✍ ミラーアップ撮影について

- 三脚の利用をおすすめします。
- ブレを防ぐため、シャッターボタンは静かに押してください。
- 撮影が終了すると、ミラーダウンします。
- ミラーアップ開始後約30秒経過すると、自動的にシャッターがきれます。
- ライブビュー撮影時は、シャッターボタンを一度全押しするだけで撮影できます。

✍ ミラーアップ撮影時の電子音について

セットアップメニュー [電子音設定] (□373) の [音量] を [電子音なし] 以外に設定しているときは、ミラーアップ後のシャッターボタン全押しのときに電子音が鳴ります。

✍ 関連ページ

電子先幕シャッターを使ってさらにカメラブレを低減する

→ ✍ d6 [電子先幕シャッター] (□328)

ISO ISO感度

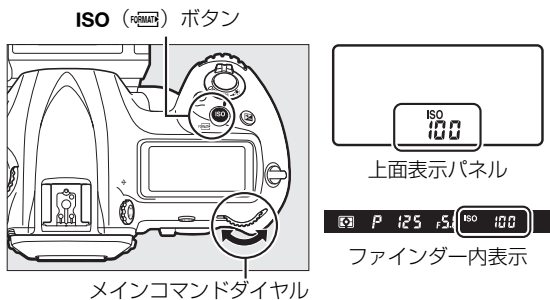
ISO感度を変更する

撮影時の周辺の明るさに応じて、光に対する感度（ISO感度）を変更できます。一般的に、ISO感度を高くするほど、より高速のシャッタースピードで撮影できます（同じ被写体を同じ絞り値で撮影する場合）。ISO感度はISO 100～102400の間で1/3段ステップで設定できます。また、ISO 100から約0.3段～約1段の範囲での減感と、ISO 102400から約0.3段～約5段の範囲での増感ができます。

■ ISO感度の設定方法

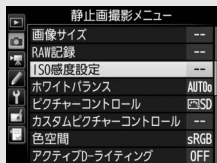
ISO (FORMAT) ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- ISO感度は、上面表示パネルとファインダー内表示に表示されます。



[ISO感度] について

ISO感度は静止画撮影メニュー（□296）の「ISO感度設定」でも設定できます。



ISO感度を高く設定した場合

ISO感度を高くするほど暗い場所での撮影や動いている被写体の撮影などに効果的です。ただし、撮影した画像に多少ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生する場合があります。

高感度（Hi 0.3～Hi 5）に設定した場合

ISO感度を「Hi 0.3」に設定すると、ISO 102400に対して約0.3段分増感し（ISO 128000相当）、「Hi 5」では約5段分の増感になります（ISO 3280000相当）。これらのISO感度に設定したときは、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生しやすくなります。

低感度（Lo 0.3～Lo 1）に設定した場合

ISO感度を「Lo 0.3」に設定すると、ISO 100に対して約0.3段分減感します（ISO 80相当）。「Lo 1」では約1段分の減感になります（ISO 50相当）。明るい場所で絞りを開きたい場合などに使用してください。これらのISO感度で撮影した画像は、やや硬質な仕上がりになりますので、通常の撮影では「100」以上をお使いください。

関連ページ

- ISO感度の設定ステップ幅を変更する →  b1「ISO感度設定ステップ幅」（□322）
- 高感度撮影時のノイズを低減する →   「高感度ノイズ低減」（□303、310）

感度自動制御機能を使う

感度自動制御機能は、設定したISO感度で適正露出が得られない場合に、カメラが自動的にISO感度を変更する機能です。

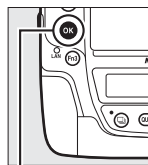
■ 感度自動制御の設定方法

- 1 静止画撮影メニューの[ISO感度設定]で[感度自動制御]を選んでマルチセクターの \odot を押す

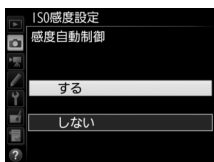


- 2 [する] を選ぶ

- [する] を選んで \odot ボタンを押すと、カメラが自動的にISO感度を変更するようになります。フラッシュ撮影時も、フラッシュの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。



\odot ボタン



- [しない] を選ぶと、[ISO感度] で設定したISO感度に固定されます。

ISO

3 感度の制御方法を設定する

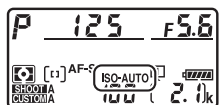
- カメラが感度を自動的に制御する方法を選びます。



制御上限感度	感度自動制御するときにISO感度が高くなりすぎないように、上限感度（200～Hi 5）を設定できます。ISO感度の下限は100になります。
⚡使用時の 制御上限感度	別売スピードライト（□410）を使用した場合の上限感度（200～Hi 5）を設定できます。[フラッシュなしの設定と同じ] を選べと、[制限上限感度] と同じ設定になります。
低速限界設定	<p>露出モードPまたはAで感度自動制御が働き始めるシャッタースピードを1/4000～30秒から設定できます。また、[オート] に設定すると、レンズの焦点距離に応じてシャッタースピードの低速限界をカメラが自動で設定します（CPUレンズ装着時のみ）。例えば、望遠レンズ使用時は手ブレが発生しやすくなるため、低速限界が自動的に高速側に設定され、ブレを軽減できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オート] を選んで\odotを押すと、補正值の設定画面が表示されます。低速限界をカメラが自動で設定するとき、より高速側または低速側になるように調整できます。 • ISO感度を上欄の[制御上限感度] まで上げても露出不足になる場合は、適正露出を得るために、低速限界設定よりもさらにシャッタースピードが低速になります。

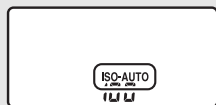
- OK ボタンを押して設定します。

[感度自動制御] を [する] にすると、上面表示パネルとファインダー内表示に、右のように表示されます。ISO-AUTO表示が点灯している場合は、[ISO感度] で設定した感度で撮影されます。感度が自動制御されるとISO-AUTO表示が点滅し、制御されたISO感度が表示されます。



感度自動制御の設定について

ISO (FORMAT) ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、上面表示パネルとファインダー内表示の感度自動制御アイコンがISO-AUTO(感度自動制御する)と ISO (感度自動制御しない) に切り替わります(□119)。



感度自動制御についてのご注意

- [制御上限感度] で設定したISO感度よりも [ISO感度] (□117) で設定したISO感度が高い場合、[ISO感度] で設定したISO感度を制御上限感度として撮影します。
- フラッシュ撮影時のシャッタースピードはカスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] (□331) と e2 [フラッシュ時シャッタースピード制限] (□332) で設定した範囲内に制限されます。[低速限界設定] のシャッタースピードをこの範囲外に設定した場合は、シャッタースピードの下限は e2 [フラッシュ時シャッタースピード制限] で設定したシャッタースピードに制限されます。
- レンズ情報を登録していない非CPUレンズ使用時は、低速限界設定が1/30秒に固定されます。
- 別売スピードライト (□186) の装着時にフラッシュモードをスローシンクロに設定していても、背景の明るさがより適正となるように感度自動制御が機能して感度が自動的に上がり、シャッタースピードが低速にならないことがあります。

関連ページ

フラッシュ撮影時に感度自動制御する場合の、露出を合わせる対象を設定する





→  e4 [⚡使用時の感度自動制御] (□332)

ISO

測光・露出

測光モードを設定する

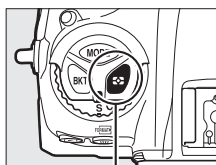
適正な露出を得るために、カメラが被写体の明るさを測ることを「測光」といいます。

 マルチパターン 測光	ほとんどの撮影状況に対応できる測光モードです。画面の広い領域を測光して、被写体の輝度（明るさ）分布、色、距離や構図などさまざまな情報を瞬時に分析するため、見た目に近い画像が得られます。
 中央部重点 測光	画面の中央部分を重点的に測光します。画面中央にメインの被写体を大きく配置して撮影する場合などに適しています。 <ul style="list-style-type: none">露出倍数のかかるフィルターをお使いになるときは、中央部重点測光をおすすめします。測光範囲はカスタムメニュー b6 [中央部重点測光範囲] (□□324) で変更できますが、非CPUレンズ使用時はφ12mm 相当になります。
 スポット 測光	フォーカスポイントに重なるφ4mm 相当（全画面の約1.5%）の部分だけを測光します。逆光時や被写体の明暗差が激しいときなど、狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。 <p>測光エリアは、フォーカスポイントに連動します。ただし次の場合は中央のフォーカスポイントに相当する部分を測光します。</p> <ul style="list-style-type: none">AF エリアモード (□□99) がオートエリアAF、グループ エリアAF (HL) またはグループ エリアAF (VL) の場合非CPUレンズ使用時
 ハイライト重点 測光	画面のハイライト部分を重点的に測光します。舞台撮影など、ハイライト部分の白とびを軽減して撮影したい場合に適しています。

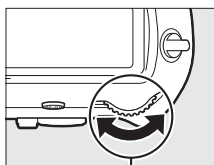
■ 測光モードの設定方法

📷 ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

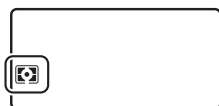
- 測光モードは、上面表示パネルとファインダー内表示に表示されます。



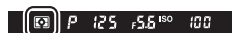
📷 ボタン



メインコマンド
ダイヤル



上面表示パネル



ファインダー内表示

🔪 マルチパターン測光とレンズの組み合わせについて

測光モードがマルチパターン測光のときの測光方式は、レンズの種類によって変わります。

● CPUレンズ

- 「3D-RGBマルチパターン測光Ⅲ」：G、EまたはDタイプのCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報を利用して測光します。
- 「RGBマルチパターン測光Ⅲ」：G、EまたはDタイプ以外のCPUレンズ使用時の測光方式です。距離情報は利用しません。

● 非CPUレンズ

- セットアップメニューの「レンズ情報手動設定」(□231) でレンズ情報を設定すると、「RGBマルチパターン測光」になります。レンズ情報を設定しない場合は、中央部重点測光になります。

🔪 ハイライト重点測光とレンズの組み合わせについて

測光モードがハイライト重点測光のときは、一部のCPUレンズ（G、E、Dタイプ以外のAFレンズ、AI-Pニッコールレンズ）または非CPUレンズを使用すると、自動的に中央部重点測光に変更されます（□404）。

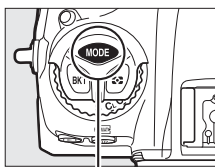
🔪 関連ページ

- マルチパターン測光時に顔検出をするかどうかを設定する → 🔪 b5 「マルチパターン測光」 (□324)
- 中央部重点測光の測光範囲を変更する → 🔪 b6 「中央部重点測光範囲」 (□324)
- 測光モードごとに適正露出の基準を決める → 🔪 b7 「基準露出レベルの調節」 (□324)

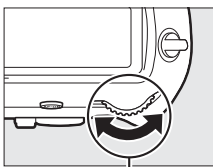
シャッタースピードや絞り値で露出を設定する（露出モード）

MODE ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、露出モードを設定できます。

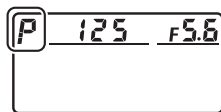
- 上面表示パネルの露出モードのアイコンが切り替わります。



MODE ボタン



メインコマンドダイヤル



上面表示パネル

P プログラムオート (125)	シャッターチャンス逃したくないスナップ撮影などに使います。シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動制御します。
S シャッター優先オート (126)	被写体の動きを強調して撮影したいときなどに使います。シャッタースピードを自分で設定し、絞り値はカメラが自動制御します。
A 絞り優先オート (127)	背景のぼかし方を調節して撮影したいときなどに使います。絞り値を自分で設定し、シャッタースピードはカメラが自動制御します。
M マニュアル (128)	シャッタースピードと絞り値の両方を自分で設定します。長時間露出（バルブ、タイム）撮影も、このモードで行います。

使用レンズについてのご注意

- CPUレンズ（G タイプ、Eタイプレンズを除く）の絞りリング（ 406 ）は、必ず最小絞り（一番大きい数値）にセットしてください。
- 露出モードが**P**または**S**のときに非CPUレンズ（ 407 ）を装着すると、露出モードを自動的に**A**に切り換えて制御します。このとき、上面表示パネルの**P**または**S**が点滅して警告し、ファインダー内表示に**A**が点灯します。

P (プログラムオート)

被写体の明るさに応じて露出が適正になるように、カメラがシャッタースピードと絞り値を自動的に決定します。同じ露出でシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変える「プログラムシフト」も行えます。

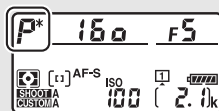
プログラムシフトについて

露出モード**P**では、カメラがシャッタースピードと絞り値を決めますが、半押しタイマーがオンのときに次の方法で「プログラムシフト」を行うと、適正露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。プログラムシフト中は上面表示パネルにプログラムシフトマーク★が点灯します。

- 背景をぼかしたい（絞り値を小さくする）場合や動きの速い被写体を撮影したい（速いシャッタースピードにする）場合には、メインコマンドダイヤルを右に回してください。
- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたい（絞り値を大きくする）場合や被写体の動きを強調したい（遅いシャッタースピードにする）場合には、メインコマンドダイヤルを左に回してください。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク★が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回してください。電源をOFFにしたり、他の露出モードに切り換えたときも、プログラムシフトは解除されます。



メインコマンド
ダイヤル



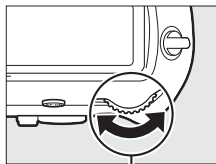
関連ページ

- 「露出モード**P**（プログラムオート）のプログラム線図」(□438)
- 「ファインダー撮影時の半押しタイマーについて」(□40)

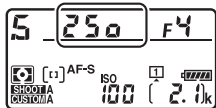
S (シャッター優先オート)

シャッタースピードを自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的に絞り値を決定します。動きの速い被写体の撮影や、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調する撮影に適しています。シャッタースピードは、半押しタイマーがオンのときにメインコマンドダイヤルを回して設定します。

- シャッタースピードは1/8000 (8000) ~ 30秒 (30''), x 250に設定できます。
- 設定したシャッタースピードはロックできません (132)。



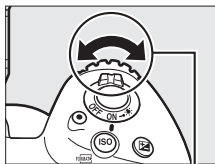
メインコマンド
ダイヤル



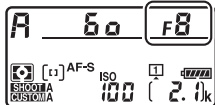
A (絞り優先オート)

絞り値を自分で決めると、露出が適正になるようにカメラが自動的にシャッタースピードを決定します。絞り値を設定するには、半押しタイマーがオンのときにサブコマンドダイヤルを回します。

- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。
- 設定した絞り値はロックできます (□132)。



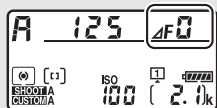
サブコマンドダイヤル



🔧 非CPUレンズを取り付けた場合

非CPUレンズを装着してセットアップメニューの「**レンズ情報手動設定**」(□231)でレンズの開放絞り値(開放F値)を設定した場合は、上面表示パネルとファインダー内表示に絞り値が表示されます。絞り値の設定は、レンズの絞りリングで行ってください。この場合、絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、表示は1段単位になります。

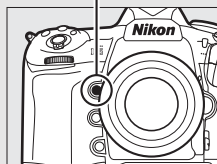
- 開放絞り値を設定しない場合は、上面表示パネルとファインダー内の絞り値表示が開放からの絞り段数表示(ΔF、開放絞りはΔF0)となりますので、絞り値の設定と確認は、レンズの絞りリングで行ってください。



🔧 被写界深度のプレビュー

Pvボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞り値のおおよその被写界深度(ピントの合う前後の範囲)が確認できます。別売のニコンクリエイティブライティングシステム(□410)対応スピードライト使用時は、モデリング発光をします(□413)。モデリング発光をしないようにするには、カスタムメニューe5「**モデリング発光**」を「**しない**」に設定してください(□332)。

Pvボタン



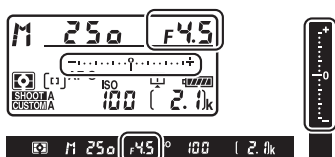
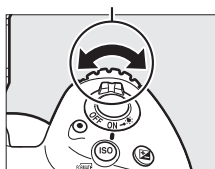
M (マニュアル)

シャッタースピードと絞り値の両方を自分で決定します。花火や星空などを長時間露出（バルブ撮影、タイム撮影、□130）で撮影する場合には、この露出モードを使います。半押しタイマーがオンのときに、露出インジケータを確認しながら、コマンドダイヤルを回してシャッタースピードと絞り値を設定します。

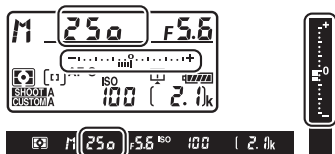
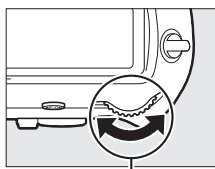
- メインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピード表示が変化します。シャッタースピードは、1/8000（8000）～30秒（30'）および**bulb**（バルブ）、--（タイム）、x 250に設定できます。
- サブコマンドダイヤルを回すと絞り値が変化します。
- 設定できる最小絞り値、開放F値はレンズの種類によって異なります。
- 設定したシャッタースピードと絞り値はロックできます（□132）。

サブコマンドダイヤル

絞り値の
設定



シャッター
スピードの
設定









メインコマンドダイヤル

AFマイクロレンズ装着時の露出倍数について

AFマイクロレンズをカメラに装着して、外部露出計の測光値を参考に絞り値をサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合だけ、露出倍数を考慮した補正が必要になります。

露出インジケータについて


自分で設定した露出値と、カメラが測光した露出値との差が、上面表示パネルとファインダー内表示に表示されます。この「露出インジケータ」の見方は次の通りです（表示内容はカスタムメニューb2「露出設定ステップ幅」（□322）の設定によって変化します）。

	[露出設定ステップ幅] が [1/3段] のとき		
	適正露出の場合	1/3段 アンダーの場合	3 1/3段以上 オーバーの場合
上面表示 パネル			
ファインダー 内表示			

露出の制御ができないときの警告について

光量がカメラの測光範囲を超えて露出の制御ができない場合や、ライブビューでの露出制御範囲を超えた場合には、露出インジケータが点滅して警告します。

関連ページ

インジケータ表示の+/-方向を変更する →  f7 [インジケータの+/-方向]
(□350)



長時間露出で撮影する

(露出モードMのみ)

長時間露出撮影には、バルブ撮影とタイム撮影の2種類があります。花火や夜景、星空の撮影や、自動車のライトの流れを表現したいときなどに使います。



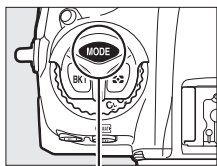
シャッタースピードを35秒、
絞り値をF25にして撮影した場合の画像

バルブ撮影	シャッターボタンを押し続けている間シャッターが開いたままになり、シャッターボタンを放すとシャッターが閉じます。
タイム撮影	シャッターボタンを全押しするとシャッターが開いたままになり、もう一度押すとシャッターが閉じます。

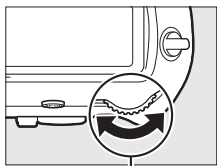
- 長時間露出撮影には、手ブレを抑えるために三脚、別売のワイヤレスリモートコントローラー (□418)、リモートコード (□420) が必要です。

1 三脚などを使ってカメラを固定する

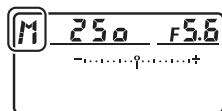
2 MODEボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、上面表示パネルにMを表示させる



MODEボタン



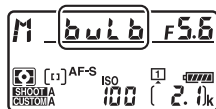
メインコマンドダイヤル



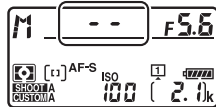
上面表示パネル

3 半押しタイマーがオンのときに メインコマンドダイヤルを回し、 シャッタースピードを**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）にする

- シャッタースピードを**bulb**または**- -**に設定すると、露出インジケータは表示されません。



バルブ撮影



タイム撮影

4 ピントを合わせて、長時間露出撮影を開始する

バルブ撮影：

- シャッターボタンを全押しして、長時間露出撮影を開始します。
シャッターボタンは押し続けてください。

タイム撮影：

- シャッターボタンを全押しすると、シャッターが開き、長時間露出撮影を開始します。

5 長時間露出撮影を終了する

バルブ撮影：

- シャッターボタンを放すと、長時間露出撮影は終了します。

タイム撮影：

- もう一度シャッターボタンを全押しします。

長時間露出について

- ファインダーから入った光が画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを押し上げてアイピースシャッターを閉じることをおすすめします（□115）。
- 露光時間が長くなると、画像にノイズ（ざらつき、むら、輝点）が発生することがあります。
- 静止画撮影メニューの[長秒時ノイズ低減]（□303）を[する]に設定すると、画像に発生するむらや輝点が低減されます。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、電源としてフル充電したLi-ionリチャージャブルバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いいただくことをおすすめします。

シャッタースピードと絞り値をロックする

露出モード**S**ではシャッタースピードを、**A**では絞り値を、**M**ではシャッタースピードと絞り値のロックを設定できます。

• **P**では設定できません。

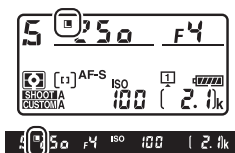
■ シャッタースピードと絞り値のロック方法

1 カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] (334) で任意のボタンに [シャッタースピードと絞り値のロック] を割り当てる

2 シャッタースピードまたは絞り値をロックする

シャッタースピードのロック：

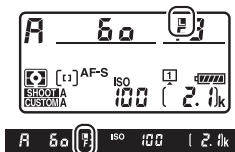
- 露出モード**S**または**M**で、[シャッタースピードと絞り値のロック] を割り当てたボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、上面表示パネルとファインダー内表示に **L** (シャッタースピードロック) マークを表示させます。



- シャッタースピードのロックを解除する場合は、[シャッタースピードと絞り値のロック] を割り当てたボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回し、**L** マークを消します。


絞り値のロック：

- 露出モード**A**または**M**で、[シャッタースピードと絞り値のロック] を割り当てたボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回し、上面表示パネルとファインダー内表示に **L** (絞り値のロック) マークを表示させます。



- 絞り値のロックを解除する場合は、[シャッタースピードと絞り値のロック] を割り当てたボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回し、**L** マークを消します。

関連ページ

常にシャッタースピードと絞り値をロックする →  f3 [シャッタースピードと絞り値のロック] (□347)



AEロックして露出を固定する

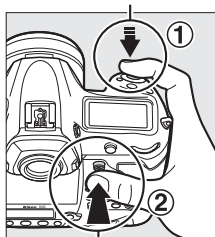
AE ロック撮影とは、被写体の特定の部分を測光して露出を決め、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、極端に明るさが異なる場合などに効果的です。

1 測光モードで中央部重点測光またはスポット測光を選ぶ (122)

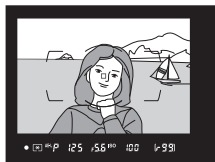
2 露出を合わせたい部分にフォーカスポイントを重ねてシャッターボタンを半押ししたまま、サブセレクターの中央を押して露出を固定する

- サブセレクターの中央を押している間は、測光モードに応じた部分の露出で固定（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません。
- ファインダー内表示にAE-Lマークが点灯します。
- オートフォーカス撮影時はフォーカスロックも同時に行われますので、ピント表示（●）の点灯も確認してください。

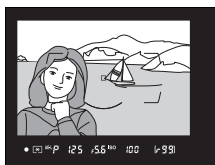
シャッターボタン



サブセレクター



3 サブセレクターの中央を押したまま、構図を決めて撮影する



測光エリアについて

- スポット測光で、測光エリアとフォーカスポイントが連動する場合（□122）は、選択中のフォーカスポイントの露出が記憶されます。
- 中央部重点測光に設定した場合は、ファインダー中央部（φ12mmの円内）を重点的に測光した露出が記憶されます。


AEロック中のカメラ操作について

サブセレクターの**中央**を押している間も次の操作ができます。

露出モード	操作
P	プログラムシフト（□125）
S	シャッタースピードの変更
A	絞り値の変更

- 上面表示パネルやファインダー内表示には、変更後のシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- AEロック中は、測光モードは変更できません。

関連ページ

シャッターボタンの半押しでAEロックできるようにする →  c1[シャッターボタンAEロック]（□325）



露出補正して画像の明るさを調整する

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることです。画像全体を明るくしたり、暗くしたいときなどに使います。露出補正を行うときは、測光モード（□122）を中央部重点測光またはスポット測光に設定すると効果的です。



-1段補正



露出補正なし



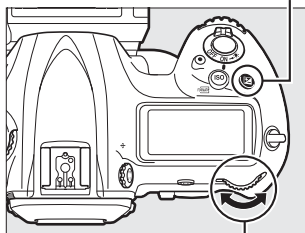
+1段補正

■■ 露出補正の設定方法

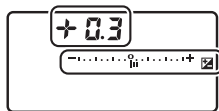
☒ ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- 露出補正值は、上面表示パネルに表示されます。
- 露出補正は、1/3段ステップで±5段の範囲で設定できます。

☒ ボタン

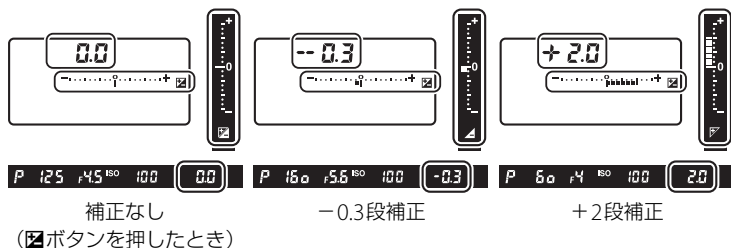


メインコマンドダイヤル

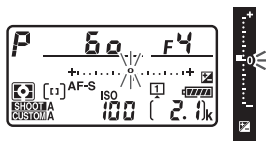


上面表示パネル

- **☑** ボタンを押すと、上面表示パネルとファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。



- 補正量を設定すると、上面表示パネルとファインダー内表示に露出補正マーク **☑** と露出補正インジケータが表示され、露出モードが **P**、**S**、または **A** の場合は **[0]** が点滅します。



- 被写体を明るくしたいときは+側に、暗くしたいときは-側に補正するのが基本です。
- 露出補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

🔧 露出モードMでの露出補正について

露出モードが**M**のときは、インジケータ表示が変わるだけで、設定したシャッタースピードと絞り値は変わりません。

🔧 別売スピードライト使用時の露出補正

別売スピードライト使用時に露出補正を行った場合は、背景露出とスピードライトの発光量の両方に補正が行われ、画像全体の明るさが変わりますが、背景の明るさだけを補正することもできます（カスタムメニュー e3 **【フラッシュ使用時の露出補正】**、☐332）。

🔧 関連ページ

- 露出補正のステップ幅を変更する → 🔧 b3 **【露出・調光補正ステップ幅】**（☐323）
- **☑** ボタンを使わずに露出補正する → 🔧 b4 **【露出補正簡易設定】**（☐323）
- 露出補正値を変えながら撮影する → **「AEブラケットング、フラッシュブラケットングの撮影方法」**（☐139）

オートブラケティングで露出や調光、ホワイトバランス、アクティブD-ライティングを変えながら撮影する

明るさ（露出）、フラッシュの発光量、ホワイトバランス、アクティブD-ライティング（ADL）の設定をカメラが自動的に変えながら撮影します。画像の明るさやフラッシュの発光量の調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。

■ オートブラケティングの設定方法

オートブラケティングの種類は、静止画撮影メニュー（□296）の「オートブラケティングのセット」で設定できます。



AE・フラッシュブラケティング	露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。
AEブラケティング	露出値（AE）を変えながら撮影します。
フラッシュブラケティング	フラッシュの発光量を変えながら撮影します。
WBブラケティング	ホワイトバランス（□149）の色温度を変えながら撮影します。
ADLブラケティング	アクティブD-ライティング（□179）の効果の度合いを変えながら撮影します。



■ AEブラケットिंग、フラッシュブラケットिंगの撮影方法



補正なし



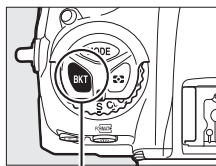
-1段補正



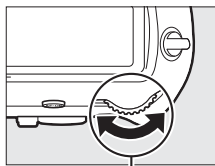
+1段補正

1 撮影コマ数を設定する

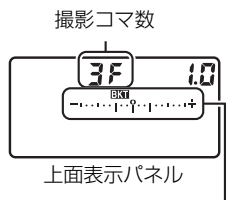
- **BKT** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。



BKTボタン



メインコマンド
ダイヤル



上面表示パネル
オートブラケットिंग
インジケーター

- **3F** 以外に設定すると、上面表示パネルとファインダー内表示に **BKT** マークとオートブラケットिंगインジケーターが表示されます。

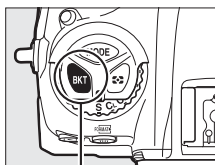


🔧 AEブラケットिंग、フラッシュブラケットिंगについて

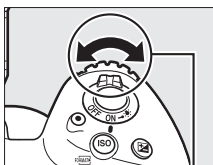
「AE・フラッシュブラケットिंग」では、AEブラケットिंगとフラッシュブラケットिंगを同時に行います。AEブラケットिंगだけを行いたいときは「AEブラケットिंग」を、フラッシュブラケットिंगだけを行いたいときは「フラッシュブラケットिंग」を選びます。フラッシュブラケットिंगはi-TTL調光時および絞り連動外部自動調光(☉A)時(別売の絞り連動外部自動調光対応スピードライト使用時のみ)に使用できます(□188、410)。

2 補正ステップを設定する

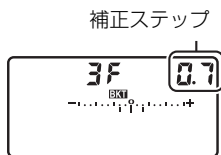
- **BKT** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、補正ステップを設定できます。



BKT ボタン



サブコマンド
ダイヤル



上面表示パネル

- 補正ステップは、露出設定ステップ幅が「1/3段」の場合、0.3（1/3段）、0.7（2/3段）、1.0（1段）、2.0（2段）、3.0（3段）から選ぶことができます。補正ステップを2.0または3.0に設定した場合、撮影コマ数は最大5枚です。手順1で撮影コマ数を7枚または9枚に設定していても、自動的に5枚に変更されます。
- 補正ステップが0.3のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

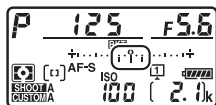
上面表示パネル	オートブラケティングインジケータ	撮影コマ数	撮影順序
0F 0.3	—.....○.....+	0	0
+ 3F 0.3	—.....☺.....+	3	0/+0.3/+0.7
-- 3F 0.3	—.....☹.....+	3	0/-0.7/-0.3
+ 2F 0.3	—.....☺.....+	2	0/+0.3
-- 2F 0.3	—.....☹.....+	2	0/-0.3
3F 0.3	—.....☺.....+	3	0/-0.3/+0.3
5F 0.3	—.....☺.....+	5	0/-0.7/-0.3/ +0.3/+0.7
7F 0.3	—.....☺.....+	7	0/-1.0/-0.7/-0.3/ +0.3/+0.7/+1.0
9F 0.3	—.....☺.....+	9	0/-1.3/-1.0/-0.7/ -0.3/+0.3/+0.7/ +1.0/+1.3



3 撮影する

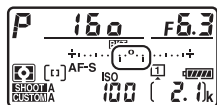


- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- シャッタースピードと絞り値は補正された値が表示されます。
- 上面表示パネルとファインダー内表示には、オートブラケットイングインジケータが表示されます。撮影するたびに、コマ数を示す表示が、オートブラケットイングインジケータ上から消えます。



撮影コマ数：3

補正ステップ：0.7






1コマ撮影した状態

- AEブラケットイングと露出補正 (□136) を同時に設定すると、両方の補正値が加算されたAEブラケットイング撮影が行えます。



関連ページ

- オートブラケットイングの補正ステップ幅を変更する →  b2[露出設定ステップ幅] (□322)
- オートブラケットイングの撮影順を変更する →  e7 [BKTの順序] (□333)
- BKTボタンの機能を変える →  f1 [カスタムボタンの機能] の [BKTボタン+] (□334)

■ AE、フラッシュブライケティング撮影をやめるには

BKTボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して上面表示パネルの撮影コマ数を **MF** にしてください (**BKT** マークが消灯します)。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツーボタンリセット (□216) でもブライケティングを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

AE・フラッシュブライケティング、AEブライケティング、フラッシュブライケティング撮影について

- リリーズモード (□110) を **CL**、**CH** に設定するか、**Q** の静音連続撮影に設定した場合、シャッターボタンを押し続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと、次の連続撮影が可能になります。
- セルフタイマー撮影時 (□114) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] (□325) の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、□139の手順1で設定した撮影コマ数が1コマずつ撮影されます。
- 撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にメモリーカードのメモリー残量がなくなっても、メモリー残量のある他のメモリーカードに交換すれば残りを撮影できます。

AEブライケティング

AEブライケティングでは、露出モードによって補正される内容 (シャッタースピード、絞り値) が異なります。

露出モード	変化する内容
P	シャッタースピードと絞り値※1
S	絞り値※1
A	シャッタースピード※1
M	シャッタースピード※2,3

※1 静止画撮影メニュー [ISO 感度設定] の [感度自動制御] (□119) が [する] のときは、シャッタースピードや絞り値が制御範囲を超えると自動的にISO感度が変化します。

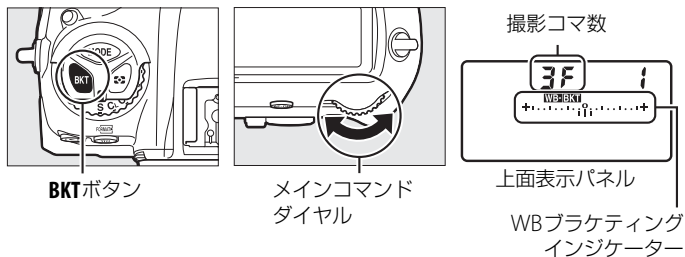
※2 静止画撮影メニュー [ISO感度設定] の [感度自動制御] (□119) が [する] のときは、まずISO感度を変化させて基準となる露出を適正露出に近づけてから、オートブライケティングでシャッタースピードを変化させます。

※3 カスタムメニュー e6 [BKT変化要素 (Mモード)] により変化する内容をシャッタースピードと絞り値の両方、絞り値のみ、あるいはフラッシュの調光量のみに変更できます (□333)。

WBブラケットिंगの撮影方法

1 撮影コマ数を設定する

- **BKT** ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数を設定できます。



- **3F** 以外に設定すると、上面表示パネルには、**WB-BKT** マークとWBブラケットングインジケーターが、ファインダー内表示には**BKT** マークが表示されます。

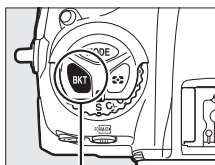


✓ WBブラケットングの制限について

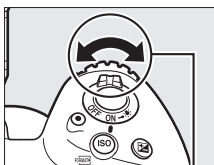
WBブラケットングは、RAWを含む画質モードでは使用できません。

2 補正ステップを設定する

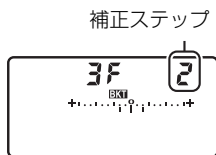
- **BKT** ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと補正ステップを設定できます。



BKT ボタン



サブコマンド
ダイヤル



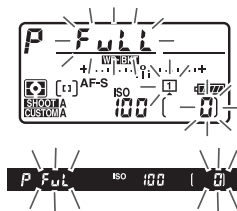
補正ステップ
上面表示パネル

- 補正ステップは、1（1段）、2（2段）、3（3段）から選ぶことができます。
- ホワイトバランス補正ステップの1段は、約5ミレッドに相当します。A方向に数が大きくなるごとにアンバーが強くなります。B方向に数が大きくなるごとにブルーが強くなります（□152）。
- 補正ステップが1のときの撮影コマ数と撮影順序は次の表の通りです。

上面表示パネル	WB ブラケティング インジケーター	撮影 コマ数	補正 ステップ	撮影順序
0F 1	+.....°.....+	0	1段	0
b3F 1	+.....i.....+	3	B方向1段	0/B1/B2
A3F 1	+.....i.....+	3	A方向1段	0/A2/A1
b2F 1	+.....i.....+	2	B方向1段	0/B1
A2F 1	+.....i.....+	2	A方向1段	0/A1
3F 1	+.....i.....+	3	各方向1段	0/A1/B1
5F 1	+.....i.....+	5	各方向1段	0/A2/A1/ B1/B2
7F 1	+.....i.....+	7	各方向1段	0/A3/A2/A1/ B1/B2/B3
9F 1	+.....i.....+	9	各方向1段	0/A4/A3/A2/ A1/B1/B2/ B3/B4

3 撮影する

- シャッターボタンを1回全押しすると、設定した全てのコマ数の画像が記録されます。
- ホワイトバランスを微調整している場合は、微調整値にWBブラケットの補正ステップが加算されます。
- WBブラケットの撮影コマ数が記録可能コマ数より多い場合、上面表示パネルに**FULL**が、ファインダー内表示に**Ful**が右図のように点滅し、シャッターがきけません（上面表示パネルの残量の無いメモリーカードのアイコンも点滅します）。新しいメモリーカードに交換すると撮影できます。



■ WBブラケット撮影をやめるには

BKT ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して上面表示パネルの撮影コマ数を **0F** にしてください（**WB-BKT** マークが消灯します）。ただし、設定した補正ステップは記憶されます。また、ツールボタンリセット（□216）でもブラケットを解除できますが、この場合は設定した補正ステップもリセットされます。

WBブラケット撮影について

- WBブラケットでは、色温度（A（アンバー）からB（ブルー）への横方向）の補正のみを行います（□152）。G（グリーン）からM（マゼンタ）への縦方向の補正は行いません。
- 撮影中に電源をOFFにした場合、全てのコマの記録が終了してから電源が切れます。
- セルフタイマー撮影時（□114）には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] の [撮影コマ数]（□325）で設定した撮影コマ数にかかわらず、□143の手順1で設定した撮影コマ数が全て記録されます。

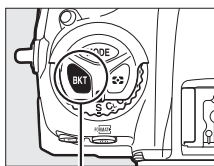
関連ページ

「ミレッド（MIREDD）について」（□155）

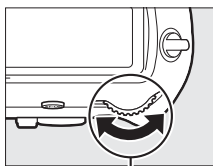
■■ ADLブラケティングの撮影方法

1 撮影コマ数を設定する

- **BKT** ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと撮影コマ数を設定できます。



BKT ボタン



メインコマンド
ダイヤル



上面表示パネル

ADLブラケティング
インジケーター

- **3F**以外に設定すると、上面表示パネルには、**ADL-BKT** マークとADLブラケティングインジケーターが、ファインダー内表示には**BKT** マークが表示されます。
- 設定した撮影コマ数により、ブラケティングの内容が次のように異なります。

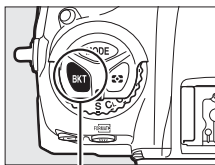
撮影コマ数	ブラケティングの内容
2コマ	[しない] → (手順2で設定するアクティブD-ライティングの度合い)
3コマ	[しない] → [弱め] → [標準]
4コマ	[しない] → [弱め] → [標準] → [強め]
5コマ	[しない] → [弱め] → [標準] → [強め] → [より強め1]
	[弱め] → [標準] → [強め] → [より強め1] → [より強め2]

- 撮影コマ数を3コマ以上に設定した場合は、手順3に進んでください。

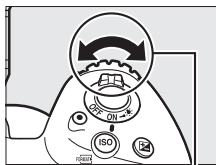


2 アクティブD-ライティングの度合いを設定する

- **BKT** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いを設定できます。



BKT ボタン



サブコマンド
ダイヤル

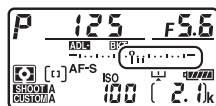
- アクティブD-ライティングの度合いは、上面表示パネルのADLブラケットインジケータで確認できます。

アクティブ D-ライティン グの度合い	上面表示パネル	アクティブ D-ライティン グの度合い	上面表示パネル
暗A オート		暗H 強め	
暗L 弱め		暗H1 より 強め1	
暗N 標準		暗H2 より 強め2	

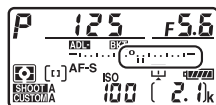


3 撮影する

- 設定した撮影コマ数を撮影してください。
- 上面表示パネルには、ADLブラケティングインジケータが表示されます。撮影するたびに、コマ数を示す表示が、ADLブラケティングインジケータ上から消えます。




撮影コマ数：3







1コマ撮影した状態

■ ADLブラケティング撮影をやめるには

BKTボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して上面表示パネルの撮影コマ数を**0F**にしてください（**ADLBKT**マークが消灯します）。ただし、設定したアクティブD-ライティングの度合いは記憶されます。また、ツーボタンリセット（216）でもブラケティングを解除できますが、この場合は設定したアクティブD-ライティングの度合いもリセットされます。





ADLブラケティング撮影について





- リリーズモード（110）を**CL**、**CH**に設定するか、**Q**の静音連続撮影に設定した場合、シャッターボタンを押し続けると、セットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押し直すと、次の連続撮影が可能になります。
- セルフタイマー撮影時（114）には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー]（325）の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、146の手順1で設定した撮影コマ数が1コマずつ撮影されます。
- 撮影中に電源をOFFにしても、もう一度ONにすれば撮影を再開できます。
- 撮影中にメモリーカードのメモリー残量がなくなっても、メモリー残量のある他のメモリーカードに交換すれば残りを撮影できます。

ホワイトバランス

ホワイトバランスを変更する

光源に合わせて、画像が見た目に近い色で撮影されるようにすることを「ホワイトバランスを合わせる」といいます。初期設定の**AUTO**（オート）でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせてホワイトバランスを変更してください。

ホワイトバランス	設定される色温度	内容
AUTO オート	約3500～8000K※	AUTO （オート）で十分な効果を得るには、G、EまたはDタイプレンズをお使いになることをおすすめします。また、別売のスピードライトの使用時は、フラッシュ発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。 • AUTO （オート）で撮影した場合は、撮影時の色温度を再生画面の撮影情報表示（□248）で確認できます。
AUTO0 白を優先する		
AUTO1 標準		
AUTO2 電球色を残す		
 電球	約3000K※	白熱電球下での撮影に適しています。
 蛍光灯	—	蛍光灯など、次の7種類の光源を使った撮影に適しています。
ナトリウム灯 混合光	約2700K※	野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光を使った撮影に適しています。
電球色蛍光灯	約3000K※	電球色蛍光灯下での撮影に適しています。
温白色蛍光灯	約3700K※	温白色蛍光灯下での撮影に適しています。
白色蛍光灯	約4200K※	白色蛍光灯下での撮影に適しています。
昼白色蛍光灯	約5000K※	昼白色蛍光灯下での撮影に適しています。
昼光色蛍光灯	約6500K※	昼光色蛍光灯下での撮影に適しています。
高色温度の水銀灯	約7200K※	高色温度の水銀灯などを使った撮影に適しています。

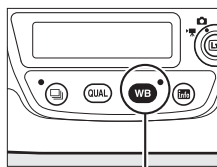
ホワイトバランス	設定される色温度	内容
 晴天	約5200K※	晴天の屋外での撮影に適しています。
 フラッシュ	約5400K※	別売のスピードライトを使って撮影する場合に適しています。
 曇天	約6000K※	曇り空の屋外での撮影に適しています。
 晴天日陰	約8000K※	晴天の日陰での撮影に適しています。
K 色温度設定	約2500～10000K	色温度を直接指定できます (□156)。
PRE プリセット マニュアル	—	撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、メモリーカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます (□159)。

※ 微調整が0の場合の値です。

■ ホワイトバランスの設定方法

WBボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

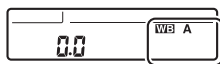
- ホワイトバランスは、背面表示パネルに表示されます。



WBボタン



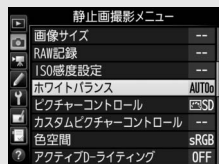
メインコマンド
ダイヤル



背面表示パネル

【ホワイトバランス】について

ホワイトバランスは静止画撮影メニュー (□296) または動画撮影メニュー (□306) でも設定できます。




AUTO（オート）について

AUTO（オート）の場合は、静止画撮影メニューで「**AUTO0白を優先する**」、「**AUTO1標準**」または「**AUTO2電球色を残す**」から選べます。電球色の光源下で撮影した場合、「**AUTO0白を優先する**」を選ぶと電球色を残さずに白く補正され、「**AUTO2電球色を残す**」を選ぶと暖かみのある画像の仕上がりになります。

蛍（蛍光灯）について

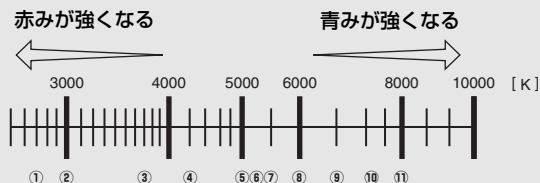
蛍（蛍光灯）の場合は、静止画撮影メニュー（□296）で選んだ種類の蛍光灯になります。







スタジオ用大型ストロボを使用する場合







スタジオ用大型ストロボを使用する場合は、AUTO（オート）に設定していても適正なホワイトバランスが得られないことがあります。その場合は、（フラッシュ）モードにして微調整を行うか、プリセットマニュアルをお使いください。

色温度について

光の色には、赤みを帯びたものや青みを帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。色温度が低くなるほど赤みを帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青みを帯びた光色になります。



- ①  ナトリウム灯混合光（約2700K）
- ②  電球（約3000K）
- ③  電球色蛍光灯（約3000K）
- ④  温白色蛍光灯（約3700K）
- ⑤  白色蛍光灯（約4200K）
- ⑥  昼白色蛍光灯（約5000K）

- ⑥  晴天（約5200K）
- ⑦  フラッシュ（約5400K）
- ⑧  曇天（約6000K）
- ⑨  昼光色蛍光灯（約6500K）
- ⑩  高色温度の水銀灯（約7200K）
- ⑪  晴天日陰（約8000K）

関連ページ

ホワイトバランスを変えながら撮影する → 「WBブラケットングの撮影方法」(□143)

ホワイトバランスを微調整する

ホワイトバランスは、さらに微調整できます。

■ メニューの【ホワイトバランス】で設定する場合

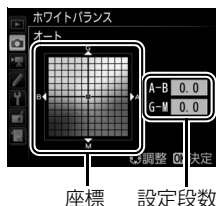
1 静止画撮影メニューの【ホワイトバランス】で、設定したいホワイトバランスを選び、微調整画面が表示されるまでを押す

- [プリセットマニュアル] での微調整画面の表示方法については、「プリセットマニュアルデータの微調整について」(□168) をご覧ください。



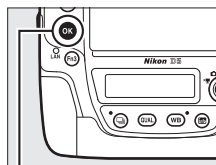
2 微調整値を設定する

- マルチセクターを操作すると、A（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向で、設定段数を各方向6段階まで微調整できます。
- A（アンバー）、B（ブルー）方向は、色温度の高さを0.5段単位で微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向は、色補正用（CC）フィルターと同じような微調整を0.25段単位で行えます。1段は濃度約0.05に相当します。



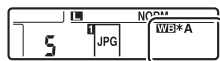
3 微調整値を決定する

- **OK** ボタンを押して微調整値を決定すると、メニューに戻ります。




OK ボタン

- ホワイトバランスを微調整すると、背面表示パネルにアスタリスク（*）が表示されます。



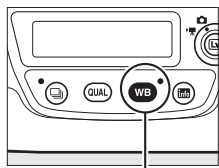
ホワイトバランスの微調整画面について

ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを （電球）に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。

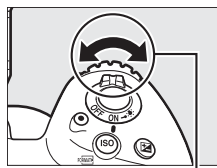
■ ホワイトバランスボタンとサブコマンドダイヤルで 設定する場合（アンバーおよびブルー方向のみ）

WBボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- ホワイトバランスの微調整値は、背面表示パネルに表示されます。



WBボタン



サブコマンド
ダイヤル



背面表示パネル

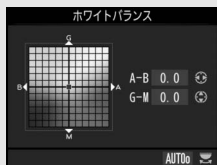
- **WB** ボタンとサブコマンドダイヤルで微調整する場合は、A（アンバー）からB（ブルー）への横軸の方向のみ設定できます。
- サブコマンドダイヤルを左に回すとA（アンバー）方向に、右に回すとB（ブルー）方向に色温度の高さを0.5段単位で微調整できます。1段は約5ミレッドに相当します。
- 微調整値を0以外に設定すると、背面表示パネルにアスタリスク（*）が表示されます。
- **WB** ボタンの操作では、**PRE**（プリセットマニュアル）のホワイトバランスは微調整できません。メニューで微調整してください（☞152）。

WB

🔧 インフォ画面で設定を変更する

ファインダー撮影時、インフォ画面表示中に**WB**ボタンを押すと、ホワイトバランス調整画面が表示されます。

- メインコマンドダイヤルを回すとホワイトバランスの設定を変更できます。
- ホワイトバランスの設定が**K**（色温度設定）の場合はサブコマンドダイヤルを回して色温度を設定できます（☞158）。
- ホワイトバランスの設定がプリセットマニュアルの場合はサブコマンドダイヤルを回してプリセットマニュアルデータの保存場所を設定できます（☞160）。
- その他のホワイトバランスの場合、マルチセクターを操作してA（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4方向の調整が可能です。



ミレッド (MIREL) について

色温度の逆数を百万 (10^6) 倍したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ1000ケルビンの違いでも6000ケルビン付近での変化は比較的小さく、3000ケルビン付近では1000ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度変換フィルターの単位としても利用されます。

例) 色温度の差 (K: ケルビン) : ミレッドの差 (M: ミレッド)

$$4000\text{K} - 3000\text{K} = 1000\text{ K} \quad : 83\text{ M}$$


$$7000\text{K} - 6000\text{K} = 1000\text{ K} \quad : 24\text{ M}$$

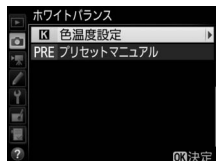
色温度設定で色温度を指定する

ホワイトバランスを **K**（色温度設定）にしたときは、ホワイトバランスの色温度を直接数値で指定できます。





■ メニューの【ホワイトバランス】で設定する場合

A（アンバー）、B（ブルー）方向とG（グリーン）、M（マゼンタ）方向の両方の色温度を設定できます。

- 1 静止画撮影メニューの【ホワイトバランス】で、【色温度設定】を選んでマルチセレクターの  を押す







- 2 A（アンバー）、B（ブルー）方向の色温度を設定する

-  または  を押して色温度を1桁ずつ選び、
 または  を押して数値を設定します。



A（アンバー）、
B（ブルー）方向
の色温度

- 3 G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度を設定する

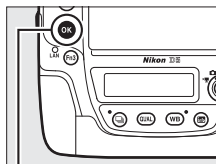
-  または  を押して、G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度にカーソルを移動し、
 または  を押して数値を設定します。



G（グリーン）、
M（マゼンタ）方向
の色温度

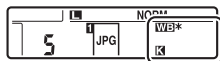
4 色温度を決定する

- **OK** ボタンを押して色温度を決定すると、メニューに戻ります。



OK ボタン

- G（グリーン）、M（マゼンタ）方向の色温度を0以外に設定すると、背面表示パネルにアスタリスク（*）が表示されます。

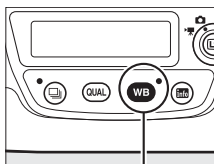


■ ボタン操作で色温度を設定する場合

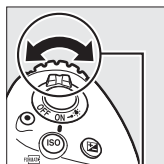
(アンバーおよびブルー方向のみ)

ホワイトバランスが **☑** (色温度設定) のときに **WB** ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す、またはマルチセクターの **⬆****⬇****⬅****➡** を押す

- **WB** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、色温度が切り替わります (ミレッド単位、**☐**155)。



WB ボタン



サブコマンド
ダイヤル

- **WB** ボタンを押しながらマルチセクターの **⬆** または **⬇** を押すと、色温度を1桁ずつ選べます。 **⬆** または **⬇** を押すと選んだ桁の数値を設定できます。
- A (アンバー)、B (ブルー) 方向の色温度のみ設定できます。
- 色温度は、背面表示パネルに表示されます。



背面表示パネル

☑ 色温度設定についてのご注意

- 光源が蛍光灯やフラッシュのときは、色温度設定を使わず、それぞれ **☼** (蛍光灯)、**⚡** (フラッシュ) に設定してください。
- ホワイトバランスの色温度を指定したときは、試し撮りをして、設定した色温度が撮影状況に適しているかどうかを確認することをおすすめします。

プリセットマニュアルで 基準となる白を設定する

プリセットマニュアルでは、撮影する照明下で取得したホワイトバランスデータまたは撮影済みの画像のプリセットマニュアルデータをカメラに保存し、ホワイトバランスを設定します。カクテル照明や特殊照明下で、前記の**AUTO**（オート）や**☼**（電球）などの各設定や、色温度設定で望ましいホワイトバランスが得られない場合に便利です。

最大6種類のプリセットマニュアルデータ（d-1～d-6）をカメラに保存できます。プリセットマニュアルデータを保存するには、次の方法があります。

プリセットマニュアルデータを カメラで新規取得して保存する	撮影する照明下で白またはグレーの被写体を基準にして撮影を行い、撮影データから取得して保存します（□□160）。ライブビュー時（□□43、58）には、画像モニターに表示中の被写体の一部分を選んでプリセットマニュアルデータを取得できます（スポットホワイトバランス、□□164）。
撮影済みの画像のホワイトバランスデータをコピーして保存する	メモリーカードにある画像のホワイトバランスデータをコピーして保存します（□□167）。



すでに設定されているプリセットマニュアルデータの変更について

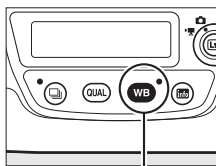
プリセットマニュアルデータ（d-1～d-6）の内容は、静止画撮影メニュー「A」～「D」（□□297）で共用しています。このため、たとえば静止画撮影メニュー「A」でプリセットマニュアルデータの内容を変更すると、静止画撮影メニュー「B」～「D」のプリセットマニュアルデータも変更されます。

ファインダー撮影時にプリセットマニュアルデータを新規取得する

プリセットマニュアルデータを取得する前に：

- プリセットマニュアルデータを取得する場合は、あらかじめホワイトバランスをセットする照明下で、無彩色（白またはグレー）の被写体を用意しておいてください。スタジオ用大型ストロボにてホワイトバランスをセットする場合は、被写体をグレー（ホワイトバランス取得用の18%標準反射板）にすることをおすすめします。
- 無彩色（白またはグレー）の被写体を基準にプリセットマニュアルデータを取得するときは、カメラが露出を通常よりも1段オーバーになるように自動的に調整します。露出モードが**M**の場合は、露出インジケータを確認して、適正露出になるよう設定してください（□129）。

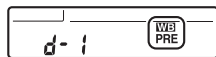
1 WBボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、背面表示パネルのホワイトバランス表示をPREに合わせる



WBボタン



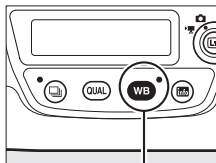
メインコマンド
ダイヤル



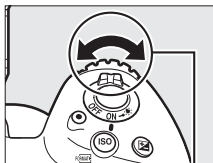
背面表示パネル

2 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

- **WB**ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所をd-1～d-6の中から選びます。



WBボタン



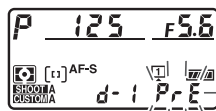
サブコマンド
ダイヤル



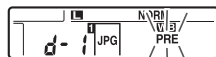
背面表示パネル

3 プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん**WB**ボタンから指を放し、再度**WB**ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、上面表示パネルとファインダー内表示に**P_rE**の文字が、背面表示パネルに**PRE**が、それぞれ数秒間点滅します。



上面表示パネル



背面表示パネル



ファインダー内表示

4 P_rEの点滅中に白またはグレーの被写体を撮影する

- 撮影時に使う照明の下で、用意した無彩色（白またはグレー）の被写体をファインダーいっぱいにとらえてシャッターボタンを全押しすると、プリセットマニュアルデータが取得され、手順2で選んだ保存場所に保存されます。
- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットマニュアルデータが正常に取得されます。
- シャッターボタンを押しても、メモリーカードに画像は記録されません。



5 正常にプリセットマニュアルデータが取得されたことを確認する

- プリセットマニュアルデータが取得されると、上面表示パネルと背面表示パネルに **Good** の文字が、ファインダー内表示に **Ed** の文字が、それぞれ点滅します。シャッターボタンを半押しすると、プリセットマニュアル取得モードが終了し、撮影が可能になります。



上面表示パネル

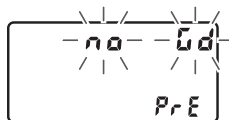


背面表示パネル



ファインダー内表示

- 被写体が極端に低輝度または高輝度の場合、カメラがプリセットマニュアルデータを取得できないことがあります。この場合、上面表示パネル、背面表示パネル、ファインダー内表示に **no Ed** の文字が、それぞれ点滅します。このとき、シャッターボタンを半押しするとプリセットマニュアル取得モード（手順4）に戻ります。



上面表示パネル



背面表示パネル




ファインダー内表示

✓ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について (ファインダー撮影時)



プリセットマニュアル取得モードは、何も操作しないままカスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (325) で設定した時間が過ぎると解除されます。

プリセットマニュアルデータ取得時の制限について (ファインダー撮影時)


次の場合は、プリセットマニュアルデータを取得できません。

- HDR (ハイダイナミックレンジ) 撮影時 (□181)
- 多重露出撮影時 (□220)
- ライブビューセクターが  の場合にカスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能] の [シャッターボタン] が [動画撮影] のとき (□352)

ホワイトバランスのプロテクト設定について

プロテクト設定 (□169) されたプリセットマニュアルデータが選ばれている場合、プリセットマニュアルデータは新規取得できません (上面表示パネルとファインダー内表示で  が、背面表示パネルで  が点滅します)。

プリセットマニュアルデータについて

- ご購入時のプリセットマニュアルデータ d-1 ~ d-6 は、晴天モードと同じ色温度 5200K に設定されています。
- 静止画撮影メニューから [ホワイトバランス] の [プリセットマニュアル] を選べると、取得したプリセットマニュアルデータが右のように表示されます。マルチセクターでプリセットマニュアルデータを選んで  ボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルを使って撮影できます。

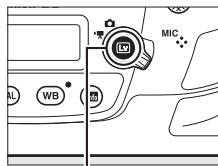


ライブビュー時にスポットホワイトバランスでプリセットマニュアルデータを取得する

ライブビュー時（□43、58）には、画像モニターに表示されている被写体の一部分を選んでプリセットマニュアルデータを取得できます（スポットホワイトバランス）。被写体の一部に白、またはグレーの部分があれば、あらかじめプリセットマニュアル取得用の被写体を用意する必要はなく、望遠レンズ装着時にも、レンズを交換せずにそのままプリセットマニュアルデータを取得できます。

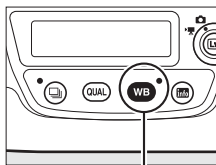
1 Lv ボタンを押す

- ミラーアップしてライブビューを開始します。ファインダー内が暗くなり、画像モニターに被写体が表示されます。



Lv ボタン

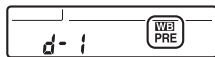
2 WB ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して、背面表示パネルのホワイトバランス表示をPREに合わせる



WB ボタン



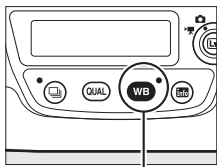
メインコマンド
ダイヤル



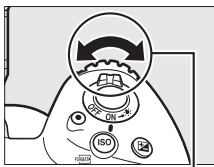
背面表示パネル

3 新規取得するプリセットマニュアルデータの保存場所を選ぶ

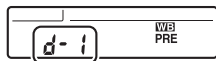
- **WB** ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回して、これから取得するプリセットマニュアルデータの保存場所をd-1～d-6の中から選びます。



WB ボタン



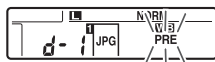
サブコマンドダイヤル



背面表示パネル

4 プリセットマニュアル取得モードにする

- いったん**WB** ボタンから指を放し、再度 **WB** ボタンを押し続けると、プリセットマニュアル取得モードになり、背面表示パネルに**PRE**が点滅します。



背面表示パネル

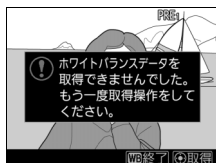
5 PREの点滅中に、マルチセクターを操作して、□を被写体の白またはグレーの部分に重ねる

- **Q** ボタンを押すと、被写体が拡大表示され、□で選んだ部分を細部まで確認できます。
- タッチ操作でもプリセットマニュアルデータを取得できます。画像モニター上で被写体の白またはグレーの部分タッチすると、□が移動してデータを取得します。タッチで取得した場合は、手順7に進んでください。



6 マルチセクターの中央ボタンを押すか、シャッターボタンを全押しして、プリセットマニュアルデータを取得する

- データが取得できなかった場合は、画像モニターに右の画面が表示され、手順5の状態に戻ります。□の位置を変えるなどして、再度プリセットマニュアルデータを取得してください。



7 WBボタンを押してプリセットマニュアル取得モードを終了する

- 静止画撮影メニューまたは動画撮影メニュー「ホワイトバランス」の「プリセットマニュアル」を選ぶと、ライブビューで取得したプリセットマニュアルデータを確認できます。ホワイトバランスを取得した範囲には白い枠が表示されます。



✓ プリセットマニュアル取得モードの時間制限について (ライブビュー撮影時)

ライブビュー撮影時のプリセットマニュアル取得モードの時間制限は、カスタムメニュー c4 [モニターのパワーオフ時間] の [ライブビュー表示] で設定した時間になります (□326)。

✓ プリセットマニュアルデータ取得時の制限について (ライブビュー撮影時)

次の場合は、プリセットマニュアルデータを取得できません：

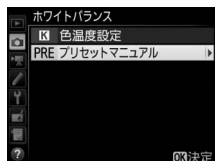
- HDR (ハイダイナミックレンジ) 撮影時 (□181)
- [静止画Lv画面のホワイトバランス] が [撮影時と同じ] のとき (□51)
- ライブビューセクターが ❶ の場合にカスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能] の [シャッターボタン] が [動画撮影] のとき (□352)

プリセットマニュアルデータを管理する

■ 撮影済み画像のホワイトバランスデータをコピーする

選んだプリセットマニュアルデータの保存場所に、メモリーカード内の画像で使用されたホワイトバランスを、プリセットマニュアルデータとしてコピーできます。

- 1 静止画撮影メニューの【ホワイトバランス】で【プリセットマニュアル】を選んでマルチセクターの \odot を押す



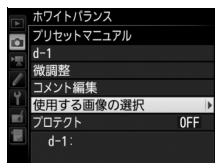
- 2 コピー先を選ぶ

- マルチセクターで黄色い枠を移動してd-1～d-6の中からコピー先を選びます。
- 中央ボタンを押すと設定画面が表示されます。






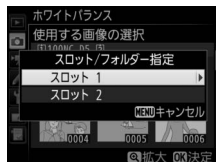
- 3 【使用する画像の選択】を選ぶ

- 【使用する画像の選択】を選んで \odot を押すと、メモリーカード内の画像が一覧表示されます。




4 ホワイトバランスデータをコピーしたい画像を選ぶ



- マルチセクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 画像は、 ボタンを押している間、拡大して確認できます。
-  () ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定] 画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます (□238)。

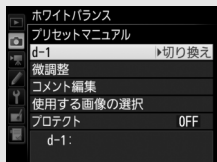


5 ホワイトバランスデータをコピーする

-  ボタンを押すとメモリーカード内の画像のホワイトバランスデータがコピーされます。
- 選んだ画像に画像コメント (□366) がある場合、画像コメントもコピーされます。

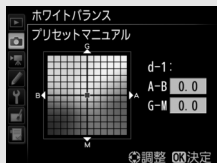
設定画面でのプリセットマニュアルデータの切り換えについて

設定画面で、マルチセクターのを押してプリセットマニュアルデータ (d-1～d-6) を選び、を押すと、プリセットマニュアルデータが切り替わります。



プリセットマニュアルデータの微調整について

設定画面で「**微調整**」を選ぶと、微調整画面が表示され、選択中のプリセットマニュアルデータを微調整できます (□152)。




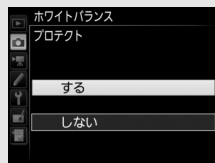
プリセットマニュアルデータにコメントを入力する

設定画面で「コメント編集」を選ぶと、選択中のプリセットマニュアルデータにコメント（最大36文字）を入力できます。コメントの入力方法は、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください（□176）。



プリセットマニュアルデータを保護する（プロテクト）

設定画面で「プロテクト」を選ぶと、選択中のプリセットマニュアルデータにプロテクト（保護）を設定できます。プロテクトの設定画面で「する」を選んで ボタンを押すと、選んだプリセットマニュアルデータがプロテクト設定されます。プロテクト設定されたプリセットマニュアルデータは微調整やコメント編集ができなくなります。










画像処理

**ピクチャーコントロールを使って
画像の仕上がりを簡単に設定したり、
思い通りに調整する**

ピクチャーコントロールを選ぶ

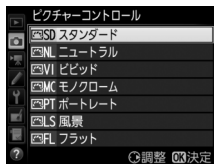
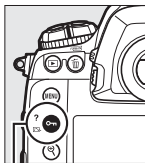
被写体や撮影シーンに合わせて、次のピクチャーコントロールから選びます。


 SD スタANDARD	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。 <ul style="list-style-type: none">• ほとんどの撮影状況に適しています。
 NL ニュートラル	素材性を重視した自然な画像になります。 <ul style="list-style-type: none">• 撮影した画像を調整、加工する場合に適しています。
 VI ビビッド	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。 <ul style="list-style-type: none">• 青、赤、緑など、原色を強調したいときに適しています。
 MC モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
 PT ポートレート	人物の肌が滑らかで自然な画像になります。
 LS 風景	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。
 FL フラット	シャドー部からハイライト部まで幅広く情報を保持した画像になります。 <ul style="list-style-type: none">• 撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。




1 (P/?) ボタンを押す

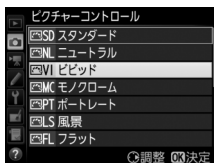
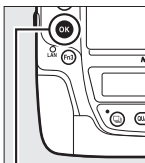
- ピクチャーコントロールの一覧画面が表示されます。



 (P/?) ボタン

2 設定したいピクチャーコントロールを選ぶ

-  ボタンを押して設定します。



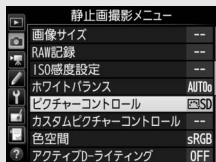
 ボタン

【カスタムピクチャーコントロール】について


静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューで【カスタムピクチャーコントロール】を選ぶと、調整したピクチャーコントロールに名前を付けて登録したり (C175)、メモリーカードを使って、同じ機種のカメラやピクチャーコントロールに対応するソフトウェアと共用することができます。

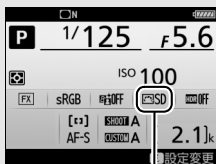
【ピクチャーコントロール】について

ピクチャーコントロールは静止画撮影メニュー (C296) または動画撮影メニュー (C306) でも設定できます。



撮影中のピクチャーコントロールの確認について

使用しているピクチャーコントロールは、 ボタンを押すと表示されるインフォ画面で確認できます。



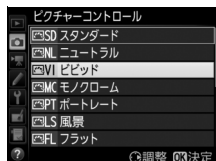
ピクチャーコントロール
マーク

ピクチャーコントロールを調整する

ピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロール（□175）の設定は、撮影目的や好みに合わせて調整できます。輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）をバランス良く自動的に調整できる「クイック調整」や各項目を手動で細かく調整する「手動調整」ができます。

1 調整したいピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールの一覧画面（□171）で、マルチセクターの▶を押します。



2 ピクチャーコントロールを調整する

- ▶または◀で調整する項目（□173）を選びます。⬅または➡を押すと1ステップ刻みで、サブコマンドダイヤルを回すと0.25ステップ刻みで値を設定します。
- 「クイック調整」を選んで⬅または➡を押すと、各項目のレベルを自動的に調整します。
- ⏮（FORMAT）ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。



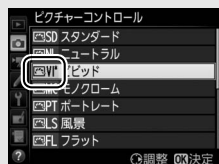
3 設定する

- OK ボタンを押して設定します。



✎ ピクチャーコントロールを調整した場合の表示について

ピクチャーコントロールを調整すると、アイコンの横にアスタリスク（*）が表示されます。



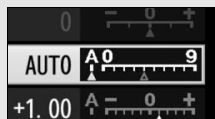
■ レベル調整の設定項目

クイック調整※1		輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。
手 動 調 整	輪郭強調	輪郭の強弱を調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	明瞭度	画像の明瞭度を調整します。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します※2。明瞭度の設定は、動画には反映されません。
	コントラスト	画像のコントラストを調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	明るさ	白とびや黒つぶれを抑えながら画像の明るさを調整します。
	色の濃さ（彩度）※3	画像の彩度（色の鮮やかさ）を調整できます。[A]（オート）を選ぶと、自動で調整します。
	色合い（色相）※3	画像の色合いを調整できます。
	フィルター効果※4	白黒写真用カラーフィルターを使って撮影したときのような効果が得られます（□174）。
	調色※4	印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます（□174）。

- ※1 [ニュートラル]、[モノクローム] または [フラット] はクイック調整できません。カスタムピクチャーコントロール（□175）の場合も、クイック調整できません。手動調整した後にクイック調整を行うと、手動調整で設定した値は無効になります。
- ※2 設定する強度や撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影が出たり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。
- ※3 [モノクローム] を元にしたカスタムピクチャーコントロールや [モノクローム] のときは、表示されません。
- ※4 [モノクローム] を元にしたカスタムピクチャーコントロールや [モノクローム] のときのみ表示されます。

レベル調整時の手動調整とオートの切り換えについて

[輪郭強調]、[明瞭度]、[コントラスト]、[色の濃さ（彩度）] の場合、Q ボタンを押して手動調整と [A]（オート）を切り換えられます。

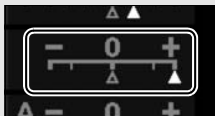


▼【輪郭強調】、【明瞭度】、【コントラスト】、【色の濃さ（彩度）】の【A】（オート）についてのご注意

- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。
- 充分な効果を得るには、Gタイプ、EタイプまたはDタイプのレンズをお使いになることをおすすめします。

📌 ピクチャーコントロール調整時の△マークについて

ピクチャーコントロール調整中に各項目に表示される△マークは、調整する前の値を示しています。前回調整した値を参考にして調整するときに便利です。



📌 【モノクローム】の【フィルター効果】について

【フィルター効果】には、次のような効果があります。

Y（黄※）	コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。[Y] → [O] → [R]の順にコントラストが強くなります。
O（オレンジ※）	
R（赤※）	
G（緑※）	肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

※ 市販の白黒写真用カラーフィルターの色です。

📌 【モノクローム】の【調色】について

【調色】の項目（[B&W] 以外）を選んでマルチセレクトの🔍を押すと、さらに色の濃淡を選べます。👁️または👉を押して選んでください。

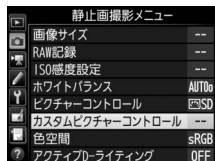


カスタムピクチャーコントロールを登録する

カメラに搭載された「ピクチャーコントロール」は、好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

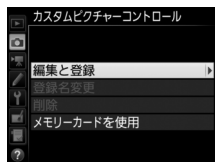
■ カスタムピクチャーコントロールの登録方法

1 静止画撮影メニューの「カスタムピクチャーコントロール」を選んでマルチセクターの \odot を押す



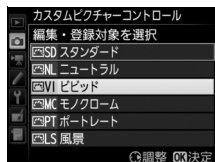
2 「編集と登録」を選ぶ

- 「編集と登録」を選んで \odot を押すと、「編集・登録対象を選択」画面が表示されます。



3 元にするピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールを選んで \odot を押すと、編集画面が表示されます。
- 編集を行わない場合は \odot ボタンを押します。「登録先の選択」画面が表示されます（手順5へ）。



4 ピクチャーコントロールを調整する

- 項目の内容や調整方法は「ピクチャーコントロール」と同じです。
- \odot ボタンを押すと「登録先の選択」画面が表示されます。
- \square (RESET) ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。



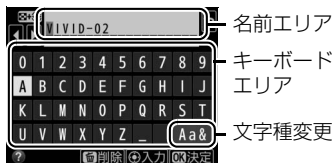
5 登録先を選ぶ

- C-1～9（カスタム1～9）の中から登録先を選びます。



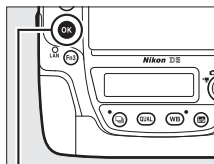
6 登録名を編集する

- 登録先を選んで を押すと、「登録名変更」画面が表示されます。
- 初期状態では、「(元になったピクチャーコントロール名)-XX」が名前エリアに入力されています。XXには自動的に数値が設定されます。
- 登録名は19文字まで入力できます。文字はカーソル位置に挿入されます。
- 登録名を変更しない場合は、手順7へ進みます。
- 名前エリアに新しい文字を入力する場合は、キーボードエリアで文字をタッチしてください。マルチセクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、**中央**ボタンを押しても入力できます。
- 名前エリアのカーソルを左右に移動する場合は、名前エリアをタッチするか ボタンを押しながら または を押します。
- 文字種変更アイコンをタッチすると、アルファベット大文字/小文字/記号を切り換えられます。
- 名前エリアからあふれた文字は削除されます。
- 登録名を1文字削除するには、削除する文字の上にカーソルを移動させ、 (FORMAT) ボタンを押します。



7 登録名の編集を終了する

- **OK** ボタンを押します。



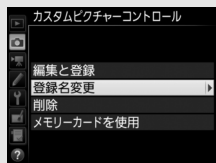
OK ボタン

- 登録したカスタムピクチャーコントロールは、ピクチャーコントロールの一覧画面に表示されます。



登録名変更について

[カスタムピクチャーコントロール] で [登録名変更] を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールの名前を変更できます。



登録したカスタムピクチャーコントロールを削除するには

[カスタムピクチャーコントロール] で [削除] を選ぶと、登録したカスタムピクチャーコントロールを削除できます。

元になったピクチャーコントロールの表示について

カスタムピクチャーコントロールの調整画面では、元になったピクチャーコントロールがアイコンで表示されます。

元になった
ピクチャーコントロール

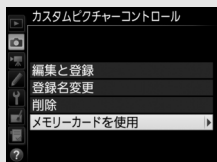


カスタム1～9で調整できる項目について

カスタム1～9を選んだ場合は、元になったピクチャーコントロールと同じ項目が調整できます。

カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールについて

〔カスタムピクチャーコントロール〕の〔メモリーカードを使用〕を使うと、カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピーできます。また、メモリーカード内のカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録したり、削除したりできます（メモリーカードはスロット1に入れてください。スロット2に入っているメモリーカードは認識されません）。



- **〔メモリーカードにコピー〕**：カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピー（エクスポート）できます。メモリーカードにコピーしたいカスタムピクチャーコントロールとコピー先（1～99）を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールがメモリーカードにコピーされます。
- **〔カメラに登録〕**：メモリーカードに保存されているカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録（インポート）できます。カメラに登録したいカスタムピクチャーコントロールと登録先（C-1～9（カスタム1～9））を選んで名前を付けると、選んだカスタムピクチャーコントロールがカメラに登録されます。
- **〔メモリーカードから削除〕**：メモリーカードに保存されているカスタムピクチャーコントロールを選んで削除できます。



白とびや黒つぶれを抑えて撮影する

アクティブD-ライティングで撮影する

撮影の前にあらかじめ「**アクティブD-ライティング**」を設定しておくと、ハイライト部の白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があります。見た目のコントラストに近い画像に仕上がります。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するのに効果的です。アクティブD-ライティングを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします（□122）。



アクティブD-ライティング
[しない]



アクティブD-ライティング
[暗A オート]

静止画撮影メニュー「**アクティブD-ライティング**」と 画像編集メニュー「**D-ライティング**」の違い

「**アクティブD-ライティング**」を設定してから撮影すると、撮影シーンに応じて露出や階調を制御し、ハイライト部やシャドー部および中間調を適切に調整して画像を記録します。一方、「**D-ライティング**」（□389）は、撮影済みの画像に対して階調を再調整してシャドー部を明るく補正します。

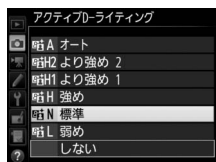
■ アクティブD-ライティングの設定方法

- 1 静止画撮影メニューの「アクティブD-ライティング」を選んでマルチセクターの \odot を押す



- 2 効果の度合いを選び、 \odot ボタンを押す

- 「 \odot A オート」に設定すると、撮影シーンに応じて自動的に効果の度合いを設定します。



✓ アクティブD-ライティングについてのご注意

- アクティブD-ライティングを設定して撮影をするとき、撮影シーンによっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が強調される場合があります。
- 動画撮影時は、アクティブD-ライティングは機能しません。
- 露出モードがMのときは、「 \odot A オート」に設定していても「 \odot N 標準」相当の度合いに固定されます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。

📄 関連ページ

アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影する → 「ADLブラケットティングの撮影方法」(P146)

HDR（ハイダイナミックレンジ）合成を行う

1回の撮影で露出が異なる画像を2コマ撮影して合成することにより、輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します。明暗差が著しい撮影シーンなどで、シャドー部からハイライト部まで幅広く再現された画像になります。HDRモードを設定したときは、測光モードをマルチパターン測光に設定して撮影することをおすすめします（□122）。



露出暗めで撮影した画像

+



露出明るめで撮影した画像



HDRモードで合成された画像


1 静止画撮影メニューの【HDR（ハイダイナミックレンジ）】を選んでマルチセレクトターの \odot を押す

静止画撮影メニュー	
長秒時ノイズ低減	OFF
高感度ノイズ低減	NORM
ワイネットコントロール	□N
自動ゆがみ補正	OFF
オートブラケティングのセット	AE $\frac{1}{2}$
多重露出	OFF
HDR（ハイダイナミックレンジ）	OFF
インターバルタイマー撮影	OFF




✓ RAWを含む画質モードについて

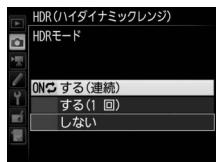
RAWを含む画質モードの場合、HDR撮影はできません。


2 [HDRモード] を設定する

- [HDRモード] を選んで  を押します。

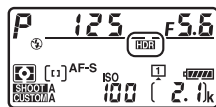


-  または  を押してHDRモードを設定し、 ボタンを押します。




ON  する (連続)	解除するまで連続してHDR撮影します。HDRモードを解除するには、もう一度 [HDRモード] を選んで [しない] を選んでください。
する (1回)	撮影を終了すると、HDRモードが解除されます。
しない	HDRモードを解除します。




- [する (連続)] または [する (1回)] を選ぶと、HDRモードの撮影待機状態になり、上面表示パネルに **HDR** マークが点灯します。



3 [露出差] を設定する


- [露出差] を選んで  を押します。






-  または  を押して露出差を設定し、 ボタンを押します。
- 露出差を大きく設定するほど、輝度範囲のより広い被写体に対応できます。
- 被写体の輝度範囲に適した露出差以上に設定すると、不自然な画像になる場合があります。被写体の輝度範囲に合わせて選んでください。
- [オート] に設定すると、シーンに適した露出差が選ばれます。

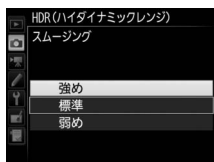


4 [スモーキング] を設定する

- [スモーキング] を選んで  を押します。

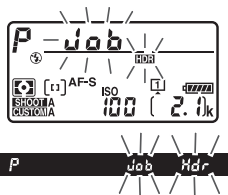


-  または  を押してスモーキング（2枚の画像の境界のなめらかさ）の強さを設定し、 ボタンを押します。
- スモーキングを強めに設定するほど、画像がよりなめらかに合成されます。



5 構図を決め、ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、2回連続してシャッターがきれます。
- 合成処理中は、上面表示パネルに **Job Hdr** が、ファインダー内表示に **Job Hdr** が点滅します。この表示が消えるまで撮影できません。
- 【する（連続）】の場合、【HDRモード】で【しない】を選んでHDRモードを解除するまで、HDRモードで撮影できます。
- HDRモードが【する（1回）】の場合、1回撮影すると、HDRモードが解除され、**Hdr** マークが消灯します。



🔑 BKTボタンとコマンドダイヤルでHDRモードと露出差を設定する

カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] の [BKT ボタン + 📷] を [HDR (ハイダイナミックレンジ)] に設定すると、BKTボタンとコマンドダイヤルの操作で手順2の [HDRモード] と手順3の [露出差] を設定できます。

- BKT ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して **OFF** (【しない】)、**!** (【する (1回)】)、**⌂** (【する (連続)】) から選んでください。
- BKT ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと、上面表示パネルの露出差の表示が切り替わります。



✓ HDR撮影時のご注意

- 撮影した画像の画像周辺部は切り取られます。
- 動いている被写体を撮影する場合や撮影時の手ブレの量が大きい場合は、正しく合成されない場合があります。撮影時は、三脚をお使いいただくことをおすすめします。
- 撮影シーンによっては、明るい被写体の周辺に暗い影がでたり、暗い被写体の周辺が明るくなったりします。[スムージング] の設定で調整できます。
- 被写体によっては画像に階調とびが発生する場合があります。
- 測光モードが中央部重点測光またはスポット測光のときや、非CPUレンズ装着時に、[露出差] を [オート] に設定すると、露出差は [2 EV] 相当の度合いに固定されます。
- 別売のスピードライトは発光しません。
- レリーズモード (□□110) を **CL**、**CH** に設定するか、**Q** の静音連続撮影に設定した場合にシャッターボタンを全押しし続けても連続撮影しません。
- シャッタースピードは、**b**、**1/b** (バルブ) または **-** (タイム) に設定できません。

✎ HDRモードの制限について

HDRモードは、次の機能とは同時に使用できません。

- 微速度撮影 (□□73)
- オートブラケティング撮影 (□□138)
- 多重露出撮影 (□□220)

✎ HDRモードとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- HDRモードを [する (連続)] に設定してインターバルタイマー撮影 (□□225) を設定すると、設定されたインターバルでHDR撮影ができます。この場合、[インターバルタイマー撮影] で設定されたインターバルで撮影されます。
- HDRモードが [する (1回)] の場合は、1回だけHDRモードで撮影した後、インターバルタイマーとHDRモードが解除されます。

✎ 静止画撮影メニューの管理

HDRモードは、静止画撮影メニュー (「A」～「D」) (□□297) ごとに設定できますが、多重露出撮影中 (□□220) またはインターバルタイマー撮影中 (□□225) にHDRモードを [する (連続)] または [する (1回)] に設定した静止画撮影メニューに切り換えた場合、HDRモードが解除されます。また、HDRモードが [する (連続)] または [する (1回)] のときに、RAWを含む画質モードが選ばれている静止画撮影メニューに切り換えた場合も、HDRモードが解除されます。



フラッシュ撮影

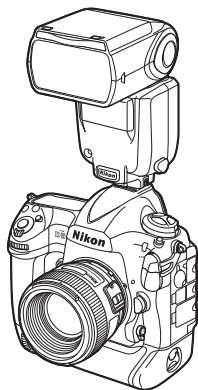
別売スピードライト (□410) をカメラに装着すると、フラッシュ撮影ができます。複数のスピードライトをリモート制御して、増灯撮影することもできます。

- お使いのスピードライトの使用方法については、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

別売スピードライトをカメラに装着して撮影する

1 カメラのアクセサリシューにスピードライトを装着する

- スピードライトの装着方法については、お使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。



2 カメラとスピードライトの電源をONにする

- スピードライトの充電が開始され、撮影ができる状態になるとファインダー内表示に⚡ (レディーライト) が点灯します。

3 発光モード (□189) とフラッシュモード (□191) を設定する

4 シャッタースピード、絞り値を設定する

5 撮影する



ユニファイドフラッシュコントロールについて

ユニファイドフラッシュコントロールは、ユニファイドフラッシュコントロールに対応した別売スピードライトをカメラに装着しているとき、フラッシュ発光に関する各種設定をスピードライトとカメラで共有できる機能です。カメラや別売のCamera Control Pro 2を使用してスピードライトの設定を行えます。スピードライトで設定を行った場合は、カメラやCamera Control Pro 2に反映されます。

別売スピードライト使用時のシャッタースピード

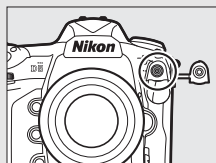
別売のスピードライト使用時にカメラで設定できるシャッタースピードと絞り値は、次の通りです。

露出モード	設定可能なシャッタースピード
P、A	カメラが自動的に1/250～1/60秒にセット※
S	1/250～30秒
M	1/250～30秒、 b 、 1/b （バルブ）、--（タイム）

※ フラッシュモード（□191）をスローシンクロモード、後幕スローシンクロモード、赤目軽減スローシンクロモードに設定している場合は、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。

シンクロターミナル

シンクロコードを必要とするスピードライト撮影時に、シンクロコードをシンクロターミナル（JIS-B型外れ防止ネジ付き）に接続してください。ただし、後幕シンクロ撮影ができるスピードライトをアクセサリシューに装着して後幕シンクロを行う場合には、シンクロターミナルに他のスピードライトを接続して増灯撮影などを行わないでください。



他社製フラッシュについてのご注意

他社製のフラッシュ（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリシュー部の接点をショートしてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。



スピードライトの調光方式について

別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト（□□410）をカメラに装着し、スピードライトの発光モードをTTLにセットすると、モニター発光を行う専用TTLモード（i-TTLモード）になり、i-TTL-BL調光などによるフラッシュ撮影ができます。ニコンクリエイティブライティングシステム非対応のスピードライトでは、i-TTLモードでの撮影はできません。i-TTLモード時は、次のような調光方式が利用できます。

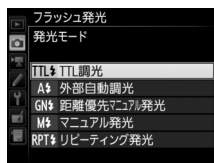
i-TTL-BL 調光	<p>180Kピクセル（約180,000ピクセル）RGBセンサーによる測光情報をもとに主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、シャッターの開く直前にスピードライトがモニター発光を行い、被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。</p> <ul style="list-style-type: none">● G、EまたはDタイプレンズ装着時は、レンズから得られた被写体までの距離情報も利用して最適な発光量を決定します。● 非CPUレンズ装着時は、レンズ情報（開放絞り値、焦点距離）を設定することにより、より精度が向上します（□□231）。
スタンダード i-TTL調光	<p>背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光します。主要被写体のみを強調する場合や、フラッシュ撮影で露出補正する場合に適しています。</p>

- カメラの測光モード（□□122）がスポット測光に設定されている場合、自動的にスタンダードi-TTL調光になります。



カメラに装着したスピードライトの発光モードを設定する

SB-5000、SB-500、SB-400、またはSB-300をカメラに装着した場合、スピードライトの発光モードや補正量などは、静止画撮影メニュー〔フラッシュ発光〕の〔発光モード〕で設定できます。選べる発光モードは装着したスピードライトによって異なります（□411）。選んだ項目によって〔発光モード〕の下に表示されるメニュー項目が変更されます。



- SB-5000をお使いの場合はスピードライト本体でも設定できます。
- SB-500、SB-400、SB-300以外のスピードライトを装着した場合、発光モードなどの設定はスピードライト本体で行ってください。

TTL 調光	<p>スピードライトの発光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [TTL 調光補正] でスピードライトの調光補正値を設定します。SB-500、SB-400またはSB-300を装着した場合、調光補正は () ボタンを押して（□193）行えます。
外部自動調光	<p>スピードライトの発光による被写体からの反射光を外部自動調光用センサー窓で測光し、スピードライトが発光量を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [外部自動調光補正] でスピードライトの調光補正値を設定します。 • 「絞り連動外部自動調光」() A と「外部自動調光」(A) があります。セットアップメニューの [レンズ情報手動設定] (□231) でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。詳しくはご使用のスピードライトの使用説明書をご覧ください。
距離優先 マニュアル発光	<p>スピードライトから被写体までの距離を設定すると、カメラの設定に合わせて適正な発光量をスピードライトが自動的に設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [距離優先マニュアル発光設定] の [距離] で被写体までの距離を、[調光補正] でスピードライトの調光補正値を設定します。
マニュアル発光	<p>指定した発光量でスピードライトが発光します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [マニュアル発光量] でスピードライトの発光量を設定します。









リピーティング 発光

1回の露光中に、スピードライトを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。

- **「リピーティング発光設定」**の**「発光量」**でスピードライトの発光量を、**「回数」**で連続発光する回数を設定できます。**「周波数」**で発光周波数（1秒あたりの発光回数）をHz（ヘルツ）単位で設定できます。
- 最大連続発光回数は**「発光量」**と**「周波数」**の組み合わせにより異なります。詳しくはご使用のスピードライトの使用説明書をご覧ください。



フラッシュモードを設定する

モード	内容
 先幕シンクロ モード	<p>通常のフラッシュ撮影時にはこのモードを設定します。露出モードをPまたはAにセットしてフラッシュ撮影すると、カメラが適正露出となるようにシャッタースピードを1/250～1/60秒（オートFPハイスピードシンクロ時は1/8000～1/60秒）に自動的にセットします。</p>
 赤目軽減 モード	<p>赤目軽減発光機能付きのスピードライトを使用することにより、暗いところで人物の目が赤く写るのを軽減できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめでできません）。
 赤目軽減 スローシンクロ モード	<p>赤目軽減モードとスローシンクロモードが同時にセットされます。露出モードはPまたはAに設定してください。夜景や夕景をバックにした人物撮影などに適しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
 スローシンクロ モード	<p>露出モードをPまたはAに設定してフラッシュ撮影すると、背景の露出を考慮してシャッタースピードが最長30秒まで延長されます。これにより、背景を描写しながらスピードライトを発光させ、夕景や夜景の雰囲気を活かした撮影ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
 後幕シンクロ モード	<p>シャッター後幕の走行開始（シャッターが閉じる）直前にスピードライトが発光します。動いている被写体の後方に流れる光や軌道などを表現したい場合などに適しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 露出モードをPまたはAに設定すると、スローシンクロモードも自動的にセットされます。シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚をお使いいただくことをおすすめします。
 発光禁止	<p>スピードライトは発光しません。</p>



スタジオ用大型ストロボ使用時について

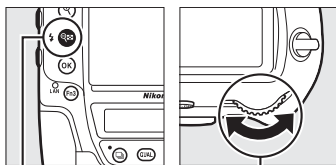
スタジオ用大型ストロボでは正しい同調が行えないため、後幕シンクロモードは使用できません。



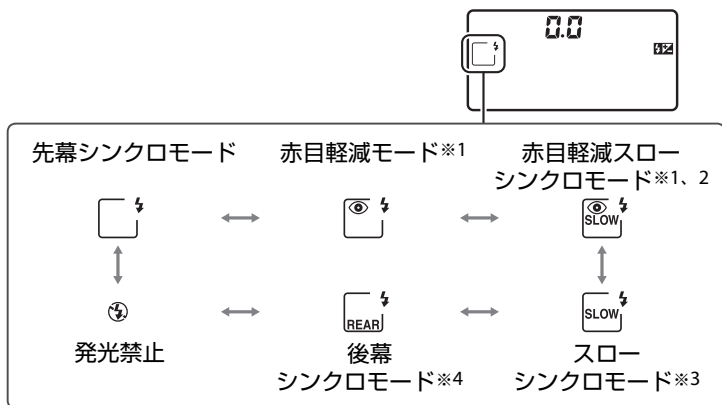
フラッシュモードを切り換える

Q (⚡) ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回す

- フラッシュモードは、上面表示パネルに表示されます。



Q (⚡) ボタン メインコマンドダイヤル



※1 スピードライト側が赤目軽減発光機能に対応していない場合は、フラッシュモード表示の赤目軽減マーク👁️が点滅します。

※2 露出モードがSまたはMの場合、赤目軽減スローシンクロモードは設定できません。このモードを選んだ場合は自動的に「赤目軽減モード」に変更されます。

※3 露出モードがSまたはMの場合、スローシンクロモードは設定できません。このモードを選んだ場合は自動的に「先幕シンクロモード」に変更されます。

※4 露出モードがPまたはAの場合は、スローシンクロモードも自動的にセットされ、Q (⚡) ボタンから指を放すと右のように表示されます。



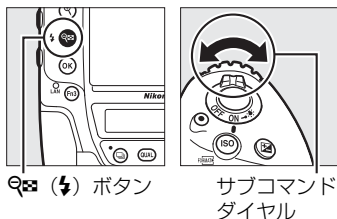
調光補正してフラッシュの発光量を変更する

調光補正とは、フラッシュの発光量を意図的に変えることで、背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに使います。発光量を多くして被写体をより明るく照らしたり、発光量を少なくして被写体に光が強く当たりすぎないようにするなど、発光量の微妙な調整ができます。

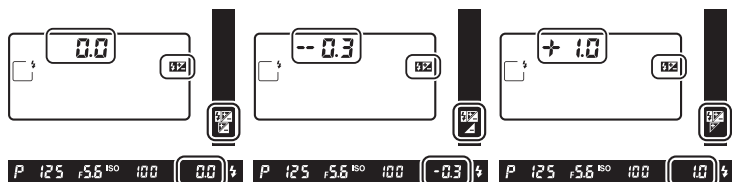
調光補正の設定方法

Q₂ (⚡) ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- 調光補正値は、上面表示パネルに表示されます。
- 調光補正は、1/3段ステップで-3段～+1段の範囲で設定できます。



- Q₂ (⚡) ボタンを押すと、上面表示パネルとファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。





補正なし (Q₂ (⚡) ボタンを押したとき)

-0.3段補正



+1段補正

- 補正量を設定すると、上面表示パネルとファインダー内表示に **Q₂** マークが表示されます。
- Q₂ (⚡) ボタンを押すと、上面表示パネルで設定した補正量を確認できます。
- 被写体を明るくしたいときは+側に、暗くしたいときは-側に補正するのが基本です。
- 調光補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

別売スピードライトの調光補正について

i-TTL調光時および絞り連動外部自動調光 (ⓂA) 時は、  ボタンを押して設定した調光補正と、スピードライト本体または静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] で設定した調光補正を同時に行う場合、両方の補正値を加算します。

関連ページ

- 調光補正のステップ幅を変更する →  b3 [露出・調光補正ステップ幅] (□□323)
- フラッシュ撮影時に露出補正した場合に調光量も補正するかどうかを設定する →  e3 [フラッシュ使用時の露出補正] (□□332)
- 調光補正値を変えながら撮影する → 「AEブラケットング、フラッシュブラケットングの撮影方法」 (□□139)

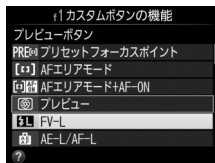


FVロックして調光量を固定する

別売のニコンクリエイティブライティングシステム (□410) 対応スピードライト使用時は、調光量を固定 (FVロック) することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影できます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のフラッシュ撮影が可能です。

- FVロック中にカメラのISO感度や絞り値を変更しても、フラッシュの発光量が補正されることによりFVロックは維持されます。

1 カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] (□334) で任意のボタンに [FV-L] を割り当てる



2 FVロック対応スピードライト (□412) をカメラのアクセサリシューに装着する

3 スピードライトの電源をONにし、発光モードをTTLまたは「モニター発光あり」のⓐAまたはAのいずれかにセットする

- 別売スピードライトの発光モードについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

4 被写体にピントを合わせる

- 発光量を合わせたい被写体を画面の中央でとらえ、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

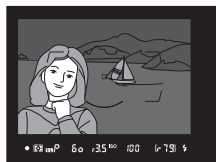


5 モニター発光を行う

- ファインダー内表示に⚡が点灯していることを確認し、[FV-L] を割り当てたボタンを押すと、フラッシュがモニター発光を行い、調光量を計算します。
- FVロックが行われ、ファインダー内表示にFVロックマーク (A) が表示されます。



6 構図を変更する



7 シャッターボタンを全押しして撮影する

- FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影できます。必要に応じて手順6～7を繰り返してください。

8 FVロックを解除する

- もう一度[FV-L] を割り当てたボタンを押すと、FVロックが解除され、ファインダー内表示のFVロックマーク (A) が消灯します。

測光エリアについて

FVロック時の測光エリアは次のようになります。

撮影状態	発光モード	測光エリア
1灯撮影時	i-TTLモード	画面中央 φ6mm相当
	絞り連動外部自動調光 (A)	スピードライトの外部測光エリア
アドバンスドワイヤレスライティングによる増灯時	i-TTLモード	全画面
	絞り連動外部自動調光 (A)	スピードライトの外部測光エリア
	外部自動調光 (A) (マスターフラッシュ)	

複数のスピードライトを同時に 発光させる（ワイヤレス増灯撮影）



カメラから離れた位置にあるスピードライト（リモートフラッシュ）をワイヤレスで制御して、増灯撮影ができます（アドバンストワイヤレスライティング（AWL）、□411）。リモートフラッシュを制御する方法は、マスターフラッシュの微小発光によって制御する光制御（光制御アドバンストワイヤレスライティング）と、カメラに装着したWR-R10からの電波によって制御する電波制御（電波制御アドバンストワイヤレスライティング）があります。

- カメラにSB-5000、SB-500、またはWR-R10を装着した場合、カメラの静止画撮影メニュー **[フラッシュ発光]** の **[ワイヤレス設定]** でリモートフラッシュの制御方法を選べます。

光制御 AWL	マスターフラッシュの微小発光で、リモートフラッシュを制御します。 <ul style="list-style-type: none">カメラのアクセサリースューにSB-5000またはSB-500を装着した場合に選べます。光制御アドバンストワイヤレスライティングで利用できるスピードライトについては、411ページの「ニコンクリエティブライティングシステム対応スピードライトとの組み合わせで利用できる機能」をご覧ください。
光制御/ 電波制御 AWL	光で制御するリモートフラッシュと、電波で制御するリモートフラッシュを併用してフラッシュ撮影を行います。 <ul style="list-style-type: none">カメラにWR-R10とSB-500を装着した場合に選べます。その他の [光制御/電波制御AWL] が使用できるスピードライトについては、201ページをご覧ください。[増灯発光モード] (□202) は [グループ発光] のみ使用できます。
電波制御 AWL	カメラに装着したWR-R10を使用して、電波によってリモートフラッシュを制御します。 <ul style="list-style-type: none">カメラにWR-R10を装着した場合に選べます。[電波制御AWL] 使用時に、カメラのアクセサリースューにスピードライトを装着して発光させることもできます (□201)。リモートフラッシュは、電波制御AWL対応のスピードライトのみ使用できます。
しない	リモートフラッシュの制御を行いません。



ワイヤレス増灯撮影の準備をする

ここでは、カメラおよびカメラに装着している機器での操作を 、リモートフラッシュとして使用するスピードライトでの操作を  で表しています。

- スピードライトの操作については、詳しくはスピードライトの使用説明書をご覧ください。

■ 光制御アドバンストワイヤレスライティングの場合

ここでは、SB-5000またはSB-500をマスターフラッシュとして装着した場合の説明をしています。

- SB-910、SB-900、SB-800、SB-700またはSU-800をマスターフラッシュとして装着した場合、設定は全てスピードライトで行います。詳しくはスピードライトの使用説明書をご覧ください。

1 : SB-5000またはSB-500をカメラのアクセサリシューに装着する

2 : 静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [ワイヤレス設定] で [光制御AWL] を選ぶ

- 準備完了後、ワイヤレス増灯撮影を行うには202ページの「ワイヤレス増灯撮影を行う」をご覧ください。



■ 電波制御アドバンストワイヤレスライティングの場合

WR-R10を装着したカメラで、電波制御AWLに対応したスピードライトをリモートフラッシュとして制御して増灯撮影します。

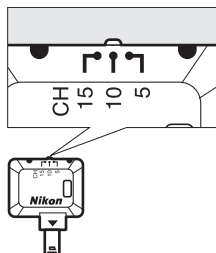
1 📷：WR-R10をカメラに装着する

- 装着方法については、WR-R10の使用説明書をご覧ください。

2 📷：静止画撮影メニュー【フラッシュ発光】の【ワイヤレス設定】で【電波制御AWL】を選ぶ

3 📷：WR-R10のチャンネルを設定する

- WR-R10のチャンネル切り換えスイッチを任意のチャンネルに設定します。



4 📷：WR-R10のリンクモードを設定する

- カメラのセットアップメニュー【リモコン(WR)設定】の【リンクモード】で次のどちらかを設定します (☐375)。



ペアリング	WR-R10とスピードライトをペアリングして通信を行います。
PINコード	カメラとスピードライトに同じ4桁のPINコードを入力して通信を行います。



🔗 ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10について

- カメラに装着するには、WR用変換アダプター WR-A10が必要です。
- 電波制御アドバンストワイヤレスライティングを行うためには、別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-R10のファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。

5 : スピードライトとWR-R10を接続する

- スピードライトをリモートモードにします。
- スピードライトのチャンネルは必ず手順3で設定したWR-R10のチャンネルと同じものを設定してください。
- スピードライトのリンクモードは手順4で設定したWR-R10のリンクモードと同じものを設定してください。
 - [ペアリング] を選んだ場合、スピードライトでペアリングを開始すると同時にWR-R10のペアリングボタンを押します。ペアリングが完了すると、WR-R10とスピードライトのLINKライトが緑とオレンジの点滅を行います。接続が完了すると、スピードライトのLINKライトが緑色に点灯します。
 - [PINコード] を選んだ場合、カメラで入力したものと同一PINコードをスピードライトで入力します。PINコードの入力が完了すると、自動で接続を開始します。接続が完了すると、スピードライトのLINKライトが緑色に点灯します。

6 : 使用する全てのスピードライトで手順5を繰り返す

- 準備完了後、ワイヤレス増灯撮影を行うには202ページの「ワイヤレス増灯撮影を行う」をご覧ください。

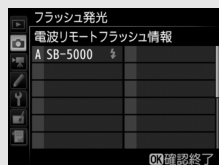
一度接続したスピードライトと再度接続する場合

カメラの静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [電波リモートフラッシュ情報] では、接続中のスピードライトの情報を一覧表示できます。

電波制御で接続しているスピードライトの情報をカメラで一覧表示する


カメラの静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [電波リモートフラッシュ情報] では、接続中のスピードライトの情報を一覧表示できます。

- 一覧表示するときの識別用の名前は、スピードライト側で設定できます (リモートフラッシュネーム設定)。



電波制御時にスピードライトを装着した場合

電波制御でワイヤレス増灯をした場合に、電波制御で接続したリモートフラッシュに加えてアクセサリシューに装着したスピードライトも発光させることができます。

- SB-5000の場合、スピードライトで電波制御マスターモード（画面左上にが表示されている状態）に設定し、グループ発光または増灯リピーティング発光を選んで装着してください。装着したSB-5000の設定は、スピードライト本体またはカメラで行えます。カメラで行う場合、グループ発光は[グループ発光設定]の[マスターフラッシュ]、増灯リピーティング発光は[増灯リピーティング発光設定]の[M]（マスターフラッシュ）で設定してください。
- SB-910、SB-900、SB-800、SB-700の場合、1灯で使用する設定にして装着してください。発光モードや補正量はスピードライト側で設定してください。
- SB-500、SB-400、SB-300の場合、そのまま装着してください。発光モードや補正量はカメラの[グループ発光設定]の[マスターフラッシュ]で設定してください。

■ 光制御アドバンストワイヤレスライティングと電波制御アドバンストワイヤレスライティングを併用する場合

カメラにWR-R10とマスターフラッシュとして設定したSB-910、SB-900、SB-800、SB-700またはSU-800を装着すると、静止画撮影メニュー[フラッシュ発光]の[ワイヤレス設定]が[光制御/電波制御AWL]に固定されます。ただし、SB-500を装着した場合は[光制御/電波制御AWL]を選んでください。電波で制御するリモートフラッシュには199ページの「電波制御アドバンストワイヤレスライティングの場合」の準備を行ってください。

- リモートフラッシュのグループは、A～Fの最大6グループまで構成できます。光で制御するリモートフラッシュにはA～C、電波で制御するリモートフラッシュにはD～Fが設定できます。
- 準備完了後、ワイヤレス増灯撮影を行うには202ページの「ワイヤレス増灯撮影を行う」をご覧ください。





ワイヤレス増灯撮影を行う


静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [増灯発光モード] で [グループ発光]、[クイックワイヤレス]、[増灯リピーティング発光] のいずれかを選びます。

■ [グループ発光] で撮影する

リモートフラッシュのグループごとに発光モードを設定できます。


- 1  : [フラッシュ発光] 画面で [グループ発光設定] を選んでマルチセクターの  を押す



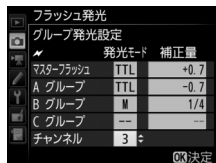
- 2  : 発光モードと調光補正量（または発光量）を設定する

- マスターフラッシュおよびリモートフラッシュグループそれぞれの発光モードと補正量（または発光量）を設定します。
- 設定できる発光モードは次の通りです。



TTL	i-TTL調光を行います (□188)。
 A	絞り連動外部自動調光を行います。ただし、絞り連動外部自動調光に対応していないスピードライトは発光しません。
M	マニュアル発光を行います。
-- (非発光)	リモートフラッシュは発光しません。[補正量] は設定できません。

- [ワイヤレス設定] (□197) で [光制御 AWL] または [光制御/電波制御AWL] を選んだ場合は、[チャンネル] で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル (1~4) を選びます。
- SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを [3] に設定してください。



3 ：光制御の場合は、リモートフラッシュのチャンネルを設定する

- 手順2の「チャンネル」で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

4 ：グループの設定をする



光制御の場合：

- A～Cのグループを設定できます。
- SB-500をマスターフラッシュにしている場合、設定できるグループはAとBのみになります。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。


電波制御の場合：

- A～Fのグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。

5 ：構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。電波制御時は、フラッシュインフォ画面（209）で  ボタンを押して「テスト発光」を選んで、テスト発光を行うこともできます。



6 ：使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

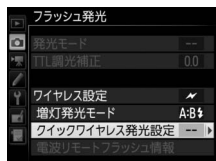
- 電波制御の場合は、全てのスピードライトがフラッシュ撮影可能な状態になると、ファインダー内表示（10）やフラッシュインフォ画面にレディーライトが点灯します。カメラの静止画撮影メニュー「フラッシュ発光」の「電波リモートフラッシュ情報」で確認することもできます。



■ [クイックワイヤレス] で撮影する

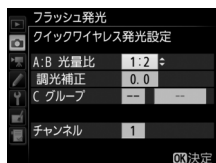
リモートフラッシュのAグループとBグループの光量比、およびCグループの発光量を設定します。Cグループはマニュアル発光のみ使用できます。

- 1  : [フラッシュ発光] 画面で [クイックワイヤレス発光設定] を選んでマルチセクターの  を押す

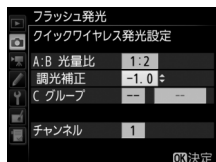


2 : クイックワイヤレスモードの設定をする

- AグループとBグループの光量比を設定する

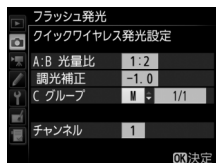


- AグループとBグループの調光補正量を設定する



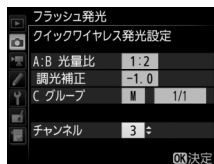
- Cグループの設定をする

- [M] に設定すると発光し、[---] に設定すると発光しません。
- [M] にした場合は設定した発光量でCグループが発光します。



- チャンネルを設定する

- [ワイヤレス設定] (□197) で [光制御 AWL] を選んだ場合は、[チャンネル] で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル (1~4) を選びます。
- SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを [3] に設定してください。



3 光制御の場合は、リモートフラッシュのチャンネルを設定する

- 手順2の [チャンネル] で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

4 光制御の場合は、グループの設定をする

- A~Cのグループを設定できます。

光制御の場合：

- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。

電波制御の場合：

- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。

5 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。電波制御時は、フラッシュインフォ画面 (□209) で **i** ボタンを押して [テスト発光] を選んで、テスト発光を行うこともできます。



6 : 使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

- 電波制御の場合は、全てのスピードライトがフラッシュ撮影可能な状態になると、ファインダー内表示 (□□10) やフラッシュインフォ画面上にレディーライトが点灯します。カメラの静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [電波リモートフラッシュ情報] で確認することもできます。



■ [増灯リピーティング発光] で撮影する

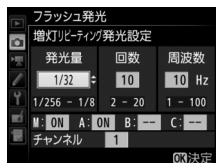
1回の露光中に、増灯したリモートフラッシュを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。

1 : [フラッシュ発光] 画面で [増灯リピーティング発光設定] を選んでマルチセクターの を押す

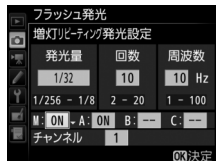


2 : 増灯リピーティング発光モードの設定をする

- 発光量、発光回数、周波数を設定する

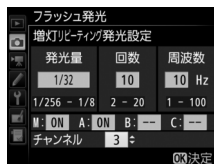


- 発光するかどうかをグループごとに設定する
- [ON] に設定すると発光し、[--] に設定すると発光しません。



● チャンネルを設定する

- [ワイヤレス設定] (□197) で [光制御 AWL] を選んだ場合は、[チャンネル] で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル (1~4) を選びます。
- SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを [3] に設定してください。



3 ㊦：光制御の場合は、リモートフラッシュのチャンネルを設定する

- 手順2の [チャンネル] で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

4 ㊦：グループの設定をする

光制御の場合：

- A~Cのグループを設定できます。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。

電波制御の場合：

- A~Fのグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。

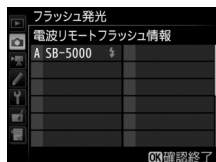
5 ㊦/㊦：構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。電波制御時は、フラッシュインフォ画面 (□209) で **i** ボタンを押して [テスト発光] を選んで、テスト発光を行うこともできます。



6 : 使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する



- 電波制御の場合は、全てのスピードライトがフラッシュ撮影可能な状態になると、ファインダー内表示 (□□10) やフラッシュインフォ画面にレディーライトが点灯します。カメラの静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [電波リモートフラッシュ情報] で確認することもできます。



光制御で増灯撮影する場合のご注意

- リモートフラッシュは、マスターフラッシュの光がセンサー窓に入る位置に置きます。特に、手持ちで撮影するときは、マスターフラッシュの光が確実にセンサー窓に入るようにしてください。
- リモートフラッシュの直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ ([TTL] 設定時) や他のリモートフラッシュの外部自動調光用受光窓 ([⊗A] 設定時) に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- [マスターフラッシュ] の [発光モード] を [---] にした場合でも、リモートフラッシュの発光タイミングを合わせるため、モニター発光とは別に、撮影中にマスターフラッシュが微小発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低いISO感度、または小さい絞り (大きい絞り値) で撮影してください。
- 撮影準備と配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。

増灯撮影時の調光補正と表示について

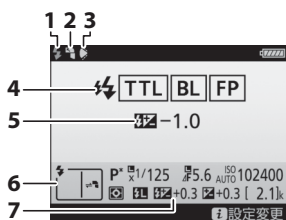
- 増灯撮影時に、 ボタンとサブコマンドダイヤルで調光補正を行うと、マスターフラッシュとリモートフラッシュのそれぞれの [補正量] に加算されます。
- マスターフラッシュとリモートフラッシュのいずれかを [TTL] または [⊗A] にして補正値を0以外に設定すると、上面表示パネルとファインダー内表示に  が点滅します。

スピードライトの設定を確認する

カメラのアクセサリシューにSB-5000、SB-500、SB-400、SB-300を取り付けた場合またはWR-R10を使用して電波でリモートフラッシュを制御している場合、スピードライトの設定内容をカメラのフラッシュインフォ画面で確認できます。フラッシュインフォ画面は、インフォ画面(☐212)表示中に再度**Info**ボタンを押すと表示されます。

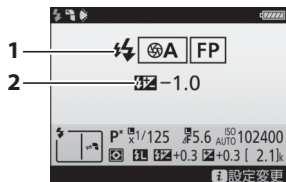
各発光モードの表示について

■ TTL調光



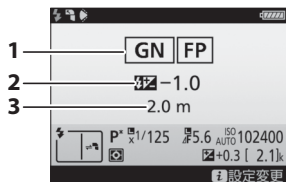
1	レディーライト.....	186
2	バウンスマーク（スピードライトのフラッシュヘッドを正面以外に設定している場合に表示されます）	
3	照射角不適合マーク（照射角の設定が適切でない場合に表示されます）	
4	発光モード.....	189
	FP発光表示.....	331
5	TTL調光補正量.....	193
6	フラッシュモード.....	191
7	調光補正量.....	193

■ 外部自動調光



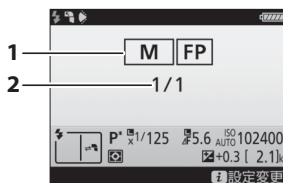
1	発光モード.....	189
	FP発光表示.....	331
2	外部自動調光補正量.....	193

■ 距離優先マニュアル発光



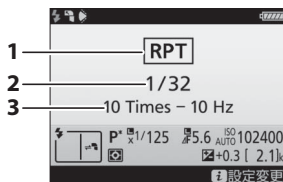
1	発光モード.....	189
	FP発光表示.....	331
2	距離優先マニュアル発光 調光補正量.....	193
3	距離.....	189

■ マニュアル発光



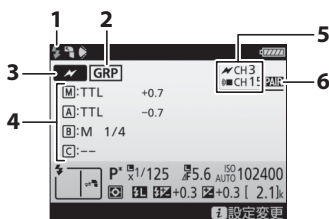
1	発光モード	189
	FP発光表示	331
2	発光量	193

■ リピーティング発光



1	発光モード	189
2	発光量	190
3	回数	190
	周波数	190

■ グループ発光



1	レディーライト※1	203
2	増灯発光モード	202
3	リモートフラッシュの 制御方法※2	197
4	各グループの制御方法※2、3	197
	各グループの発光モード	202
	調光補正量（または発光量）	202
5	チャンネル※2	199、200、202
6	リンクモード	199

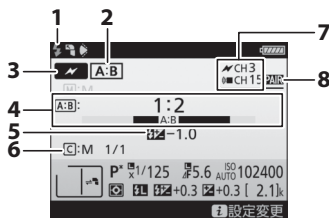


🔪 フラッシュインフォ画面での撮影に関する情報について

フラッシュインフォ画面で、露出モードやシャッタースピード、絞り値、ISO感度など、撮影に関する情報や設定の確認することもできます。

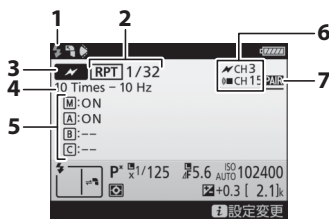


■ クイックワイヤレス





1	レディーライト※1	206
2	増灯発光モード	202
3	リモートフラッシュの 制御方法※2	197
4	AグループとBグループの 光量比	204
5	調光補正量	193
6	Cグループの発光の有無と 発光量	204
7	チャンネル※2	199、200、205
8	リンクモード	199

■ 増灯リピーティング発光




1	レディーライト※1	208
2	増灯発光モード	202
3	リモートフラッシュの 制御方法※2	197
4	回数	206
5	周波数	206
6	各グループの発光の有無	206
7	チャンネル※2	199、200、207
7	リンクモード	199

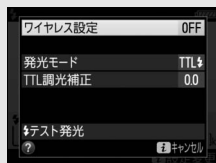
※1 電波制御時、レディーライトは全てのスピードライトがフラッシュ撮影可能な状態になると表示されます。

※2 光制御時は 、電波制御時は 、併用時は両方のアイコンが表示されます。併用時に光制御のチャンネルが表示されるのは、SB-500をマスターフラッシュとして装着している場合のみです。

※3 光制御と電波制御を併用している場合のみ、各グループの制御方法がアイコンで表示されます。

設定を変更する

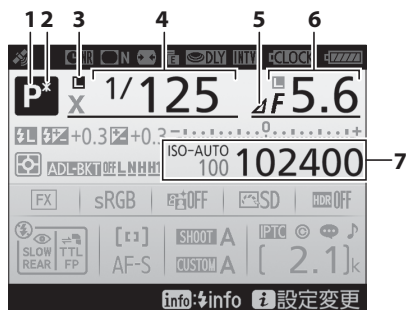
フラッシュインフォ画面表示中に  ボタンを押すと、フラッシュの設定を変更できます。表示される項目は、接続しているスピードライトや設定によって異なります。テスト発光することもできます。



撮影の便利な機能

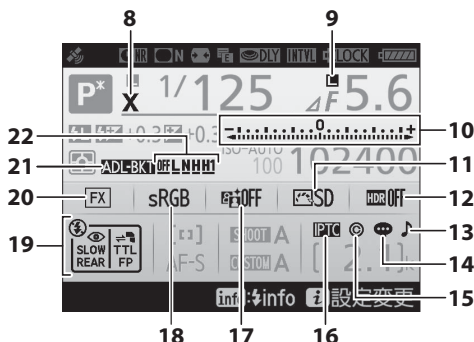
info ボタンを使う

ファインダー撮影時に **info** ボタンを押すと、画像モニターに「インフォ画面」が表示されます。シャッタースピードや絞り値、撮影コマ数、記録可能コマ数、AFエリアモードなど、撮影に関する情報や設定の確認ができます（図は、説明のため全ての表示を点灯させています）。

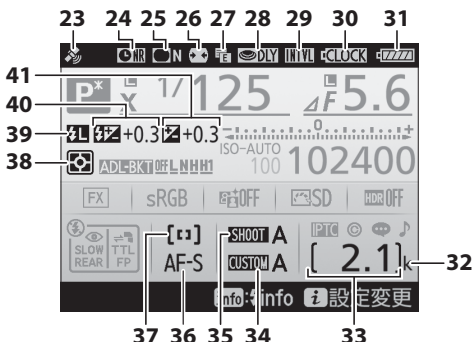


1	露出モード.....	124
2	プログラムシフトマーク	125
3	シャッタースピードロック マーク	132
4	シャッタースピード.....	126、128
	オートブラケティング 撮影コマ数.....	139
	WBブラケティング 撮影コマ数.....	143
	非CPUレンズ焦点距離.....	233
5	絞り込み段数マーク	127、407

6	絞り値	127、128
	絞り込み段数.....	127、407
	オートブラケティング 補正ステップ.....	140
	WBブラケティング 補正ステップ.....	144
	ADLブラケティング 撮影コマ数	146
	非CPUレンズ開放絞り値.....	233
7	ISO感度マーク	117
	ISO感度.....	117
	感度自動制御設定マーク	119



8	フラッシュシンクロマーク.....331	17	アクティブD-ライティング マーク.....179
9	絞り値ロックマーク.....132	18	色空間.....302
10	インジケータ 露出.....129 露出補正.....136 オートブラケティング.....139 WBブラケティング.....143	19	フラッシュモード.....191
11	ピクチャーコントロール マーク.....171	20	撮像範囲表示.....84
12	HDRマーク.....182 HDR露出差.....183 多重露出マーク.....220 多重露出撮影コマ数.....221	21	オートブラケティングマーク...139 WBブラケティングマーク.....143 ADLブラケティングマーク...146
13	電子音マーク.....373	22	オートブラケティング 撮影コマ数表示.....141 WBブラケティング 撮影コマ数表示.....145 ADLブラケティング 度合い表示.....147
14	画像コメント入力設定マーク...366		
15	著作権情報設定マーク.....367		
16	IPTC設定マーク.....368		



23	衛星受信状態マーク	234	33	記録可能コマ数	37、467
24	長秒時ノイズ低減マーク	303		手動設定レンズNo	233
25	ヴィネットコントロール マーク	304	34	カスタムメニュー設定表示	314
26	自動ゆがみ補正	305	35	静止画撮影メニュー設定表示	297
27	電子先幕シャッター	328	36	AFモード	97
28	露出ディレイモード	328	37	AFエリアモード	99
29	インターバルタイマー設定 マーク	227	38	測光モード	122
	微速度撮影設定マーク	76	39	FVロックマーク	196
30	時計用バッテリーチェック マーク	27、431	40	調光補正マーク	193
31	バッテリー残量表示	36		調光補正值	193
32	1000コマ以上補助表示	37	41	露出補正マーク	136
				露出補正值	136

インフォ画面を消灯するには

- シャッターボタンを半押しする
- インフォ画面またはフラッシュインフォ画面の表示中に、**Info** ボタンを押す
操作を行わないまま約10秒経過したときも、インフォ画面は消灯します。

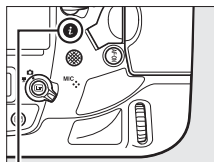
関連ページ

- 画像モニターの点灯時間を変更する → **c4** [モニターのパワーオフ時間] (p.326)
- インフォ画面の表示を手動で白黒反転する → **Y** [インフォ画面の表示設定] (p.361)

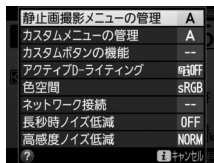
i ボタンを使う

ファインダー撮影時に **i** ボタンを押すと、次のメニューが表示されます。マルチセクターで項目を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。撮影に戻るには、シャッターボタンを半押ししてください。

メニュー項目	📖
静止画撮影メニューの管理	297
カスタムメニューの管理	314
カスタムボタンの機能	334
アクティブD-ライティング	179
色空間	302
ネットワーク接続	268
長秒時ノイズ低減	303
高感度ノイズ低減	303

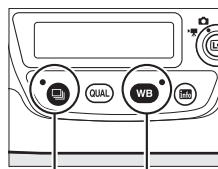


i ボタン



ツートタンリセットで基本的な機能を初期設定に戻す

☐ボタンとWBボタン（それぞれのボタンに緑色の●が付いています）を2秒以上同時に押すと、一瞬上面/背面表示パネルの表示が消え、カメラの機能が次のように初期設定に戻ります。



☐ボタン WBボタン

■ 静止画撮影メニュー項目※1

メニュー項目	初期設定
静止画撮影メニューの拡張	しない
画質モード	NORMAL
画像サイズ	
JPEG/TIFF	サイズL
RAW	サイズL
ISO感度設定	
ISO感度	100
感度自動制御	しない
ホワイトバランス	AUTO0 白を優先する
微調整	A-B: 0、G-M: 0

メニュー項目	初期設定
ピクチャーコントロールの調整値	解除※2
フリッカー低減	
フリッカー低減機能	無効
フリッカー検出の表示	する
多重露出	解除※3
HDR（ハイダイナミックレンジ）	解除※4
インターバルタイマー撮影	解除※5
無音撮影（静止画ライブビュー）	しない

※1 現在選択中の静止画撮影メニュー（「A」～「D」のいずれか）の項目のみが解除されます（多重露出とインターバルタイマー撮影は、全ての静止画撮影メニューで共通です）。

※2 現在選択中のピクチャーコントロールのみ解除されます。

※3 多重露出撮影が中断され、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます。また、多重露出モードが【する（連続）】または【する（1回）】の場合は【しない】に設定されます。コマ数と合成モードは初期設定には戻りません。

※4 HDRモードが【する（連続）】または【する（1回）】の場合は【しない】に設定されます。露出差とスムージングは初期設定には戻りません。

※5 インターバルタイマー撮影が中断されます。開始日時、撮影間隔、撮影回数×1回のコマ数、露出平滑化は初期設定には戻りません。

■ 動画撮影メニュー項目

メニュー項目	初期設定	メニュー項目	初期設定
動画ISO感度設定		ホワイトバランス	静止画の設定と同じ
Mモード時のISO感度設定	100	電子手ブレ補正	しない
Mモード時の感度自動制御	しない		
制御上限感度	102400		

■ その他の撮影関連の機能

機能	初期設定	機能	初期設定
フォーカスポイント※1	中央	ライブビュー時のAFエリアモード	ノーマルエリアAF
プリセットフォーカスポイント	中央	静止画Lv画面のホワイトバランス	撮影時と同じ
露出モード	P	ハイライト表示	しない
プログラムシフト	解除	ヘッドホン音量	15
露出補正	解除 (0.0)	測光モード	マルチパターン測光
AE-L (ホールド)	解除	オートブラケティング	解除※2
コマンドロック (絞り)	解除	フラッシュモード	先幕シンクロ
コマンドロック (シャッタースピード)	解除	調光補正	解除 (0.0)
AFモード	AF-S	FVロック	解除
ファインダー撮影時のAFエリアモード	シングルポイントAF	露出ディレーモード※3	しない

※1 AFエリアモードがオートエリアAFのときは、フォーカスポイントは表示されません。

※2 撮影コマ数が0に設定されます。AE、フラッシュ、WBブラケティングの補正ステップは1になります。ADLブラケティングで撮影コマ数が2コマのときの2コマ目のアクティブD-ライティングの度合いは、**[暗A オート]**になります。

※3 現在選択中のカスタムメニュー(「A」～「D」のいずれか)の項目のみが解除されます。



関連ページ

「初期設定一覧」(□276)



フリッカー低減機能を使う

フリッカー低減機能を使うと、撮影時に蛍光灯や水銀灯などの光源下で生じるちらつきや横縞（フリッカー現象）の影響を低減できます。フリッカー低減機能には、ファインダー撮影時に使う静止画撮影メニューの「フリッカー低減」と、ライブビュー表示中や動画記録時に使う動画撮影メニューの「フリッカー低減」の2種類があります。

■ ファインダー撮影時

- 静止画撮影メニューの「フリッカー低減」で「フリッカー低減機能」を「有効」に設定すると、ファインダー撮影時に「フリッカー現象」の影響が少ないタイミングで撮影できます。



- 「フリッカー検出の表示」を「する」に設定すると、フリッカーを検出しているときにシャッターボタンを半押しした場合、ファインダー内表示に「FL」の文字が点灯します。「FL」が点滅した場合は「フリッカー低減機能」の設定が「無効」になっています。フリッカー現象を低減したい場合は、「フリッカー低減機能」を「有効」に設定してください。

■ ライブビュー表示中および動画記録時

動画撮影メニュー「フリッカー低減」では、ライブビュー表示中（□43）や動画記録中（□58）に、蛍光灯や水銀灯などの光源下で画面に生じるちらつきや横縞（フリッカー現象）を低減できます。



静止画撮影メニュー【フリッカー低減】について

- 撮影の前に、試し撮りをするをおすすめします。
- フリッカー低減機能を使うと、光源によってシャッターのきれるタイミングが少し遅れることがあります。また、連続撮影時は撮影速度が遅くなったり、撮影間隔が一定ではなくなることがあります。
- 電源周波数が50Hzの場合は100Hzの点滅周期を、また電源周波数が60Hzの場合は120Hzの点滅周期を検出します。連続撮影中に光源の点滅周期が変化した場合、フリッカーの影響は低減できません。
- 背景が暗い場合や輝度が高い光源が含まれる場合など光源や撮影条件によっては、フリッカーが検出できなかったり、フリッカー低減の効果が得られないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、フリッカー低減機能の効果が得られないことがあります。
- 増灯時（□197）を除くフラッシュ撮影では、フリッカー低減が機能します。

静止画撮影メニュー【フリッカー低減】の制限について

次の場合など、静止画撮影メニュー【フリッカー低減】が無効になります。

- レリーズモードを「**14コマ/秒（ミラーアップ）**」に設定した場合
- レリーズモード（□110）が**Mup**（ミラーアップ撮影）の場合
- 露出ディレーモード（□328）が有効の場合
- シャッタースピードが1/100秒より低速の場合や、**bulb**（バルブ）または**- -**（タイム）の場合

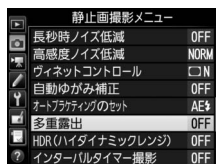


多重露出撮影で1つの画像に重ねて写し込む

多重露出撮影は2～10コマまで重ねて写し込み、1つの画像として記録します。

■ 多重露出の撮影方法

1 静止画撮影メニューの[多重露出]を選んでマルチセレクトの \odot を押す



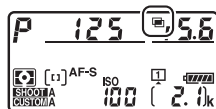
2 [多重露出モード] を設定する

- [多重露出モード] を選んで、 \odot を押します。
- \odot または \odot を押して多重露出モードを設定し、 \odot ボタンを押します。







ON \odot する (連続)	同じ設定で続けて多重露出撮影します。多重露出撮影を解除するには、もう一度[多重露出モード]を選んで[しない]に設定してください。
する (1回)	多重露出撮影を終了すると、多重露出が解除されます。
しない	多重露出撮影を解除します。

- [する (連続)] または [する (1回)] を選ぶと、多重露出の撮影待機状態になり、上面表示パネルに \blacksquare マークが点灯します。







3 [コマ数] (露光回数) を設定する

- [コマ数] を選んで、を押します。
- またはを押して露光回数を設定し、
ボタンを押します。





4 [合成モード] を設定する


- [合成モード] を選んで、を押します。
- またはを押して合成モードを設定し、
ボタンを押します。

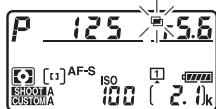


- 合成モードの設定により、撮影した画像の仕上がりが異なります。

加算	全ての露光結果をそのまま重ね合わせます。		
加算平均	<p>重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン（出力）を補正します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各コマのゲインは、「1 ÷ 露光回数」となります。たとえば、露光回数が「2コマ」の場合は1/2、「3コマ」の場合は1/3になります。 		
比較明合成	<p>撮影した画像の中から、画素ごとに明るい方を選んで合成します。</p> 		
比較暗合成	<p>撮影した画像の中から、画素ごとに暗い方を選んで合成します。</p> 		

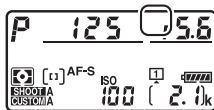
5 1回目の撮影をする


- 撮影を始めると、マークが点滅します。




6 2回目以降の撮影をする




- [する (連続)] の場合、[多重露出モード] で [しない] を選んで多重露出モードを解除するまで、多重露出撮影できます。



- 多重露出モードが [する (1回)] の場合、手順3で設定したコマ数分の撮影をすると、多重露出撮影が解除され、マークが消灯します。

BKTボタンとコマンドダイヤルで多重露出モードとコマ数を設定する

カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] の [BKTボタン+

- BKTボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して  ([しない])、 ([する (1回)])、 ([する (連続)]) から選んでください。
- BKTボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと、上面表示パネルのコマ数が切り替わります。



多重露出撮影時のご注意

- 音声メモは、多重露出撮影終了後に録音できます (□□259)。多重露出撮影中には音声メモは録音できません。
- 多重露出の撮影途中、画像の再生やメニュー画面の表示で画像モニターを点灯した場合、画像モニターが消灯してから操作のないまま30秒程度経過すると、画像が記録されて多重露出が解除されます。撮影間隔が長くなる場合は、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (□□325) を長めに設定すると、多重露出が解除されるまでの時間が延長されます。
- 多重露出撮影中は、ライブビューを開始できません。
- 多重露出モードを [する (連続)] または [する (1回)] に設定していても、ライブビュー表示にすると [しない] になります。
- 多重露出で撮影する場合、ノイズ (ざらつき、むら、すじ) が発生しやすくなります。
- リリースモード (□□110) を **CL**、**CH** に設定するか、**Q** の静音連続撮影に設定した場合、多重露出モードが [する (1回)] のときは、シャッターボタンを押し続けると、多重露出で設定された撮影コマ数の撮影後、多重露出撮影を解除します。[する (連続)] のときは、シャッターボタンを押し続けている間、多重露出で設定された撮影コマ数で多重露出撮影を繰り返します。
- セルフタイマー撮影時 (□□114) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] (□□325) の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3 の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、多重露出で設定した撮影コマ数の撮影が終了した時点で画像が記録されます。
- 多重露出の撮影データ (撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正值、焦点距離、縦横位置情報など) は、1コマ目の内容になります。
- 多重露出による撮影中は、メモリーカードを交換しないでください。
- 多重露出撮影中はメモリーカードの初期化はできません。また、一部のメニュー項目がグレーで表示されて選択できません。

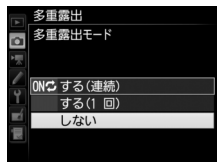


■■ 多重露出撮影を終了するには

設定したコマ数分を撮影する前に多重露出撮影を終了するには、多重露出モードを[しない]に設定します。多重露出撮影を中断すると、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます（[合成モード]を[加算平均]に設定していた場合は、露光回数に合わせてゲイン補正が行われます）。

このほか、次の場合も、多重露出は終了されます。

- ツーボタンリセット（□216）を行ったとき
- カメラの電源をOFFにしたとき
- バッテリーの残量がなくなったとき
- 多重露出中に撮影した画像を削除したとき



🔧 多重露出とインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

多重露出を設定してから1コマ目を撮影する前にインターバルタイマー撮影（□225）を設定すると、設定されたインターバルで多重露出撮影ができます。この場合、[インターバルタイマー撮影]で設定されたインターバルで1コマずつ撮影され、[多重露出]で設定されたコマ数の撮影が終了すると、インターバルタイマー撮影を終了します。多重露出が[する（1回）]の場合は、多重露出も終了します。

設定した間隔で撮影する (インターバルタイマー撮影)

このカメラは、設定した開始方法（即時または設定時刻）と撮影間隔で自動的に撮影を行う、インターバルタイマー撮影が可能です。つぼみがゆっくりと開く様子や、蝶が羽化する様子などを記録したい場合などに便利です。インターバルタイマー撮影は、リリースモードを \odot 以外に設定して撮影してください。

■ インターバルタイマー撮影の開始

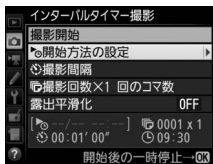
1 静止画撮影メニューの「インターバルタイマー撮影」を選ぶ

- マルチセクターの \odot を押すと、インターバルタイマー撮影の設定画面が表示されます。



2 インターバルタイマー撮影の設定をする

- 開始方法を選ぶ



「開始方法の設定」を選んで \odot を押す

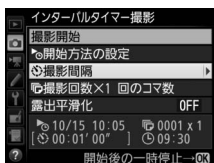


開始方法を選んで \odot ボタンを押す

- インターバルタイマー撮影をすぐに開始する場合は、「即時スタート」を選びます。
- インターバルタイマー撮影の開始日時を設定する場合は、「開始日時設定」を選びます。表示される画面で開始日時を設定して \odot ボタンを押します。



● 撮影間隔（インターバル）を設定する

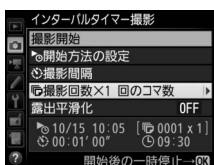


「撮影間隔」を選んで
⏮️を押す



撮影間隔（時、分、秒）
を設定して⏮️ボタンを
押す

● 撮影回数と1回のコマ数を設定する



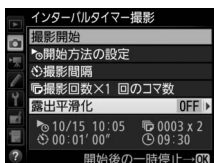
「撮影回数×1回のコマ
数」を選んで⏮️を押す



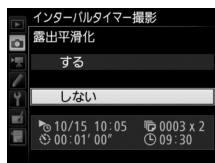
撮影回数と1回で撮影
するコマ数を設定して、
⏮️ボタンを押す

- レリーズモードが**S**の場合、撮影コマ数を2コマ以上に設定すると、カスタムメニュー d1「連続撮影速度」の「低速連続撮影」（□326）で設定された速度で撮影します。

● 露出平滑化をするかどうかを選ぶ



「露出平滑化」を選んで
⏮️を押す

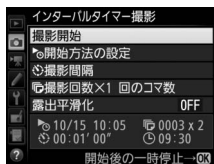


露出平滑化をするかど
うかを選んで⏮️ボタン
を押す

- 「する」を選ぶと、1コマ前に撮影した静止画と大きく明るさが変化しないようにカメラが自動で露出を調整します。ただし、露出モード**M**で静止画撮影メニュー「ISO感度設定」の「感度自動制御」が「しない」の場合、露出の平滑化は行いません。

3 [撮影開始] を選んで **OK** ボタンを押す

- 手順2の「開始方法の設定」で「即時スタート」を選んでいる場合は、約3秒後に撮影を開始します。
- 手順2の「開始方法の設定」で「開始日時設定」を選んでいる場合は、設定した日時に撮影を開始します。
- 設定した撮影間隔とコマ数で撮影を繰り返します。



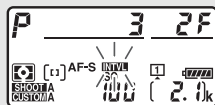
✓ インターバルタイマー撮影を開始する前に

- 試し撮りをすることをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニューの「地域と日時」(□□26) で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- カメラを三脚で固定することをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いください。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを押し上げてアイピースシャッターを閉じることをおすすめします (□□115)。

📎 インターバルタイマー撮影の待機状態について

インターバルタイマー撮影の待機状態では、上面表示パネルに **INTVL** マークが点滅します。撮影直前になるとシャッタースピード表示部に残りの撮影回数を、絞り値表示部にその回の残りの撮影コマ数を、それぞれ表示します。

- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影回数と撮影コマ数を表示します。



■ インターバルタイマー撮影を一時停止するには

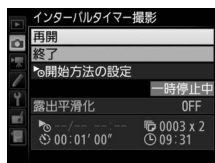
インターバルタイマー撮影を一時停止するには、次の操作を行います。

- 撮影待機中にⓧボタンを押す
- 撮影待機中に静止画撮影メニュー [インターバルタイマー撮影] で [一時停止] を選び、ⓧボタンを押す

■ インターバルタイマー撮影を再開するには

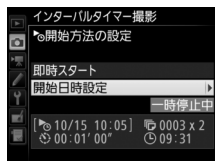
インターバルタイマー撮影を再開する手順は次の通りです。

すぐに再開する場合



[再開] を選んでⓧボタンを押す

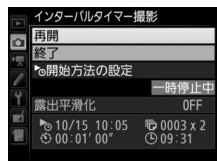
再開する日時を設定する場合



[開始方法の設定] 画面で [開始日時設定] を選びⓧを押す



開始日時を設定してⓧボタンを押す



[再開] を選んでⓧボタンを押す



■ インターバルタイマー撮影を終了するには

インターバルタイマー撮影を終了するには、撮影待機中に静止画撮影メニュー [インターバルタイマー撮影] で [終了] を選び、ⓧボタンを押します。

✓ インターバルタイマー撮影についてのご注意

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードに1回の撮影コマ数を掛けた値よりも長い時間を設定してください。実際のインターバルタイマー撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間などが含まれます。撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、設定した撮影間隔で撮影できず、その回の撮影がキャンセルされることがあります。
- 撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、設定した「**撮影回数×1回のコマ数**」で撮影できないことがあります。
- スピードライトを使用する場合、撮影間隔がスピードライトを充電するために十分な長さに設定されていないと、発光量が不足することがあります。また、1回のコマ数を2コマ以上に設定した場合も充電不足のために発光量が不足する場合があります。
- 設定した開始日時が現在時刻後1分以内の場合や「**撮影間隔**」が「00:00'00"」の場合、シャッタースピードが**bulb**（バルブ）または**-**（タイム）の場合など、インターバルタイマー撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- メモリーカードのメモリー残量がない場合、撮影時刻ごとにカウントは進みますが、実際の撮影は行われません。メモリー残量のあるメモリーカードに交換し、インターバルタイマー撮影を再開してください（□228）。
- 次の場合はインターバルタイマー撮影が一時停止状態になります。
 - 電源をOFFにして、再度ONにしたとき（電源がOFFの間にバッテリーやメモリーカードを交換しても、一時停止状態が持続します）
 - リリースモードを○に切り換えたとき
- インターバルタイマー撮影中にカメラの設定を変更すると、インターバルタイマー撮影が終了する場合があります。
- AFモードが**AF-S**の場合は、撮影ごとにピント合わせを行います。被写体にピントが合わないときに撮影開始予定時刻を8秒過ぎると、その回の撮影をキャンセルして次の回の撮影時刻から撮影を再開します。

🔪 撮影コマ数について

リリースモードに関係なく、1回の撮影ごとに設定された撮影コマ数が撮影されます。

🔪 インターバルタイマー撮影待機中の各種設定について

インターバルタイマー撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作や、画像の再生を行うことができます。ただし、メニュー画面や再生画面を表示している場合、撮影時刻の約4秒前に画像モニターを消灯して、撮影に入ります。



オートブラケティングとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- インターバルタイマー撮影とオートブラケティングを同時に行う場合は、オートブラケティングを先にセットしてからインターバルタイマーを設定してください。
- インターバルタイマー撮影時に AE・フラッシュブラケティング、AE ブラケティング、フラッシュブラケティングまたはADLブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとにオートブラケティングで設定したコマ数が撮影されます。
- インターバルタイマー撮影時にWBブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとに1コマ撮影し、オートブラケティングで設定したコマ数が記録されます。

インターバルタイマー撮影の制限について

インターバルタイマー撮影は、次の機能とは同時に使用できません。

- ライブビュー (□43)
- 微速度撮影 (□73)
- 長時間露出 (バルブまたはタイム) 撮影 (□130)
- カスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能] > [シャッターボタン] > [動画撮影] (□352)

インターバルタイマー撮影の設定について

電源をOFFにしたり、リリースモードを切り換えたりした場合も、設定した内容は記憶されています。


静止画撮影メニューの切り換えとリセットについて

インターバルタイマー撮影設定画面の内容は、全ての静止画撮影メニュー（「A」～「D」）(□297) で共通です。このため、静止画撮影メニューの **「静止画撮影メニューの管理」** で静止画撮影メニューを切り換えても、インターバルタイマー撮影は続行します。また、**「静止画撮影メニューの管理」** で静止画撮影メニューをリセットすると、全ての静止画撮影メニューでインターバルタイマー撮影設定が初期状態（開始方法の設定：即時スタート、撮影間隔：1分、撮影回数×1回のコマ数：1回/1コマ、露出平滑化：しない）にリセットされ、実行中のインターバルタイマー撮影は終了します。



非CPUレンズを使う（レンズ情報手動設定）

このカメラでは、非CPUレンズ装着時も露出モード**A**または**M**で撮影ができます。非CPUレンズを使用する場合、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。セットアップメニューの「**レンズ情報手動設定**」でレンズの情報をカメラに登録すると、非CPUレンズ（□405）を使って撮影するときに、次の機能が使用できるようになります。

- **焦点距離を設定して使用できる機能：**
 - 別売のスピードライトのオートパワーズーム
 - 再生画面での焦点距離表示（焦点距離に*印が付きます）
- **開放絞り値（開放F値）を設定して使用できる機能：**
 - レンズで設定した絞り値表示（上面表示パネル、ファインダー内表示）
 - スピードライトの絞り連動外部自動調光（A）
 - 再生画面での絞り値表示（絞り値に*印が付きます）
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定して使用できる機能：**
 - RGB マルチパターン測光（レフレックスニッコールなど一部のレンズでは、焦点距離と開放絞り値を設定してもRGBマルチパターン測光では十分な精度が得られない場合があります。中央部重点測光またはスポット測光に設定して撮影してください）
- **焦点距離と開放絞り値の両方を設定すると精度が向上する機能：**
 - 中央部重点測光
 - スポット測光
 - i-TTL調光

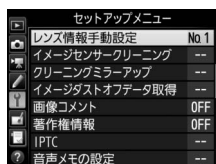


ズームレンズまたはテレコンバーター使用時のご注意

- ズームレンズ使用時やテレコンバーター使用時など、一致する焦点距離が選択項目にないときは、装着レンズの焦点距離に最も近く、かつ大きい値を選んでください。
- テレコンバーターを使用した際の開放絞り値は、合成絞り値を設定してください。

■ レンズ情報の登録方法

- 1 セットアップメニューの「レンズ情報手動設定」を選んでマルチセクターの \odot を押す



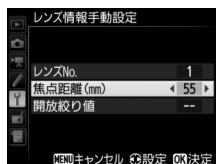
- 2 「レンズNo.」を選ぶ

- \odot または \odot を押して、登録したいレンズNo.を選びます。



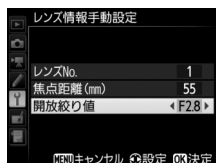
- 3 「焦点距離 (mm)」を選ぶ

- \odot または \odot を押して、レンズの焦点距離を選びます。



- 4 「開放絞り値」を選ぶ

- \odot または \odot を押して、レンズの開放絞り値を選びます。



- 5 \odot ボタンを押して、設定を終了する

- レンズの設定が保存されて、セットアップメニュー画面に戻ります。



■ 手動設定済みレンズ情報の選択方法

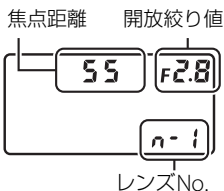
1 カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] (334) で任意のボタンに [手動設定済みレンズの選択] を割り当てる

2 [手動設定済みレンズの選択] を割り当てたボタンを押しながらメインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回す



メインコマンド
ダイヤル

- レンズNo.は上面表示パネルに表示されます。使用したいレンズの番号が表示されるまでメインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回します。



🔍 ズームレンズ装着時について

非CPUズームレンズを装着してズーミングをした場合、変化するレンズの焦点距離や開放絞り値とカメラで設定されているレンズ情報は連動しません。ズーミングを行った場合は、もう一度レンズ情報を設定してください。

位置情報を画像に記録する

このカメラは、10ピンターミナル（□2）に接続したGPS機器により、位置情報を画像に記録することができます。GPS機器と通信して撮影した画像には、再生時の画像情報に位置情報のページ（□250）が追加されます。位置情報を記録するには、次の2つの方法があります。

● 別売のGPSユニットGP-1またはGP-1Aと接続する

GP-1/GP-1Aを接続すると、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）を記録できます。

● 他社製のGPS機器と接続する（□421）

別売のGPS変換コードMC-35を介して、市販の対応GPS機器（□421）と通信し、画像データに撮影時の緯度、経度、標高、UTC（協定世界時）、撮影方位を記録できます。

■■ 別売のGPSユニットGP-1/GP-1Aと接続する

別売のGPSユニットGP-1/GP-1Aは、ニコンデジタルカメラ専用のGPS機器です。カメラとGP-1/GP-1Aの接続方法については、GP-1/GP-1Aの使用説明書をご覧ください。


🔪 GPS機器使用時の表示について

GPS機器との通信状態は、インフォ画面の衛星受信状態マーク📶で確認できます。

- 📶（点灯）：位置情報が確定しています。
- 📶（点滅）：GPS 機器が取得している情報が確定していないため、位置情報は記録されません。📶が点灯するまでお待ちください。
- 📶（消灯）：GPS 機器との通信が2秒以上途絶えると、📶が消灯します。この状態で撮影した画像データには位置情報は記録されません。



■ GPS機器接続時のカメラの設定について

MENUボタンを押して、セットアップメニューの[位置情報]を選んでマルチセクターのを押すと、GPS機器と接続時の半押しタイマーの設定、取得した位置情報の表示、衛星による日時合わせの設定ができます。

- [半押しタイマー] では、カメラとGPS機器を接続しているときの半押しタイマーを設定できます。

有効	カメラを操作していないときは、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (□325) で設定された時間で半押しタイマーがオフになります。 <ul style="list-style-type: none">• カメラのバッテリーの消耗を少なくすることができます。• GP-1/GP-1Aとの接続時には、電源をONにした直後または半押しタイマーがオンになった直後は、カメラが位置情報を取得できるまで半押しタイマーがさらに最大1分間延長されます。• GP-1/GP-1Aとの接続時には、半押しタイマーがオフになっても、位置情報の測位を一定時間継続します。
無効	GPS機器と接続中は、半押しタイマーがオフにならず、位置情報を測位し続けます。

- [情報表示] では、GPS機器接続時に取得した情報を表示します。

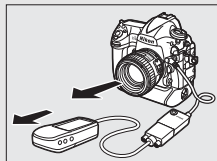
緯度	緯度を表示
経度	経度を表示
標高	標高を表示
方位	撮影方位を表示
UTC	UTC（協定世界時）を表示。 UTC（Coordinated Universal Time＝協定世界時）は、GPS機器と接続して取得された世界標準時で、カメラで設定されている時刻とは別に記録されます。

- [衛星による日時合わせ] が [する] の場合、GPS 機器接続時に取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。GPS機器を使用して日時を合わせないときは、[しない] を選んでください。



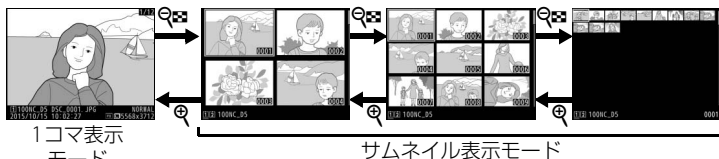
撮影方位について

- 撮影方位は、電子コンパス内蔵のGPS機器と接続して撮影した場合のみ記録されます。
- GP-1/GP-1Aを接続した場合、撮影方位は記録されません。
- 撮影方位を正確に記録したい場合は、カメラからGPS機器を20cm以上離し、撮影する方位にGPS機器の向きを合わせてください。



画像の再生

画像を再生する

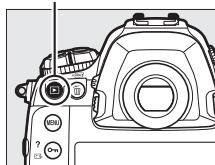


1コマ表示モード

▶ ボタンを押すと、最後に撮影した画像が画像モニターに表示されます。

- マルチセクターの を押すと前の画像が、 を押すと次の画像が表示されます。タッチパネルをフリックしても画像を切り換えられます。
- または を押すと、表示中の画像についての詳しい情報が表示されます (□243)。

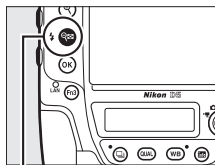
▶ ボタン



サムネイル表示モード

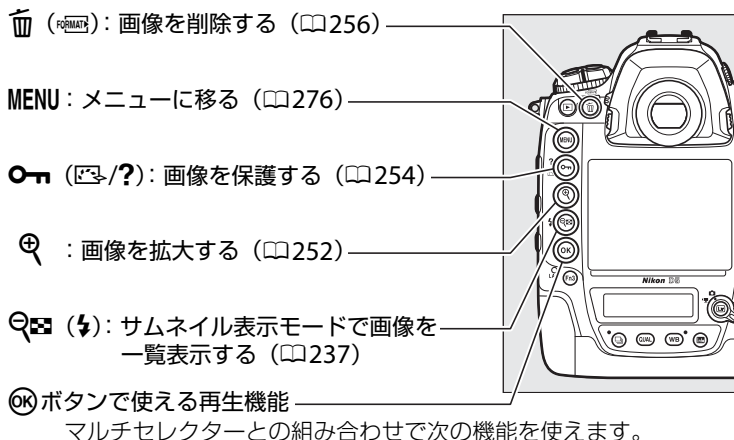
1コマ表示モードのときに () ボタンを押すと、複数の縮小画像 (サムネイル画像) を表示する「サムネイル表示モード」に切り替わります。

- 表示される画像の数は、 () ボタンを押すたびに4コマ、9コマ、72コマの順に増え、 ボタンを押すたびに減ります。
- マルチセクターの またはななめを押して画像を選びます。
- タッチパネルを上下にスライドすると画面をスクロールできます。



() ボタン

画像再生時のボタン操作



OK +	[スロット/フォルダー指定] 画面が表示されます。スロットを選んで▶を押すと、選んだスロット内のフォルダーの一覧が表示されます。フォルダーを選んでOK ボタンを押すと、フォルダー内の画像が表示されます。
OK +	<ul style="list-style-type: none"> • 静止画の場合: 画像編集メニュー (㊞383) が表示されます。 • 動画の場合: 動画編集メニュー (㊞80) が表示されます。
OK +	セットアップメニュー [IPTC] (㊞368) でカメラに登録したIPTCプリセットの一覧が表示されます。IPTCプリセットを選んでOK ボタンを押すと、選んだIPTCプリセットが表示中の静止画に添付されます (すでに画像にIPTCプリセットが添付されている場合は、選んだIPTCプリセットに上書きされます)。
OK +	有線LANまたは無線LAN接続時に、選んだ画像を画像送信モードでパソコンやFTPサーバーに送信できます (㊞268)。

メモリーカードスロットの切り換えについて


サムネイル表示モードの72コマ表示時に🔍 (⚡) ボタンを押して [スロット/フォルダー指定] 画面を表示することもできます。

縦位置で撮影した画像の場合

再生メニューの「縦位置自動回転」(□293)を「する」に設定すると、縦位置で撮影された画像を、右のように縦位置で再生します。




撮影直後の画像確認について

再生メニューの「撮影直後の画像確認」(□291)で「する」が設定されているときは、 ボタンを押さなくても、撮影した画像を自動的に画像モニターに表示します。




- リリースモードがCH、CLのとき、またはQの静音連続撮影のときは、撮影終了後に、最初のコマから順次画像を表示します。
- 縦位置で撮影した状態のまま画像確認がしやすいように、再生メニューの「縦位置自動回転」(□293)を「する」に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

再生時のマルチセレクトの操作について

サムネイル表示中や右のような画像選択画面では、マルチセレクトの またはななめを押して画像を選べます。



関連ページ

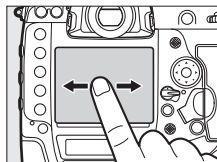
- 画像モニターの表示時間を変更する →  c4 [モニターのパワーオフ時間] (□326)
- マルチセレクトの中央ボタンの機能を変更する →  f2 [中央ボタンの機能] (□345)
- 画像のコマ送りやメニュー操作をコマンドダイヤルで行えるようにする
→  f4 [コマンドダイヤルの設定] の「再生/メニュー画面で使用」(□349)

再生時にタッチパネルでできること

このカメラの画像モニターは、再生時に指で画面にタッチして次の操作ができます。

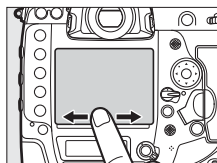
前後の画像を表示する

左右にフリックすると、前後の画像を表示します。



前後の画像を高速で切り換える

1コマ表示時に画面下部をタッチすると、フレームアドバンスバーが表示されます。フレームアドバンスバーに触れたまま指を左右にスライドすると、前後の画像を高速で切り換えられます。

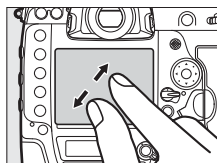


フレームアドバンス
バー

拡大表示する（静止画のみ）

1コマ表示中に広げる操作をするか、画面を素早く2回タッチすると、拡大表示（□252）します。

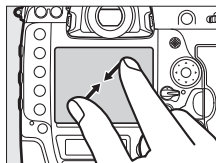
- さらに広げる操作をすると、拡大率が上がります。
- つまむ操作をすると、拡大率が下がります。
- 画面をスライドすると、見たい部分に移動できます。
- 画面を素早く2回タッチすると、拡大表示を解除します。



サムネイル表示する

1コマ表示中につまむ操作をすると、サムネイル表示（□237）します。

- 広げる/つまむ操作をすると、表示コマ数（4コマ/9コマ/72コマ）が切り替わります。



動画を再生する

■が表示されている画像で、操作ガイドにタッチすると再生します。

- 再生中に画面をタッチすると一時停止します。もう一度タッチすると再生を再開します。
- 再生中に⏮にタッチすると、再生を終了して1コマ表示モードに戻ります。
- タッチでは操作できない操作ガイドもあります。



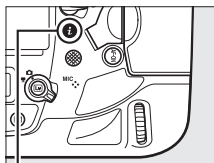
操作ガイド



i ボタンを使う

1コマ表示モードまたはサムネイル表示モードで **i** ボタンを押すと、次のメニューが表示されます。項目を選んでマルチセクターの **▶** を押すと、選んだ項目の設定画面が表示されます。

- 動画再生の一時停止中に **i** ボタンを押すと、動画の編集 (□80) を行えます。
- 再生画面に戻るには、再度 **i** ボタンを押してください。



i ボタン

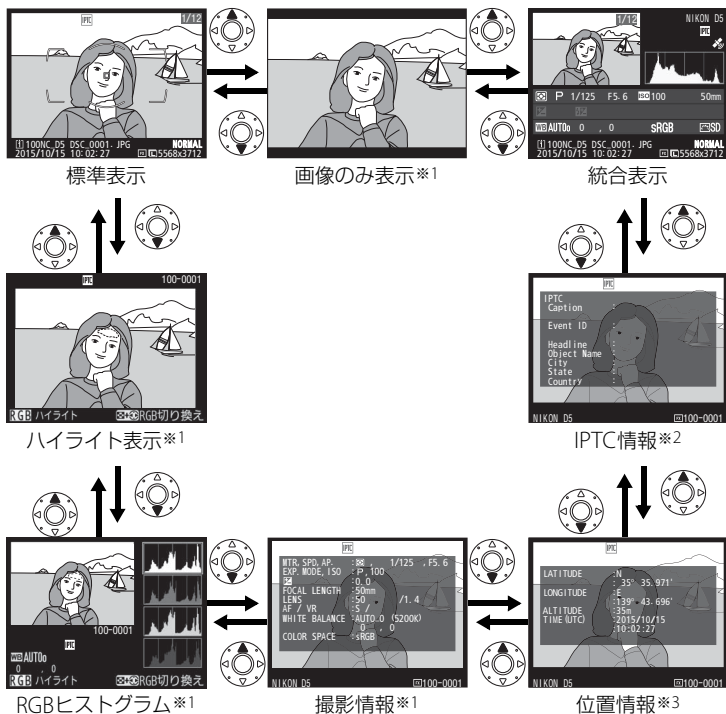


レーティング	選んだ画像にレーティングを設定します (□255)。
送信指定/解除	選んだ画像に送信設定マークを付加します。有線LAN/無線LAN接続時 (□268) に、送信設定マークを付加した画像をパソコンやFTPサーバーに送信します。送信設定マークを付加した画像を選ぶと、画像送信マークを解除します。
IPTC	選んだ静止画に設定したIPTC情報を添付します (□368)。
音声メモの録音	選んだ静止画に音声メモを録音します (□259)。
音声メモの再生	音声メモを再生します (□263)。
画像編集	選んだ静止画を編集できます (□381)。
動画編集	選んだ動画を編集できます (□80)。
スロット/フォルダー指定	スロットとフォルダーを切り換えられます。スロットを選んで ▶ を押すと、選んだスロット内のフォルダーの一覧が表示されます。フォルダーを選んで OK ボタンを押すと、フォルダー内の画像が表示されます。



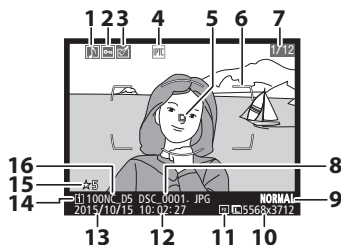
画像情報を表示する

1コマ表示モードでは、画像についての詳しい情報を見ることができます。マルチセクターの \odot または \ominus を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。



- ※1 再生メニューの[再生画面設定] (□287) で設定している場合のみ表示します。
- ※2 IPTCプリセット (□368) を添付した静止画の場合のみ表示します。
- ※3 GPS機器 (□234) を使用して撮影した画像の場合のみ表示します。

標準表示



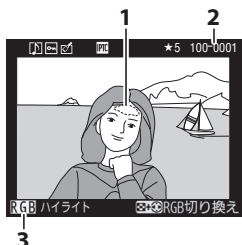
1	音声メモの有無.....	259
2	プロテクト設定の有無.....	254
3	画像編集の有無.....	381
4	IFTCプリセット添付の有無.....	238、368
5	フォーカスポイント※1、2.....	103
6	AFエリアフレーム※1.....	34
7	コマ番号/ フォルダー内全画像数	
8	ファイル名.....	302
9	画質モード.....	88
10	画像サイズ.....	91
11	撮像範囲.....	84
12	撮影時刻.....	26
13	撮影日付.....	26
14	スロット.....	29
15	レーティング.....	255
16	フォルダー名.....	299

※1 再生メニューの[再生画面設定] (□287) で[フォーカスポイント]を設定して、ファインダー撮影した画像を選んだ場合のみ表示します。

- ※2 表示されるフォーカスポイントは、撮影時の設定により、次のように異なります。
- ファインダー撮影時にAFエリアモード (□99) がシングルポイントAF、ダイナミックAFまたはグループエリアAFの場合、またはファインダー撮影時にマニュアルフォーカスで撮影した場合、自分で選んだフォーカスポイントを表示します。
 - ファインダー撮影時のAFエリアモードがグループエリアAF (HL) またはグループエリアAF (VL) の場合、自分で選んだ横一列または縦一列のフォーカスポイントを表示します。
 - ファインダー撮影時のAFエリアモードが3D-トラッキング、オートエリアAFの場合、撮影時にカメラが選んだフォーカスポイントを表示します。

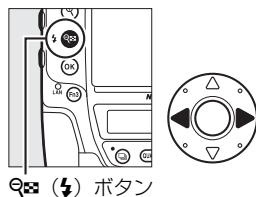


■ ハイライト表示

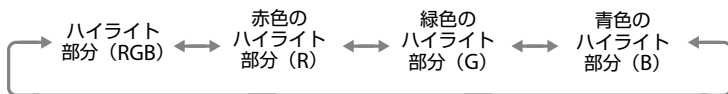


- 1 画像のハイライト部分（画像の中の非常に明るい部分）を各色ごとに点滅表示します※
- 2 フォルダー番号-ファイル名を表す4桁の数字 299
- 3 ハイライト部分が点滅表示している色※

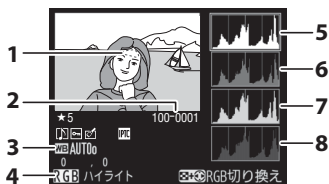
※ () ボタンを押しながらマルチセクターの または を押すと、次のように点滅表示するハイライト部分が切り替わります。



() ボタン

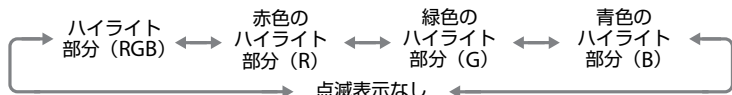
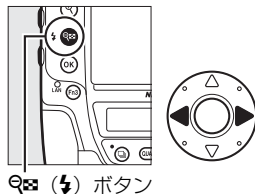


■ RGBヒストグラム



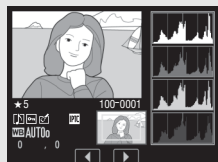
- | | |
|---|--|
| 1 | 画像のハイライト部分を各色ごとに点滅表示します※ 245 |
| 2 | フォルダー番号-ファイル名を表す4桁の数字 299 |
| 3 | ホワイトバランス 149
ホワイトバランス色温度 156
ホワイトバランス微調整 152
プリセットマニュアル 159 |
| 4 | ハイライト部分が点滅表示している色※ |
| 5 | RGBのヒストグラム |
| 6 | 赤色 (R) のヒストグラム |
| 7 | 緑色 (G) のヒストグラム |
| 8 | 青色 (B) のヒストグラム |

※ (⚡) ボタンを押しながらマルチセレクターの または を押すと、次のように点滅表示するハイライト部分が切り替わります。



拡大ヒストグラム表示について

RGBヒストグラム表示で \mathcal{Q} ボタンを押すと、ヒストグラム表示のまま拡大画面になります。拡大ヒストグラム表示では、拡大領域のヒストグラムを表示することができます。また、拡大表示中にマルチセクターを操作すると画面をスクロールして見たい部分に移動できます。 \mathcal{Q} (⚡) ボタンを押すと画像を縮小表示します。



ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、画像の明るさ（輝度）の分布を表すグラフのことです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとのピクセル数を示しています。

- いろいろな明るさの被写体が写っている画像では、グラフの山が全体的に分布したヒストグラムになります。
- 暗い画像はヒストグラムの分布が左側に寄った形になります。
- 明るい画像はヒストグラムの分布が右側に寄った形になります。



露出補正を+側にすれば山が右側に寄り、-側にすれば山が左側に寄ります。屋外などで周りが明るすぎて画像モニターでは画像の明るさが確認しにくいときでも、ヒストグラムから画像全体の露出傾向を確認することができます。

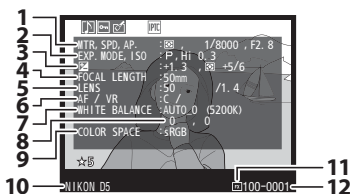
ヒストグラム表示について

- RGBヒストグラムは明るさ（輝度）を表示しています。
- ヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてお使いください。

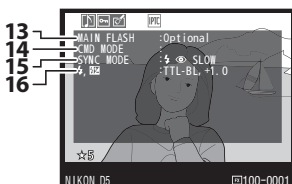


■■ 撮影情報

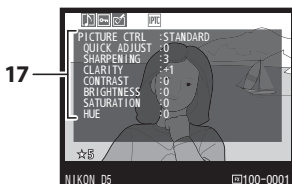
撮影時の設定の詳細を表示します。



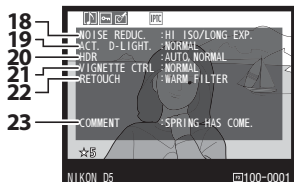
1	測光モード 122
	シャッタースピード 126、128
	絞り値 127、128
2	露出モード 124
	ISO感度※1 117
3	露出補正值 136
	基準露出レベルの調節値※2 324
4	焦点距離 231、409
5	レンズ情報 231
6	フォーカスモード 94
	レンズのVR (手ブレ補正) 機能の ON/OFF※3
7	ホワイトバランス※4 149
8	ホワイトバランス微調整 152
9	色空間 302
10	カメラ名
11	撮像範囲 84
12	フォルダー番号-ファイル名を表す 4桁の数字 299



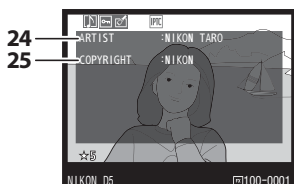
13	フラッシュの種類※5
14	リモートフラッシュの 制御方法※5 197
15	フラッシュモード※5 191
16	フラッシュ発光 モード※5 189、202
	調光補正值※5 193



17	ピクチャーコントロール※6 170
----	-------------------------



18	高感度ノイズ低減.....	303
19	長秒時ノイズ低減.....	303
19	アクティブD-ライティング.....	179
20	HDRの露出差.....	183
20	HDRのスモーキング.....	183
21	ヴィネットコントロール.....	304
22	画像編集メニュー (□381) で行われた 画像編集の内容が一覧表示されます。 複数の画像編集が行われた場合は、順 番に表示されます。	
23	画像コメント.....	366

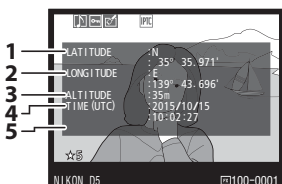


24	撮影者名※7.....	367
25	著作権者名※7.....	367

- ※1 感度自動制御した画像の場合、ISO感度を赤く表示します。
- ※2 カスタムメニュー b7 [基準露出レベルの調節] (□324) を 0 以外に設定している場合のみ表示します。
- ※3 VRレンズ装着時のみ表示します。
- ※4 AUTO (オート) で撮影した場合は、撮影時の色温度が表示されます。
- ※5 別売のスピードライト使用時のみ表示します (□186)。
- ※6 表示される項目は、撮影時に設定したピクチャーコントロールによって異なります。
- ※7 セットアップメニューの [著作権情報] (□367) を設定して撮影した画像の場合のみ表示します。



■■ 位置情報※1 (📖 234)



- | | |
|---|-------------|
| 1 | 緯度 |
| 2 | 経度 |
| 3 | 標高 |
| 4 | UTC (協定世界時) |
| 5 | 撮影方位※2 |

※1 動画の場合は、動画撮影開始時に取得した情報を表示します。

※2 電子コンパス内蔵のGPS機器と接続して撮影した場合のみ表示します。

■■ IPTC情報 (📖 368)



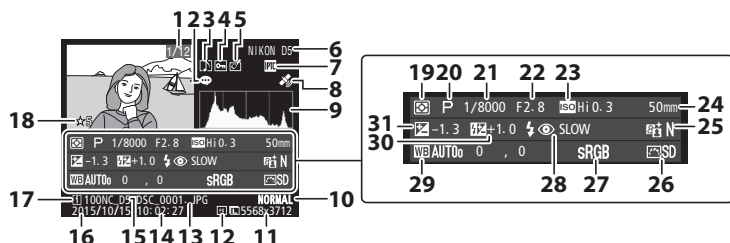
- | | |
|---|-------------|
| 1 | Caption |
| 2 | Event ID |
| 3 | Headline |
| 4 | Object Name |
| 5 | City |
| 6 | State |
| 7 | Country |



- | | |
|----|---|
| 8 | Category |
| 9 | Supp. Cat.
(Supplemental Categories) |
| 10 | Byline |
| 11 | Byline Title |
| 12 | Writer/Editor |
| 13 | Credit |
| 14 | Source |



■ 統合表示



1	コマ番号/ フォルダー内全画像数	18	レーティング	255
2	画像コメントの有無	19	測光モード	122
3	音声メモの有無	20	露出モード	124
4	プロテクト設定の有無	21	シャッタースピード	126、128
5	画像編集の有無	22	絞り値	127、128
6	カメラ名	23	ISO感度※1	117
7	IPTCプリセット添付の有無	24	焦点距離	231、409
8	位置情報の有無	25	アクティブD-ライティングの強度	180
9	画像のヒストグラムを表示します (□247)。	26	ピクチャーコントロール	170
10	画質モード	27	色空間	302
11	画像サイズ	28	フラッシュモード※2	191
12	撮像範囲	29	ホワイトバランス	149
13	ファイル名		ホワイトバランス色温度	156
14	撮影時刻		ホワイトバランス微調整	152
15	フォルダー名		プリセットマニュアル	159
16	撮影日付	30	調光補正値※2	193
17	スロット	31	露出補正値	136

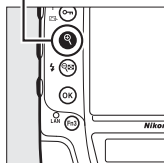
※1 感度自動制御された画像の場合、ISO感度を赤く表示します。

※2 別売のスピードライト使用時にのみ表示します (□186)。



画像を拡大表示する


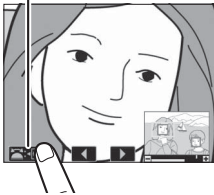



1コマ表示モードのときに Q ボタンまたは**中央ボタン** Q ボタンを押すか、画面を素早く2回タッチすると、拡大表示されます。拡大できる最大の大きさ（長さ比）は、画像サイズが**L**の場合は約21倍、**M**では約16倍、**S**では約10倍です（撮像範囲が**[FX (36×24) 1.0×**の場合）。拡大表示中に人物の顔を認識した場合、最大35人までの顔を白枠で囲み、サブコマンドダイヤルを回して順次移動することができます。



■■ 拡大表示中の操作方法

拡大率を上げる		ボタンを押すか、画面で広げる操作を行うことに拡大率が上がります。	 拡大表示中に拡大率を操作すると、画面の右下にナビゲーションウィンドウが表示され、拡大表示中の部分が黄色い枠で囲んで示されます。ナビゲーションウィンドウの下には拡大率を示すバーが表示され、拡大率が100%の場合、バーの色が緑で表示されます。ナビゲーションウィンドウは数秒すると消えます。
拡大率を下げる		ボタンを押すか、画面でつまむ操作を行うことに拡大率が下がります。	
画面をスクロール（移動）させる		マルチセレクトターを押すか、画面をスライドすると見たい部分に移動できます。マルチセレクトターを押し続けると、高速で移動します。	



人物の顔へ 移動させる		<p>拡大表示中に人物の顔を認識すると、画面右下のナビゲーションウィンドウに白枠が表示されます。サブコマンドダイヤルを回すか、操作ガイドをタッチすると、認識した顔に順次移動します。</p>	<p>操作ガイド</p> 
前後の画像 を見る		<p>メインコマンドダイヤルを回すと、そのままの拡大率と表示範囲で、前後の静止画を表示します（動画を選ぶと、拡大表示を終了します）。画面下部に表示される ◀▶ をタッチしても画像を切り換えられます。</p>	
画像を 保護する	 (📷/?)	<p>表示中の画像にプロテクト（保護）を設定します (📷254)。</p>	
撮影に戻る		<p>シャッターボタンを半押しするか、▶ ボタンを押すと、画像モニターが消灯し、すぐに撮影できます。</p>	
メニュー に移る	MENU	<p>メニューが表示されます (📷276)。</p>	



プロテクトで画像を削除できないように保護をする

大切な画像を誤って削除しないために、画像にプロテクト（保護）を設定できます。ただし、メモリーカードを初期化（フォーマット：□32、357）すると、プロテクトを設定した画像も削除されますのでご注意ください。

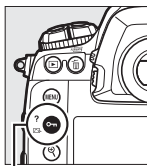
1 プロテクトする画像を選ぶ

- 1コマ表示モード/拡大表示の場合は、プロテクトする画像を表示します。
- サムネイル表示モードの場合は、プロテクトする画像をマルチセクターで選びます。



2 〇 (□/?) ボタンを押す

- 〇 (□/?) アイコンが表示されます。
- 画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（選択）して、〇 (□/?) ボタンを押します。



〇 (□/?) ボタン



🔒 音声メモ付き画像のプロテクトについて

音声メモが録音された画像にプロテクトをかけると、画像と音声メモの両方にプロテクトがかかります。個別に設定することはできません。

🔒 プロテクトの一括解除について

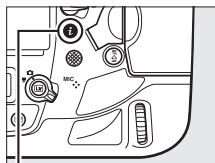
画像の再生中に、〇 (□/?) ボタンと 〠 (RECALL) ボタンを同時に2秒以上押し続けると、再生メニューの「再生フォルダー設定」で設定されているフォルダー内の全ての画像のプロテクトを一括で解除できます。

画像にレーティングを設定する

選んだ画像にレーティングを設定できます。

- 画像に設定したレーティングは、Capture NX-DまたはViewNX-iにも反映されます。プロテクトした画像にはレーティングを設定できません。

1 レーティングを設定する画像を選んで i ボタンを押す



i ボタン

2 [レーティング] を選んでマルチセレクトの [▶] を押す



3 レーティングを設定する

- [1] または [2] を押して、★★★★★～★、星なし、☒ (削除候補) から選びます。
- [OK] ボタンを押して決定します。



Fn3 ボタンを押してレーティングを設定する


カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] で [Fn3 ボタン] を [レーティング] に設定している場合、再生画面で Fn3 ボタンを押しながら [1] または [2] を押してレーティングを設定できます。



画像を削除する

メモリーカードに記録された画像を削除します。削除した画像は元には戻せないのをご注意ください。ただし、プロテクトおよび非表示設定されている画像は削除できません。



ボタン操作で画像を削除する


 (FORMAT) ボタンを押すと、表示中の画像を1コマ削除したり、再生フォルダー内の全ての画像を削除できます。

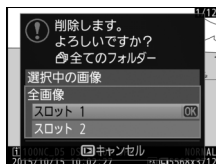
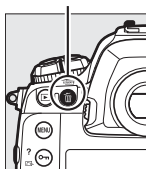
1 削除する画像を選ぶ

- 1コマ表示モードのときは、削除する画像を表示します。
- サムネイル表示モードのときは、削除する画像を選びます。



2 (FORMAT) ボタンを押す

- 削除方法の選択画面が表示されるので、「**選択中の画像**」を選びます。
- **[再生フォルダー設定]** (□286) で設定したフォルダー内の全ての画像を削除するには、マルチセレクターの  を押して、画像を削除するスロットを選びます。
-  ボタンを押すと、画像の削除はキャンセルされます。


 (FORMAT) ボタン



3 画像を削除する



- 選択中の画像を削除する場合は、 (FORMAT) ボタンをもう一度押します。
- 再生フォルダー内の全ての画像を削除する場合は、 ボタンを押します。

関連ページ

画像の削除後に表示される画像を変更する →  **[削除後の次再生画像]** (□292)

複数の画像をまとめて削除する

再生メニューの「削除」では、複数の画像を一括して削除できます。たくさん画像を削除するときは、時間がかかることがあります。

 選択画像削除	選んだ画像を削除します。	
ALL 全画像削除	<p>[再生フォルダー設定] (📁 286) で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。</p> <ul style="list-style-type: none">メモリーカードを 2 枚使用している場合は、画像を削除するスロットを選択できます。	

■ 選択画像削除

- 1 再生メニューの「削除」で「選択画像削除」を選んでマルチセクターの🔍を押す



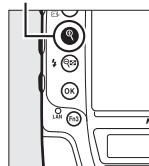
- 2 削除する画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選びます。





- 🔍ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。

🔍ボタン



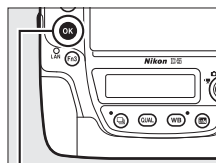
3 設定する

- 中央ボタンを押すと、が表示されます。もう一度中央ボタンを押すと、が消えます。
- 削除する画像全てに設定してください。

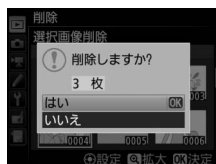


4 設定を完了する

- **OK** ボタンを押して、設定を終了します。
- 確認画面で **はい** を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだ画像が全て削除されます。



OK ボタン



再生メニュー【削除】についてのご注意

音声メモ付き画像を削除する場合、音声メモも同時に削除されます。

音声メモ

音声メモを録音する

撮影した画像に、最長で約60秒の音声メモを録音できます。

再生時に音声メモを録音する

再生画面で、選んだ画像に音声メモを録音できます。

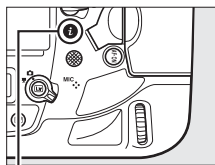
1 音声メモを録音する画像を選ぶ (□237)

- 画像の再生時は、すでに音声メモが録音されている画像 (🔊アイコンが表示されている画像) に対して音声メモを録音することができません。音声メモを削除してから録音してください (□263)。



2 i ボタンを押して [音声メモの録音] を選び、OK ボタンを押す

- 音声メモの録音を開始します。
- 音声メモ録音中は、画像上に🔊アイコンが表示されます。



i ボタン

3 マルチセレクトの中央ボタンを押す

- 録音を終了します。

🔧 Fn3 ボタンを使う

カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] (□334) の [Fn3 ボタン] を [音声メモ] に設定している場合、Fn3 ボタンを押し続けると、その間音声メモが選んだ画像に録音されます。Fn3 ボタンを押している時間が1秒未満の場合、音声メモは録音されません。



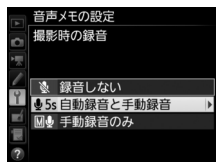
撮影時に音声メモを録音する

最後に撮影した画像に音声メモを録音できます。撮影時の録音には、自動録音と手動録音があります。

■■ 撮影直後に自動的に録音する

セットアップメニュー[音声メモの設定] (□371) の[撮影時の録音]で[自動録音と手動録音]を選ぶと、撮影の後にシャッターボタンから指を放すと(半押しを解除すると)、音声メモが自動的に録音されます。

- 音声メモを録音する時間も[自動録音と手動録音]で選べます。



✓ 撮影直後の画像確認についてのご注意

再生メニューの[撮影直後の画像確認] (□291) が[する]の場合は、自動録音されません。

✓ 撮影時の音声メモ録音の制限について

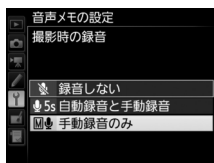
次の場合は、音声メモは録音できません。

- ライブビュー表示中 (□43、58)
- 微速度撮影時 (□73)

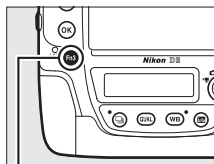
■ 撮影後に手動で録音する

最後に撮影した画像に対して手動で音声メモを録音できます。

- カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] (□334) の [Fn3 ボタン] を [音声メモ] に設定してください。
- セットアップメニュー [音声メモの設定] (□371) の [撮影時の録音] を [手動録音のみ] に設定してください。



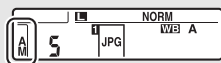
- 画像の撮影後にFn3ボタンを押し続けると、その間音声メモが録音されます。Fn3ボタンを押している時間が1秒未満の場合、音声メモは録音されません。



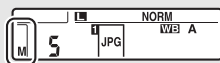
Fn3ボタン

🔑 撮影時の録音設定表示について

[撮影時の録音] が [自動録音と手動録音] または [手動録音のみ] に設定されている場合、背面表示パネルに設定が表示されます。



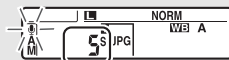
自動録音と手動録音



手動録音のみ

🔑 音声メモ録音中の表示について

音声メモ録音中は、背面表示パネルで🎤アイコンが点滅し、背面表示パネルに録音可能な残り時間のカウンタダウンが秒単位で表示されます。



背面表示パネル

音声メモ録音後の表示について

最後に撮影された画像に、音声メモが録音されている場合は、背面表示パネルで🎤アイコンが点灯します。



背面表示パネル

音声メモが録音された画像には📷アイコンが表示されます。



音声メモの録音終了について

音声メモの録音中にカメラのシャッターボタンやその他のボタンを操作すると、録音が自動的に終了することがあります。また、電源をOFFにしたときや、インターバルタイマー撮影中に撮影時刻の約2秒前になったときも音声メモの録音を終了します。

音声メモの録音先について

メモリーカードを2枚使用しており、静止画撮影メニューの「**スロット2の機能**」(📷93)が「**バックアップ記録**」または「**RAW+JPEG分割記録**」の場合、音声メモはスロット1の画像に記録されます。

音声メモのファイル名について

音声メモを録音すると、DSC_nnnn.WAVという名称の音声ファイルが作成されます。nnnnには対応する画像ファイルの名称と同じ数字が入ります。たとえば、DSC_0002.JPGという画像ファイルに音声メモを録音した場合、DSC_0002.WAVという名称の音声ファイルが作成されます。音声ファイル名はパソコンで確認することができます。

- 静止画撮影メニューの「**色空間**」(📷302)で「**Adobe RGB**」に設定して撮影した画像の場合、音声ファイル名は_DSCnnnn.WAVになります。
- 静止画撮影メニューの「**ファイル名設定**」(📷302)でファイル名の「[DSC]」の3文字を変更して撮影した画像の場合、音声ファイルの「[DSC]」の3文字も同様に変更されます。

関連ページ

- 音声メモを上書きできるようにする → 📖「**音声メモの設定**」の「**撮影時の上書き録音**」(📷371)
- Fn3 ボタンを一度押して録音を開始し、再度押して録音を終了させる → 📖「**音声メモの設定**」の「**録音の操作**」(📷371)



音声メモを再生する

画像の再生時（□237）に[**再生**]アイコンの付いた画像を選んで**i**ボタンを押し、[音声メモの再生]を選んで**OK**ボタンを押すと音声メモを再生できます。



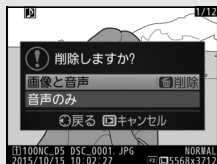
Fn3ボタンを使う

カスタムメニューf1 [カスタムボタンの機能]（□334）の[Fn3ボタン]を[音声メモ]に設定している場合、Fn3ボタンを押すと、音声メモを再生します。もう一度Fn3ボタンを押すか、録音内容が終了すると再生を終了します。

音声メモの削除について

音声メモを削除する場合は、再生画面で**削除**（）ボタンを押します。[選択中の画像]を選んでから**削除**（）ボタンを押すと右のような音声メモ付き画像の削除確認画面が表示されます。

- [画像と音声]を選んで**削除**（）ボタンを押すと、表示中の画像と音声メモを削除します。
- [音声のみ]を選んで**削除**（）ボタンを押すと、音声メモのみを削除します。
- 削除確認画面の表示中に**戻る**ボタンを押すと、画像の削除をキャンセルして、再生画面に戻ります。
- [全画像]削除の場合は、音声メモ付き画像の削除確認画面は表示されません。



音声メモの再生終了について

音声メモの再生中にカメラのシャッターボタンやその他のボタンを操作すると、再生が自動的に終了することがあります。また、電源をOFFにしたときや、他の画像を選んだときも音声メモの再生を終了します。

関連ページ

音声の出力方法を設定する → **Y** [音声メモの設定] の[音声の出力]（□372）



パソコン、プリンター、 テレビとの接続

パソコンに画像を取り込む方法

ViewNX-iをインストールする

ViewNX-iは、画像の転送、閲覧および調整ができるソフトウェアです。ViewNX-iのインストールにはインターネットに接続できる環境が必要です。ソフトウェアの最新情報、動作環境は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

- ViewNX-iは、下記のホームページからViewNX-iの最新のインストーラーをダウンロードし、画面の指示に従ってインストールしてください。

<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>

Capture NX-Dについて

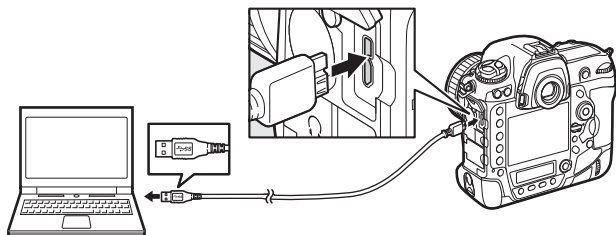
Capture NX-Dは、カメラで撮影した画像を調整したり、RAW現像したりできるニコンのソフトウェアです。Capture NX-Dは下記ホームページからダウンロードしてインストールできます。

<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>

ViewNX-iを使ってパソコンに画像を取り込む

1 パソコンに接続する

- メモリーカードを入れたカメラの電源をOFFにしてから、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続し、カメラの電源をONにします。



2 ViewNX-iのNikon Transfer 2が起動する

- 起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2を選びます。

3 画像をパソコンに取り込む

- 「転送開始」をクリックすると、記録されている画像がパソコンに取り込まれます。



[転送開始]

4 接続を解除する

- カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜きます。

Windows 7をお使いの場合

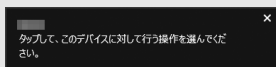
図のような画面が表示されたときは、次の手順でNikon Transfer 2を選びます。



- 1 「画像とビデオのインポート」で使用するプログラムにNikon Transfer 2を選ぶ
• 「画像とビデオのインポート」の「プログラムの変更」をクリックすると表示される画面で、Nikon Transfer 2を選んで、「OK」をクリックします。
- 2 カメラアイコンをダブルクリックする

Windows 10またはWindows 8.1をお使いの場合

パソコンの設定によっては、図のようなダイアログが表示されます。この場合は次の手順でNikon Transfer 2を選びます。



- 1 ダイアログをクリックする
- 2 「画像ファイルを取り込む-Nikon Transfer 2」をクリックする



OS Xをお使いの場合

Nikon Transfer 2が自動起動しないときは、カメラとパソコンを接続した状態で、Mac付属アプリケーションのイメージキャプチャを起動し、カメラを接続時に開くアプリケーションとしてNikon Transfer 2を設定してください。

ViewNX-iの詳しい使い方は

ViewNX-iのヘルプを参照してください。

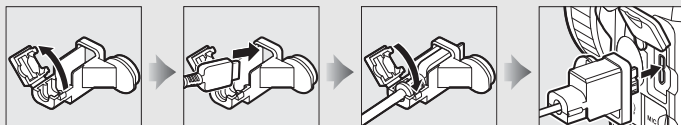


✓ パソコンとの接続時のご注意

- カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源をOFFにしたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。
- ケーブルを接続するときは、端子の挿入方向を確認して無理な力を加えずに、まっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源がOFFになっていることを確認してください。
- カメラとパソコンを接続するときは、十分に充電されたバッテリーをお使いになることをおすすめします。

✓ USBケーブルクリップについて

付属のUSBケーブルクリップを取り付けると、カメラからUSBケーブルが不用意に外れることを防ぐことができます。



✓ USBハブについて

USBハブを使ってカメラをパソコンやプリンターに接続すると、正しく動作しないことがあります。



有線LAN/無線LANを使ってパソコンに画像を転送する

このカメラは、有線LAN（市販のイーサネットケーブルを使用）、無線LAN（別売のワイヤレストランスミッター WT-6またはWT-5）（□418）を装着または接続することにより、パソコンやFTPサーバーと通信できます。

■■ 有線LAN/無線LAN接続時に使える機能

FTP画像送信モード	メモリーカードに記録した静止画および動画や、撮影直後の静止画をパソコンやFTPサーバーに保存できます。
PC画像送信モード	
カメラコントロールモード	別売のCamera Control Pro 2で、カメラをコントロールしたり、撮影した静止画および動画をパソコンに保存できます。
HTTPサーバーモード	パソコンやスマートフォンまたはタブレットのWebブラウザからメモリーカードに記録した画像などの閲覧やリモート撮影ができます。
連動リリース (無線LAN接続時のみ)	マスターカメラのリリースに連動して、複数のリモートカメラをリリースさせることができます。

- 有線LAN/無線LANでD5をネットワークに接続する方法については、付属の「ネットワークガイド」をご覧ください。
- 別売のワイヤレストランスミッター WT-6またはWT-5の使用方法については、各製品の使用説明書をよくお読みください。
- ワイヤレストランスミッターに関連するソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。



画像転送状態でのご注意

画像転送状態のときは、動画の記録および再生はできません。また、静止画撮影メニュー「無音撮影（静止画ライブビュー）」が「する」の場合はライブビュー撮影はできません（画像転送状態とは、有線LAN/無線LANで画像を転送中、または、転送予定の画像が残っている状態のことです）。

動画の転送について

有線LAN/無線LANをお使いの場合、動画は画像送信モードでパソコンに転送できます（「ネットワーク」の「オプション」が「撮影後自動送信」または「フォルダー送信」の場合を除く）。

HTTPサーバーモードについて

HTTPサーバーモードでは、カメラ本体での動画の記録および再生はできません。また、静止画撮影メニュー「無音撮影（静止画ライブビュー）」が「する」の場合、カメラ本体でのライブビュー撮影はできません。

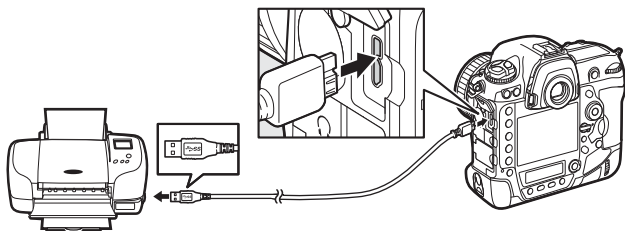


画像をプリンターで印刷する

PictBridge（ピクトブリッジ：□463）対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを付属のUSBケーブルで直接接続してメモリーカード内の画像をプリントできます（ダイレクトプリント）。

カメラとプリンターを接続する

USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐ差し込んでください。



- カメラとプリンターの電源をONにすると、画像モニターにPictBridgeのロゴが表示された後、撮影された画像が表示されます。

✓ダイレクトプリントの前に

- ダイレクトプリント時は、残量が充分にあるバッテリーをお使いください。別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いになることをおすすめします。
- 直接プリントする画像は、静止画撮影メニューの【色空間】を【sRGB】に設定して撮影してください（□302）。

✓USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

✓ダイレクトプリントについてのご注意

- RAW画像およびTIFF画像（□88）はダイレクトプリントできません。RAW画像の場合は画像編集メニューの【RAW現像】（□384）で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- 【フチ設定】と【範囲指定】は、それぞれの機能に対応していないプリンターでは選べません。なお、【範囲指定】で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。



1コマだけプリントする

1 プリントしたい画像を選んでOKボタンを押す

- マルチセクターの④または⑤を押してプリントしたい画像を選びます。
- 1コマ表示中に⑨ボタンを押すと、表示中の画像を拡大表示します(□252)。□ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- ⑨(⚡) ボタンを押して6コマ表示に切り換えて、画像を選ぶことができます。⑨ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
- 6コマ表示中に⑨(⚡) ボタンを押すと、[スロット/ フォルダー指定] 画面が表示されます(□238)。

2 プリント設定の項目を設定する

- [プリント設定] 画面で設定したい項目を選んで⑤を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。設定方法については、「プリント設定項目について」(下記参照)をご覧ください。

3 プリントを開始する

- [プリント実行] を選んで、⑥ボタンを押すとプリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度⑥ボタンを押してください。

■ プリント設定項目について

用紙設定※	プリントする用紙のサイズを選んで⑥ボタンを押します。プリンターが対応する用紙サイズのみが表示されます。
枚数指定	プリントする枚数(1~99枚)を設定して⑥ボタンを押します。
フチ設定※	[あり] を選んで⑥ボタンを押すと、画像にフチを付けてプリントします。
日付プリント※	[あり] を選んで⑥ボタンを押すと、画像に日付をプリントします。
範囲指定	[する] を選んで⑤を押すと、[範囲指定] 画面が表示されます。プリント範囲(黄色の枠)は⑨(⚡) ボタンを押すと狭くなり、⑨ボタンを押すと広がります。マルチセクターを操作するとプリント範囲が移動します。プリント範囲を決定するには⑥ボタンを押します。

※ プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に「プリンターの設定」を選んでください。



複数の画像をプリントする

1 カメラとプリンターを接続し (□270)、撮影した画像が表示されたらMENUボタンを押す

2 プリント方法を選んで、プリントする画像や枚数を設定する

- プリント方法を選んでマルチセクターの▶を押します。

プリント 画像選択	<p>プリントする画像と枚数を選んでプリントします。</p> <ul style="list-style-type: none">• マルチセクターを操作してプリントする画像を選び、 ● (E3/?) ボタンを押しながら ● または ● を押して枚数 (1 ~ 99 枚) を設定して、● ボタンを押します。• ● (E3/?) ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定] 画面が表示されます (□238)。• ● ボタンを押している間は、選択中の画像を拡大表示します。• プリントしない画像は枚数を0にします。
INDEX プリント	<p>メモリーカードの中のJPEG画像 (□88) を一覧できる「インデックス」をプリントします。</p> <ul style="list-style-type: none">• [INDEXプリント] 画面が表示されたら、● ボタンを押します。• インデックスプリントできるのは256コマまでです。メモリーカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります (確認画面が表示されます)。• 用紙サイズによってはプリントできない場合があります (警告メッセージが表示されます)。

3 プリント設定の項目を設定する

- [プリント設定] 画面で設定したい項目を選んで▶を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。[用紙設定]、[フチ設定]、[日付プリント] を設定できます。設定方法については、「プリント設定項目について」(□271) をご覧ください。

4 プリントを開始する

- [プリント実行] を選んで● ボタンを押すと、プリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度● ボタンを押してください。

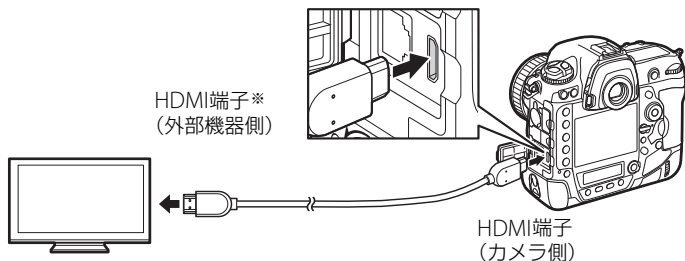
関連ページ

プリント時のエラーについては、「警告メッセージ」(□452) をご覧ください。

画像をテレビで見る

HDMIケーブルを使ってテレビと接続する

カメラをHDMI端子のあるテレビなどと接続することができます。接続には、別売のHDMI端子用ケーブル（□419）または市販のHDMI端子用ケーブル（Type C）が必要です。別途お買い求めください。HDMIケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

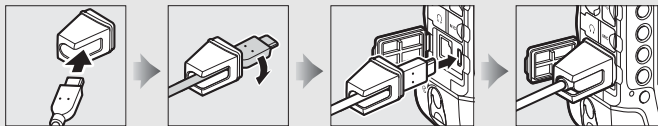


※使用する外部機器の端子に合ったケーブルをお使いください。

- テレビの入力をHDMI入力に切り換え、カメラの電源をONにして▶ボタンを押すと、撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- テレビで動画を再生するときは、音量をテレビ側で調節してください。カメラ側では音量調節できません。

HDMIケーブルクリップについて

付属のHDMIケーブルクリップを取り付けると、カメラから別売のHDMIケーブルが不用意に外れることを防ぐことができます（HDMIケーブルクリップは、市販のHDMI端子用ケーブルには取り付けられません）。



HDMI対応機器との接続時の設定を変更する

セットアップメニュー（□356）の[HDMI]で、HDMI対応機器との接続時の設定を変更できます。

■ 出力解像度

HDMI対応機器への出力解像度を設定できます。

- [出力解像度] が [オート] の場合、出力先の映像信号形式を自動的に検出します。



■ 詳細設定

出力レンジ	<p>ビデオ信号の色階調の入力範囲（RGBレンジ）は、HDMI対応機器によって異なります。通常は、HDMI対応機器に合わせて自動で出力レンジを切り換える[オート]をお使いください。HDMI対応機器のRGBレンジを識別できない場合は、次のいずれかを選んでください。</p> <ul style="list-style-type: none">• リミテッドレンジ：RGBレンジが16～235の機器に適しています。画面で黒色がつぶれて表示される場合に選びます。• フルレンジ：RGBレンジが0～255の機器に適しています。黒色が明るく表示されたり、薄く表示されたりする場合に選びます。
出力画面サイズ	<p>HDMI対応機器の画面に出力する範囲を、95%と100%から選びます（いずれも上下左右とも）。</p>
ライブビュー時の情報表示	<p>HDMI接続してライブビュー撮影をするときに、HDMI対応機器に撮影情報を表示するかどうかを設定します。[しない]の場合は、撮影情報が表示されません。</p>
モニターの同時表示	<p>HDMI対応機器との接続時に、カメラの画像モニターを点灯するかどうかを設定します。[しない]を選ぶと、画像モニターが消灯するため、カメラのバッテリーの消耗を少なくすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none">• [ライブビュー時の情報表示] が [しない] の場合、[モニターの同時表示] は [する] に固定されます。



HDMIとは

High-Definition Multimedia Interfaceの略で、マルチメディアインターフェースのひとつです。このカメラでは別売のHDMI端子ケーブル（Type C）を使ってHDMI対応機器と接続できます（□419）。

テレビでの画像の再生について

- 画像の再生方法は、画像モニターで再生するときと同じです。
- テレビ画面では、画像の周辺部が一部クラテて表示される場合があります。その場合は、セットアップメニュー [HDMI] → [詳細設定] → [出力画面サイズ]（□274）を [95%] に設定してください。
- テレビでの再生などでカメラを長時間使うときは、別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いになることをおすすめします。

音声の出力について

セットアップメニュー [音声メモの設定] の [音声の出力]（□372）を [HDMI出力] に設定すると、音声メモをテレビのスピーカーで再生することができます。

スライドショー

再生メニューの [スライドショー]（□294）では、撮影した画像を1コマずつ連続再生できます。

HDMIケーブル接続時のライブビュー撮影と動画撮影について

HDMIケーブルでカメラとテレビをつなぐと、テレビ画面を見ながらライブビュー撮影や動画撮影を行えます（□45、71）。

市販の外部レコーダーを使った動画記録について

市販の外部レコーダーを使用する場合、次の設定をおすすめします。

- [HDMI] > [詳細設定] > [出力画面サイズ] : [100%]
- [HDMI] > [詳細設定] > [ライブビュー時の情報表示] : [しない]



メニューガイド

初期設定一覧

再生、静止画撮影、動画撮影、カスタム、セットアップの各メニューの初期設定は次の通りです。

- カメラの設定を初期設定に戻すには、次の方法があります。初期設定に戻す方法および戻る項目については、それぞれのページをご覧ください。
 - ツーボタンリセット (□216)
 - 静止画撮影メニューのリセット (□298)
 - 動画撮影メニューのリセット (□307)
 - カスタムメニューのリセット (□314)
 - カメラの初期化 (□380)

再生メニューの初期設定

再生メニュー項目	初期設定
[再生フォルダー設定] (□286)	全てのフォルダー
[撮影直後の画像確認] (□291)	しない
[削除後の次再生画像] (□292)	後ろのコマ
[連続撮影後の再生画像] (□292)	最後の画像
[縦横位置情報の記録] (□293)	する
[縦位置自動回転] (□293)	する
[スライドショー] (□294)	
[再生画像の種類] (□294)	静止画と動画
[インターバル設定] (□294)	2 秒
[音声再生] (□295)	しない

■ 静止画撮影メニューの初期設定

静止画撮影メニュー項目	初期設定
[静止画撮影メニューの拡張] (□298)	しない
[記録フォルダー設定] (□299)	
[フォルダーグループ名変更] (□299)	NC_D5
[フォルダー番号指定] (□299)	100
[ファイル名設定] (□302)	DSC
[スロット2の機能] (□93)	順次記録
[フラッシュ発光] (□189)	
[発光モード] (□189)	TTL調光
[ワイヤレス設定] (□197)	しない
[増灯発光モード] (□202)	グループ発光
[撮像範囲] (□84)	
[撮像範囲設定] (□84)	FX (36×24) 1.0×
[DX自動切り換え] (□85)	する
[画質モード] (□88)	NORMAL
[画像サイズ] (□91)	
[JPEG/TIFF] (□92)	サイズL
[RAW] (□92)	サイズL
[RAW記録] (□90)	
[圧縮方式] (□90)	ロスレス圧縮RAW
[記録ビットモード] (□90)	14ビット記録
[ISO感度設定] (□117)	
[ISO感度] (□117)	100
[感度自動制御] (□119)	しない
[ホワイトバランス] (□149)	オート： AUTO0 白を優先する
[微調整値] (□152)	A-B: 0、G-M: 0
[色温度設定] (□156)	5000K
[プリセットマニュアル] (□159)	d-1
[ピクチャーコントロール] (□170)	スタンダード
[色空間] (□302)	sRGB
[アクティブD-ライティング] (□180)	しない
[長秒時ノイズ低減] (□303)	しない
[高感度ノイズ低減] (□303)	標準
[ヴィネットコントロール] (□304)	標準



静止画撮影メニュー項目	初期設定
[自動ゆがみ補正] (□□305)	しない
[フリッカー低減] (□□218)	
[フリッカー低減機能]	無効
[フリッカー検出の表示]	する
[オートブラケティングのセット] (□□138)	AE・フラッシュ ブラケティング
[多重露出] (□□220) ※	
[多重露出モード] (□□220)	しない
[コマ数] (□□221)	2
[合成モード] (□□221)	加算平均
[HDR (ハイダイナミックレンジ)] (□□181)	
[HDRモード] (□□182)	しない
[露出差] (□□183)	オート
[スムージング] (□□183)	標準
[インターバルタイマー撮影] (□□225)	設定解除
[開始方法の設定] (□□225)	即時スタート
[撮影間隔] (□□226)	1分
[撮影回数×1回のコマ数] (□□226)	0001×1
[露出平滑化] (□□226)	しない
[無音撮影 (静止画ライブビュー)] (□□53)	しない

※ 多重露出撮影中は、1コマ目を撮影してから設定したコマ数分撮影し終わるまで静止画撮影メニューはリセットできません。

■■ 動画撮影メニューの初期設定








動画撮影メニュー項目	初期設定
[ファイル名設定] (□307)	DSC
[動画記録先] (□307)	スロット 1
[撮像範囲] (□68)	
[撮像範囲設定]	FX
[DX自動切り換え]	する
[画像サイズ/フレームレート] (□65)	1920×1080 60p
[動画の画質] (□65)	高画質
[動画ISO感度設定] (□308)	
[Mモード時のISO感度設定] (□308)	100
[Mモード時の感度自動制御] (□308)	しない
[制御上限感度] (□308)	102400
[ホワイトバランス] (□308)	静止画の設定と同じ
[微調整値] (□152)	A-B: 0、G-M: 0
[色温度設定] (□156)	5000K
[プリセットマニュアル] (□159)	d-1
[ピクチャーコントロール] (□309)	静止画の設定と同じ
[マイク感度] (□309)	マイク感度 オート
[録音帯域] (□310)	広帯域
[風切り音低減] (□310)	しない
[高感度ノイズ低減] (□310)	標準
[微速度撮影] (□73)	設定解除
[撮影間隔] (□73)	5秒
[撮影時間] (□74)	25分
[露出平滑化] (□74)	する
[フリッカー低減] (□311)	オート
[電子手ブレ補正] (□311)	しない


■ カスタムメニューの初期設定

カスタムメニュー項目		初期設定
a1	[AF-Cモード時の優先] (□315)	リリース
a2	[AF-Sモード時の優先] (□316)	フォーカス
a3	[AFロックオン] (□317)	
	[横切りへの反応]	3
	[被写体の動き]	(標準)
a4	[3D-トラッキングの顔認識] (□318)	しない
a5	[3D-トラッキングの捕捉領域] (□318)	標準
a6	[AF点数切り換え] (□318)	55点
a7	[縦/横位置フォーカス切換] (□319)	しない
a8	[半押しAFレンズ駆動] (□320)	する
	[非合焦時のリリース]	許可
a10	[AFモードの制限] (□321)	制限しない
a11	[フォーカスポイント循環選択] (□321)	しない
a12	[フォーカスポイント表示の設定] (□322)	
	[マニュアルフォーカス時の表示]	する
	[フォーカスポイントの明るさ設定]	標準
	[ダイナミックAF時のアシスト表示]	する
b1	[ISO感度設定ステップ幅] (□322)	1/3 段
b2	[露出設定ステップ幅] (□322)	1/3 段
b3	[露出・調光補正ステップ幅] (□323)	1/3 段
b4	[露出補正簡易設定] (□323)	しない
b5	[マルチパターン測光] (□324)	顔認識する
b6	[中央部重点測光範囲] (□324)	φ 12 mm
b7	[基準露出レベルの調節] (□324)	
	[マルチパターン測光]	0
	[中央部重点測光]	0
	[スポット測光]	0
	[ハイライト重点測光]	0
c1	[シャッターボタンAEロック] (□325)	しない
c2	[半押しタイマー] (□325)	6 秒
c3	[セルフタイマー] (□325)	
	[時間]	10秒
	[撮影コマ数]	1コマ
	[連続撮影間隔]	0.5秒



カスタムメニュー項目		初期設定
c4	[モニターのパワーオフ時間] (□□326)	
	[画像の再生]	10 秒
	[メニュー表示]	1分
	[インフォ画面表示]	10 秒
	[撮影直後の画像確認]	4 秒
	[ライブビュー表示]	10 分
d1	[連続撮影速度] (□□326)	
	[高速連続撮影]	12コマ/秒
	[低速連続撮影]	5コマ/秒
d2	[連続撮影コマ数] (□□327)	200
d4	[連動リリースモード設定] (□□327)	連動する
d5	[露出ディレーモード] (□□328)	しない
d6	[電子先幕シャッター] (□□328)	無効
d7	[連番モード] (□□328)	する
d8	[ファインダー内格子線表示] (□□329)	しない
d9	[イルミネーター点灯] (□□330)	しない
e1	[フラッシュ撮影同調速度] (□□331)	1/250 秒
e2	[フラッシュ時シャッタースピード制限] (□□332)	1/60 秒
e3	[フラッシュ使用時の露出補正] (□□332)	全体を補正
e4	[⚡使用時の感度自動制御] (□□332)	被写体と背景
e5	[モデリング発光] (□□332)	する
e6	[BKT変化要素 (Mモード)] (□□333)	フラッシュ・ シャッタースピード
e7	[BKTの順序] (□□333)	[0] → [-] → [+]

カスタムメニュー項目		初期設定
f1	[カスタムボタンの機能] (□□334)	
	[プレビューボタン] (□□334)	プレビュー
	[プレビューボタン+ ] (□□341)	設定しない
	[Fn1ボタン] (□□334)	設定しない
	[Fn1ボタン+ ] (□□341)	撮像範囲選択
	[Fn2ボタン] (□□334)	プレビュー
	[Fn2ボタン+ ] (□□341)	設定しない
	[縦位置Fnボタン] (□□334)	AE-L (リリースでリセット)
	[縦位置Fnボタン+ ] (□□341)	設定しない
	[Fn3ボタン] (□□334)	ネットワーク接続
	[AF-ONボタン] (□□334)	AF-ON
	[サブセクター] (□□344)	フォーカスポイント選択
	[サブセクター中央] (□□334)	AE-L/AF-L
	[サブセクター中央+ ] (□□341)	設定しない
	[縦位置AF-ONボタン] (□□334)	AF-ONボタンと同じ
	[縦位置マルチセクター] (□□344)	マルチセクターと同じ
	[上下左右機能入れ換え]	しない
	[BKTボタン+ ] (□□341)	オートブラケットング
	[動画撮影ボタン+ ] (□□341)	設定しない
[レンズのフォーカス作動ボタン] (□□334)	AF-L	
f2	[中央ボタンの機能] (□□345)	
	[撮影モード] (□□345)	フォーカスポイント 中央リセット
	[再生モード] (□□346)	拡大画面との切り換え
	[拡大画面との切り換え]	低倍率 (50%)
f3	[ライブビュー] (□□346)	フォーカスポイント 中央リセット
	[シャッタースピードと絞り値のロック] (□□347)	
	[シャッタースピードのロック]	しない
	[絞り値のロック]	しない

カスタムメニュー項目		初期設定
f4	[コマンドダイアルの設定] (□347)	
	[回転方向の変更] (□347)	露出補正の設定時: □、 シャッタースピード/ 絞り値の設定時: □
	[メインとサブの入れ換え] (□348)	露出設定: しない、 AF設定: しない
	[絞り値の設定方法] (□348)	サブコマンドダイアル
	[再生/メニュー画面で使用] (□349)	しない
	[サブコマンドダイアルで画像送り] (□349)	10 コマ
f5	[マルチセクターの半押し起動] (□350)	しない
f6	[ボタンのホールド設定] (□350)	しない
f7	[インジケータの+/-方向] (□350)	
f8	[ライブビューボタンの設定] (□351)	有効
f9	[※スイッチの機能] (□351)	※の点灯/消灯
g1	[カスタムボタンの機能] (□352)	
	[プレビューボタン] (□352)	インデックスマーキング
	[プレビューボタン+☒] (□355)	設定しない
	[Fn1ボタン] (□352)	設定しない
	[Fn1ボタン+☒] (□355)	設定しない
	[Fn2ボタン] (□352)	設定しない
	[Fn2ボタン+☒] (□355)	設定しない
	[Fn3ボタン] (□352)	設定しない
	[サブセクター中央] (□352)	AE-L/AF-L
	[サブセクター中央+☒] (□355)	設定しない
	[シャッターボタン] (□352)	静止画撮影

■ セットアップメニューの初期設定

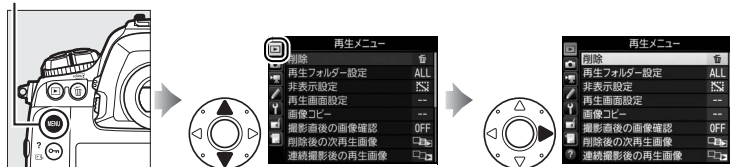
セットアップメニュー項目	初期設定
[地域と日時] (□358)	
[夏時間の設定]	しない
[モニターの明るさ] (□358)	
[メニュー / 再生]	0
[ライブビュー]	0
[モニターのカラースタマイズ] (□359)	A-B: 0、G-M: 0
[インフォ画面の表示設定] (□361)	自動
[イメージセンサークリーニング] (□426)	
[電源スイッチに連動] (□427)	電源ONとOFFで実行
[音声メモの設定] (□371)	
[撮影時の録音] (□371)	録音しない
[撮影時の上書き録音] (□371)	禁止
[録音の操作] (□371)	押し続けている間録音
[音声の出力] (□372)	スピーカー / ヘッドホン
[電子音設定] (□373)	
[音量]	電子音なし
[音の高さ]	低音
[タッチ操作] (□374)	
[タッチ操作の設定]	有効
[1 コマ送り時のフリック操作]	左→右
[HDMI] (□274)	
[出力解像度]	オート
[詳細設定]	
[出力レンジ]	オート
[出力画面サイズ]	100%
[ライブビュー時の情報表示]	しない
[モニターの同時表示]	する
[位置情報] (□235)	
[半押しタイマー]	有効
[衛星による日時合わせ]	する
[リモコン (WR) 設定] (□374)	
[LEDランプの点灯] (□374)	する
[リンクモード] (□375)	ペアリング
[リモコン (WR) のFnボタンの機能] (□375)	設定しない
[カードなし時リリース] (□376)	リリース許可



▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能

MENUボタンを押して、タブの▶アイコンを選ぶと、再生メニューが表示されます。

MENUボタン



再生メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目	📖
削除	257
再生フォルダー設定	286
非表示設定	286
再生画面設定	287
画像コピー	288
撮影直後の画像確認	291

メニュー項目	📖
削除後の次再生画像	292
連続撮影後の再生画像	292
縦横位置情報の記録	293
縦位置自動回転	293
スライドショー	294

🔗 関連ページ

「再生メニューの初期設定」(📖276)



画像はメモリーカード内のフォルダーに保存されます。


画像の再生 (□237) 時に表示するフォルダーを設定します。

(フォルダーグループ名)	D5 で作成された全てのフォルダー内の画像を再生します。フォルダーグループ名は静止画撮影メニュー [記録フォルダー設定] の [フォルダーグループ名変更] (□299) で変更できます。
全てのフォルダー	メモリーカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。
記録中のフォルダー	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。

非表示設定




非表示設定した画像は、非表示設定画面以外では表示されません。

1 [設定] を選ぶ

- [設定] を選んでマルチセレクトの  を押すと、画像の選択画面が表示されます。



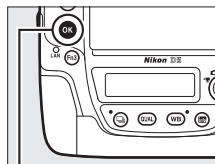
2 非表示する画像を選ぶ

- マルチセレクトを操作して画像を選び、中央ボタンを押して設定します。設定すると  が表示されます。もう一度中央ボタンを押すと、 が消えます。
- 非表示にする画像全てに設定してください。
-  ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。



3 設定を完了する

- **OK** ボタンを押して、設定を終了します。



OK ボタン

✓ 非表示設定についてのご注意

- メモリーカードを初期化すると、非表示設定した画像も削除されますのでご注意ください。
- プロテクトと非表示の両方を設定した画像の非表示設定を解除すると、プロテクト設定も解除されます。

✎ 設定した非表示設定を一括で解除したいときは

「非表示設定」画面で「一括解除」を選ぶと、「非表示設定」で設定した内容を全て解除します。

再生画面設定

MENU ボタン → 再生メニュー

標準表示画面（ 244）で、選んだフォーカスポイントまたはピント合わせに使用したフォーカスポイントを表示するかどうかを設定できます。また、1コマ表示時の画像情報表示に、画像のみ表示、ハイライト表示、RGBヒストグラム表示、撮影情報表示、統合表示を追加します。

- 追加したい項目を選び、マルチセクターの を押してチェックボックスをオン ☒ にします。もう一度 を押すと、チェックボックスがオフ ☐ になります。
- **OK** ボタンを押すと、設定を完了します。




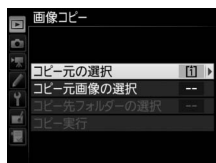
メモリーカードを2枚使用しているときに、メモリーカード内の画像をもう一方のメモリーカードにコピーできます。

コピー元の選択	コピーしたい画像があるスロットを選びます。
コピー元画像の選択	コピーしたい画像を選びます。
コピー先フォルダーの選択	「コピー元の選択」で選ばなかったスロットにあるフォルダーを画像のコピー先として選びます。
コピー実行	コピーを実行します。


■■ 画像のコピー方法

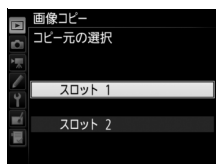
1 「コピー元の選択」を選ぶ

- 「コピー元の選択」を選んでマルチセクターの  を押すと、「コピー元の選択」画面が表示されます。




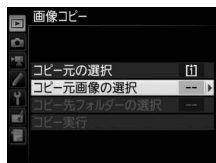
2 コピーしたい画像があるスロットを選ぶ

- コピーしたい画像が入っているカードのスロットを選んで  ボタンを押すと、「画像コピー」画面に戻ります。




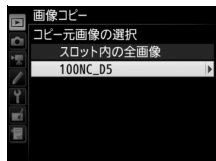
3 「コピー元画像の選択」を選ぶ

- 「コピー元画像の選択」を選んで  を押すと、「コピー元画像の選択」画面が表示されます。



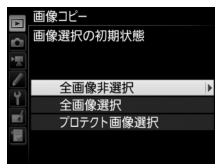
4 コピー元画像があるフォルダーを選ぶ

- コピー元画像のあるフォルダーを選んで  を押すと、「画像選択の初期状態」画面が表示されます。



5 画像の選択方式を選ぶ

- コピー画像の選び方は、次の3通りがあります。



全画像非選択	フォルダー内の全ての画像が選ばれていない状態で表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• コピーする画像を1枚ずつ自分で選びたい場合に適しています。
全画像選択	フォルダー内の全ての画像が選ばれた状態で表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• フォルダー内の全画像をコピーしたい場合に適しています。
プロテクト 画像選択	フォルダー内のプロテクトされている画像だけが選ばれた状態で表示されます。

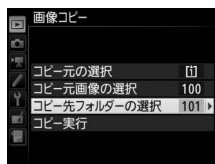
6 コピーする画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選んで中央ボタンを押すと、✓が表示されます。もう一度中央ボタンを押すと、✓が消えます。
- ④ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- コピーしたい全ての画像に✓を入れてから④ボタンを押すと、[画像コピー] 画面に戻ります。




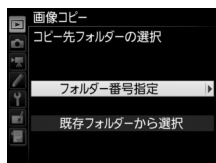
7 [コピー先フォルダーの選択] を選ぶ

- [コピー先フォルダーの選択] を選んで④を押すと、[コピー先フォルダーの選択] 画面が表示されます。




8 コピー先フォルダーの選択方法を選ぶ

- コピー先フォルダーの選択方法を選んで  を押します。




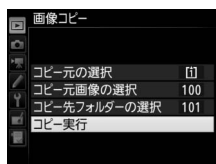
フォルダー番号指定	コピー先のフォルダー番号を入力して指定します (□□299)。指定したフォルダー番号のフォルダーがない場合は、フォルダーを新規作成します。	
既存フォルダーから選択	既存フォルダーの一覧表示から、コピー先フォルダーを選びます。	

9 コピー先フォルダーを選ぶ



- それぞれの画面で、フォルダー番号を指定または選んで  ボタンを押すと、コピー先フォルダーを設定して [画像コピー] 画面に戻ります。

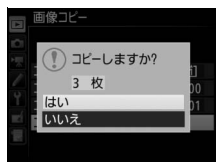
10 [コピー実行] を選ぶ

- [コピー実行] を選んで  ボタンを押すと、コピーの確認画面が表示されます。



11 [はい] を選ぶ

- [コピーしますか?] というメッセージと、コピーする枚数が表示されます。
- [はい] を選んで  ボタンを押すと、コピーを実行します。
- コピーが終了したら、もう一度  ボタンを押してコピーを完了します。



✓ 画像コピーについてのご注意

- コピー先メモリーカードの残量がない場合、コピーできません。
- コピー先フォルダーに同じファイル番号が存在する場合、右のような画面が表示されます。このとき、**「上書き」** または **「全て上書き」** を選ぶと、コピー元の画像に上書きされますのでご注意ください。ただし、コピー先の画像にプロテクトまたは非表示が設定されている場合は、上書きできません。**「スキップ」** を選ぶと、上書きせずに残りの画像のコピーを続けます。**「キャンセル」** を選ぶと、コピーを中止します。
- プロテクトとレーティングの設定および音声メモはコピー先の画像に引き継がれます。
- 非表示設定した画像はコピーできません。
- 動画をコピーするときは、バッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリーをお使いください。



撮影直後の画像確認

MENUボタン → 再生メニュー




撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。**「しない」** を選んだ場合に撮影画像を表示確認するには、**再生ボタン**を押してください。



削除後の次再生画像

MENU ボタン → 再生メニュー

画像を削除した後に表示する画像を設定できます。

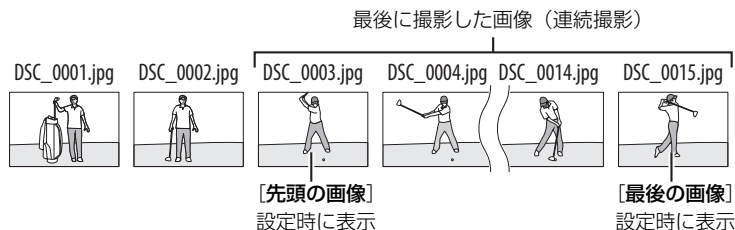
 後ろのコマ	削除した画像の次に撮影した画像を表示します。 最後の画像を削除した場合は、1つ前の画像を表示します。
 前のコマ	削除した画像の前に撮影した画像を表示します。 最初の画像を削除した場合は、次に撮影した画像を表示します。
 直前コマ送り 方向に従う	<ul style="list-style-type: none"> 直前のコマ送りが前の画像から後の画像の順番のときは、「後ろのコマ」と同じ動作になります。 直前のコマ送りが後の画像から前の画像の順番のときは、「前のコマ」と同じ動作になります。

連続撮影後の再生画像




MENU ボタン → 再生メニュー

最後に撮影した画像が連続撮影の場合、画像を再生したときに連続撮影した最初のコマまたは最後のコマのどちらを表示するかを設定できます。

- 再生メニュー **「撮影直後の画像確認」** (□291) が **「しない」** に設定されている場合のみ有効です。



撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。

<p>する</p>	<p>画像モニターやCapture NX-DまたはViewNX-iで画像を再生するときに、記録した縦横位置情報を利用して、自動的に回転表示されます。</p> <p>記録されるカメラの縦横位置情報は、次の3種類です。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>横位置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>縦位置 時計回りに 90°回転</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>縦位置 反時計回りに 90°回転</p> </div> </div>
<p>しない</p>	<p>縦横位置情報は記録されず、再生時には常に横位置で表示します。</p>

✓ 縦横位置情報記録についてのご注意

カメラを上向きまたは下向きにして撮影したり流し撮りすると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

縦位置自動回転

MENU ボタン → [再生メニュー]

[する] に設定すると、縦位置で撮影した画像を自動的に回転して表示します。

- 自動的に回転して表示するには、[縦横位置情報の記録] も [する] に設定しておく必要があります。

✓ 縦位置自動回転についてのご注意

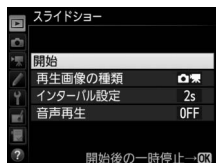
[縦位置自動回転] を [する] に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

撮影した画像を記録された順番に1コマずつ連続再生します。[再生フォルダー設定] (□286) で設定されたフォルダー内の画像が記録された順番で再生されます。ただし、[非表示設定] (□286) されている画像は再生されません。



開始	スライドショーを開始します。
再生画像の種類	スライドショーで再生する画像の種類を「静止画と動画」、[静止画のみ]、[動画のみ] から選べます。
インターバル設定	1コマの静止画を表示する時間を設定します。
音声再生	スライドショー中の音声メモを自動的に再生できます (□295)。

■ スライドショーを再生する

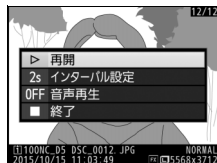
[開始] を選んで OK ボタンを押すと、スライドショーが始まります。スライドショーの再生中は、次の操作が可能です。



1コマ進む/ 戻る		マルチセレクトターの ◀ を押すと前の画像が、▶ を押すと次の画像が表示されます。
画像情報を 切り換える		⬆ または ⬇ を押すと、静止画再生時に画像情報の切り換えができます (□243)。画像情報を「画像のみ」に切り換えると、画像だけをスライドショーで再生できます。
一時停止する		スライドショーが一時停止します(音声メモの再生は停止しません)。「再開」を選んで OK ボタンを押すと、スライドショーが再開します。
動画再生中に 音量を調節する		⬆ ボタンを押すと音量が大きくなり、⬇ ⬆ ボタンを押すと小さくなります。
再生メニューに 戻る	MENU	スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。

通常再生に 戻る		スライドショーを中止して、1コマ表示モードまたはサムネイル表示モードに戻ります (□237)。
撮影に戻る		シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影できます。

再生が終わると、右のような画面が表示されます。**[再開]**を選んで \odot ボタンを押すと、スライドショーが再開します。**[終了]**を選んで \odot ボタンを押すと、スライドショーが終了します。



■ 音声再生

静止画に音声メモが録音されている場合、スライドショー中に音声メモを自動的に再生できます。


する		スライドショー中に音声メモを再生します。マルチセレクトの \odot を押すと音声メモ再生について設定できます。
	インターバル 設定優先	音声メモの録音時間が [インターバル設定] (□294) で設定した画像の表示時間よりも長い場合、音声メモの再生は途中で終了します。
	音声時間優先	音声メモの録音時間が [インターバル設定] で設定した画像の表示時間よりも長い場合、音声メモの再生が完了してから次の画像を再生します。
しない		スライドショー中に音声メモを再生しません。

動画の音声再生について

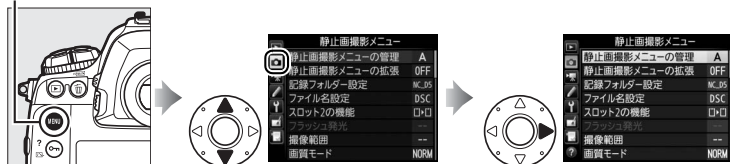
動画をスライドショーで再生する場合、動画の音声は、**[音声再生]** の設定にかかわらず、再生されます。

静止画撮影メニュー：

静止画撮影で使える便利な機能

MENUボタンを押して、タブのアイコンを選ぶと、静止画撮影メニューが表示されます。

MENUボタン



静止画撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	📖
静止画撮影メニューの管理	297
静止画撮影メニューの拡張	298
記録フォルダー設定	299
ファイル名設定	302
スロット2の機能	93
フラッシュ発光	189
撮像範囲	84
画質モード	88
画像サイズ	92
RAW記録	90
ISO感度設定	117
ホワイトバランス	149
ピクチャーコントロール	170

メニュー項目	📖
カスタムピクチャーコントロール	175
色空間	302
アクティブD-ライティング	179
長秒時ノイズ低減	303
高感度ノイズ低減	303
ヴィネットコントロール	304
自動ゆがみ補正	305
フリッカー低減	218
オートブラケティングのセット	138
多重露出	220
HDR（ハイダイナミックレンジ）	181
インターバルタイマー撮影	225
無音撮影（静止画ライブビュー）	53

関連ページ

「静止画撮影メニューの初期設定」(□277)

カメラは、静止画撮影メニューの設定内容を、「A」、「B」、「C」、「D」の4通り記憶できます。それぞれの静止画撮影メニューで設定した内容は、他の静止画撮影メニューには反映されません。ただし、ピクチャーコントロールの調整値（クイック調整および手動調整）、**〔静止画撮影メニューの拡張〕**、**〔多重露出〕**、**〔インターバルタイマー撮影〕**での設定は、全ての静止画撮影メニューで共通になります。



〔静止画撮影メニューの管理〕で「A」、「B」、「C」、「D」のいずれかを選んでから静止画撮影メニューの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容は、設定時の静止画撮影メニューを選び直すことで呼び出せます。

静止画撮影メニュー設定表示について

上面表示パネルとインフォ画面には、**SHOOT**と静止画撮影メニュー名（「A」～「D」）が表示されます。



関連ページ

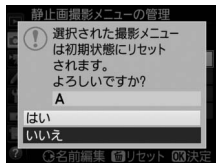
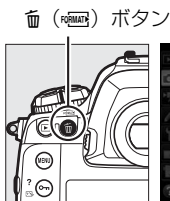
- 露出モード、シャッタースピード、絞り値、フラッシュモードも静止画撮影メニューに記憶する →  **〔静止画撮影メニューの拡張〕** (□298)
- ボタン操作で、静止画撮影メニューの「A」～「D」を切り換えられるようにする →  f1 **〔カスタムボタンの機能〕** (□334)

■■ 名前編集

静止画撮影メニュー「A」～「D」の名前を編集するには、名前を変更したい静止画撮影メニューを選んでマルチセクターの \odot を押します。名前は20文字まで入力できます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください(□176)。

■■ 静止画撮影メニューのリセット

静止画撮影メニュー「A」～「D」を個別にリセットできます。リセットしたい静止画撮影メニューを選んで FORMAT ボタンを押すと、確認画面が表示されます。[はい]を選んで \odot ボタンを押すと、選んだ静止画撮影メニューの設定をリセットして初期設定に戻します(□277)。



静止画撮影メニューの拡張

MENUボタン → \odot 静止画撮影メニュー

[する] を選ぶと、静止画撮影メニュー（「A」～「D」）ごとに露出モード、シャッタースピード（露出モードS、Mのみ）、絞り値（露出モードA、Mのみ）、フラッシュモードを記憶できます。

- [静止画撮影メニューの管理] で「A」、「B」、「C」、「D」のいずれかを選んでから露出モード、シャッタースピード、絞り値、フラッシュモードの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容は、設定時の静止画撮影メニューを選び直すことで呼び出せます。
- [しない] を選ぶと、[する] を選ぶ前に設定した露出モード、シャッタースピード、絞り値、フラッシュモードに戻ります。

撮影した画像を保存するフォルダーについての設定を行います。

フォルダー名



フォルダー番号 フォルダーグループ名

■ フォルダーグループ名変更

このカメラのフォルダーには、末尾に「NC_D5」というフォルダーグループ名が付きます。[フォルダーグループ名変更] では、新規フォルダーを作成する場合の「NC_D5」の5文字を任意に変更できます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください (□176)。

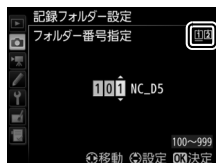
- 既存のフォルダー名は変更できません。
- 文字入力画面で (FORMAT) ボタンを長押しすると、フォルダーグループ名を初期設定に戻せます。

■ フォルダー番号指定

画像を保存するフォルダーを、フォルダー番号を指定して変更します。指定したフォルダーが存在しない場合、新規フォルダーを作成します。

1 [フォルダー番号指定] を選ぶ



- [フォルダー番号指定] を選んでマルチセクターの を押すと、[フォルダー番号指定] 画面が表示されます。
- [フォルダー番号指定] 画面の右上には、フォルダーを作成するスロットが下線で強調されて表示されます。フォルダーを作成するスロットは、静止画撮影メニュー [スロット2の機能] (□93) の設定によって異なります。










2 フォルダー番号の桁を選ぶ

- または を押して、フォルダー番号の変更したい桁を選びます。





3 フォルダー番号を変更する

- またはを押して、フォルダー番号の数値を変更します。

4 フォルダー番号を設定する

- 既存のフォルダー番号を指定すると、フォルダー番号の左にフォルダーマーク（, , )が表示されます。またはが表示されたフォルダーを選んでボタンを押すと、指定したフォルダーを記録フォルダーに設定します。
- 既存のフォルダー番号以外の数値を入力してボタンを押すと、入力したフォルダー番号で新規フォルダーを作成します。
- 次に撮影する画像は、指定したフォルダーまたは作成した新規フォルダーに保存されます。
- キャンセルしたい場合は、**MENU**ボタンを押してください。


フォルダーマークについて

[フォルダー番号指定] 画面では、フォルダー番号の左に、画像の入っていないフォルダーのときは、フォルダー内のファイル数が999個またはファイル番号が9999に達しているフォルダーのときは、その他のフォルダーのときはのフォルダーマークが表示されます。が表示されているフォルダーには、画像は記録できません。

■ 既存フォルダーから選択

既存のフォルダーの一覧から選びます。

1 「既存フォルダーから選択」を選ぶ


- 「既存フォルダーから選択」を選んでマルチセレクトの  を押しと、「既存フォルダーから選択」画面が表示されます。



2 フォルダーを選ぶ

-  または  を押して、画像を記録するフォルダーを選びます。

3 画像を記録するフォルダーを設定する

-  ボタンを押すと、設定が有効になります。
- 次に撮影する画像は、選んだフォルダーに保存されます。

フォルダー番号およびファイル番号についてのご注意

フォルダー番号が999になるとカメラが自動的にフォルダーを作成できないため、次のときに撮影ができなくなります。

- フォルダー内のファイル数が999個に達したとき（動画撮影時は、フォルダー内のファイル数が992以上になると撮影できない場合があります）
- ファイル番号が9999に達したとき（動画撮影時は、フォルダー内の最後のファイル番号が9992以降になると撮影できない場合があります）

フォルダー番号が999になるとカメラが自動的にフォルダーを作成できないため、動画撮影時にカスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能] でシャッターボタンに「動画撮影中のフレーム保存」が割り当てられている場合は、フォルダー内のファイル数が942以上になると、フォルダー内の最後のファイル番号が9942以降になると撮影できないことがあります。

ただし、次の場合、メモリーカードにまだ空き容量があれば、さらに撮影を続けられます。

- フォルダー番号が999未満のフォルダーを新規に作成し、それを記録フォルダーとして選んだ場合
- 動画撮影時、動画撮影メニュー [画像サイズ/フレームレート] (□□65) および [動画の画質] (□□65) の設定を変更した場合

大容量のメモリーカードを使用する場合

すでにたくさんのフォルダーや画像が記録されているメモリーカードを使用する場合、メモリーカードを挿入したときや、カメラの電源をONにしたときなどに行われるファイル検索に時間がかかるため、撮影や再生ができるまでに時間がかかることがあります。



このカメラで撮影した画像には、自動的にDSC_nnnn.xxxというファイル名が付きます。[ファイル名設定]では、「DSC」の3文字を任意に変更できます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください（□176）。

ファイル名について

- このカメラで撮影された画像にはDSC_nnnn.xxxという名称が付きます。
nnnnには0001～9999までの数字が入ります。xxxには選んだ画質モードによって、次の拡張子が入ります。
 - NEF：RAWの場合
 - TIF：TIFF（RGB）の場合
 - JPG：FINE/NORMAL/BASICの場合
 - MOV：動画の場合
 - NDF：イメージダストオフデータの場合
- 静止画撮影メニューの[色空間]で[Adobe RGB]を選んだ場合は_DSCnnnn.xxxという名称が付きます。
- 同時記録されたRAW画像とJPEG画像のファイル名は同じですが、拡張子がそれぞれNEF、JPGになります。

色空間

記録する画像の色空間を指定します（色空間とは、モニターやプリンターで表現できる色の範囲のことです）。[sRGB]色空間は、再生やプリントなど、一般的な用途で画像を楽しむのに適しています。[Adobe RGB]色空間は[sRGB]色空間に比べて色域が広いので、商業印刷などの業務用途に適しています。

色空間についてのご注意

Capture NX-DまたはViewNX-iをお使いになると、正しい色空間での処理が自動的に行われます。他社製の画像閲覧用または画像編集用ソフトウェアを使うと、正しく色が表示されないことがあります。

Adobe RGB色空間について

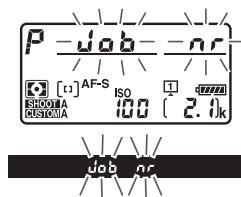
適切な色再現には、カラーマネージメント機能に対応したアプリケーション、モニター、プリンターなどの環境が必要です。



低速シャッタースピードになったときに発生するノイズ（むら、輝点）を低減します。

する	シャッタースピードが1秒より低速になった場合に、長秒時ノイズの低減処理を行います。
しない	長秒時ノイズの低減処理を行いません。

長秒時ノイズ低減処理は、撮影後に行われます。処理中は、上面表示パネルとファインダー内表示に **Job nr** が点滅します。この表示が消えるまで、撮影はできません。長秒時ノイズの低減処理を行う場合、画像を記録するまでの時間は、長秒時ノイズ低減を行わない場合の約2倍になります。



✓ 長秒時ノイズ低減についてのご注意

- 連続撮影速度は遅くなり、連続撮影可能コマ数も少なくなります。
- 処理中に電源を OFF にすると、処理は行われず、長秒時ノイズの低減処理を行う前の画像が保存されます。

高感度ノイズ低減

静止画撮影時に、感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します。

強め	全てのISO感度で高感度ノイズの低減処理を行います。ISO感度が高くなるほど効果的です。
標準	
弱め	ノイズ低減の効果は、強い順に [強め]、[標準]、[弱め] になります。
しない	ノイズが発生しやすい条件で撮影する場合のみ、ノイズ低減処理を行います。この場合のノイズ低減効果は [弱め] よりもさらに弱くなります。



ヴィネットコントロールは、レンズの特性による周辺光量の低下をレンズに応じて軽減します。特に開放絞り側で撮影した場合に効果的です。Gタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズを装着しているときのみ機能します（PCレンズを除く）。

<input type="checkbox"/> H 強め	効果が強い順に、 [強め] 、 [標準] 、 [弱め] になります。
<input type="checkbox"/> N 標準	
<input type="checkbox"/> L 弱め	
しない	周辺光量の低下を補正しません。

✓ ヴィネットコントロールについてのご注意

- 次の場合、ヴィネットコントロールの効果は適用されません。
 - 静止画撮影メニューの **[多重露出]**（□220）を設定しているとき
 - 動画撮影時
- TIFFおよびJPEG画像の場合、使用するレンズ、撮影条件や撮影シーンの組み合わせによっては、周辺光量が過剰に補正されて画像周辺部が明るくなることや補正が不足して暗くなること、画像にノイズ（むら）が発生することがあります。また、調整したピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールを設定している場合も、適切な補正ができない場合があります。試し撮りをして、撮影状況に適した設定を選ぶことをおすすめします。


〔する〕にすると、広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正して撮影します。

- **〔自動ゆがみ補正〕**は、Gタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズを装着した場合のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズを装着した場合は機能しません。また、対応レンズ以外を装着した場合については、動作を保証しません。

自動ゆがみ補正についてのご注意

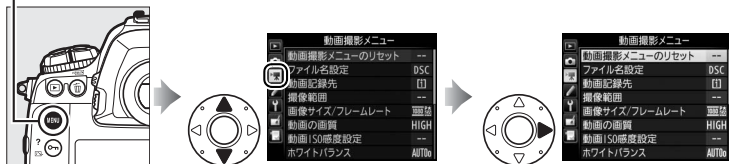
- 〔する〕の場合、シャッターをきってから、記録が始まるまで時間がかかる場合があります。
- ゆがみを大きく補正するほど、画像周辺部は切り取られます。
- DXレンズを装着している場合は、自動ゆがみ補正を行う前に、**〔DX自動切り換え〕**を〔する〕に設定するか、**〔撮像範囲設定〕**を**〔DX (24×16) 1.5×〕**に設定してください (□84)。その他の撮像範囲で撮影すると、画像周辺部が大きく切り取れたり、DXフォーマットの外側の部分が特に強く補正されることがあります。
- 動画撮影時は、自動ゆがみ補正の効果は適用されません。

関連ページ

撮影した画像のゆがみを補正する →  **〔ゆがみ補正〕** (□391)

MENUボタンを押して、タブの **映像** アイコンを選ぶと、動画撮影メニューが表示されます。

MENUボタン



動画撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	📖
動画撮影メニューのリセット	307
ファイル名設定	307
動画記録先	307
撮像範囲	68
画像サイズ/フレームレート	65
動画の画質	65
動画ISO感度設定	308
ホワイトバランス	308
ピクチャーコントロール	309

メニュー項目	📖
カスタムピクチャーコントロール	309
マイク感度	309
録音帯域	310
風切り音低減	310
高感度ノイズ低減	310
微速度撮影	73
フリッカー低減	311
電子手ブレ補正	311

🔗 関連ページ

「動画撮影メニューの初期設定」(📖279)

動画撮影メニューのリセット

MENUボタン → 動画撮影メニュー

[する] を選んで **OK** ボタンを押すと、動画撮影メニューをリセットして初期設定に戻します (□279)。

ファイル名設定

MENUボタン → 動画撮影メニュー

このカメラで撮影した動画のファイル名DSC_nnnn.movの「DSC」の3文字を任意に変更できます (□302)。

動画記録先

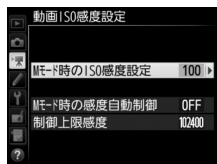
MENUボタン → 動画撮影メニュー

メモリーカードを2枚使用している場合に動画を記録するスロットを設定します。

- それぞれのカードで動画を記録できる残り時間が表示されます。
- 選んだファイル記録先のメモリーカードの残量がなくなると、撮影は自動的に終了します。



動画撮影時のISO感度に関する設定ができます。



Mモード時のISO感度設定	露出モードMでの動画撮影時のISO感度（100～Hi 5）を設定できます。
Mモード時の感度自動制御	<p>[する] を選ぶと、露出モードがMのときもカメラが自動的に動画撮影時のISO感度を変更します。[しない] を選ぶと、露出モードがMのときに、[Mモード時のISO感度設定] で設定したISO感度に固定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 露出モードがM以外の場合は常に感度自動制御が動作します。
制御上限感度	<ul style="list-style-type: none"> 感度自動制御するときに ISO 感度が高くなりすぎないように、上限感度（200～Hi 5）を設定できます。 露出モードがP、S、またはAの場合と、露出モードMで [Mモード時の感度自動制御] が [する] の場合は、ここで設定した感度が自動制御の上限になります。

感度自動制御についてのご注意

- ISO感度が上がると、被写体によっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生することがあります。
- ISO感度が上がると、ピン트가合いにくくなることがあります。
- 上記の現象が発生する場合は、[動画 ISO 感度設定] の [制御上限感度] を下げて撮影してください。

ホワイトバランス

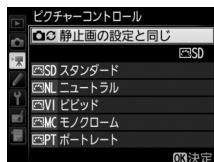
動画撮影時のホワイトバランス (□149) を設定できます。[静止画の設定と同じ] を選ぶと、静止画撮影時と同じ設定になります。



ピクチャーコントロール

MENUボタン→ 動画撮影メニュー

動画撮影時のピクチャーコントロール（□170）を設定できます。[静止画の設定と同じ] を選べると、静止画撮影時と同じ設定になります。



カスタムピクチャーコントロール

MENUボタン→ 動画撮影メニュー

「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます（□175）。

マイク感度

MENUボタン→ 動画撮影メニュー

内蔵マイクまたは外部マイク（□421）の感度の程度を設定します。

マイク感度 オート (A)	カメラが自動的にマイク感度を調整します。	
マイク感度 マニュアル	マイク感度を手動調整します。[1] ～ [20] の調整ができます。数字が大き いほど感度が高く、小さいほど低くな ります。	
録音しない	音声は記録しません。	

音声記録されていない動画の表示について



[マイク感度] を [録音しない] にして撮影した動画の場合、1コマ表示モード時と再生中に（音声なしマーク）が表示されます。



録音帯域

MENUボタン → 映画 動画撮影メニュー

内蔵マイクまたは外部マイク（□421）の周波数特性を設定します。

 WIDE 広帯域	低音域から高音域まで録音します。楽器演奏や街のざわめきの録音など、幅広いシーンに適しています。
 VOICE 音声帯域	主に人の声を録音したいときに適しています。

風切り音低減

MENUボタン → 映画 動画撮影メニュー

[**する**] を選ぶと、ローカットフィルター機能により、内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えて記録できます。ただし、風切り音以外の音も聞こえにくくなることがあります。

- 別売のステレオマイクロホンをお使いの場合は、カメラ側で[**風切り音低減**]を[**する**]に設定しても風切り音は低減されません。風切り音低減機能のあるステレオマイクロホンをお使いの場合は、ステレオマイクロホン側で設定してください。

高感度ノイズ低減

MENUボタン → 映画 動画撮影メニュー

動画の撮影時に、ISO感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します。


ライブビュー表示中や動画記録中に、蛍光灯や水銀灯などの光源下で画面に生じるちらつきや横縞（フリッカー現象）を低減できます。通常はカメラが自動的に電源周波数を選ぶ【オート】をお使いください。【オート】にしているでも、フリッカー低減効果が得られない場合は、お使いの地域の電源周波数に応じて、【50 Hz】と【60 Hz】から選びます。東日本など電源周波数が50 Hzの地域では【50 Hz】を選び、西日本など電源周波数が60 Hzの地域では【60 Hz】を選んでください。

✓ 動画撮影メニュー【フリッカー低減】についてのご注意

- 【オート】に設定してもフリッカー低減効果が得られない場合や電源周波数がわからない場合は、設定を切り換えて試し撮りをするをおすすめします。
- 被写体が非常に明るい場合、フリッカー低減効果が得られない場合があります。絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。
- 露出モードがM以外の場合、設定したシャッタースピードが必ずしも反映されないため、フリッカー低減できるシャッタースピードに設定しても、フリッカー低減効果が得られないことがあります。そのような場合は、露出モードをMに設定し、シャッタースピードを次の値にすることで、フリッカー現象を低減できます。
 - 電源周波数が50Hzの場合：1/100秒、1/50秒、1/25秒
 - 電源周波数が60Hzの場合：1/125秒、1/60秒、1/30秒

動画記録時に電子手ブレ補正を行うかどうかを設定できます。

カスタムメニュー： **撮影に関するさらに詳細な設定**

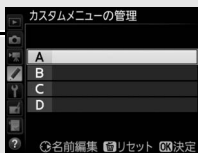
MENUボタンを押して、タブの  アイコンを選ぶと、カスタムメニューが表示されます。

MENUボタン



カメラの各種設定を撮影者の好みに合わせて変更できます。カスタムメニュー画面は、2つの階層で構成されています。

＜第1階層＞



カスタムメニューの管理 (314)

＜第2階層＞



カスタムメニューの項目は次の通りです。※

メニュー項目	📖
カスタムメニューの管理	314
a オートフォーカス	
a1 AF-Cモード時の優先	315
a2 AF-Sモード時の優先	316
a3 AFロックオン	317
a4 3D-トラッキングの顔認識	318
a5 3D-トラッキングの捕捉領域	318
a6 AF点数切り換え	318
a7 縦/横位置フォーカス切替	319
a8 半押しAFレンズ駆動	320
a9 AFエリアモードの限定	320
a10 AFモードの制限	321
a11 フォーカスポイント循環選択	321
a12 フォーカスポイント表示の設定	322
b 露出・測光	
b1 ISO感度設定ステップ幅	322
b2 露出設定ステップ幅	322
b3 露出・調光補正ステップ幅	323
b4 露出補正簡易設定	323
b5 マルチパターン測光	324
b6 中央部重点測光範囲	324
b7 基準露出レベルの調節	324
c AEロック・タイマー	
c1 シャッターボタンAEロック	325
c2 半押しタイマー	325
c3 セルフタイマー	325
c4 モニターのパワーオフ時間	326
d 撮影・記録・表示	
d1 連続撮影速度	326
d2 連続撮影コマ数	327

メニュー項目	📖
d3 レリーズモードの限定	327
d4 連動レリーズモード設定	327
d5 露出ディレーモード	328
d6 電子先幕シャッター	328
d7 連番モード	328
d8 ファインダー内格子線表示	329
d9 イルミネーター点灯	330
e フラッシュ・BKT撮影	
e1 フラッシュ撮影同調速度	331
e2 フラッシュ時シャッター スピード制限	332
e3 フラッシュ使用時の露出補正	332
e4 ⚡使用時の感度自動制御	332
e5 モデリング発光	332
e6 BKT変化要素 (Mモード)	333
e7 BKTの順序	333
f 操作	
f1 カスタムボタンの機能	334
f2 中央ボタンの機能	345
f3 シャッタースピードと 絞り値のロック	347
f4 コマンドダイヤルの設定	347
f5 マルチセレクターの 半押し起動	350
f6 ボタンのホールド設定	350
f7 インジケータの+/-方向	350
f8 ライブビューボタンの設定	351
f9 ⚡スイッチの機能	351
g 動画	
g1 カスタムボタンの機能	352

※ 設定内容が初期設定と異なる場合、変更されたメニュー項目の左上にアスタリスク (*) を表示します。



関連ページ


「カスタムメニューの初期設定」(□280)



カメラは、カスタムメニューの設定内容を、「A」、「B」、「C」、「D」の4通り記憶できます。それぞれのカスタムメニューで設定した内容は、他のカスタムメニューには反映されません。

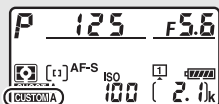
「カスタムメニューの管理」で「A」、「B」、「C」、「D」のいずれかを選んでからカスタムメニューの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容は、設定時のカスタムメニューを選び直すことで呼び出せます。

■ 名前編集



カスタムメニュー「A」～「D」の名前を編集するには、名前を変更したいカスタムメニューを選んでマルチセレクターの  を押します。名前は20文字まで入力できます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください (□176)。

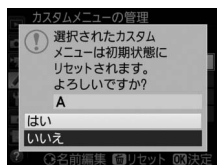
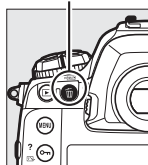
✎ カスタムメニュー設定表示について

上面表示パネルとインフォ画面には、CUSTOM とカスタムメニュー名（「A」～「D」）が表示されます。



■ カスタムメニューのリセット

カスタムメニュー「A」～「D」を個別にリセットできます。リセットしたいカスタムメニューを選んで  (FORMAT) ボタンを押すと、確認画面が表示されます。「はい」を選んで  ボタンを押すと、選んだカスタムメニューの設定をリセットして初期設定に戻します (□280)。







a : オートフォーカス

a1 : AF-Cモード時の優先

MENU ボタン →  カスタムメニュー



ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のとき (□ 97) にシャッターボタンを押した場合の動作を設定できます。

 リリース	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
 フォーカス/ リリース	撮影優先でシャッターをきることができますが、低コントラスト・低輝度の被写体を連続撮影するとき、1コマ目は撮影タイミングよりピント合わせを優先します。2コマ目以降はピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。連続撮影時に1コマ目のピント状態を優先したいときにお使いください。
 リリース/ フォーカス	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができますが、低コントラスト・低輝度の被写体を連続撮影するときは、連続撮影速度を落としてピント合わせを行います。連続撮影速度よりもピント合わせを優先したいときにお使いください。
 フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきることができません。

- AFモードが**AF-C**のときは、**[AF-Cモード時の優先]** の設定にかかわらず、ピント表示 (●) が点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。

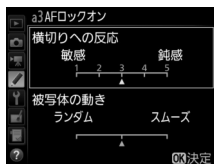


ファインダー撮影時のAFモードが**AF-S**のとき（□97）にシャッターボタンを押した場合の動作を設定できます。

 リリース	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
 フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきるできません。

- AFモードが**AF-S**のときは、**[AF-Sモード時の優先]**の設定にかかわらず、ピント表示（●）が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、シャッターをきるまでフォーカスロックが行われます。

ファインダー撮影時のAFモード(□97)がAF-Cのときのピント合わせの動作について設定できます。



横切りへの反応

5 (鈍感)	カメラと被写体の間に障害物や別の被写体が横切った場合のピント動作を設定できます。
4	
3	<ul style="list-style-type: none"> • [5 (鈍感)] に設定すると、元の被写体からピントが外れにくくなります。
2	<ul style="list-style-type: none"> • [1 (敏感)] に設定すると、横切った被写体にピントが合いやすくなります。
1 (敏感)	

- AFエリアモード (□99) が3D-トラッキングまたはオートエリアAFの場合は、[2]、[1 (敏感)] に設定していても、[3] を選んだときと同じ動作になります。

被写体の動き

[スムーズ] に設定すると、一定のスピードの被写体を撮影する場合にピントが不安定になることを防ぎます。[ランダム] に設定すると、動作の速度が急激に変わるような被写体を撮影する場合にピント合わせの追従性が向上します。

a4 : 3D-トラッキングの顔認識

MENUボタン → カスタムメニュー

AFエリアモード (□99) が3D-トラッキングの場合、カメラが人物の顔を認識したときに顔にピントを合わせるかどうかを選べます。

a5 : 3D-トラッキングの 捕捉領域

MENUボタン → カスタムメニュー

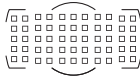

AFエリアモード (□99) が3D-トラッキングの場合に、半押ししたときに記憶する被写体情報の捕捉領域を設定できます。

広い	選択したフォーカスポイントから被写体が少し外れても、周辺の情報を使用して被写体を捉えます。被写体の動きが速い場合に便利です。
標準	選択したフォーカスポイント付近の情報を使用して被写体を捉えます。

a6 : AF点数切り換え

MENUボタン → カスタムメニュー

手動で選べるフォーカスポイントの数を設定できます。

AF55 55点	55点全てのフォーカスポイントを選べます。	
AF15 15点	15点のフォーカスポイントから選べます。フォーカスポイントの位置をすばやく動かしたいときに便利です。	

カメラを正位置（横位置）にしたとき、時計回りの縦位置と反時計回りの縦位置にしたときで個別にフォーカスポイントとAFエリアモードを設定できます。

- **〔しない〕** に設定した場合、横位置と縦位置で同じフォーカスポイントを使います。



縦位置反時計回りに
90°回転



横位置



縦位置時計回りに
90°回転

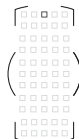
- **〔フォーカスポイント〕** に設定すると、横位置と縦位置で個別にフォーカスポイントを設定できます。〔フォーカスポイントとAFエリアモード〕に設定した場合、フォーカスポイントに加えてAFエリアモードも個別に設定できます。



縦位置反時計回りに
90°回転



横位置



縦位置時計回りに
90°回転




a8：半押しAFレンズ駆動

MENUボタン → カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししたときに、ピント合わせをするかどうかを設定できます。

する	シャッターボタンを半押しするとピント合わせを行います。
しない	シャッターボタンを半押ししてもピント合わせを行いません。




- [しない] を選んでマルチセクターの  を押すと、[非合焦時のレリーズ] を設定できます。

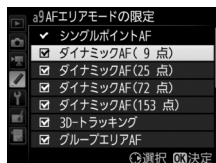
許可	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
禁止	<ul style="list-style-type: none">• 次の場合、ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきるできません。<ul style="list-style-type: none">- a1 [AF-Cモード時の優先] を [フォーカス] に設定してAFエリアモード (□99) をオートエリアAF以外に設定したとき- a2 [AF-Sモード時の優先] を [フォーカス] に設定してAFエリアモードをオートエリアAF以外に設定したとき• AF-ON ボタンなどを使用してピントを合わせてからシャッターボタンを全押ししてください。

a9：AFエリアモードの限定

MENUボタン → カスタムメニュー

AFモードボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回した場合に選べるAFエリアモード (□99) を設定できます。

- 項目を選んでマルチセクターの  を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン ☒ になります。もう一度  を押すと、チェックボックスがオフ ☐ になります。チェックボックスをオン ☒ にした項目のみ、サブコマンドダイヤルで選べるようになります。
-  ボタンを押すと、設定を完了します。
- [AFエリアモードの限定] ではファインダー撮影時のAFエリアモードを限定できます。ライブビュー時のAFエリアモード (□47) は限定しません。



a10 : AFモードの制限

MENUボタン → カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモード（□97）を固定できます。[AF-S] または [AF-C] を選ぶと、AFモードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してもAFモードは変わりません。



a11 : フォーカスポイント 循環選択

MENUボタン → カスタムメニュー

フォーカスポイントをマルチセクターで選ぶときに、上下左右端で循環するように設定できます。

[する] を選んだ場合、一番端のフォーカスポイント（①）を選んでいるときに、さらにマルチセクターを同方向（右図の場合は➡）に押すと、反対側の端のフォーカスポイント（②）に移動します。



a12 : フォーカスポイント表示の設定

MENUボタン → カスタムメニュー

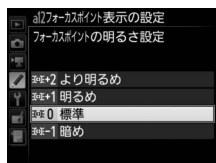
ファインダー内のフォーカスポイントの表示に関する設定ができます。

■ マニュアルフォーカス時の表示

[する] に設定すると、マニュアルフォーカスでの撮影時にフォーカスポイントが常に点灯します。[しない] に設定すると、フォーカスポイントを移動したときのみ一瞬点灯します。

■ フォーカスポイントの明るさ設定

ファインダー内のフォーカスポイントの明るさを設定できます。



■ ダイナミックAFモード時のアシスト表示

[する] に設定すると、ダイナミックAFモード (□99) 時に自分で選んだフォーカスポイントと周辺のフォーカスポイントを同時に表示します。

b : 露出・測光

b1 : ISO感度設定ステップ幅

MENUボタン → カスタムメニュー

ISO感度のステップ幅を設定できます (□117)。ISO感度のステップ幅を変更したとき、設定されているISO感度が変更後のステップ幅に存在しない場合は、最も近い値に変更されます。

b2 : 露出設定ステップ幅

MENUボタン → カスタムメニュー

シャッタースピード、絞り値、およびオートブラケティング補正量のステップ幅を設定できます。




b3：露出・調光補正ステップ幅

MENUボタン→カスタムメニュー


露出補正時と調光補正時の補正量のステップ幅を設定できます。

b4：露出補正簡易設定

MENUボタン→カスタムメニュー

 ボタンを使用せずに、コマンドダイヤルだけで露出補正できるように設定を変更できます。

露出補正簡易設定を「**する（自動リセット）**」または「**する**」に設定すると、露出インジケータの「0」が点滅します。

する (自動リセット)	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。 <ul style="list-style-type: none">コマンドダイヤルだけを使って設定した露出補正値は、電源をOFFにするか、半押しタイマーがオフになると、リセットされます。
する	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。 <ul style="list-style-type: none">電源をOFFにしても、半押しタイマーがオフになっても、設定した露出補正値はリセットされません。
しない	 ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して露出補正を設定します。

b4【露出補正簡易設定】とf4【メインとサブの入れ換え】の併用について

「露出補正簡易設定」とカスタムメニュー f4【コマンドダイヤルの設定】(□347)の「メインとサブの入れ換え」との併用により、次の表で記載しているコマンドダイヤルで露出補正ができるようになります。



		カスタムメニュー f4→メインとサブの入れ換え	
		しない	する
露出 モード	P	サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	S	サブコマンドダイヤル	メインコマンドダイヤル
	A	メインコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	M	機能しません	



b5：マルチパターン測光

MENUボタン → 設定メニュー

測光モード（□122）がマルチパターン測光の場合、カメラが人物の顔を認識したときに顔の明るさに合わせて露出を決定するかどうかを選べます。この設定は、ファインダー撮影時のみ有効です。

 ON 顔認識する	カメラが認識した顔を優先して測光を行います。
 OFF 顔認識しない	カメラが顔を認識した場合も顔を優先した測光を行いません。

b6：中央部重点測光範囲

MENUボタン → 設定メニュー

中央部重点測光は、ファインダー中央部を重点的に測光して、露出値を決定します。中央部重点測光の範囲を変更できます。

- 非CPUレンズを装着しているときの測光範囲は、 $\phi 12\text{mm}$ 相当になります。


b7：基準露出レベルの調節

MENUボタン → 設定メニュー

適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、測光モードごとに明るめ（+側）または暗め（-側）に調節できます。1/6段ステップ幅で±1段の範囲で設定できます。初期設定は0です。



基準露出レベルの調節について

- カスタムメニュー b7 [基準露出レベルの調節] は、カスタムメニュー「A」～「D」ごとに設定します。カスタムメニューを切り換えるときは、カスタムメニュー b7 の設定の違いにご注意ください。
- カスタムメニュー b7 [基準露出レベルの調節] を 0 以外に設定しても、 マークは表示されませんのでご注意ください。設定した基準露出レベルは、カスタムメニュー b7 の画面でのみ確認できます。
- 基準露出レベルの調節の設定は、ツーボタンリセットでは解除できません。

c : AEロック・タイマー

c1 : シャッターボタンAEロック

MENU ボタン → カスタムメニュー

シャッターボタンを押してAEロックを行うかどうかを設定できます。

する（半押し）	シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行います。
する（連続撮影時）	シャッターボタンを半押ししたときにはAEロックを行わず、全押ししたときにAEロックを行います。
しない	シャッターボタンを押してもAEロックを行いません。

c2 : 半押しタイマー

MENU ボタン → カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししてから何も操作しないで一定時間が過ぎると、待機状態に入ります。この待機状態になるまでの時間を変更できます。

- 待機状態になると、上面表示パネルのシャッタースピードと絞り値の表示とファインダー内の表示が消灯します。
- 半押しタイマーを延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。

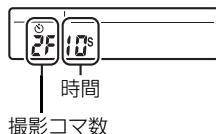
c3 : セルフタイマー

MENU ボタン → カスタムメニュー

セルフタイマー撮影時（□114）にシャッターボタンを全押ししてからシャッターがきれるまでの時間と、撮影するコマ数、連続撮影するときの撮影間隔を設定できます。

時間	シャッターがきれるまでの時間を選べます。
撮影コマ数	マルチセクターの \odot または \odot を押して、1コマ～9コマの間で設定できます。
連続撮影間隔	[撮影コマ数] を2コマ以上に設定した場合に連続撮影するときの撮影間隔を選べます。

- 設定した時間と撮影コマ数は、背面表示パネルで確認できます。



画像モニターが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。


- [画像の再生]、[メニュー表示]、[インフォ画面表示]、[撮影直後の画像確認]、[ライブビュー表示] で画像モニターが自動的に消灯するまでの時間を個別に設定できます。
- 初期設定は、[画像の再生] と [インフォ画面表示] の場合は10秒、[メニュー表示] は1分、[撮影直後の画像確認] は4秒、[ライブビュー表示] は10分です。
- 画像モニターの表示時間を延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。

d：撮影・記録・表示

d1：連続撮影速度



CH（高速連続撮影）時とCL（低速連続撮影）時の連続撮影速度を設定できます。

高速連続撮影	高速連続撮影（CH）するときの連続撮影速度を [14コマ/秒（ミラーアップ）]、[12コマ/秒]、[11コマ/秒] または [10コマ/秒] のいずれかに設定できます。
低速連続撮影	低速連続撮影（CL）時の連続撮影速度を、[10コマ/秒] ～ [1コマ/秒] の間で設定できます。

- 連続撮影時の制限については、 111をご覧ください。

d2：連続撮影コマ数

MENU ボタン → カスタムメニュー

連続撮影を最大何コマまで継続できるかを設定できます。マルチセクターの  または  を押して、1コマ～200コマの間で設定します。



- 露出モードが **S** または **M** のときにシャッタースピードが4秒または4秒よりも遅い場合は、連続撮影のコマ数は制限されません。




連続撮影コマ数について

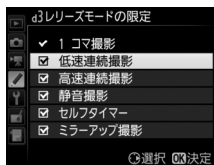
カスタムメニュー d2 [連続撮影コマ数] で設定するコマ数は、連続撮影を継続できる最大のコマ数です。ただし、連続撮影速度を維持したまま連続撮影できるコマ数には、画質モードなどによって上限があります (□467)。このコマ数を超えると「**●00**」と表示され、連続撮影速度は低下します。

d3：リリースモードの限定

MENU ボタン → カスタムメニュー

リリースモードダイヤルを  に合わせたときに、 ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回して選べるリリースモード (□110) を設定できます。

- 項目を選んでマルチセクターの  を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン ☒ になります。もう一度  を押すと、チェックボックスがオフ ☐ になります。チェックボックスをオン ☒ にした項目のみ、メインコマンドダイヤルで選べるようになります。
-  ボタンを押すと、設定を完了します。



d4：連動リリースモード設定

MENU ボタン → カスタムメニュー

別売のワイヤレストランスミッターやワイヤレスリモートコントローラーを接続して連動リリースモードに設定した場合に、マスターカメラのリリースに連動してリモートカメラをリリースさせるかどうかを設定できます。



d5：露出ディレーモード

MENUボタン →  カスタムメニュー

顕微鏡撮影時などのカメラブレを最小限に抑えるため、シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約1～3秒後にシャッターがきれるように変更できます。

d6：電子先幕シャッター

MENUボタン →  カスタムメニュー

電子先幕シャッターを有効にするかどうかを設定できます。電子先幕シャッターで撮影することにより、カメラブレを低減できます。電子先幕シャッターで撮影するには、リリースモードを**MUP**（ミラーアップ）に設定してください（□116）。

有効	電子先幕シャッターで撮影します。
無効	メカニカルシャッターで撮影します。

電子先幕シャッターについて

- Gタイプ、Eタイプ、Dタイプ以外のレンズを装着していると、むら、すじなどが発生する場合があります。その場合は、**〔無効〕** に設定して撮影してください。
- **MUP**以外のリリースモードの場合は、常にメカニカルシャッターで撮影します。
- 電子先幕シャッター使用時は、シャッタースピードの上限が1/2000秒、ISO感度の上限が102400に制限されます。

d7：連番モード

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

する	メモリーカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、連番でファイル番号を付けます。複数のカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
しない	メモリーカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。 <ul style="list-style-type: none">● 連番モードを〔する〕 から〔しない〕 に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に〔する〕 に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付きます。



リセット

[する] に設定したときのファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、現在選択中のフォルダーに画像ファイルがない場合は0001から連番で画像が記録されます。すでにファイルがある場合には、そのファイル番号の次の番号からファイル番号が付きま

ファイル番号について

- ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が0001番に戻ります。
- フォルダー番号が 999 になるとカメラが自動的にフォルダーを作成できないため、次のときに撮影ができなくなります。
 - フォルダー内のファイル数が 999 個に達したとき（動画撮影時は、フォルダー内のファイル数が992以上になると撮影できない場合があります）
 - ファイル番号が9999に達したとき（動画撮影時は、フォルダー内の最後のファイル番号が9992以降になると撮影できない場合があります）
- フォルダー番号が 999 になるとカメラが自動的にフォルダーを作成できないため、動画撮影時にカスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能] でシャッターボタンに [動画撮影中のフレーム保存] が割り当てられている場合は、フォルダー内のファイル数が942以上になるか、フォルダー内の最後のファイル番号が9942以降になると撮影できないことがあります。
- 上記の条件で撮影ができなくなったときは、カスタムメニュー d7 [連番モード] を [リセット] した後、メモリーカードを初期化するか、交換してください。

フォルダーの自動作成について

- 撮影中に記録フォルダー内に 999 個のファイルが記録された場合、メモリーカード内に存在する最大フォルダー番号+1という番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。
- 撮影中にファイル番号が9999となった場合、メモリーカード内に存在する最大フォルダー番号+1の番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。

d8 : ファインダー内格子線表示

MENU ボタン →  カスタムメニュー

ファインダー内に構図用格子線 (□9) を表示するかしないかを設定できます。

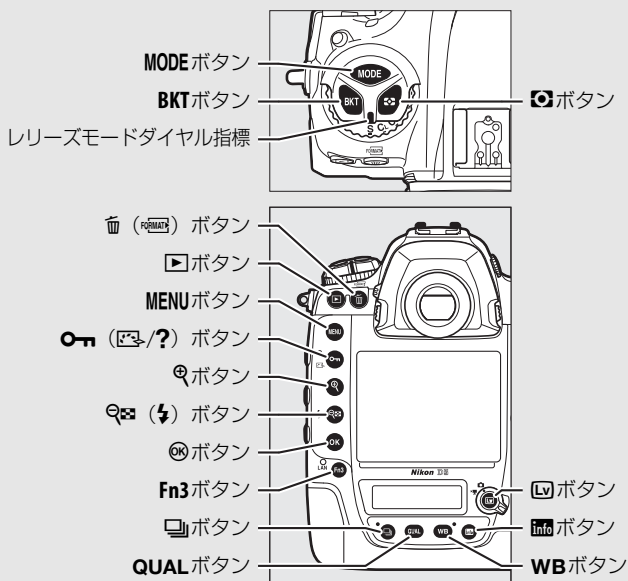


上面表示パネルや背面表示パネル、ボタンのイルミネーター（照明）点灯の設定を変更できます。

- **[しない]** に設定すると、電源スイッチを \star に合わせたときだけイルミネーターを点灯します。イルミネーター点灯中にシャッターボタンを半押しまたは全押しすると、イルミネーターは消灯します。
- **[する]** に設定すると、半押しタイマー（ \square 40）の作動中にイルミネーターが点灯します。ただし、バッテリーの消耗は早くなります。イルミネーター点灯中にシャッターボタンを半押しまたは全押しすると、イルミネーターは消灯しますが、シャッターボタンを放すと再度点灯します。

ボタンの照明について

リリースモードダイヤル指標および次のボタンが点灯します：



e : フラッシュ・BKT撮影

e1 : フラッシュ撮影同調速度

MENU ボタン →  カスタムメニュー

フラッシュ撮影時の同調速度を設定できます。

1/250秒 (オートFP)	フラッシュ撮影時の同調速度を1/250秒に設定します。別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライト (□412) 使用時は1/250秒より速いシャッタースピードでは自動的にFP発光に切り替わります。 <ul style="list-style-type: none">露出モードがPまたはAで、上面表示パネルまたはファインダー内表示のシャッタースピードが1/250秒を示す場合、実際に制御されるシャッタースピードが1/250秒よりわずかも高速側であれば、FP発光に切り替わります。オートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを装着した場合は、高速側のシャッタースピードが1/8000秒まで制御されます。露出モードがSまたはMでオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを装着した場合は、高速側のシャッタースピードを1/8000秒まで設定できます。
1/250秒	フラッシュ撮影時の同調速度を、1/250～1/60秒の範囲で設定できます。
1/200秒	
1/160秒	
1/125秒	
1/100秒	
1/80秒	
1/60秒	

シャッタースピードの同調速度を固定するには

露出モードが**S**または**M**のときに、シャッタースピードの同調速度をカスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] で設定した値に固定するには、最も低速側 (30秒または - -) の次の位置を選んでください。上面表示パネルとファインダー内表示に **X** (フラッシュシンクロマーク) と設定した同調速度が表示されます。

FP発光について

フラッシュ撮影時のシャッタースピードをカメラの最高速度まで設定できます (□187)。[1/250秒 (オートFP)] に設定すると、シャッタースピードがフラッシュ撮影同調速度よりも高速側になった場合、自動的にFP発光に切り替わります。日中でも、レンズの絞りを開いて背景をぼかした撮影ができます。

- FP 発光に切り替わると、インフォ画面のフラッシュモードに「FP」が表示されます。



e2：フラッシュ時シャッター スピード制限

MENUボタン →  カスタムメニュー



露出モードが**P**または**A**の場合のフラッシュ撮影時のシャッタースピードの低速側の制限を設定できます。

- スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード時や露出モードが**S**、**M**の場合には、カスタムメニュー e2 [フラッシュ時シャッタースピード制限] の設定にかかわらず、シャッタースピードの低速側の制限は30秒になります。

e3：フラッシュ使用時の 露出補正

MENUボタン →  カスタムメニュー



フラッシュ撮影時に露出補正を設定した場合のフラッシュの調光を設定できます。

 全体を補正	露出と調光量を同時に補正します。全体の露出が変化します。
 背景のみ補正	背景の露出だけを補正します。

e4： 使用時の感度自動制御

MENUボタン →  カスタムメニュー

フラッシュ撮影時に感度自動制御を行う場合の、露出を合わせる対象を設定できます。

 被写体と背景	主な被写体以外の背景も適切な露出となるように、感度自動制御を行います。
 被写体のみ	主な被写体が適切な露出となるように、感度自動制御を行います。

e5：モデリング発光

MENUボタン →  カスタムメニュー





別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト（□410）使用時に、カメラの**Pv**ボタンを押したときに、陰影の状況を把握するためのモデリング発光を行わないように設定できます。



e6 : BKT変化要素 (Mモード)

MENU ボタン → カスタムメニュー

露出モードMでオートブラケティングを行うときに変化する内容は、静止画撮影メニュー「オートブラケティングのセット」とe6「BKT変化要素 (Mモード)」との組み合わせによって次のようになります。

カスタムメニュー e6 [BKT変化要素 (Mモード)]	静止画撮影メニュー [オートブラケティングのセット]	
	AE・フラッシュ ブラケティング※	AEブラケティング※
 フラッシュ・シャッタースピード	シャッタースピードとフラッシュの調光レベル	シャッタースピード
 フラッシュ・シャッタースピード・絞り値	シャッタースピード、絞り値、フラッシュの調光レベル	シャッタースピードと絞り値
 フラッシュ・絞り値	絞り値とフラッシュの調光レベル	絞り値
 フラッシュ	フラッシュの調光レベル	—

※ カスタムメニュー e6 が「フラッシュ・シャッタースピード」、「フラッシュ・シャッタースピード・絞り値」、「フラッシュ・絞り値」のいずれかのときに、「感度自動制御」(□119) が「する」に設定され、フラッシュを使用していない場合、ブラケティング1コマ目のISO感度で固定されます。



フラッシュ調光レベルについて

フラッシュブラケティング中は、フラッシュ調光レベルは、i-TTL調光時または絞り連動外部自動調光 (⊗A) 時のみ変化します。

e7 : BKTの順序

MENU ボタン → カスタムメニュー

オートブラケティングの補正順序を変更できます。

 [0] → [-] → [+]	「補正なし」→「-側に補正」→「+側に補正」の順になります。
 [-] → [0] → [+]	「-側に補正」→「補正なし」→「+側に補正」の順になります。

● 静止画撮影メニュー「オートブラケティングのセット」が「ADLブラケティング」の場合、e7の設定を変更しても補正順序は変わりません。



f : 操作

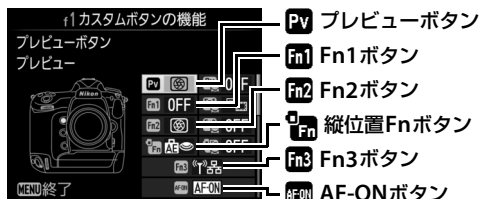
f1 : カスタムボタンの機能

MENUボタン → カスタムメニュー

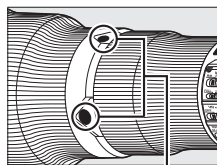
カメラの各ボタンを押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。

■ ボタンを押したときの機能

- 機能を割り当てられるボタンは次の通りです。割り当てを設定したいボタンの項目を選んで、マルチセクターの中央を押してください。



※フォーカス作動設定スイッチがあるレンズを装着し、スイッチがAF-Lに設定されている場合に、レンズのフォーカス作動ボタンを押したときの機能を設定できます。








フォーカス作動ボタン









- 各ボタンに割り当てられる機能は次の通りです。

		Pv	Fn1	Fn2	Fn	Fn3	AF-ON	⊗	AF-ON	L-Fn
PRE ^[a]	プリセットフォーカス ポイント	●	●	●	●	—	—	●	—	●
[□]	AFエリアモード	●	●	●	—	—	●	●	●	●
[□] AF	AFエリアモード+AF-ON	●	●	●	—	—	●	●	●	●
📷	プレビュー	●	●	●	●	—	—	●	—	—
⚡	FV-L	●	●	●	●	—	—	●	—	—
AE	AE-L/AF-L	●	●	●	—	—	●	●	●	●
AE	AE-L	●	●	●	—	—	●	●	●	●
AE	AE-L (リリースでリセット)	●	●	●	●	—	●	●	●	—
AE	AE-L (ホールド)	●	●	●	●	—	●	●	●	—
AF	AF-L	●	●	●	—	—	●	●	●	●
AF-ON	AF-ON	●	●	●	—	—	●	●	●	●
🔌/🔌	🔌発光禁止/許可切換	●	●	●	—	—	—	●	—	●
BKT	BKT自動連写	●	●	●	—	—	—	●	—	—
+RAW	プラスRAW記録	●	●	●	●	—	—	●	—	—
📷	マルチパターン測光簡易設定	●	●	●	●	—	—	●	—	—
📷	中央部重点測光簡易設定	●	●	●	●	—	—	●	—	—
📷	スポット測光簡易設定	●	●	●	●	—	—	●	—	—
📷*	ハイライト重点測光簡易設定	●	●	●	●	—	—	●	—	—
📷	ファインダー内格子線表示	●	●	●	●	—	—	●	—	—
📷	ファインダー内水準器	●	●	●	●	—	—	●	—	—
📷14	高速連続撮影 14コマ (MUP)	●	●	●	—	—	—	●	—	●
📷	連動リリース切り換え	●	●	●	—	—	—	●	—	●
📷	マイメニュー	●	●	●	●	—	—	●	—	—
📷	マイメニューのトップ項目先 へジャンプ	●	●	●	●	—	—	●	—	—
📷	ネットワーク接続	●	●	●	—	●	—	—	—	—
📷	再生	●	●	●	●	—	—	●	—	—
📷	音声メモ	—	—	—	—	●	—	—	—	—
★	レーティング	—	—	—	—	●	—	—	—	—
RESET	フォーカスポイント中央 リセット	—	—	—	—	—	—	●	—	—
AF-ON	AF-ONボタンと同じ 設定しない	—	—	—	—	—	—	—	●	—
		●	●	●	●	●	●	●	●	—



























- ボタンを押したときの機能は次の通りです。

<p>PRE[Ⓜ] プリセット フォーカス ポイント</p>	<p>ボタンを押すと、あらかじめ設定した位置のフォーカスポイント（プリセットフォーカスポイント）が選ばれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プリセットフォーカスポイントを設定するには、設定したい位置にフォーカスポイントを移動して、フォーカスポイントが点滅するまでAFモードボタンを押しながら割り当てたボタンを長押しします。 • a7 [縦/横位置フォーカス切換] を [しない] 以外に設定した場合、カメラの横位置と時計回りの方向の縦位置、反時計回りの方向の縦位置で個別にプリセットフォーカスポイントを設定できます。 • レンズのフォーカス作動ボタンに割り当てた場合、フォーカス作動ボタンを押している間のみ、あらかじめ設定した位置のフォーカスポイント（プリセットフォーカスポイント）が選ばれます。フォーカス作動ボタンを放すと、元のフォーカスポイント位置に戻ります。
<p>[i] AFエリアモード</p>	<p>ボタンを押している間、設定したAFエリアモードに変更します。ボタンを放すと、元のAFエリアモードに戻ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [AFエリアモード] を選んでマルチセクターの  を押すと、AFエリアモードを選べます。ただし、[3D-トラッキング] は選べません。
<p>[AF ON] AFエリアモード +AF-ON</p>	<p>ボタンを押している間、設定したAFエリアモードに変更され、ピント合わせも行います。ボタンを放すと、元のAFエリアモードに戻ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [AFエリアモード] を選んでマルチセクターの  を押すと、AFエリアモードを選べます。ただし、[3D-トラッキング] は選べません。
<p> プレビュー</p>	<p>ファインダー撮影時にボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれ、ボタンを押している間、被写界深度が確認できます（□127）。ライブビュー時にボタンを1回押すと開放絞りになり、ピントがどこに合っているかを確認しやすくなります。もう一度ボタンを押すと、設定した絞り値に絞り込まれます（□45）。</p>
<p> FV-L</p>	<p>別売のスピードライト（□410）使用時は、FVロック（□195）を行い、もう一度ボタンを押すと解除します。</p>
<p> AE-L/AF-L</p>	<p>ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。</p>

	AE-L	ボタンを押している間、AEロックを行います。
	AE-L (リリースで リセット)	ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。もう一度ボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
	AE-L (ホールド)	ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきいてもAEロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
	AF-L	ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
	AF-ON	ボタンを押している間、 AF-ON ボタンを押し続けたとときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。
	⚡発光禁止/ 許可切換	フラッシュモードが発光禁止以外の場合、ボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。フラッシュモードが発光禁止の場合は、ボタンを押している間、先幕シンクロモードで撮影できます。
	BKT自動連写	<p>静止画撮影メニューの「オートブラケットングのセット」が「WBブラケットング」以外の場合でリリースモードがCH、CLのとき、またはQの静音連続撮影のときは、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間、1回分のブラケットング設定コマ数を撮影し終えた後も、引き続きオートブラケットング撮影をします。また、リリースモードがSまたはQのときは、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押しし続けると、1回分のブラケットング設定コマ数を連続撮影します。</p> <p>「オートブラケットングのセット」が「WBブラケットング」の場合は、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間連続撮影して、各コマに対してWBブラケットングを行います。</p>
	プラスRAW 記録	<p>画質モードがJPEG (FINE)、JPEG (NORMAL)、JPEG (BASIC) の場合、ボタンを押すと背面表示パネルの画質モードに「RAW」が表示され、押してから1回の撮影のみRAW画像がJPEG画像と同時に記録されます。撮影後シャッターボタンから指を放すか、もう一度ボタンを押すと「プラスRAW記録」を解除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> RAW画像は静止画撮影メニュー「画像サイズ」の「RAW」で設定した画像サイズ、「RAW記録」(□90)の設定で記録されます。



	マルチパターン 測光簡易設定	ボタンを押している間、測光モードがマルチパターン測光になります。
	中央部重点測光 簡易設定	ボタンを押している間、測光モードが中央部重点測光になります。
	スポット測光 簡易設定	ボタンを押している間、測光モードがスポット測光になります。
	ハイライト重点 測光簡易設定	ボタンを押している間、測光モードがハイライト重点測光になります。
	ファインダー内 格子線表示	ボタンを1回押すと、ファインダーに構図用格子線を表示します (□9)。もう一度ボタンを押すと、格子線の表示を終了します。
	ファインダー内 水準器	ボタンを1回押すと、ファインダーに水準器インジケータを表示します (□340)。もう一度ボタンを押すと、水準器表示を終了します。
	14 高速連続撮影 14コマ (MUP)	<p>レリーズモード (□110) を CL または CH に設定している場合、ボタンを押している間にシャッターボタンを全押しすると、ミラーアップして約 14 コマ/秒で連続撮影します (□112)。ピントと露出は 1 コマ目と同じ条件に固定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ライブビュー撮影時に静止画撮影メニュー [無音撮影 (静止画ライブビュー)] (□53) が [する] の場合は、ボタンを押しても切り替わりません。

 連動リリース 切り換え	別売のワイヤレストランスミッターやワイヤレスリモートコントローラーを接続して連動リリースモードで撮影する場合の、連動リリースの機能を切り換えます。カスタムメニュー d4 「連動リリースモード設定」 (□327) の設定により、選択できる内容が異なります。	
	<ul style="list-style-type: none"> • 「連動リリースモード設定」 が 「連動する」 の場合 	
	 マスターカメラのみリリース	ボタンを押している間、マスターカメラのみ撮影を行い、リモートカメラでは撮影を行いません。
	 リモートカメラのみリリース	ボタンを押している間、リモートカメラでのみ撮影を行います。
 連動リリース 切り換え	<ul style="list-style-type: none"> • 「連動リリースモード設定」 が 「連動しない」 の場合 	
	 マスターとリモートが連動	ボタンを押している間、マスターカメラとリモートカメラが連動して撮影を行います。
	 リモートカメラのみリリース	ボタンを押している間、リモートカメラでのみ撮影を行います。
 マイメニュー	ボタンを押すと、マイメニュー (□399) を表示します。	
 マイメニューの トップ項目先へ ジャンプ	マイメニューの最上位に登録してある項目へジャンプします。よく使うメニュー項目をマイメニューの最上位に登録して、この機能を使うと便利です。	
 ネットワーク 接続	ネットワークに接続したことがある場合は、ネットワーク接続の確認画面が表示されます。ネットワークに接続したことがない場合は、セットアップメニュー 「ネットワーク」 の画面が表示されます。	
 再生	ボタンに  ボタンと同じ機能を割り当てます。望遠レンズなどを使用していて、  ボタンを左手で操作できないときに便利です。	
 音声メモ	ボタンを押すと、音声メモ機能を使用できます (□259)。	
 レーティング	画像再生時にボタンを押しながらマルチセクターの   を押して、レーティング (重要度) を設定できます (□255)。	
RESET	フォーカス ポイント 中央リセット	ボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
 AF-ON ボタン と同じ	AF-ON ボタンの設定と同じです。	
	設定しない	ボタンは機能しません。



水準器インジケーターについて

[押し時の動作] を「ファインダー内水準器」に設定してFnボタンを押すと、カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、ファインダーに水準器インジケーターを表示します。この「水準器インジケーター」の見方は次の通りです。

ローリング方向

カメラが時計回りに傾いている場合	カメラが正位置の場合 (傾いていない場合)	カメラが反時計回りに傾いている場合
		
		

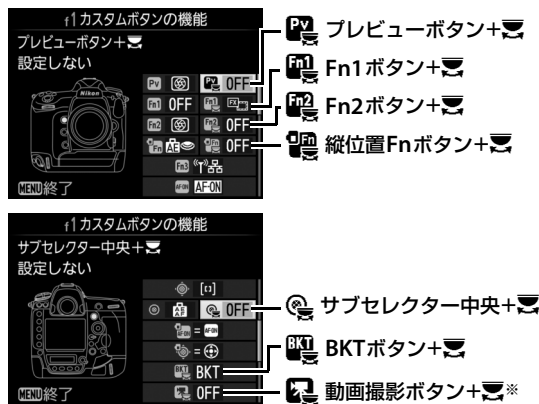
ピッチング方向

カメラが前に傾いている場合	カメラが正位置の場合 (傾いていない場合)	カメラが後ろに傾いている場合
		
		

- カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。測定できない状態までカメラを傾けると、水準器の目盛が消灯します。
- カメラを縦位置に構えて撮影するときは、ローリング方向とピッチング方向の水準器の表示位置が入れ替わります。

■ ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能

- 機能を割り当てられるボタンは次の通りです。割り当てを設定したいボタンの項目を選んで、マルチセクターの中央を押してください。










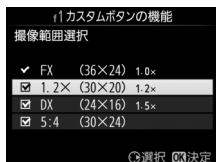
※ ライブビューセクターが の場合に、動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。




- 各ボタンに割り当てられる機能は次の通りです。

撮像範囲選択	●	●	●	●	●	—	●
シャッタースピードと絞り値のロック	●	●	●	●	●	—	●
シャッター・絞り値1段選択	●	●	●	●	—	—	—
手動設定済みレンズの選択	●	●	●	●	●	—	—
アクティブD-ライティング設定	●	●	●	●	—	—	—
露出ディレーモード	●	●	●	●	—	—	—
静止画撮影メニュー切り換え	●	●	●	●	●	—	●
ISO感度	—	—	—	●	—	—	—
露出モード	—	—	—	●	—	—	●
露出補正	—	—	—	●	—	—	—
測光モード	—	—	—	●	—	—	—
オートブラケティング	—	—	—	—	—	●	—
多重露出	—	—	—	—	—	●	—
HDR (ハイダイナミックレンジ)	—	—	—	—	—	●	—
設定しない	●	●	●	●	●	●	●



- ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能は次の通りです。

 撮像範囲選択	<p>ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、〔撮像範囲〕 (□84) の設定を切り換えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 項目を選んで、マルチセクターの  を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン <input checked="" type="checkbox"/> になります。もう一度  を押すと、チェックボックスがオフ <input type="checkbox"/> になります。チェックボックスをオン <input checked="" type="checkbox"/> にした項目のみ、ボタンとコマンドダイヤルで選べるようになります。Ⓢ ボタンを押すと、設定が完了します。
 シャッター スピードと 絞り値のロック	<p>露出モードがSまたはMのとき、ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを固定します。露出モードがAまたはMのとき、ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を固定します。シャッタースピードと絞り値のロックについては、□132をご覧ください。</p>
 シャッター・ 絞り値1段 選択	<p>カスタムメニュー b2 〔露出設定ステップ幅〕 (□322) の設定にかかわらず、シャッタースピードまたは絞り値を1段ステップで設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 露出モードがSまたはMのとき、ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを1段ステップで設定します。 ● 露出モードがAまたはMのとき、ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を1段ステップで設定します。
Non-CPU 手動設定済み レンズの選択	<p>ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、現在使用中のレンズの情報を、セットアップメニューの 〔レンズ情報手動設定〕 (□231) で設定したレンズNo.のものに切り換えます。</p>
 アクティブ D-ライティング 設定	<p>ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、アクティブD-ライティング (□179) の設定を切り換えられます。</p>
 露出ディレー モード	<p>ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、露出ディレーモードを切り換えられます (□328)。</p>



SHOOT	静止画撮影メニュー切り換え	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、静止画撮影メニューを切り換えられます (□297)。
ISO	ISO感度	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、ISO感度を変更できます (□117)。ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、感度自動制御の設定を変更できます。
MODE	露出モード	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、露出モードを切り換えられます (□124)。
	露出補正	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、露出補正を設定できます (□136)。
	測光モード	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、測光モードを変更できます (□122)。
BKT	オートブラケットング	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回すと、オートブラケットング撮影時の撮影コマ数、補正ステップ、アクティブD-ライティングの度合いを設定できます (□138)。
	多重露出	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、多重露出モードを設定できます。ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、多重露出のコマ数を設定できます (□222)。
HDR	HDR (ハイダイナミックレンジ)	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、HDRモードを設定できます。ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、HDRの露出差を設定できます (□181)。
	設定しない	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても機能しません。

BKTボタンについて

- HDR (ハイダイナミックレンジ) (□181) の設定が有効なときに **[BKTボタン+ に **[オートブラケットング]** または **[多重露出]** を割り当てると、**BKT** ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても設定の変更は行えません。**
- 多重露出 (□220) の設定が有効なときに **[BKTボタン+ に **[オートブラケットング]** または **[HDR (ハイダイナミックレンジ)]** を割り当てると、**BKT** ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても設定の変更は行えません。**



押し時の動作とコマンドダイヤル併用時の動作が併用できない場合
 [プレビューボタン]と[プレビューボタン+]のように、同じボタンに押し時の動作とコマンドダイヤル併用時の動作を設定できるボタンでは、両方の機能を同時に設定できない場合があります。その場合は後に設定された機能が有効になり、先に設定していた内容が「設定しない」に変更されます。

■ サブセクターまたは縦位置マルチセクターを倒したときの機能

サブセクターまたは縦位置マルチセクターを上下左右に倒したときの機能を変更できます。割り当てを設定したいセクターの項目を選んで、マルチセクターの中央を押してください。



= マルチセクターと同じ

[Q] フォーカスポイント選択

マルチセクターのと同じ機能になります。

- サブセクターの場合、を押して「拡大再生中の動作」を設定できます。画像を拡大表示したときのサブセクターの動作を「拡大位置移動」または「コマ送り」に設定できます。
- 縦位置マルチセクターの場合、を押して「上下左右機能入れ換え」を設定できます。「する」を選ぶと、上または下に倒して表示画像を、左または右に倒して画像情報のページを切り換えられるようになります。

フォーカスポイントを選べます (□103)。

- 縦位置マルチセクターの場合、中央ボタンを押したときの機能は、「サブセクター中央+」(□341)と同じです。








ファインダー撮影時とライブビュー時または再生時にマルチセクターの**中央**ボタンを押したときの機能を設定できます（1コマ表示中の画像が動画の場合、[再生モード] の設定にかかわらず、**中央**ボタンを押すと動画を再生します）。





■ 撮影モード

RESET	フォーカスポイント 中央リセット	中央ボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
PRE ^[a]	プリセットフォーカスポイント	<p>中央ボタンを押すと、あらかじめ設定した位置のフォーカスポイント（プリセットフォーカスポイント）が選ばれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> プリセットフォーカスポイントを設定するには、設定したい位置にフォーカスポイントを移動して、フォーカスポイントが点滅するまでAFモードボタンを押しながら中央ボタンを長押しします。 a7 [縦/横位置フォーカス切換] を [しない] 以外に設定した場合、カメラの横位置と時計回りの方向の縦位置、反時計回りの方向の縦位置で個別にプリセットフォーカスポイントを設定できます。
	設定しない	中央ボタンは機能しません。

再生モード

 1コマとサムネイルの切り換え	中央ボタンを押すごとに、1コマ表示とサムネイル表示（4コマ、9コマ、72コマ）を切り換えます。
 ヒストグラム表示	中央ボタンを押している間、ヒストグラム（  247）を表示します。サムネイル表示時もヒストグラム表示できます。
 拡大画面との切り換え	<p>中央ボタンを押すと、撮影時のフォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度中央ボタンを押すと、元の表示に戻ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [拡大画面との切り換え] を選んで  を押すと、拡大率を [低倍率 (50%)]、[等倍 (100%)]、[高倍率 (200%)] から選べます。 • サムネイル表示時も拡大表示できます。
 スロット/フォルダー指定	中央ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定] 画面（  238）が表示され、画像を再生するスロットとフォルダーを指定できます。

ライブビュー

RESET フォーカスポイント中央リセット	ライブビュー表示中に中央ボタンを押すと、フォーカスポイントが画面中央に移動します。
 拡大画面との切り換え	<p>ライブビュー表示中に中央ボタンを押すと、フォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度中央ボタンを押すと、元の表示に戻ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [拡大画面との切り換え] を選んで  を押すと、拡大率を [低倍率 (50%)]、[等倍 (100%)]、[高倍率 (200%)] から選べます。
設定しない	中央ボタンは機能しません。

f3：シャッタースピードと絞り値のロック

MENU ボタン → カスタムメニュー

[シャッタースピードのロック] を [する] にすると、露出モード **S** または **M** ではシャッタースピードを現在の設定でロックします。[絞り値のロック] を [する] にすると、露出モード **A** または **M** では絞り値を現在の設定でロックします。

- 露出モードが **P** の場合はシャッタースピードと絞り値のロックは使えません。

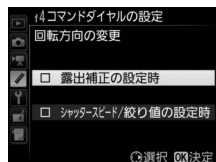
f4：コマンドダイヤルの設定




MENU ボタン → カスタムメニュー

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルに関する設定ができます。

■ 回転方向の変更

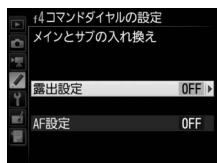
露出補正の設定時またはシャッタースピード/絞り値の設定時に、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルを操作するときの回転方向を逆方向に変更できます。



- [露出補正の設定時] または [シャッタースピード/絞り値の設定時] を選んでマルチセクターの  を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン ☒ になります。もう一度  を押すと、チェックボックスがオフ ☐ になります。
-  ボタンを押すと、設定が完了します。
- 縦位置コマンドダイヤルの回転方向も変更されます。

■ メインとサブの入れ換え

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの機能を入れ換えられます。



露出設定	[する] を選ぶと、メインコマンドダイヤルで絞り値を、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。 [する (Aモード)] を選ぶと、露出モードAのときのみ、メインコマンドダイヤルで絞り値を設定します。
AF設定	[する] を選ぶと、AFモードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してAFエリアモードを、サブコマンドダイヤルを回してAFモードを設定します。

- 縦位置コマンドダイヤルの機能も入れ替わります。

■ 絞り値の設定方法

CPUレンズの装着時に露出モードが**A**または**M**の場合、レンズの絞りリングで絞り値を設定できるように変更できます。

サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤルで絞り値をセットします ([メインとサブの入れ換え] の [露出設定] を [する] に設定した場合は、メインコマンドダイヤルで絞り値をセットします)。
絞りリング	レンズの絞りリングで絞り値をセットします。絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、絞り値の表示は1段ステップになります。

- 絞りリングのないレンズ (Gタイプ、Eタイプレンズ) 装着時は、[絞り値の設定方法] での設定にかかわらず、絞り値はサブコマンドダイヤルで設定します。
- 非 CPU レンズ装着時は、[絞り値の設定方法] での設定にかかわらず、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。

再生/メニュー画面で使用





画像のコマ送りやメニュー操作を、マルチセクターでの操作から、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの操作でも行えるように変更できます。

する	<p>再生時：</p> <ul style="list-style-type: none">1コマ表示時には、メインコマンドダイヤルで撮影画像をコマ送りします。サブコマンドダイヤルを回すと、[サブコマンドダイヤルで画像送り]で設定した方法でコマ送りします。サムネイル表示時には、メインコマンドダイヤルを回すと、黄色の枠（カーソル）が左右に移動し、サブコマンドダイヤルを回すと、ページを切り換えます。 <p>メニュー画面表示時※：</p> <p>メインコマンドダイヤルで選択項目を切り換えます。サブコマンドダイヤルを時計方向に回すと、サブメニューに移動します。反時計回りに回すと、前の画面に戻ります。</p>
ON [㊟] する (撮影後確認時を除く)	[する]と同じ内容ですが、撮影直後の画像確認時は操作できません。
しない	再生時の表示画像の切り換え、画像の選択、およびメニュー画面での項目の選択は、マルチセクターを操作して行います。

※サブコマンドダイヤルでは項目を決定することはできません。項目を決定するには、[㊟]ボタンか、マルチセクターの[㊦]または**中央**ボタンを押してください。

サブコマンドダイヤルで画像送り

[再生/メニュー画面で使用]で[する]または[する(撮影後確認時を除く)]に設定した場合、1コマ表示時にサブコマンドダイヤルを回したときのコマ送りの方法を設定できます。

10コマ	10コマずつコマ送りします。
50コマ	50コマずつコマ送りします。
 プロテクト	プロテクト(保護)した撮影画像だけをコマ送りして表示します。
 静止画のみ	静止画だけをコマ送りして表示します。
 動画のみ	動画だけをコマ送りして表示します。
 フォルダー	再生フォルダーを切り換えます。



f5：マルチセレクトターの半押し起動






MENUボタン → カスタムメニュー

半押しタイマー（□40）がきれたときにマルチセレクトターを操作すると、半押しタイマーが起動するように設定できます。

f6：ボタンのホールド設定


MENUボタン → カスタムメニュー



[する] に設定すると、ボタンを押しながらコマンドダイヤルを操作するときに、指を放してもコマンドダイヤル単独で設定できる状態が維持できます。もう一度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しするか、半押しタイマーがオフになると、解除されます。

- [ボタンのホールド設定] の対象ボタンは、 ボタン、ISO（）ボタン、MODEボタン、BKTボタン、 ボタン、 ボタン、 ボタン、QUALボタン、WBボタン、AFモードボタンです。
- f1 [カスタムボタンの機能] で [アクティブD-ライティング設定]（□341）を割り当てたボタンも、[ボタンのホールド設定] の対象になります。

f7：インジケータの+/-方向

MENUボタン → カスタムメニュー

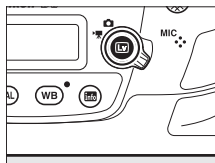
上面表示パネルとインフォ画面（）でのインジケータの+と-方向を入れ換えることができます。

+ 0 - 	インジケータの+側を左に、-側を右に表示します。
- 0 + 	インジケータの-側を左に、+側を右に表示します。

f8：ライブビューボタンの設定

MENU ボタン → カスタムメニュー

意図せずに **Lv** ボタンを押したときにライブビューが始まらないように、**Lv** ボタンを無効に設定できます。



有効	Lv ボタンを押すとライブビューが開始されます。
ON 半押しタイマー 作動中のみ有効	半押しタイマーがオンのときに Lv ボタンを押した場合のみ、ライブビューが開始されます。
無効	Lv ボタンを押してもライブビューは開始しません。

f9：電源スイッチの機能

MENU ボタン → カスタムメニュー

電源スイッチを電源マークの方向に回したときに上面表示パネルや背面表示パネル、ボタンのイルミネーター（照明）のみ点灯するか、イルミネーターとインフォ画面を点灯するかを設定できます。

g : 動画

g1 : カスタムボタンの機能

MENUボタン → カスタムメニュー

ライブビュー時のライブビューセクターが**果**の場合に、各ボタンを押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。

■ ボタンを押したときの機能












- 機能を割り当てられるボタンは次の通りです。割り当てを設定したいボタンの項目を選んで、マルチセクターの**中央**を押してください。






- 各ボタンに割り当てられる機能は次の通りです。


	Pv	Fn1	Fn2	Fn3	⊗	シャッター
⊗ パワー絞リ（開放絞リ側）	●	—	—	—	—	—
⊗ パワー絞リ（最小絞リ側）	—	●	—	—	—	—
⬆ 露出補正（+側）	●	—	—	—	—	—
⬇ 露出補正（-側）	—	●	—	—	—	—
📍 インデックスマーキング	●	●	●	●	●	—
📷 静止画撮影情報の表示	●	●	●	●	●	—
AE-L/AE-L AF-L	—	—	—	—	●	—
AE-L	—	—	—	—	●	—
AE-L (ホールド)	—	—	—	—	●	—
AF-L	—	—	—	—	●	—
📷 静止画撮影	—	—	—	—	—	●
📷 動画撮影	—	—	—	—	—	●
📷 動画撮影中のフレーム保存	—	—	—	—	—	●
設定しない	●	●	●	●	●	—

- ボタンを押したときの機能は次の通りです。

 パワー絞り (開放絞り側)	Pv ボタンを押している間、開放絞り側に絞りが動きます。カスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能] の [Fn1 ボタン] が [パワー絞り (最小絞り側)] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
 パワー絞り (最小絞り側)	Fn1 ボタンを押している間、最小絞り側に絞りが動きます。カスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能] の [レビューボタン] が [パワー絞り (開放絞り側)] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
 露出補正 (+側)	Pv ボタンを押している間、+側に露出補正を行います。カスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能] の [Fn1 ボタン] が [露出補正 (-側)] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
 露出補正 (-側)	Fn1 ボタンを押している間、-側に露出補正を行います。カスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能] の [レビューボタン] が [露出補正 (+側)] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
 インデックス マーキング	動画記録中にボタンを押すと、撮影中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます (□□60、79)。
 静止画撮影情報の表示	ボタンを押すと、動画撮影中 (ライブビュー時および動画記録時) に静止画を撮影する場合の撮影情報が表示されます。もう一度ボタンを押すと元の画面に戻ります。
 AE-L/AF-L	ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	ボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L (ホールド)	ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AF-L	ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 静止画撮影	シャッターボタンを全押しすると、アスペクト比 16:9 の静止画を撮影します (撮影中の動画は終了します)。静止画の画像サイズ (ピクセル) については、「撮影できる静止画の画像サイズ」 (□□69) をご覧ください。

 動画撮影	<p>シャッターボタンを半押しすると、ライブビューを開始します。フォーカスモードセクターがAFの場合、ライブビュー中にシャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われます。また、全押しすると、動画記録を開始します。もう一度シャッターボタンを押すと、動画記録を終了します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 〔動画撮影〕 に設定すると、動画記録以外にシャッターボタンを使う操作は行えません。 • ライブビューを終了するには、 ボタンを押してください。 • 別売のワイヤレスリモートコントローラー (□418)、リモートコード (□420) 使用時には、ワイヤレスリモートコントローラーやリモートコードのシャッターボタンを半押ししてライブビューを開始したり、全押しして動画撮影の開始と終了を行えます。
 動画撮影中のフレーム保存	<p>動画記録中にシャッターボタンを全押しすると、アスペクト比16:9の静止画を撮影します。動画記録を継続したまま、静止画を撮影できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 静止画の画像サイズ (ピクセル) は動画撮影メニュー 〔画像サイズ/フレームレート〕 (□65) で設定した画像サイズと同じサイズになります。画質モードは 〔FINE★〕 になります。 • レリーズモードに関係なく、シャッターボタンを全押しするたびに1コマずつ撮影します。 • 動画記録を開始していない場合は、〔静止画撮影〕 を選んだときと同じ動作になります。 • 撮影した静止画は動画と同じスロットに記録されます。
設定しない	ボタンは機能しません。

パワー絞りについて

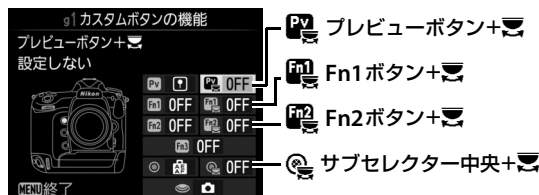
- 露出モード**A**または**M**のときのみ動作します。
- 静止画撮影情報の表示中は、パワー絞りは動作しません。
-  マークが画像モニターに表示されているときは、パワー絞りは動作しません。
- パワー絞りの動作中は画面にちらつきが発生します。

〔シャッターボタン〕を〔動画撮影〕に設定した場合のご注意

〔シャッターボタン〕が〔動画撮影〕の場合、インターバルタイマー撮影 (□225) はできません。

■ ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能

- 機能割り当てられるボタンは次の通りです。割り当てを設定したいボタンの項目を選んで、マルチセクターの中央を押してください。



- ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能は次の通りです。すべてのボタンで同様です。

FX 撮像範囲選択	動画の画像サイズが1920×1080ピクセルの場合、ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、動画撮影時の撮像範囲（□□67）の設定を切り換えられます。
設定しない	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても機能しません。

🔧 動画撮影時の撮像範囲切替について

- 「FXベースの（動画）フォーマット」、「DXベースの（動画）フォーマット」、「クロップ」の順に切り換えられます。
- 動画記録中は、撮像範囲の切り換えはできません。

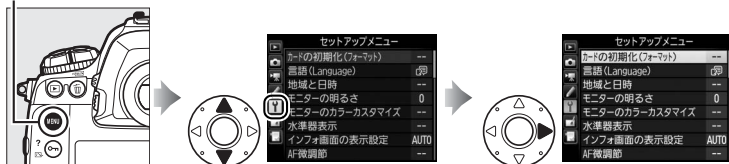
🔧 押し時の動作とコマンドダイヤル併用時の動作が併用できない場合

「プレビューボタン」と「プレビューボタン+」のように、同じボタンに押し時の動作とコマンドダイヤル併用時の動作を設定できるボタンでは、両方の機能を同時に設定できない場合があります。その場合は後に設定された機能が有効になり、先に設定していた内容が「設定しない」に変更されます。



MENUボタンを押して、タブのYアイコンを選ぶと、セットアップメニューが表示されます。

MENUボタン



セットアップメニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	
カードの初期化（フォーマット）	357
言語（Language）	357
地域と日時	358
モニターの明るさ	358
モニターのカラーカスタマイズ	359
水準器表示	360
インフォ画面の表示設定	361
AF微調節	362
レンズ情報手動設定	231
イメージセンサークリーニング	426
クリーニングミラーアップ※	428
イメージダストオフデータ取得	364
画像コメント	366
著作権情報	367
IPTC	368

メニュー項目	
音声メモの設定	259
電子音設定	373
タッチ操作	374
HDMI	274
位置情報	235
リモコン（WR）設定	374
リモコン（WR）のFnボタンの機能	375
ネットワーク	268
カードなし時リリース	376
電池チェック	377
カメラ設定の保存と読み込み	378
カメラの初期化	380
ファームウェアバージョン	380

※ バッテリー残量表示が以下のときは選べません。


関連ページ

「セットアップメニューの初期設定」（□284）

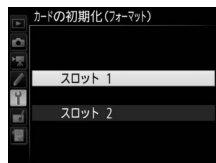
✓【ネットワーク】の【通信機能】について

セットアップメニュー【ネットワーク】の【通信機能】が【有効】のときは、ファームウェアのバージョンアップは行えません。

カードの初期化（フォーマット）

MENUボタン →  セットアップメニュー



メモリーカードを初期化（フォーマット）します。初期化したいスロットを選んで【はい】を選ぶと、選んだスロットのメモリーカードを初期化します。初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください。




✓ カードの初期化についてのご注意

【カードの初期化（フォーマット）中です。】のメッセージが画像モニターに表示されている間は、電源をOFFにしたり、メモリーカードを取り出さないでください。

ボタン操作による初期化


 (FORMAT) ボタンとISO () ボタンを2秒以上同時に押して初期化することもできます (□32)。

言語（Language）


MENUボタン →  セットアップメニュー

メニュー画面やメッセージの表示言語を、日本語または英語に設定します。





現在地と日時、年月日の表示順を設定します。日時設定の手順については、「日付と時刻を設定する」をご覧ください（ 26）。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、 [日時の設定] で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。
日時の設定	[現在地の設定] で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。
日付の表示順	画像モニターに表示される、日付の年、月、日の表示順を、 [年/月/日] 、 [月/日/年] 、 [日/月/年] から選びます。
夏時間の設定	現在地で夏時間（サマータイム制）が実施されている場合は [する] に、そうでない場合は [しない] に設定します。 [する] にすると、時刻が1時間進みます。初期設定は [しない] です。


- 日時が設定されていない場合、上面表示パネルに時刻未設定マーク  が点滅して警告します。

モニターの明るさ

画像モニターの明るさをマルチセクターの  または  を押して調整できます。+にすると明るく、-にすると暗くなります。

メニュー / 再生	メニュー表示時、インフォ画面表示時、画像の再生時の画像モニターの明るさを調整します。
ライブビュー	ライブビュー時の画像モニターの明るさを調整します。

カメラの画像モニターの色調を好みに合わせて変更できます。



- 右のような画面が表示され、マルチセクターで画像モニターの色みを調整できます。
を押すたびに、画像モニターの色みが次のようになります。OK ボタンを押すと決定します。



グリーンが強くなる



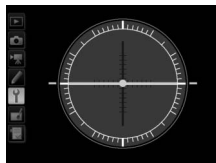
マゼンタが強くなる

- 画像モニターの色みを調整すると、メニュー表示や画像再生時、ライブビュー中の表示全てに反映されますが、撮影した画像または動画には反映されません。
- 最後に撮影した画像または最後に再生した画像がサンプルとして表示されます。撮影した画像がメモリーカード内がない場合、グレーで表示されます。
-  (⚡) ボタンを押すと、画像の選択画面が表示されます。画像を選んでOK ボタンを押すと、選んだ画像がサンプルとして表示されます。
- 画像の選択画面でボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

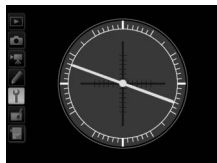


カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、画像モニターにローリング方向とピッチング方向の水準器を表示します。

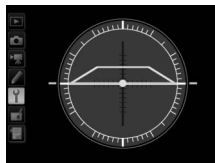
- カメラを正位置（傾きのない状態）にすると、ローリング方向の場合は水準器表示の基準線が緑色に変わります。ピッチング方向の場合は中央の●が緑色に変わります。
- 水準器の1目盛は、5°を表します。



カメラがローリング方向、ピッチング方向とも正位置の場合



カメラがローリング方向に傾いている場合




カメラがピッチング方向に傾いている場合

✓ 水準器の精度について

カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。測定できない状態までカメラを傾けると、水準器の目盛が消灯します。

関連ページ

- ファインダーに水準器インジケータを表示する →  f1 [カスタムボタンの機能] (□334)
- ライブビュー時に水準器を表示する → 「表示を切り換える」 (□56、66)

明るい場所や暗い場所で画像モニターが見づらいたときにインフォ画面(□212)の見え方を設定できます。



黒文字表示



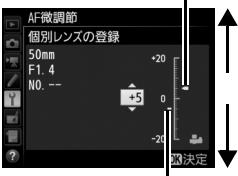


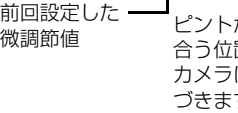


白文字表示

AUTO 自動	インフォ画面の表示を見やすくするために、カメラが自動的に白黒反転します。明るい場所では黒文字表示に、暗い場所では明るさを抑えた白文字表示に切り替わります。	
手動	B 黒文字	明るい場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、画像モニターが点灯し、文字を黒く表示します。
	W 白文字	暗い場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、画像モニターの明るさを抑え、文字を白く表示します。

装着したレンズごとに最適なピント合わせを行いたいときに、ピント位置を調節できます。

- 必要な場合のみ AF 微調節を行ってください。正常なレンズを調節すると、ピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。
- AF 微調節は、普段の撮影でよく使用する撮影距離で行うことをおすすめします。たとえば、近い距離で AF 微調節を行った場合、遠い被写体に対しては AF 微調節の効果が低下することがあります。
- ライブビュー時に自動で AF 微調節を行うこともできます (P.363)。

AF微調節 (する/しない)	する しない	AF微調節の設定が有効になります。 AF微調節を行いません。
個別レンズ の登録	装着しているCPUレンズの微調節値を登録できます。マルチセクターの  または  を押して、+20～-20の範囲で調節できます。最大20種類のレンズを登録できます。 • 非CPUレンズや、すでに登録してあるレンズと同じ種類のレンズは登録できません。	<p>今回の微調節値</p>  <p>ピントが合う位置がカメラから遠ざかります。</p>
その他レンズ の登録	[個別レンズの登録] で登録していないCPUレンズを装着したときに、一律で微調節する値を設定します。  または  を押して、+20～-20の範囲で調節できます。	<p>前回設定した微調節値</p>  <p>ピントが合う位置がカメラに近づきます。</p>

個別レンズ登録リスト

【個別レンズの登録】で登録したレンズを一覧表示します。登録リストからレンズを選んで \odot を押すと、右の画面が表示されます。

- 【識別番号入力】画面では、レンズの識別番号を変更できます。 \odot または \odot を押して識別番号を選んで、 \odot ボタンを押します。【個別レンズの登録】は同じ種類のレンズを複数登録できないため、たとえば、同じレンズを数本所有しているときに登録したレンズのシリアル番号の末尾2桁などを設定しておく、どのレンズで登録したかを識別できるので便利です。



自動でAF微調節を行う

ライブビュー時に自動でAF微調節を行えます。ライブビュー画面を見ながらピント合わせを行ってAFモードボタンと動画撮影ボタンを2秒以上同時に押します。表示されるメッセージに従って【はい】を選んで \odot ボタンを押すと、自動AF微調節が実行されて【個別レンズ登録リスト】に登録されます。登録したAF微調節の設定を有効にするには、【AF微調節 (する/しない)】で【する】を選んでください。

- ライブビューセクターは \odot に合わせてください。
- AFモードを**AF-S**に設定します (□46)。
- AFエリアモードをワイドエリアAFまたはノーマルエリアAFに設定します (□47)。
- フォーカスポイントの位置を画面中央に設定します。
- カメラは三脚で固定することをおすすめします。
- ピント合わせを行うときは、絞りを開放にすることをおすすめします。
- 自動 AF 微調節を実行する前に、拡大表示 (□45) をしてピントが正確に合っているか確認することをおすすめします。

ライブビュー撮影時のAF微調節について

ライブビュー撮影時にオートフォーカスでピント合わせを行うときは、【AF微調節】で設定した微調節値は適用されません。

個別レンズの登録について

同じ種類のレンズは複数登録できませんが、テレコンバーターを装着した場合は違うレンズとして個別登録できます。

登録したレンズを削除するには

【個別レンズの登録】で登録したレンズを削除するには、【個別レンズ登録リスト】画面の一覧表示から削除したいレンズを選んで、 \odot (削除) ボタンを押します。

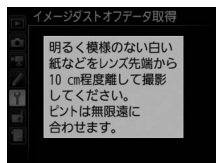
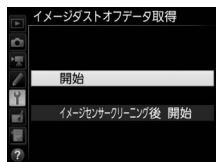


Capture NX-D (□264) の「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子の前面にあるローパスフィルターに付いたゴミの写り込みをRAW画像から取り除く機能です。イメージダストオフ機能については、Capture NX-Dのヘルプをご覧ください。

■■ イメージダストオフデータ取得の手順

1 イメージダストオフデータの取得方法を選ぶ

- **「開始」** を選んで **OK** ボタンを押すと、**「イメージダストオフデータ取得」** 画面が表示されます。
- **「イメージセンサークリーニング後 開始」** を選んで **OK** ボタンを押すと、すぐにイメージセンサークリーニングを実行します。イメージセンサークリーニングの実行後に、**「イメージダストオフデータ取得」** 画面が表示されます。
- 上面表示パネル、背面表示パネル、ファインダー内表示に右のように表示されます。
- データ取得を取り消したいときは、**MENU** ボタンを押してください。

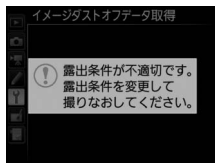


2 レンズ先端から10cm 程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- シャッターボタンを押すと、画像モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、画像モニターに右の画面が表示され、手順1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。



▼ イメージセンサークリーニングについてのご注意

イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータは、クリーニング実行後に撮影した画像とゴミの位置が一致なくなるため、Capture NX-Dのイメージダストオフ機能を使用できません。イメージセンサークリーニング機能とイメージダストオフ機能を併用する場合は、[イメージセンサークリーニング後 開始] を選択後に撮影することをおすすめします。


▼ イメージダストオフデータ取得についてのご注意

- 非CPUレンズをお使いの場合は、[イメージダストオフデータ取得] を選ばません。
- お使いになるCPUレンズは、焦点距離が50mm以上のレンズ（DXレンズを除く）をおすすめします（□404）。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- [サイズM] または [サイズS] で撮影したRAW画像は、Capture NX-Dのイメージダストオフ機能を使用できません。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、右の画面が表示されます。




あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、Capture NX-DまたはViewNX-iのメタデータで確認できます。

■ コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。[コメント入力]を選んでマルチセクターの  を押し、画像コメントの入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください (□176)。

■ コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、[コメント添付]を選んで  を押し、チェックボックスをオン ☒ にします。OK ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。




画像情報に表示される画像コメントについて


入力・添付された画像コメントは、「撮影情報」の「画像コメント」に表示されます (□249)。

撮影した画像に著作権情報を添付することができます。添付された著作権情報は、Capture NX-DまたはViewNX-iのメタデータで確認できます。

■ 撮影者名入力、著作権者名入力

36文字までの撮影者名と、54文字までの著作権者名を登録できます。[撮影者名入力] または [著作権者名入力] を選んでマルチセクターの  を押すと名前を入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください (□176)。

■ 著作権情報添付

登録した著作権情報を画像に添付したいときは、[著作権情報添付] を選んで  を押し、チェックボックスをオン ☒ にします。OK ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全て著作権情報が添付されます。



✓ 著作権情報に関するご注意

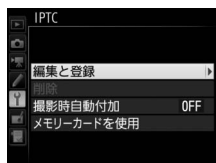
- カメラを貸したり譲渡したりする場合は、撮影者名や著作権者名の違法な使用を防ぐため、[著作権情報添付] の設定を必ず解除してください。また、撮影者名と著作権者名は空欄にしてください。
- [著作権情報] の使用によって生じたトラブルや損害など、当社は一切責任を負いません。

画像情報に表示される著作権情報について

入力・添付された著作権情報は、「撮影情報」に表示されます (□249)。

IPTC情報をカメラで新規作成または編集して、撮影した静止画に添付することができます。

- パソコンで作成したIPTCプリセット（IPTC情報）をカメラに読み込んで登録することもできます。パソコンでIPTCプリセットを作成したり、メモリーカードに保存したりするには、IPTCプリセット登録用ソフトウェア（□□370）をご使用ください。



■ IPTCプリセットの新規作成/編集



[編集と登録]を選んでマルチセクターの \odot を押すと、[編集/登録対象を選択]画面が表示され、IPTCプリセットの新規作成または編集が行えます。

- IPTCプリセットを選んで \odot を押すと、IPTCプリセット名の変更や、内容の編集ができます。IPTCプリセットを新規作成したい場合は、「Unused」の項目を選んで \odot を押します。
 - [登録名の変更]：IPTCプリセット名を変更できます。
 - [登録内容の編集]：IPTCプリセット項目が一覧表示されます（□□370）。項目を選ぶと、登録内容変更画面が表示されます。
- 入力画面での文字の入力方法については、「カスタムピクチャーコントロールを登録する」の手順6をご覧ください（□□176）。
- IPTCプリセットを選んで Q ボタンを押すと、IPTCプリセットの内容を複製できます。登録先を選んで OK ボタンを押し、登録名を入力してください。

■ 登録内容の削除


[削除]を選んで \odot を押すと、登録したIPTCプリセットを削除できます。







■ 登録内容の添付

[撮影時自動付加] を選んで  を押すと、右のようなIPTCプリセットの選択画面が表示されます。IPTCプリセットを選んで  ボタンを押すと、その後撮影した静止画には選んだIPTCプリセットが添付されます。[しない] を選ぶと、IPTCプリセットは添付されません。





■ メモリーカードに保存したIPTCプリセットをカメラに登録

[メモリーカードを使用] の [カメラに登録] を選んでマルチセクターの  を押すと、あらかじめメモリーカードに保存したIPTCプリセットを最大10個カメラに登録できます。

- カメラに登録したいIPTC プリセットを選び、 ボタンを押すと、[登録先を選択] 画面が表示されます（選んだIPTCプリセットの内容を確認したい場合は、 ボタンの代わりに  ボタンを押します。確認を終了して [登録先を選択] 画面に進むには  ボタンを押します）。
- 登録先を選んで  ボタンを押すと、名前を入力画面が表示されます。 ボタンを押すと、選んだIPTCプリセットがカメラに登録されます。



■ カメラに登録したIPTCプリセットをメモリーカードに保存

[メモリーカードを使用] の [メモリーカードにコピー] を選んで  を押すと、カメラに登録されているIPTCプリセットをメモリーカードにコピーできます。IPTCプリセットとコピー先（1～99）を選んで  ボタンを押すと、選んだIPTCプリセットがメモリーカードにコピーされます。



IPTCプリセット (IPTC情報)

IPTC 情報とは、国際新聞電気通信評議会 (IPTC) が作成した基準で、写真をさまざまな出版物で共有する場合に必要な情報を簡易化し、明確化するために考案されています。

IPTCプリセット登録時のご注意

- メモリーカードを2枚使用している場合、スロット1のカードが対象になります。
- カメラでは半角英数字のみ表示できます。その他の文字は、カメラでは伏せ文字で表示されますが、IPTCプリセットを添付した画像をパソコンで表示すると、正しく表示されます。
- 登録名 (□368) は半角英数字18文字まで登録できます。IPTC プリセット登録用ソフトウェアを使ってカメラに登録する場合、IPTCプリセットの登録名が18文字以上のときは、18文字を超える文字は削除されます。
- 各IPTCプリセットには、登録可能な文字数の制限があります。下記の文字数を超える文字は削除されます。

IPTCプリセット	登録可能文字数 (半角英数字)
Caption	2000
Event ID	64
Headline	256
Object Name	256
City	256
State	256
Country	256
Category	3

IPTCプリセット	登録可能文字数 (半角英数字)
Supp. Cat. (Supplemental Categories)	256
Byline	256
Byline Title	256
Writer/Editor	256
Credit	256
Source	256

IPTCプリセットをパソコンで作成するには

IPTC プリセット登録用ソフトウェアIPTC Preset Managerを使うと、パソコンでIPTCプリセットを作成して、メモリーカードに保存できます。IPTC Preset Managerは、下記ホームページからダウンロードしてインストールできます。IPTC Preset Managerの使用法は、IPTC Preset Managerのヘルプを参照してください。

<http://downloadcenter.nikonimglib.com/>

WebブラウザーでIPTCプリセットを作成するには




HTTPサーバーモード (□268) でパソコンやスマートフォンまたはタブレットのWebブラウザーとカメラを接続している場合、Webブラウザー上でIPTCプリセットを作成して静止画に添付できます。



音声メモ (□259) に関する設定を行います。

■ 撮影時の録音

画像を撮影するたびに音声メモを自動的に録音するか、手動で録音するかを設定できます。

 録音しない	撮影時には、音声メモを録音できません。
 自動録音と手動録音	撮影直後に音声メモを自動的に録音します。 • [自動録音と手動録音] を選ぶと [自動録音の時間] 画面が表示され、録音時間を設定できます。
 手動録音のみ	最後に撮影した画像に対して音声メモを手動で録音します (□261)。



■ 撮影時の上書き録音

撮影時に、すでに音声メモが録音されている画像に対して、音声メモを上書き録音できるように設定できます。

禁止	すでに音声メモが録音されている画像に上書き録音はできません。
許可	最後に撮影された画像に音声メモが録音されていても、音声メモを手動で上書き録音できます (□261)。







■ 録音の操作

Fn3 ボタンに音声メモ機能を割り当てた場合 (□334) の操作方法について設定します。

 押し続けている間録音	Fn3 ボタンを押し続けている間のみ録音します (最長約60秒)。
 押して開始/終了	Fn3 ボタンを押して録音を開始し、もう一度押すか、約60秒経過すると録音を終了します。

■ 音声の出力

音声の出力方法を設定できます。

 スピーカー/ ヘッドホン	<p>カメラ本体に内蔵のスピーカーやカメラに接続中のヘッドホンで音声メモを再生します。[スピーカー/ヘッドホン]を選ぶと、右の画面が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• マルチセクターの  または  を押して、音量を [1]～[15] から選びます。• 選んだ音量でサンプル音が鳴ります。数値が大きくなるほどサンプル音も大きくなります。•  ボタンを押すと設定を終了します。
HDMI HDMI出力	HDMI機器から音声メモを一定音量で出力します。
 出力しない	<p>Fn3ボタンに音声メモ機能を割り当てている場合、Fn3ボタンを押しても音声を出しません。音声メモが録音されている画像には、 アイコンが表示されます。</p>



電子音の音の高さや音量を設定できます。

■ 音量

電子音の音量を設定できます。

- [電子音なし] を選ぶと、電子音は鳴りません。
- [音量] を [電子音なし] 以外に設定すると、次の場合に電子音が鳴ります。
 - セルフタイマー作動中 (□114)
 - ミラーアップ撮影で2回目にシャッターボタンを全押ししたとき (□116)
 - 微速度撮影終了時 (□75)
 - オートフォーカスのピントが合ったとき (ただし、AFモード (□97) が **AF-C** のとき、およびカスタムメニュー a2 [**AF-Sモード時の優先**] (□316) が [**レリーズ**] の場合は、電子音は鳴りません)
 - タッチパネルを使用して文字入力をしているとき (□176)
- ライブビュー撮影時に静止画撮影メニュー [**無音撮影 (静止画ライブビュー)**] (□53) が [する] のとき、動画撮影時 (□58)、およびレリーズモードが **Q** (□111) の場合は、[電子音設定] の設定にかかわらず、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

■ 音の高さ

電子音の音の高さを [高音] と [低音] から選べます。

✎ 電子音設定時の表示について

[音量] が [電子音なし] 以外の場合はインフォ画面に♪ (電子音あり) マークが表示されます。





画像モニターのタッチ操作の機能を設定できます。

■ タッチ操作の設定

タッチ操作の有効または無効を切り換えられます。

■ 1コマ送り時のフリック操作

1コマ表示モードで、次の画像を表示するフリック操作を設定できます。

 左←右	画像モニターの右側から左側にフリックすると、次の画像が表示されます。
 左→右	画像モニターの左側から右側にフリックすると、次の画像が表示されます。

リモコン（WR）設定

別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-R10を装着している場合に、LEDランプの点灯とリンクモードを設定できます。また、電波制御アドバンストワイヤレスライティングに対応した別売スピードライトとワイヤレス接続する場合にも使用できます（□199）。

■ LEDランプの点灯

カメラに装着したワイヤレスリモートコントローラー WR-R10の動作状態を表すLEDランプを点灯させるかどうかを設定できます。LEDランプが表す動作状態については、ワイヤレスリモートコントローラーの使用説明書をご覧ください。

ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10を使用するには

- カメラに装着するには、WR用変換アダプター WR-A10が必要です。
- WR-R10のファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。

■ リンクモード

他のカメラに装着したワイヤレスリモートコントローラーWR-R10や、電波制御アドバンストワイヤレスライティングに対応したスピードライトと接続する方法を選べます。接続する機器も、必ず同じ設定を選んでください。

ペアリング	カメラに装着したワイヤレスリモートコントローラーWR-R10のペアリングボタンを押して、接続する機器とペアリングを行います。
PINコード	PINコードを入力できます。マルチセクターの④または⑤で桁を選んで、⑧または⑨で数値を変更します。Ⓜ ボタンを押すと設定が変更され、画面に設定したPINコードが表示されます。



- ペアリング済みのワイヤレスリモートコントローラーからの電波は、[リンクモード] の設定にかかわらずWR-R10で受信できます。ワイヤレスリモートコントローラーWR-1をご使用の場合、WR-1のリンクモードをペアリングモードに設定してください。








リモコン (WR) のFnボタンの機能

MENUボタン → ④ セットアップメニュー


別売のワイヤレスリモートコントローラーのFnボタンを押したときの機能を設定できます。

Ⓜ プレビュー	ファインダー撮影時にFnボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれ、Fnボタンを押している間、被写界深度が確認できます (□127)。ライブビュー時にFnボタンを1回押すと開放絞りになり、ピントがどこに合っているかを確認しやすくなります。もう一度Fnボタンを押すと、設定した絞り値に絞り込まれます (□45)。
⚡ FV-L	別売のスピードライト (□412) 使用時は、FVロック (□195) を行い、もう一度Fnボタンを押すと解除します。
Ⓜ AE-L/AF-L	Fnボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。



 AE-L	Fn ボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L (リリースで リセット)	Fn ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。もう一度 Fn ボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AF-L	Fn ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 AF-ON	Fn ボタンを押している間、 AF-ON ボタンを押し続けたとときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。
 発光禁止/ 許可切換	フラッシュモードが発光禁止以外の場合、 Fn ボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。フラッシュモードが発光禁止の場合は、 Fn ボタンを押している間、先幕シンクロモードで撮影できます。
 プラスRAW記録	画質モードがJPEG (FINE)、JPEG (NORMAL)、JPEG (BASIC) の場合、 Fn ボタンを押すと背面表示パネルの画質モードに「RAW」が表示され、押してから1回の撮影のみRAW画像がJPEG画像と同時に記録されます。撮影後シャッターボタンから指を放すか、もう一度 Fn ボタンを押すと「 プラスRAW記録 」を解除します。 <ul style="list-style-type: none"> RAW画像は静止画撮影メニュー「画像サイズ」の「RAW」で設定した画像サイズ、「RAW記録」(□□90)の設定で記録されます。
 ライブビュー	Fn ボタンを押すと、ライブビューを開始します。もう一度 Fn ボタンを押すと、ライブビューを終了します。
設定しない	Fn ボタンは機能しません。

カードなし時リリース

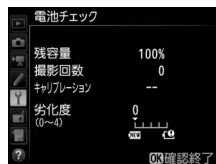
MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラにメモリーカードを入れていないときのリリース操作を設定できます。

LOCK リリース禁止	メモリーカードを入れていないときは、シャッターはきれません。
OK リリース許可	メモリーカードを入れていないときでも、シャッターがきれます。再生時には「デモモード」と表示され、画像は記録できません。



カメラに装着中のバッテリーの情報を表示します。



残容量	バッテリーの残量を1%単位で表示します。
撮影回数	充電後にシャッターをきった回数を表示します。
キャリブレーション	<p>キャリブレーションの必要性の有無を表示します。キャリブレーションはバッテリー容量をより正確に測定するための機能で、充放電をある程度繰り返すと [●CAL] が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [●CAL] が表示されているときは、キャリブレーションすることをおすすめします (□464)。 • [--] が表示されているときは、キャリブレーションの必要はありません。
劣化度	<p>バッテリーの劣化度合いが5段階のバーグラフで表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • バーグラフが「0」(NEW) のときは、バッテリーは劣化していません。 • バーグラフが「4」(!) のときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

撮影回数について

【撮影回数】に表示される回数は、シャッターをきった回数です。ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータ取得など、実際に画像がメモリーカードに記録されない場合でも、シャッターをきるごとに1ずつ加算されます。

低温で充電した場合の劣化度表示について

一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、【電池チェック】で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。

カメラの各機能の設定データをメモリーカードに保存できます。また、メモリーカードに保存されている設定データをカメラで読み込むこともできるので、複数のD5を同じ設定で使う場合などに便利です。

- メモリーカードを2枚使用している場合、スロット1に保存されます。

設定を保存、読み込みできる機能は次の通りです。

再生メニュー	再生画面設定
	撮影直後の画像確認
	削除後の次再生画像
	連続撮影後の再生画像
	縦横位置情報の記録
	縦位置自動回転
静止画撮影メニュー (A～D全メニュー)	静止画撮影メニューの管理
	静止画撮影メニューの拡張
	ファイル名設定
	スロット2の機能
	フラッシュ発光
	撮像範囲
	画質モード
	画像サイズ
	RAW記録
	ISO感度設定
	ホワイトバランス (微調整値、プリセットマニュアルデータ)
	ピクチャーコントロール (登録されたカスタムピクチャーコントロールは「スタンダード」で保存します)
	色空間
	アクティブD-ライティング
	長秒時ノイズ低減
	高感度ノイズ低減
	ヴェネットコントロール
	自動ゆがみ補正
	フリッカー低減
	オートブラケティングのセット
	無音撮影 (静止画ライブビュー)

動画撮影メニュー	ファイル名設定
	動画記録先
	撮像範囲
	画像サイズ/フレームレート
	動画の画質
	動画ISO感度設定
	ホワイトバランス（微調整値、プリセットマニュアルデータ）
	ピクチャーコントロール（登録されたカスタムピクチャーコントロールは「スタンダード」で保存します）
	マイク感度
	録音帯域
	風切り音低減
	高感度ノイズ低減
	フリッカー低減
	電子手ブレ補正
カスタムメニュー (A～D全メニュー)	全メニュー
セットアップ メニュー	言語（Language）
	地域と日時（日時の設定を除く）
	インフォ画面の表示設定
	レンズ情報手動設定
	イメージセンサークリーニング
	画像コメント
	著作権情報
	IPTC
	音声メモの設定
	電子音設定
	タッチ操作
	HDMI
	位置情報
	リモコン（WR）設定
	リモコン（WR）のFnボタンの機能
	カードなし時リリース
マイメニュー/ 最近設定した項目	マイメニューに登録したメニュー項目
	最近設定したメニュー項目
	このタブの機能変更



■■ 保存

カメラの設定データをメモリーカードに保存します。メモリーカードに空き容量がない場合は、エラーメッセージが表示され、設定データは保存されません。保存された設定データは他機種のカメラとの互換性はありません。

■■ 読み込み

メモリーカードからカメラの設定データを読み込みます。メモリーカードが装着されていないときや、メモリーカードに設定データが記録されていないときは、**〔読み込み〕**は選べません。

▼ 設定データについてのご注意

メモリーカードに保存したカメラの設定データのファイル名は「NCSETUP**」です。「**」に入る文字はカメラの機種によって異なります。ファイル名を変更すると、設定データを読み込めなくなるためご注意ください。

カメラの初期化

MENUボタン→**Y** セットアップメニュー

セットアップメニュー **〔言語 (Language)〕** と **〔地域と日時〕** を除く、すべての設定をリセットして初期設定 (□276) に戻します。著作権情報やIPTCなどの撮影者が入力したデータも初期化されます。初期化した設定は元には戻せないのをご注意ください。

- あらかじめセットアップメニュー **〔カメラ設定の保存と読み込み〕** (□378) で設定データを保存しておくことをおすすめします。


ファームウェアバージョン

MENUボタン→**Y** セットアップメニュー

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。



画像編集メニュー： 撮影した画像に行う編集機能








MENUボタンを押して、タブのアイコンを選ぶと、画像編集メニューが表示されます。







MENUボタン







画像編集メニューでは、メモリーカード内の撮影済み画像を編集することができます。編集された画像は、元の画像とは別に、新しい画像としてメモリーカードに記録されます。画像編集メニューの項目は次の通りです。

- カメラにメモリーカードが入っていない場合やメモリーカードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューはグレーで表示されて選択できません。

メニュー項目	📖
 RAW現像	384
 トリミング	386
 リサイズ	387
 D-ライティング	389
 赤目補正	390
 傾き補正	390
 ゆがみ補正	391

メニュー項目	📖
 アオリ効果	392
 フィルター効果	392
 モノトーン	393
 画像合成※1	394
 動画編集	80
 編集前後の画像表示※2	397




※1 MENUボタンを押して、タブのアイコンを選んだときのみ表示されます。

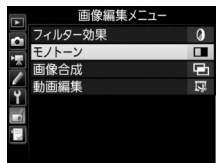
※2 編集前または編集後の画像を1コマ表示して、ボタンを押しながらを押すか、ボタンを押して「画像編集」を選んだときのみ表示されます。






画像編集の操作方法

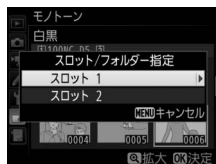
1 画像編集メニューでメニュー項目を選ぶ


- マルチセクターの  または  でメニュー項目を選び、 を押します。



2 画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選びます。
-  ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。
-  () ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定] 画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます (□238)。





- 画像を選んで  ボタンを押すと、編集画面が表示されます。

3 画像を編集する




- 画像の編集方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、**MENU** ボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。

4 編集した画像を記録する

-  ボタンを押すと、編集した画像を記録します。
- 画像編集した画像には  が付きます。



選んだ画像を編集する

編集したい画像を再生し、 ボタンを押しながら  を押すか、 ボタンを押して **【画像編集】** を選ぶと、画像編集メニューが表示され、選んだ画像を編集できます。

画像編集についてのご注意

- このカメラ以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、このカメラでは再生または編集できないことがあります。
- 画像編集中に何も操作しないまましばらくすると、画像モニターが消灯し、編集中の画像は保存されません。カスタムメニュー c4 **【モニターのパワーオフ時間】** (□□326) の **【メニュー表示】** の時間を長く設定することをおすすめします。

繰り返し画像編集する場合のご注意

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、褪色したりする場合があります。
- 同じ画像編集を繰り返し行うことはできません (**【画像合成】**、**【動画編集】** の **【始点/終点の設定】** を除く)。
- 画像編集の組み合わせによっては繰り返し編集できないものもあります。
- 選択中の画像に使用できない画像編集項目は、画像編集メニューでグレーで表示されて選べません。

画質モードについて

- 元画像がTIFF (RGB) またはRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、**【画質モード】** (□□88) が **【FINE★】** のJPEG画像になります。
- 元画像がJPEGの場合は、元画像と同じ画質モードになります。
- RAW画像とJPEG画像を1枚のメモリーカードに同時に記録した場合は、RAW画像が画像編集の対象になります。

画像サイズについて


画像編集した画像は、元画像と同じ画像サイズで記録されます (**【トリミング】** と **【リサイズ】** を除く)。

RAW現像（パソコンを使わずに RAW画像をJPEG画像に変換する）

MENUボタン →  画像編集メニュー



RAWを含む画質モード（□88）で記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成できます。

1 画像編集メニュー画面で「RAW現像」を選ぶ

- 「RAW現像」を選んでマルチセクターの  を押すと、RAW画像がサムネイル表示されます。



2 RAW現像する画像を選ぶ

- マルチセクターでRAW現像する画像を選んで  ボタンを押します。
-  ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。



3 表示されている項目をそれぞれ設定する



- 画質モード（□88）
- 画像サイズ（□91）
- ホワイトバランス（□149）
- 露出補正（□136）
- ピクチャーコントロール（□170）



- 高感度ノイズ低減（□303）
- 色空間（□302）
- ヴィネットコントロール（□304）
- D-ライティング（□389）

4 RAW現像する

- [現像] を選んで **OK** ボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- RAW現像後のJPEG画像が保存されます。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るときは、**MENU** ボタンを押してください。



RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種異なるカメラで撮影したRAW画像やRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 多重露出撮影した画像や[画像合成]で編集した画像の場合、[ホワイトバランス]と[ヴィネットコントロール]は選べません。
- [露出補正]で設定できる明るさ(−2〜+2)は、通常の露出補正の段数とは異なります。

画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。

切り抜く範囲を狭くする		 ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が狭くなります。
切り抜く範囲を広くする		 ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が広がります。
画像のアスペクト比 (縦横比) を変更する		メインコマンドダイヤルを回すと、アスペクト比を変更できます。
切り抜く範囲を移動する		トリミングで切り抜く範囲を移動します。マルチセクターを押し続けると、高速で移動します。
画像のプレビューを見る		トリミングした画像のイメージを見ることができます。
トリミングを実行して画像 を保存する		トリミングした画像が記録されます。

✓ トリミング画像についてのご注意

- トリミング画像は、拡大表示できないことがあります。
- トリミング画像の画質モード (□88) は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードやTIFFのときは[FINE★]になり、JPEGのときは元画像と同じ画質モードになります。
- トリミング画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます。画像サイズは、トリミングする範囲とアスペクト比 (横：縦) により変わります。




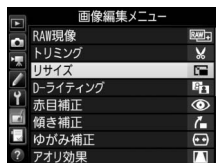
サイズの小さい画像を作成します。メモリーカードを2枚使用している場合は、記録先のスロットも指定できます。

■ 複数の画像を選んでリサイズ画像を作成する





MENUボタンを押して画像編集メニューを選んだ場合、複数の画像のリサイズ画像を一度に作成できます。

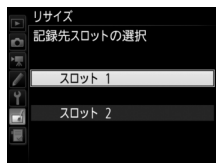
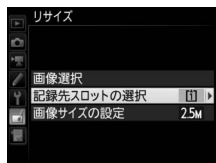
1 画像編集メニュー画面で [リサイズ] を選ぶ

- [リサイズ] を選んでマルチセクターの  を押します。







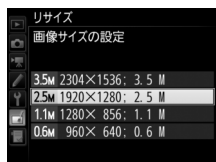
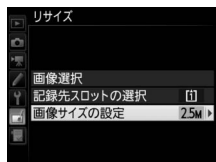
2 記録先のスロットを選ぶ

- メモリーカードを2枚使用している場合は、[記録先スロットの選択] を選んで  を押します。
- メモリーカードが1枚しか入っていない場合は、[記録先スロットの選択] を選ばせん。手順3に進んでください。
-  または  でスロットを選び、 ボタンを押します。




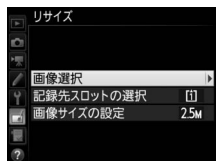
3 画像サイズを設定する

- [画像サイズの設定] を選んで  を押します。
-  または  で画像サイズを選び、 ボタンを押します。





4 [画像選択] を選ぶ

- [画像選択] を選んで  を押すと、画像の選択画面が表示されます。






5 リサイズしたい画像を選ぶ

- マルチセクターを操作して、リサイズしたい画像を選びます。
-  ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。
-  ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定] 画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます (□238)。



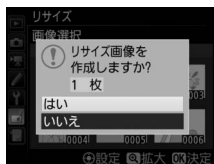
6 設定する

- マルチセクターの**中央**ボタンを押して設定します、設定すると  が表示されます。もう一度**中央**ボタンを押すと、 が消えます。
- リサイズする画像全てに設定したら、 ボタンを押します。



7 リサイズ画像を作成する

- 確認画面で[はい]を選んで \odot ボタンを押すと、リサイズ画像が保存されます。



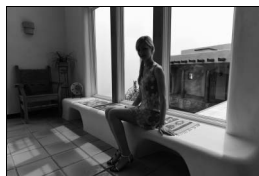
リサイズ画像についてのご注意

- リサイズ画像は、拡大表示できないことがあります。
- リサイズ画像の画質モード(□88)は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードやTIFFのときは[FINE★]になり、JPEGのときは元画像と同じ画質モードになります。
- 静止画撮影メニュー[撮像範囲]の[撮像範囲設定](□84)を[5:4 (30×24)]にして撮影した画像は、リサイズできません。

D-ライティング

MENUボタン → 画像編集メニュー

D-ライティングでは、画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。



D-ライティング前



D-ライティング後

編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。

- マルチセレクトの \odot または \odot を押すと、効果の度合いを選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画像で確認できます。
- \odot ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



赤目補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を、補正できます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。

赤目補正についてのご注意

赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。

- 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。

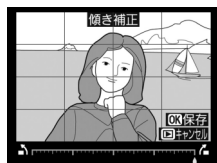
赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。





傾き補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像の傾きを $\pm 5^\circ$ の範囲（約 0.25° ステップ）で補正できます。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- 補正する傾きが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



傾きを補正する		マルチセレクトターの  を押すと時計回りに傾き、  を押すと反時計回りに傾きます。
傾き補正を 実行して 画像を保存する		傾き補正した画像が記録されます。

広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます。[オート] を選ぶと画像のゆがみを自動的に判別して補正しますが、好みに応じて微調整することもできます。[マニュアル] を選ぶと自分でゆがみを補正できます。



- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- [オート] は、Gタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズで撮影した画像のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズで撮影した画像には機能しません。また、対応レンズ以外で撮影した画像については、動作を保証しません。
- [自動ゆがみ補正] (□ 305) を行った画像の場合、[マニュアル] のみ選べます。

ゆがみを補正する		<ul style="list-style-type: none"> たる型のゆがみを補正するには、マルチセレクトターの①を押します。 糸巻き型のゆがみを補正するには、②を押します。
ゆがみ補正を実行して画像を保存する		ゆがみ補正した画像が記録されます。

✓ ゆがみ補正についてのご注意

- 補正するゆがみが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- DXレンズを装着し、撮像範囲を [DX (24×16) 1.5×] 以外に設定して撮影した画像の場合、画像周辺部が大きく切り取られたり、DXフォーマットの外側の部分が特に強く補正されることがあります。

アオリ効果

MENUボタン → 画像編集メニュー

高層ビルを見上げて撮影したときなどに生じる、遠近感による被写体のゆがみを補正します。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- アオリ効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。



アオリ効果を調節する		マルチセクターのでアオリの効果を変更できます。
アオリ効果を実行して画像を保存する		アオリ効果の画像が記録されます。



アオリ効果処理前



アオリ効果処理後

フィルター効果

MENUボタン → 画像編集メニュー

画像全体の色調を演出できます。

スカイライト	スカイライトフィルターのよう、画像の青みを抑える効果があります。	
ウォームトーン	画像を暖色にする効果があります。	

編集画面では、プレビュー画像を表示します。

- OKボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

モノトーンの画像（1種類の色の明暗のみで構成される画像）を作成します。

〔モノトーン〕を選ばと、右のメニューが表示され、色調を選ぶことができます。



白黒	モノクロになります。
セピア	セピア色（褐色）のモノトーンになります。
クール	ブルー系のモノトーンになります。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。

- 〔セピア〕または〔クール〕を選んだ場合は、マルチセレクターで色の濃さを調整できます。▲を押すと色が濃くなり、▼を押すと色が薄くなります。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。

濃くする

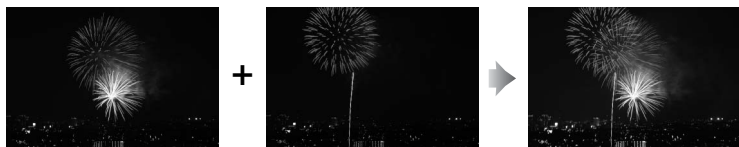


薄くする



- ⓧ ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

メモリーカードに記録されているRAW 画像2 コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。



1 画像編集メニュー画面で「画像合成」を選ぶ

- 「画像合成」を選んでマルチセクターの を押すと、右のような画面が表示され、「画像1」欄がハイライト表示されます。



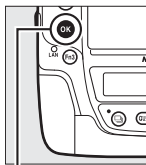
2 合成する画像の1コマ目を選ぶ

- ボタンを押すと表示されるRAW画像のサムネール一覧から、1コマ目の画像を選びます。
- ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- ボタンを押すと、「スロット/フォルダー指定」画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます (□238)。



3 1コマ目の画像を決定する


- ボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、「画像1」欄にプレビューが表示されます。



ボタン





4 2コマ目の画像を選ぶ

- を押して「画像2」を選び、手順2～3と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。






5 ゲインを調節する

- プレビュー欄に「画像1」と「画像2」を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成画像の明るさが適正になるように、「画像1」または「画像2」を選んでからまたはを押してゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1～2.0の範囲で、0.1ステップで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。






6 プレビュー欄に移動する

- またはを押して、プレビュー欄に移動します。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したいときは、「保存」を選んでボタンを押してください。




7 合成画像の構図を確認する

- 「合成」を選び、ボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、（）ボタンを押してください。手順6の画面に戻ります。



8 合成画像を保存する

- もう一度ボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。



画像合成についてのご注意

- プレビュー画像と実際の合成画像では、色や明るさなどの見え方が異なることがあります。
- 合成できる画像は、このカメラで撮影した静止画撮影メニュー **〔画像サイズ〕** の **〔RAW〕** が **〔サイズL〕** のRAW 画像だけです。機種の異なるカメラやRAW 以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 合成画像の画質モード (□□88) と画像サイズ (□□91) は、合成時のカメラの設定と同じになります (ただし **〔画像サイズ〕** の **〔RAW〕** が **〔サイズM〕** または **〔サイズS〕** の場合は、**〔サイズL〕** として合成されます)。画像合成をする前に、これらの設定を確認してください。合成した画像をさらに別のRAW 画像と合成したいときは、画質モードをRAW、画像サイズを **〔サイズL〕** に設定してください。
- 次の項目の設定が同じRAW画像のみ合成できます。
 - **〔撮像範囲〕**
 - **〔画像サイズ〕**
 - **〔RAW記録〕** の **〔記録ビットモード〕**
- 合成時にRAWを含む画質モードが選ばれている場合、元画像と同じ記録ビットモードになります。また、RAW圧縮は合成時のカメラの設定になります。
- 合成画像のホワイトバランス、ピクチャーコントロール、撮影データ (撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正值、焦点距離、縦横位置情報など) は、**〔画像1〕** で選んだ画像の内容を引き継ぎます。ただし、著作権情報は引き継ぎません。また、合成された画像には、画像合成時にカメラに設定されている画像コメントが添付されます。

編集前後の画像表示

画像編集を行った画像を、元画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。このメニュー項目は、編集元または編集後の画像を1コマ表示してⓧボタンを押しながら⏮を押すか、iボタンを押して「画像編集」を選んだときのみ表示されます。

■ 編集前後の画像表示方法

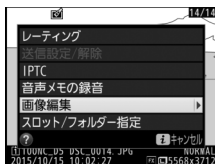
1 1コマ表示モードで画像を選ぶ

- 画像編集で作成した画像 (✓が表示されている画像) または画像編集の元画像を選びます。



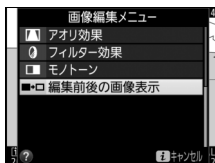
2 「画像編集」を選ぶ

- ⓧボタンを押しながら⏮を押すか、iボタンを押して、「画像編集」を選んでⓧボタンを押します。



3 「編集前後の画像表示」を選ぶ

- 「編集前後の画像表示」を選んでⓧボタンを押すと、「編集前後の画像表示」画面を表示します。



4 編集前と編集後の画像を比較する

- 編集前の画像を左側、編集後の画像を右側に表示します。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- マルチセレクトの \odot または \odot で、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、 \odot または \odot で2枚の元画像を切り換えられます。
- 1枚の元画像から複数の画像編集を行った場合、 \odot または \odot で編集後の画像を切り換えられます。
- \times ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- \odot ボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を表示します。
- \square ボタンを押すと、再生画面に戻ります。


画像編集の内容



✓ 編集前後の画像表示についてのご注意

- プロテクト（□254）されている画像を編集した場合は、編集前の画像は表示されません。
- 編集元の画像を削除した場合や非表示設定（□286）にした場合、編集前の画像は表示されません。

マイメニュー / 最近設定した項目

MENU ボタンを押して、タブの  アイコンを選ぶと、[マイメニュー] 画面が表示されます。

MENU ボタン




マイメニュー：よく使うメニューを登録する

再生、静止画撮影、動画撮影、カスタム、セットアップ、画像編集の各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20項目までマイメニューに登録できます。登録した項目は、削除したり、表示順序を変えたりできます。


■ マイメニューに登録する

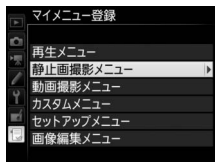
1 [マイメニュー] 画面で [マイメニュー登録] を選ぶ

- [マイメニュー登録] を選んで、マルチセクターの  を押します。



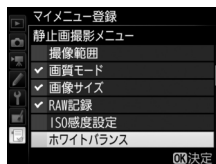
2 登録したいメニューを選ぶ

- 登録したいメニューを選んで  を押すと、選んだメニューが一覧表示されます。



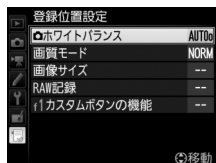
3 マイメニューに登録する項目を選ぶ

- マイメニューに登録する項目を選んでOKボタンを押します。



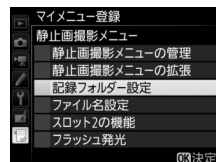
4 登録する項目の表示位置を選ぶ

- ☺または☹で登録する項目の表示位置を選んで、OKボタンを押します。



5 マイメニューに表示したい全ての項目を登録する

- ✓が表示されている項目は、すでにマイメニューに登録済みです。
- 左横に☒が表示されている項目は、マイメニューに登録できません。
- 手順1～4を繰り返して、マイメニューに表示したい項目を登録します。



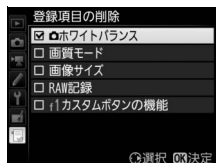
■ 登録した項目を削除する

1 [マイメニュー] 画面で [登録項目の削除] を選ぶ

- [登録項目の削除] を選び、マルチセクターの **OK** を押します。

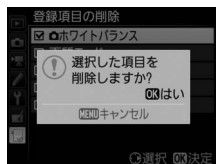
2 削除したいメニュー項目を選ぶ

- **OK** を押すと、項目の左側のチェックボックスが ☒ になります。
- 削除したい全ての項目に ☒ を入れます。



3 選んだ項目を削除する

- **OK** ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度 **OK** ボタンを押すと、選んだ項目が削除されます。




ボタン操作で登録した項目を削除するには


[マイメニュー] 画面で削除したい項目を選んで **FORMAT** ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度 **FORMAT** ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

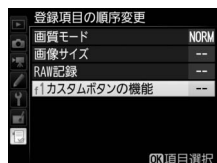
■ 登録した項目の表示順序を変える

1 [マイメニュー] 画面で [登録項目の順序変更] を選ぶ




- [登録項目の順序変更] を選び、マルチセクターの  を押します。

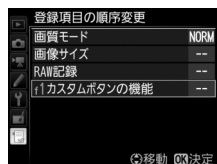
2 順番を変えたい項目を選ぶ

- 順番を変えたい項目を選んで、 ボタンを押します。



3 選んだ項目を移動したい位置を選ぶ

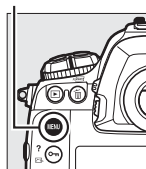
-  または  で移動したい位置を選んで、 ボタンを押すと、マイメニューの中で位置が変わります。
- 必要に応じて手順2～3を繰り返します。



4 [マイメニュー] 画面に戻る

MENU ボタンを押すと、[マイメニュー] 画面に戻ります。

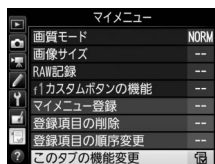
MENU ボタン



■ マイメニューの機能を「最近設定した項目」に変更する

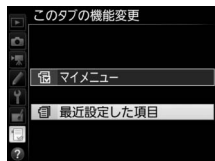
1 【マイメニュー】画面で【このタブの機能変更】を選ぶ

- 【このタブの機能変更】を選び、マルチセクターの \odot を押します。



2 【最近設定した項目】を選ぶ

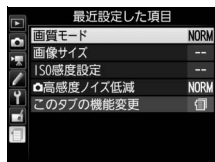
- 【このタブの機能変更】画面で【最近設定した項目】を選んで、 \odot ボタンを押します。
- 【マイメニュー】が【最近設定した項目】に切り替わります。



📄 最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる

■ 「最近設定した項目」の設定方法

メニューを設定するたびに「最近設定した項目」に追加されます。最大20項目まで登録されます。



🔪 最近設定した項目を削除するには

「最近設定した項目」画面で削除したい項目を選んで FORMAT ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度 FORMAT ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

🔪 「最近設定した項目」からマイメニューに戻すには

「最近設定した項目」の【このタブの機能変更】を選ぶと、「マイメニューの機能を「最近設定した項目」に変更する」の手順2と同じ画面が表示されます。【マイメニュー】を選んで \odot ボタンを押すと、マイメニューに切り替わります。







資料

このカメラで使えるアクセサリやカメラの主な仕様など、カメラを使うときに役立つ情報を記載しています。また、カメラの動作がおかしいときや警告メッセージが表示されたときの対処方法についても説明しています。

使用できるレンズ

CPUレンズ（IXニッコールを除く）をおすすめします。とくにGタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズは、カメラの機能を最大限に引き出すことができます。

モード レンズ	フォーカスモード		露出モード		測光モード			
	AF (オート フォーカス)	M (フォーカス エイド)※1	P S	A M	<div>   </div>		<div>   </div>	<div>  </div>
					3D-RGB	RGB		
CPUレンズ※2	Gタイプレンズ※3、 Eタイプレンズ※3、 Dタイプレンズ※3、 AF-Sレンズ、 AF-Pレンズ、 AF-Iレンズ	○	○	○	○	×	○※4	○
	PC NIKKOR 19mm f/4E ED※5	×	○※6	○※6	○※6	×	○※4、6	○※6
	PC-E NIKKOR シリーズ※5	×	○※6	○※6	○※6	×	○※4、6	○※6
	PCマイクロ 85mm F2.8D※5、7、8	×	○※6	×	○※8	×	○※4、6	○※6
	AF-S/AF-Iテレコン バーター※9	○	○	○	○	×	○※4	○
	Gタイプ、Eタイプ、 Dタイプ以外のAFレ ンズ（F3AF用を除く）	○※10	○※10	○	○	×	○※4	×
	AI-Pニッコール	×	○※11	○	○	×	○※4	×

=マルチパターン測光、
 =中央部重点測光、
 =スポット測光、
 *=ハイライト重点測光

レンズ	モード	フォーカスモード		露出モード		測光モード			
		AF (オート フォーカス)	M (フォーカス エイド) ※1	P S	A M	<div>  </div>		<div>  </div>	<div>  </div>
						3D-RGB	RGB		
非CPUレンズなど※12	AI-S、AI、AI改造 レンズ、シリーズエレ ンズ※13	×	○※11	×	○※14	×	○※15	○※16	×
	メディカル120mm f/4	×	○	×	○※17	×	×	×	×
	レフレックスレンズ	×	×	×	○※14	×	×	○※16	×
	PCニッコール	×	○※6	×	○※18	×	×	○	×
	AI-S、AIテレコン バーター ※19	×	○※20	×	○※14	×	○※15	○※16	×
	ペローズアタッチ メントPB-6 ※21	×	○※20	×	○※22	×	×	○	×
	オート接写リング (PK-11A、12、13、 PN-11)	×	○※20	×	○※14	×	×	○	×

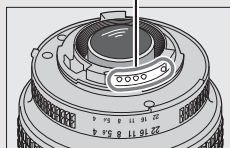
- ※1 M (マニュアルフォーカス) は全てのレンズで使用可能です。
- ※2 IXレンズは装着できません。
- ※3 このカメラはVRレンズのVR (手ブレ補正) 機能に対応しています。
- ※4 フォーカスポイントの選択によりスポット測光エリアの移動が可能 (□122)。
- ※5 電子先幕シャッター使用時は、むら、すじなどが発生することがあります。その場合は、カスタムメニュー d6 [電子先幕シャッター] (□328) を [無効] に設定して撮影してください。
- ※6 アオリ操作をしていない場合のみ可能。
- ※7 カメラの測光モード、および調光制御機能は、アオリ操作 (シフトまたはティルト) をしているとき、または開放絞り以外に絞り値が設定されているときには、正しく機能しません。
- ※8 露出モードはMで使用可能。
- ※9 オートフォーカスとフォーカスエイド可能なフォーカスポイントについては、□96をご覧ください。
- ※10 AF80–200mm f/2.8S、AF35–70mm f/2.8S、AF28–85mm f/3.5–4.5S (New) 、AF28–85mm f/3.5–4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスのピント表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
- ※11 開放F値がF5.6以上明るいレンズのみ使用可能。
- ※12 一部装着不可能なレンズ (□407) があります。
- ※13 AI ED80–200mm f/2.8Sの三脚座を回転するとカメラと干渉するため、回転方向に制限があります。AI ED200–400mm f/4Sをカメラに装着したままでのフィルター交換はできません。

- ※14 レンズ情報手動設定 (□231) でレンズの開放絞り値を設定することにより上面表示パネルとファインダー内表示に絞り値が表示されます。
 - ※15 レンズ情報手動設定 (□231) でレンズの焦点距離、開放絞り値を設定することにより可能です。一部のレンズでは焦点距離と開放絞り値を設定しても十分な精度が得られない場合があります。この場合は中央部重点測光またはスポット測光を選んで撮影してください。
 - ※16 レンズ情報手動設定 (□231) で焦点距離、開放絞り値を設定することにより、測光の精度が向上します。
 - ※17 露出モードが **M** でフラッシュ同調シャッタースピードより1段以上低速のシャッタースピードのときに使えます。
 - ※18 絞り込み測光で使えます。露出モードが **A** の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、AEロック後にアオリ操作を行ってください。露出モードが **M** の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、あおる前に測光して露出を決定してください。
 - ※19 AI 28–85mm f/3.5–4.5S、AI 35–105mm f/3.5–4.5S、AI 35–135mm f/3.5–4.5S、AF-S 80–200mm f/2.8Dレンズの組み合わせによっては、露出補正を行う必要があります。
 - ※20 合成絞り値がF5.6以上明るい場合に使用可能。
 - ※21 オート接写リングPK-12またはPK-13を併用すると装着できます。カメラの姿勢、位置によりPB-6Dが必要です。
 - ※22 絞り込み測光で可能、露出モードが **A** の場合はベローズアタッチメント側で絞り込みを行い、測光後撮影してください。
- 複写装置PF-4へはカメラアダプター PA-4を併用すると装備できます。
 - 高感度撮影時には、オートフォーカス作動中にノイズ（すじ）が発生することがあります。この場合は、マニュアルフォーカスまたはフォーカスロックを利用して撮影してください。また、動画撮影時やライブビュー表示中にISO感度が高い場合は、絞り作動中にノイズ（すじ）が発生することがあります。

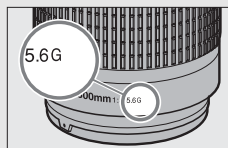
CPUレンズ、Gタイプレンズ、Eタイプレンズ、Dタイプレンズの見分け方

CPUレンズにはCPU信号接点があります。Gタイプレンズには「G」マークが、Eタイプレンズには「E」マークが、Dタイプレンズには「D」マークが付いています。GタイプレンズとEタイプレンズには、絞りリングがありません。

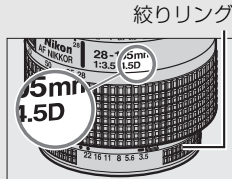
CPU信号接点



CPUレンズ



G/Eタイプレンズ



Dタイプレンズ

絞りリング

レンズの開放F値とは

レンズの明るさを示す数値で、そのレンズで最も絞りを開いたときの絞り値を意味します。レンズ名称の最後のほうに「f/2.8」「f/3.5-5.6」などと記されています。

非CPUレンズを使用する場合は

- 非 CPU レンズを使用する場合は、セットアップメニューの [レンズ情報手動設定] (□231) でレンズの焦点距離と開放絞り値を設定することによって、絞り値表示、RGB マルチパターン測光などの機能が使用できるようになります。レンズの焦点距離と開放絞り値を設定しない場合、測光モードをマルチパターン測光に設定しても、自動的に中央部重点測光になります。
- 絞り値はレンズの絞りリングでのみ設定できます。[レンズ情報手動設定] でレンズの開放絞り値を設定しない場合、上面表示パネルとファインダー内表示の絞り値表示が開放からの絞り込み段数表示となりますので、絞り値は、レンズの絞りリングで確認してください。

使用できないレンズ

次の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AFテレコンバーター TC-16AS
- AI改造をしていないレンズ (AI方式以前の連動爪を使用するタイプ)
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ (400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11)
- フィッシュアイ (6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6)
- 2.1cm f/4
- K2リング
- ED180-600mm f/8 (製品No.174041~174180)
- ED360-1200mm f/11 (製品 No.174031~174127)
- 200-600mm f/9.5 (製品 No.280001~300490)
- F3AF用 (AF80mm f/2.8、AF ED200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S)
- PC28mm f/4 (製品 No.180900以前の製品)
- PC35mm f/2.8 (製品 No.851001~906200)
- 旧PC35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11 (製品 No.142361~143000)
- レフレックス2000mm f/11 (製品 No.200111~200310)

VRレンズ装着時のご注意

次のレンズは、高感度や長時間露出で撮影する場合に装着するとVR制御システムの特
性により画像にむらが出ることがあるため、このような条件でお使いになることはお
すすめしません。

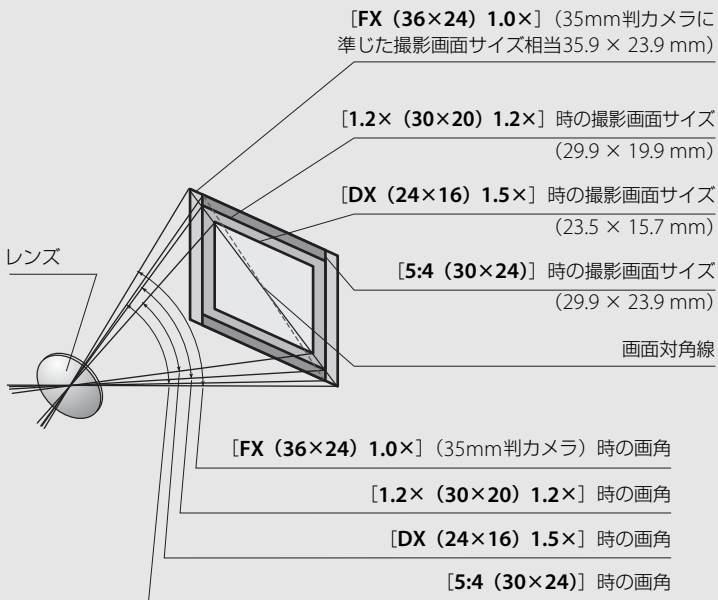
- AF-S VR Zoom-Nikkor 24–120mm f/3.5–5.6G IF-ED
- AF-S VR Zoom-Nikkor 70–200mm f/2.8G IF-ED
- AF-S VR Zoom-Nikkor 70–300mm f/4.5–5.6G IF-ED
- AF-S VR Nikkor 200mm f/2G IF-ED
- AF-S VR Nikkor 300mm f/2.8G IF-ED
- AF-S NIKKOR 16–35mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 24–120mm f/4G ED VR
- AF-S NIKKOR 28–300mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S NIKKOR 400mm f/2.8G ED VR
- AF-S NIKKOR 500mm f/4G ED VR
- AF-S DX VR Zoom-Nikkor 18–200mm f/3.5–5.6G IF-ED
- AF-S DX NIKKOR 16–85mm f/3.5–5.6G ED VR
- AF-S DX NIKKOR 18–200mm f/3.5–5.6G ED VR II
- AF-S DX Micro NIKKOR 85mm f/3.5G ED VR
- AF-S DX NIKKOR 55–300mm f/4.5–5.6G ED VR

その他のレンズをお使いの場合、画像への影響を避けるためにVRはOFFにしてください。

🔪 レンズの画角と焦点距離について

このカメラでは、さまざまな当社製35mm判カメラ用レンズが使用できます。35mm判カメラのレンズを装着すると、35mm判カメラと同じ画角（フィルム面に写し込む範囲）で撮影できます。

- 使用しているレンズと異なる画角で撮影することもできます。たとえば、35mm判カメラのレンズの使用時に、静止画撮影メニュー「撮像範囲」を「DX (24×16) 1.5×」や「1.2× (30×20) 1.2×」に設定して画角を狭くしたり、「5:4 (30×24)」に設定してアスペクト比（縦横比）の異なる画像を撮影することもできます。「撮像範囲」による撮影画面サイズと画角は次の通りです。




- 35mm 判カメラの撮影画面サイズは、対角線の長さで「DX (24×16) 1.5×」のときの約1.5倍、「1.2× (30×20) 1.2×」のときの約1.2倍、「5:4 (30×24)」のときの約1.1倍です。したがって、このカメラに35mm判カメラのレンズを装着したときのレンズに表記されている焦点距離は、「DX (24×16) 1.5×」のときが約1.5倍、「1.2× (30×20) 1.2×」のときが約1.2倍、「5:4 (30×24)」のときが約1.1倍に相当します。たとえば、焦点距離 50 mm のレンズを装着したときは、「DX (24×16) 1.5×」では約 75 mm、「1.2× (30×20) 1.2×」では約 60 mm、「5:4 (30×24)」では約 55 mm の焦点距離に相当する画角になります。

ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) について


ニコンクリエイティブライティングシステム (CLS) は、ニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を改良したシステムで、スピードライト撮影に新たな可能性を開く、さまざまな機能を提供します。

■ ニコンクリエイティブライティングシステム対応 スピードライトの主な仕様

	ガイドナンバー (ISO 100・m)
SB-5000※1、2	34.5 (照射角35mm、スタンダード配光時)
SB-910/ SB-900※1	34 (照射角35mm、スタンダード配光時)
SB-800	38 (照射角35mm時)
SB-700※1	28 (照射角35mm、スタンダード配光時)
SB-600	30 (照射角35mm時)
SB-500※3	24
SB-400※4	21
SB-300※4	18
SB-R200※5	10

※1 カメラのホワイトバランスを **AUTO** (オート) または  (フラッシュ) に設定し、SB-5000、SB-910、SB-900、またはSB-700用カラーフィルターを装着して撮影すると、カメラが自動的にフィルターを識別し、最適なホワイトバランスを設定します。

※2 別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-R10 と組み合わせると、電波制御でワイヤレス増灯撮影を行うこともできます (□199)。

※3 SB-500 の LED ライト機能を使用するときは、カメラのホワイトバランスを **AUTO** または  に設定すると、カメラが自動的に最適なホワイトバランスを設定します。

※4 ワイヤレス機能はありません。

※5 リモート発光専用スピードライトSB-R200を使用するには、SB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-500、またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800が必要です。



■ ニコクリエイティブライティングシステム対応 スピードライトとの組み合わせで利用できる機能

			SB-5000	SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
1灯	i-TTL	i-TTL-BL調光※1	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○
		スタンダード i-TTL調光	○※2	○※2	○	○	○※2	○	—	—	○	○	○
	⊗A	絞り連動外部 自動調光	○	○※3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A	外部自動調光	—※4	○※3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	GN	距離優先 マニュアル発光	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
	M	マニュアル発光	○	○	○	○	○	○※5	—	—	○※5	○※5	○※5
光制御アドバンスドワイヤレスライティング	マスターフラッシュ	RPT	リピーティング フラッシュ	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		リモートフラッシュへの 発光指示	○	○	○	—	○※5	○	—	—	—	—	—
		i-TTL	i-TTL 調光	○	○	○	—	○※5	—	—	—	—	—
		[A:B]	クイックワイヤレス コントロール	○	—	○	—	—	○※6	—	—	—	—
		⊗A	絞り連動外部 自動調光	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		A	外部自動調光	—	—※7	—	—	—	—	—	—	—	—
	リモートフラッシュ	M	マニュアル発光	○	○	○	—	○※5	—	—	—	—	—
		RPT	リピーティング フラッシュ	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
		i-TTL	i-TTL 調光	○	○	○	○	○	—	○	—	—	—
		[A:B]	クイックワイヤレス コントロール	○	○	○	○	○	—	○	—	—	—
		⊗A/A	絞り連動外部 自動調光/ 外部自動調光	○※8	○※8	—	—	—	—	—	—	—	—
		M	マニュアル発光	○	○	○	○	○	—	○	—	—	—
		RPT	リピーティング フラッシュ	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—
	電波制御アドバンスドワイヤレス ライティング		○※9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

	SB-5000	SB-910	SB-900	SB-800	SB-700	SB-600	SB-500	SU-800	SB-R200	SB-400	SB-300
発光色温度情報伝達 (フラッシュ)	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○
発光色温度情報伝達 (LEDライト)	—	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—
オートFPハイスピードシンクロ ※10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—
FVロック ※11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
マルチポイントAF補助光	○	○	○	○	○	—	○※12	—	—	—	—
赤目軽減発光	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○	—
カメラ起動モデリング発光	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—
ユニファイドフラッシュ コントロール	○	—	—	—	—	○	○	—	—	○	○
カメラからのスピードライト ファームアップ	○	○※13	○	—	○	○	—	—	—	—	○

- ※1 スポット測光時は設定できません。
- ※2 スピードライト側でも設定できます。
- ※3 ㊟AとAの選択は、スピードライトのカスタム設定で行います。また、セットアップメニューの「**レンズ情報手動設定**」でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。
- ※4 セットアップメニューの「**レンズ情報手動設定**」でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない非CPUレンズを装着した場合は外部自動調光になります。
- ※5 カメラ側でのみ設定できます。
- ※6 クローズアップ撮影時のみ設定できます。
- ※7 スピードライトのカスタム設定にかかわらず、セットアップメニューの「**レンズ情報手動設定**」でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。
- ※8 ㊟AとAの選択は、マスターフラッシュの設定に準じます。
- ※9 使用できる機能は、光制御アドバンストワイヤレスライティングのリモートフラッシュと同じです。
- ※10 発光モードがi-TTL、㊟A、A、GN、Mの場合のみ動作します。
- ※11 発光モードがi-TTLまたは「モニター発光あり」の㊟A、Aの場合のみ動作します。
- ※12 コマンダー撮影時のみ設定できます。
- ※13 SB-910とSB-900のみカメラからのスピードライトファームアップが可能です。

■ SU-800について

ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800は、ワイヤレスでSB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-R200を制御するコマンダーです。スピードライトを3つのグループに分けて光制御できます。SU-800には発光機能はありません。



モデリング発光について

別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト装着時には、**Pv**ボタンを押すとモデリング発光が行われます。アドバンストワイヤレスライティングによる増灯時には、使用する全てのスピードライトのモデリング発光が行われるので、照射光の効果を簡単に確認できます。プレビュー時にモデリング発光を行わないようにするには、カスタムメニュー e5 **【モデリング発光】** (□332) を **【しない】** に設定してください。

ガイドナンバーとは

フラッシュの光量を示す値で、大きいほど光が遠くまで届きます。「ガイドナンバー＝絞り値×撮影距離 (m)」(ISO感度が100の場合) という関係があります。ガイドナンバーが34 (ISO感度100) のスピードライトの場合、ISO感度が100で絞り値がF5.6なら、 $34 \div 5.6 \approx 6.1$ mまでフラッシュの光が届くことになります。また、実効ガイドナンバーはISO感度が2倍になると約1.4倍 ($\sqrt{2}$ 倍) になります。たとえば、ISO感度が200の場合、絞り値がF5.6なら $34 \div 5.6 \times 1.4 \approx 8.6$ mまで光が届きます。

その他のスピードライトとの組み合わせで利用できる機能

次のスピードライトを使用する場合、外部自動調光 (A) あるいはマニュアル発光撮影となります。装着レンズによって機能が変えることはありません。

スピードライト		SB-80DX SB-28DX	SB-50DX	SB-28 SB-26 SB-25 SB-24	SB-30 SB-27 ^{※1} SB-22S SB-22 SB-20 SB-16B SB-15	SB-23 SB-29 ^{※2} SB-21B ^{※2} SB-29S ^{※2}
カメラ側	A 外部自動調光	○	—	○	○	—
	M マニュアル発光	○	○	○	○	○
	 マルチフラッシュ	○	—	○	—	—
	REAR ^{※3} 後幕シンクロ	○	○	○	○	○

※1 このカメラとSB-27を組み合わせると自動的に**TTL**モードになりますが、**TTL**モードでは使えません。SB-27を**A**モードに設定し直してください。

※2 SB-29・21B・29Sでオートフォーカスができるレンズは、AF-S VR Micro-Nikkor 105mm f/2.8G IF-EDとAF-S Micro NIKKOR 60mm F2.8G EDのみです。

※3 カメラ側のフラッシュモードで設定してください。

☑ スピードライト使用時のご注意

- 詳細はお使いになる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応のスピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、ニコンクリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、このカメラはSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- ニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時には、i-TTLや外部自動調光モードにおいて、フル発光でも露出不足になる可能性のある場合に、発光直後に⚡（レディーライト）が約3秒間点滅して露出アンダー警告を行います。
- i-TTLモード時のISO感度連動範囲はISO 100～12800相当です。
- ISO感度を12800よりも増感した場合には、距離や絞り値によっては適正な発光量にならない場合があります。
- 露出モードがPの場合、下表の絞り値よりも絞りを開くことはできません。

ISO感度と開放側の限界絞り（F）

100	200	400	800	1600	3200	6400	12800
4	5	5.6	7.1	8	10	11	13

※ 制御される絞り値よりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- スピードライトSB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、SB-500、SB-400の使用時に、フラッシュモードが赤目軽減、赤目軽減スローシンクロモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- パワーアシストバックSD-8AまたはSD-9をカメラに固定した状態でフラッシュ撮影をすると、筋状のノイズが写り込むことがあります。その場合は、ISO感度を下げるか、SD-8AまたはSD-9をカメラから離してお使いください。
- スピードライトSB-5000、SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800の使用時に、AF補助光の照射条件が満たされると、スピードライト側のAF補助光を自動的に照射します。

- スピードライトSB-5000のAF補助光は、24～135mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント		
焦点距離が24mmから 49mmの場合	焦点距離が50mmから 84mmの場合	焦点距離が85mmから 135mmの場合
		


- スピードライトSB-910、SB-900のAF補助光は、17～135mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント	
焦点距離が17mmから 19mmの場合	焦点距離が20mmから 135mmの場合
	

- スピードライトSB-800、SB-600、ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800のAF補助光は、24～105mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント		
焦点距離が24mmから 34mmの場合	焦点距離が35mmから 49mmの場合	焦点距離が50mmから 105mmの場合
		

- スピードライトSB-700のAF補助光は、24～135mmまでのAFレンズに対応しています。AF補助光が照射されるフォーカスポイントは、次の図の通りです。

AF補助光が照射されるフォーカスポイント	
焦点距離が24mmから 27mmの場合	焦点距離が28mmから 135mmの場合
	


- 使用するレンズや撮影シーンによっては、オートフォーカスによるピント合わせができずにシャッターがきれなかったり、ピントが合わなくてもピント表示（●）が点灯してシャッターがきれることがあります。
- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードi-TTL調光以外では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネルまたは付属のバウンスアダプター以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出としない場合があります。

使用できるアクセサリー

このカメラには撮影領域を広げるさまざまなアクセサリーが用意されています。詳しくは最新のカatalogや当社のホームページなどでご確認ください。

電源	<ul style="list-style-type: none">● Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18c (□18、21) ニコンデジタルカメラD5用のバッテリーです。EN-EL18cは、バッテリーチャージャー MH-26aを使用して充電、キャリブレーション (□464) が行えます。<ul style="list-style-type: none">- EN-EL18cの代わりにEN-EL18b/EN-EL18a/EN-EL18も使えます。● バッテリーチャージャー MH-26a (□18) Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL18c/EN-EL18b/EN-EL18a/EN-EL18用のチャージャーです。キャリブレーション機能も装備しています。● パワーコネクター EP-6、ACアダプター EH-6b ※ ACアダプターを使用すると、長時間カメラを使用するときに安定して電源を供給できます。<ul style="list-style-type: none">- このカメラは、カメラ本体と AC アダプターを接続するためにパワーコネクターEP-6が必要です。カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する方法については、「カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法」(□423) をご覧ください。- EH-6bの代わりにACアダプター EH-6a、EH-6も使えます。※日本国内専用電源コード (AC 100V対応) 付属。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。
フィルター	<ul style="list-style-type: none">● フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、ニュートラルカラー NCをお使いください。● カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター (Polar) は使用できません。円偏光フィルター (C-PL、C-PL II) をお使いください。● 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生するおそれがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。● 露出倍数のかかるフィルター (Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL (円偏光フィルター)、ND25、ND45、ND4、ND8S、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12) を使用する場合は、RGBマルチパターン測光、または3D-RGBマルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。詳しくは、各フィルターの使用説明書をご覧ください。● 特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスイッドが行えないことがありますのでご注意ください。



無線LAN アダプター  268)	<ul style="list-style-type: none"> • ワイヤレストランスミッター WT-6/WT-5 カメラの拡張端子に装着することにより、カメラで撮影した画像をワイヤレスで転送したり、別売のCamera Control Pro 2を使ってパソコンからカメラを遠隔操作できます。さらに、パソコンやスマートフォンまたはタブレットのWebブラウザから画像の閲覧やリモート撮影ができます。 ワイヤレストランスミッターをお使いいただく場合は、無線LANの知識および環境が必要です。ワイヤレストランスミッターで使用するソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。
ワイヤレス リモートコン トローラー	<ul style="list-style-type: none"> • ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10/WR-T10 ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10を、10ピンターミナルに接続したWR用変換アダプター WR-A10に取り付けると、ワイヤレスリモートコントローラー WR-T10からの操作で無線での遠隔撮影を行えます。WR-R10を使用して、電波制御に対応したスピードライトを制御することもできます。 • ワイヤレスリモートコントローラー WR-1 WR-1は、他のWR-1やWR-R10またはWR-T10と組み合わせて、送信機または受信機として使います。たとえば、受信機に設定したWR-1をカメラの10ピンターミナルに取り付けると、送信機に設定したWR-1からの操作で、遠隔撮影することができます。 ワイヤレスリモートコントローラーをお使いいただく場合は、WR-R10ならびにWR-1のファームウェアを最新版にバージョンアップしてください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。
ファインダー用 アクセサリ	<ul style="list-style-type: none"> • 接眼目当てDK-19 接眼部に取り付けて使用する、ゴム製の接眼目当てです。ファインダー視野がよりはっきり確認でき、目の疲れを軽減します。 • 接眼補助レンズDK-17C 遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えることができます。－3、－2、0、＋1、＋2m⁻¹の5種類が用意されています。視度補正は個人差が大きいため店頭で実際に取り付けてお選びください。このカメラには視度調節機能が付いています（－3～＋1m⁻¹）ので、この範囲外の視度補正が必要なおきにお使いください。

ファインダー用 アクセサリ	<ul style="list-style-type: none"> • マグニファイングアイピースDK-17M 接眼部に取り付けることにより、ファインダー倍率を約1.2倍に拡大します。 • マグニファイヤー DG-2 ファインダー中央部の像を拡大します。より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。 • アイピースアダプター DK-18 このカメラにマグニファイヤーDG-2やアングルファインダーDR-3を取り付けるためのアダプターです。 • アイピースアダプター DK-27 このカメラの接眼部に標準で装着されているアイピースアダプターです。 • アンティフォグ ファインダーアイピースDK-14、DK-17A 寒いときや湿度が高い場合など、ファインダーのくもりの発生を防止し、クリアなファインダー像を提供します。 • フッ素コート付きファインダーアイピースDK-17F このカメラに標準で装着されているアイピースです。汚れが付着しにくく付着しても簡単に拭き取れる、ニコン独自のフッ素コートを両面に採用した保護ガラスを使用しています。 • 変倍アングルファインダー DR-5 変倍アングルファインダーDR-5をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。全視野が見える1倍と、より精密なピント確認作業が可能な2倍※の2種類の倍率を選択できます。また、視度調節も可能です。 ※ 2倍では周辺部にケラレが生じます。 • アングルファインダー DR-4 アングルファインダーDR-4をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。
HDMIケーブル (㊦273)	<ul style="list-style-type: none"> • HDMIケーブルHC-E1 カメラ側がType C、HDMI機器側がType AのHDMIケーブルです。
ボディ キャップ	<ul style="list-style-type: none"> • ボディーキャップBF-1B、BF-1A レンズを取り外したカメラボディに取り付けることにより、ゴミやほこりの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。

ニコンデジタル
カメラ専用
ソフトウェア

• **Camera Control Pro 2**

パソコンからカメラを操作して静止画や動画を撮影したり、撮影した画像を直接ハードディスクなどに保存したりできる、カメラコントロール用ソフトウェアです。Camera Control Pro 2で画像の記録先の設定が【PC】になっている場合、カメラとパソコンを接続してCamera Control Pro 2を起動すると、上面表示パネルにPC接続中マークPが表示されます。

- ソフトウェアは必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。ご使用のパソコンがインターネットに接続されている場合、OSログオン後に所定時間を経過すると、ニコンメッセージセンター2はソフトウェアの更新情報などを確認します（初期設定）。更新情報がある場合は、「通知の画面」が自動的に表示されます。
- 対応OSについては、当社ホームページのサポート情報（□xix）でご確認ください。

10ピン
ターミナルに
接続する
アクセサリ

10ピンターミナル（□2）に次のアクセサリを接続することにより、遠隔撮影や無人撮影などができます。

使用しない場合は、必ず10ピンターミナルにキャップをしてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。

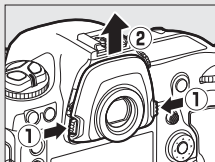
- **リモートコードMC-22、MC-22A**（長さ：約1 m）
コード先端にある端子（青、黄、黒）に特殊装置を接続すると、音や信号による遠隔操作が可能です。
- **リモートコードMC-30、MC-30A**（長さ：約80 cm）
カメラブレを避けたいときや、カメラから離れてリリース操作をしたいときに便利です。
- **リモートコードMC-36、MC-36A**（長さ：約85 cm）
一定間隔で撮影するインターバルタイマー機能を備えたリモート撮影用コードです。
- **延長コードMC-21、MC-21A**（長さ：約3 m）
MC-20、MC-22、MC-22A、MC-23、MC-23A、MC-25、MC-25A、MC-30、MC-30A、MC-36、MC-36A、ML-3に併用できる延長コードです（MC-21またはMC-21Aを2本以上接続して使用することはできません）。
- **接続コードMC-23、MC-23A**（長さ：約40 cm）
10ピンターミナルを装備するカメラを2台同時に作動させるための接続コードです。
- **変換コードMC-25、MC-25A**（長さ：約20 cm）
2ピンターミナル用のラジオコントロールセットMW-2や、インターパロメーターMT-2、ルミコントロールセットML-2などを、10ピンターミナルに接続するための変換コードです。



<p>10ピン ターミナルに 接続する アクセサリ</p>	<ul style="list-style-type: none"> • WR用変換アダプター WR-A10 ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10を10ピンターミナル 装備のカメラに装着するためのアダプターです。 • GPSユニットGP-1/GP-1A 10ピンターミナルでカメラとGP-1/GP-1Aを接続することにより、 撮影時の緯度、経度、標高、協定世界時（UTC：□□235）を画像 データに記録することができます（□□234）。 • GPS変換コードMC-35（長さ：約35 cm） カメラとGPS機器で通信を行うための接続コードです（□□234）。 <ul style="list-style-type: none"> - データ形式がNMEA（National Marine Electronics Association） 0183 ver.2.01 および ver.3.01 を満たすGPS機器（GARMIN社製： 「eTrex」シリーズ、「geko」シリーズ）と接続できます。 PC-Interface Cable が接続可能な機種のみ対応しています。USB インターフェース対応機種には接続できません。 - MC-35とGPS機器との接続には、GPSメーカーのPC接続ケーブ ル（D-sub9ピンタイプ）が必要です。詳しくはMC-35の使用説 明書をご覧ください。 - GPS機器の通信形式は、NMEAに設定してください（Baud rate は4800です）。 - GPS機器の使用方法については、GPS機器の使用説明書をご覧く ださい。 • ルミコントロールセットML-3 最大で約8m離れたところから、信号（赤外パルス光）による遠隔 操作ができます。
<p>外部マイク</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ステレオマイクロホンME-1（□□71） ステレオマイクロホンME-1を外部マイク入力端子に接続すると、ス テレオ録音ができます。また、動画撮影中（□□58）にオートフォー カスでピント合わせをしたときに生じるレンズの動作音などが録 音されるのを軽減できます。 • ワイヤレスマイクロホンME-W1 Bluetooth無線通信技術を搭載したワイヤレスマイクロホンです。 カメラの動画撮影時に離れた場所の音声を収音できます。
<p>端子カバー</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ステレオミニプラグケーブル用端子カバー UF-6（□□422） ステレオマイクロホンME-1（別売）のステレオミニプラグが不用 意にカメラから外れることを防ぐことができます。

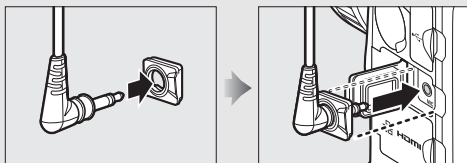
アイピースアダプターについて

アイピースアダプターの左右のロックボタンを押しながら上に押し上げると (①)、アイピースアダプターが取り外せます (②)。



ステレオミニプラグケーブル用端子カバーについて

ステレオミニプラグケーブル用端子カバーの取り付けは、次の手順で行ってください。



使用できるアクセサリーについて

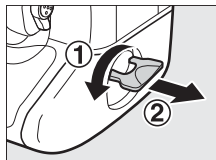
- 国または地域によって、販売していない場合があります。
- アクセサリーの最新情報は、当社ホームページやカタログなどでご確認ください。

カメラとパワーコネクター、ACアダプターの接続方法

カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する前に、カメラ本体の電源がOFFになっていることを確認してください。

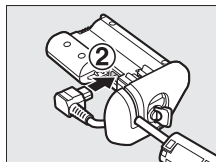
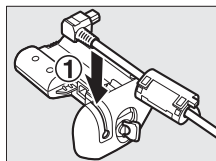
1 バッテリー室カバー BL-6を取り外す

- バッテリー着脱ノブを引き起こしてから左方向に回し (①)、バッテリー室カバーを取り外します (②)。



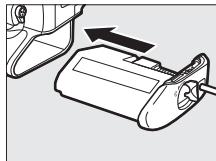
2 パワーコネクター EP-6にACアダプター EH-6bを接続する

- ACアダプターの接続コードをパワーコネクターのコード通し口に奥まで差し込みます (①)。
- ACアダプターのDCプラグをパワーコネクターのDCプラグコネクターに差し込みます (②)。



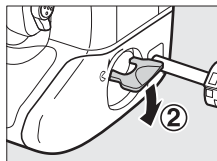
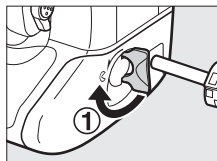
3 カメラにパワーコネクターを入れる

- パワーコネクターは右図で示されている向きで奥までしっかりと入れてください。



4 パワーコネクター着脱ノブをロックする

- パワーコネクター着脱ノブを右図のように回してから (①)、凹みに倒して収納します (②)。
- カメラの操作中にパワーコネクターが外れないように、パワーコネクター着脱ノブがしっかりとロックされていることをご確認ください。
- パワーコネクターとACアダプターの使用時には、上面表示パネルのバッテリー残量表示が消えます。



カメラのお手入れについて

保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源がOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記の場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度が60%を超える場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または-10℃以下の場所

クリーニングについて

カメラ本体	<p>ほこりや糸くずをブローアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。</p> <p>ご注意：カメラ内部にゴミ、ほこりや砂などが入り込むと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。</p>
レンズ・ミラー・ファインダー	<p>ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブローアーで払います。スプレー缶タイプのブローアーは、缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。</p>
画像モニター	<p>ほこりや糸くずをブローアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。</p>

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

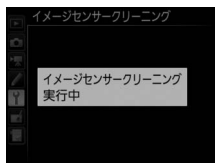
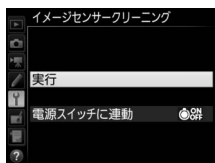
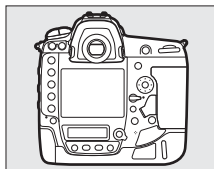
ローパスフィルターを自動で掃除する (イメージセンサークリーニング)

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、ローパスフィルターを振動させてゴミをふるい落とすことができます。

イメージセンサークリーニングは、メニューから操作する方法と、電源のON/OFF時に自動的に行う方法があります。

■ セットアップメニューの [イメージセンサークリーニング] から操作する

- 効果的にゴミをふるい落とせるように、正位置（カメラを横位置で構えたときの向き）にしてください。
- セットアップメニューの [イメージセンサークリーニング] を選び、[実行] を選んで **OK** ボタンを押すと、イメージセンサークリーニングが開始されます。実行中は、上面表示パネルに **bv5y** が点滅し、撮像素子のチェックも行われます。
- イメージセンサークリーニング実行中は、カメラの操作はできません。バッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- クリーニングが完了すると、セットアップメニュー画面に戻ります。

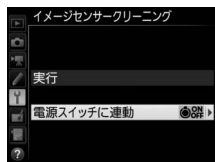


■ 電源のON/OFF時にイメージセンサークリーニングする

●ON 電源ONで実行	電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
●OFF 電源OFFで実行	電源OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
●ON/OFF 電源ONとOFFで実行	電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。
実行しない	電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

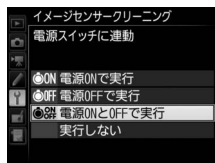
1 [イメージセンサークリーニング] 画面で[電源スイッチに連動]を選ぶ

- [電源スイッチに連動] を選んでマルチセクターの▶を押すと、[電源スイッチに連動] 画面が表示されます。



2 イメージセンサークリーニングの方法を選ぶ

- OK ボタンを押して設定します。




✓ イメージセンサークリーニングについてのご注意

- 電源スイッチに連動してイメージセンサークリーニングが作動しているときにカメラを操作すると、イメージセンサークリーニングは中断します。
- 完全にゴミを取り除けないことがあります。そのときは、ローパスフィルターを市販のプロアードで掃除する（Q428）か、ニコンサービス機関にご相談ください。
- イメージセンサークリーニングを連続で行うと、内部の回路を保護するため、一時的に作動しなくなる場合があります。少し時間をおくと再び作動するようになります。

ローパスフィルターをブローで掃除する

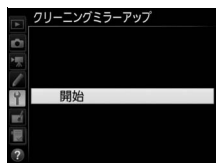
イメージセンサークリーニング（□426）でゴミやほこりを取りきれないときは、ローパスフィルターを次の手順でクリーニングできます。ただし、ローパスフィルターは非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

- 作業中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターを組み合わせるお使いください。
- セットアップメニューの「クリーニングミラーアップ」を使用します。セットアップメニュー「ネットワーク」の「通信機能」が「有効」の場合やバッテリー残量表示が以下の場合、このメニュー項目は操作できません。

1 カメラの電源をOFFにしてからレンズを取り外す

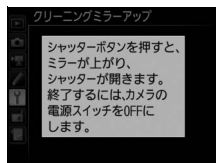
- レンズを取り外したら、カメラの電源をONにしてください。

2 セットアップメニューで「クリーニングミラーアップ」を選んでマルチセクターのを押す



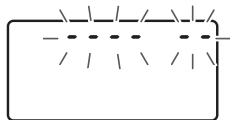
3 ボタンを押す

- クリーニングミラーアップの待機状態になります。
- 画像モニター、上面表示パネル、ファインダー内表示に右のように表示されます。
- ローパスフィルターのお手入れを止めるには、カメラの電源をOFFにしてください。



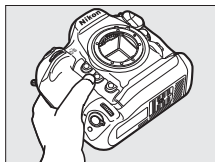
4 シャッターボタンを全押しする

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。
- このとき、上面表示パネルは右のような点滅表示になります。背面表示パネル、ファインダー内の表示は消灯します。



5 ローパスフィルターに光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、手順7にお進みください。



6 ローパスフィルターに付いたゴミやほこりをブローで払う

- ブラシの付いていないブローアーをお使いください。ブラシでローパスフィルターの表面に傷が付くことがあります。
- ブローアーで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。



7 カメラの電源をOFFにし、付属のボディーキャップを付ける

- ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次の点にご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、直ちに作業を終了してください。

ローパスフィルターに付着するゴミなどについて

ローパスフィルターには、カメラからレンズまたはボディキャップを取り外した際に外部からカメラ内に入ったゴミや、まれにカメラ内部の潤滑剤や細粉などが付着することがあり、撮影条件によってはローパスフィルターに付着したゴミや潤滑剤、細粉などが撮影画像に写り込む場合があります。カメラ内へのゴミの侵入を防止するため、ほとりの多い場所でのレンズ交換やボディキャップの着脱は避け、カメラ本体のマウント部およびレンズのマウント部、ボディキャップのゴミを除去してからカメラに取り付けてください。レンズを外してカメラを保管するときは、必ず付属のボディキャップを装着してください。ローパスフィルターに付着したゴミなどをイメージセンサークリーニング（□426）で取り除ききれないときは、428ページの手順でクリーニングしていただくか、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。なお、ゴミの写り込みは、画像加工アプリケーションなどで修正できます。

定期点検、オーバーホールのおすすめ

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールすることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にお使いの場合は、早めに点検整備を受けてください。
- より安心してご愛用いただけるよう、お使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

時計用電池の交換について

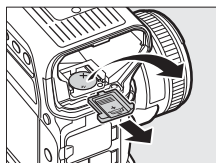
カメラ内蔵の時計は、Li-ion リチャージャブルバッテリーとは別のCR1616型リチウム電池で作動しています。この電池の寿命は約2年です。半押しタイマー作動時間中に上面表示パネルに時計用バッテリーチェックマーク（**CLOCK**）が点灯した場合は、電池残量が少なくなっていますので、市販の新しいCR1616型リチウム電池に交換することをおすすめします。さらに残量が減って、時計用バッテリーチェックマーク（**CLOCK**）が点滅した場合は、撮影は可能ですが日付時刻は正しく記録されません。

■■ 時計用電池の交換方法

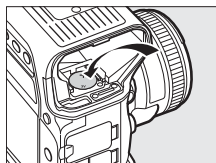
1 カメラの電源をOFFにして、バッテリーを取り外す

2 バッテリー室内の上部にある時計用電池カバーを外側に引き出す

3 古い時計用電池を取り出す

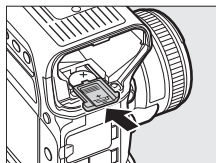


4 新しいCR1616型リチウム電池を、+側（型番が印字されている側）が見えるように向け、くぼみにはめ込む



5 時計用電池カバーをスライドして、奥まで差し込む

• カチッと音がするまで差し込んでください。



6 Li-ionリチャージャブルバッテリーをカメラに装着する

7 場所と日時を設定する (📖26)

- 電池交換後は地域と日時の設定をするまで
上面表示パネルの時計用バッテリーチェックマーク (🔋LOCK) が点滅します。



✓ 時計用電池の向きについて

時計用電池は正しい向きで入れてください。内蔵時計が機能しないばかりでなく、故障の原因となります。



カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意

カメラの取り扱い上のご注意

● 強いショックを与えない

カメラやレンズを落としたり、ぶつけたりしないようにご注意ください。強い衝撃や振動を加えると、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

● 水にぬらさない

カメラは水にぬらさないようにご注意ください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がさびついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えない

極端に温度差のある場所に急にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからお使いください。

● 強い電波や磁気の発生する場所で撮影しない

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲や、強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しない

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色、焼き付き、破損を起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像に、真っ白くにじみが生じることがあります。

● カメラ本体のお手入れについて

カメラ本体のお手入れの際は、プロアアーでゴミやほこりを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

● ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズは傷が付きやすいので、ゴミやほこりが付いているときは、ブロアーで軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶タイプのブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにお使いください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

● ローパスフィルターの手入れ方法について

撮像素子の前面にあるローパスフィルターのクリーニングの方法については □426、428ページをご覧ください。

● レンズの信号接点について

レンズの信号接点を汚さないようにご注意ください。

● シャッター幕に触れない

- シャッター幕は非常に薄いため、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。傷や変形、破損などの原因となります。
- シャッター幕に色むらが見える場合がありますが、異常ではありません。また、撮影した画像には影響ありません。

● 風通しのよい場所に保管する

カビや故障などを防ぐため、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。防虫剤のあるところ、磁気を発生する器具のそば、高温となる夏季の車内、使用しているストープの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

● 長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤と一緒に保管する

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液もれなどからカメラを保護するために、必ずカメラからバッテリーを取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れておくより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れると、変質することがありますので避けてください。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸うと効力がなくなるので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておく、カビや故障の原因となることがあるので、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは、必ずカメラの電源をOFFにする

カメラの電源がONの状態では、バッテリーを取り出したり、ACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影中や記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 画像モニターについて

- モニター画面は、非常に精密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効ドットがありますが、0.01%以下でドット抜けするものがあります。そのため、常時点灯（白、赤、青、緑）あるいは非点灯（黒）の画素が一部存在することがありますが、故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。あらかじめご了承ください。
- 屋外では日差しの加減で画像モニターが見えにくい場合があります。
- 画像モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。画像モニターの故障やトラブルの原因になります。もしゴミやほこり等が付着した場合は、ブローアークで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、画像モニターが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがあるので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

● 付属のアクセサリーシューカバーについて

カメラを雨の中で使用すると、付属のアクセサリーシューカバー内に水分が入り込む場合があります。雨天時にカメラを使用した後は、アクセサリーシューカバーを取り外して水分を拭き取ってください。

バッテリーの取り扱いについて

● 使用上のご注意

- バッテリーの使用方法を誤ると液もれにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。
 - バッテリーはカメラの電源をOFFにしてから入れる。
 - バッテリーを長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがあるので注意する。
 - バッテリーの端子は、汚さないように注意する。
 - 必ず指定のバッテリーを使う。
 - バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしない。
 - カメラやチャージャーから取り外したバッテリーには、必ず端子カバーを付ける。
- カメラの使用直後など、バッテリーの温度が高くなっている場合は、温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、または不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因になります。
- しばらく使わない場合は、カメラでバッテリーを使い切った状態でカメラから取り外し、涼しいところで保管してください。周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。
- 使用後のバッテリーは半年以内に充電するようおすすめします。長期間保管する場合は、半年に一回程度充電した後、カメラでバッテリーを使い切ってから涼しいところで保管してください。
- 使用しないときは必ずバッテリーをカメラやチャージャーから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れていますので、過放電になり使えなくなるおそれがあります。

● 撮影前にバッテリーをあらかじめ充電する

撮影前にバッテリーを充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されていません。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、充電された予備のバッテリーをご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合があるので、ご注意ください。

● 低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意する

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しないことがあります。低温時にはフル充電したバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使えることがあります。



● バッテリーの残量について

- 電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源のON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してお使いください。
- 十分に充電したにもかかわらず、室温での使用状態でバッテリーの使用時間が極端に短くなってきた場合は、バッテリーの寿命です。新しいリチャージャブルバッテリーをお求めください。

● 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しない

バッテリー性能が劣化します。

● 小型充電式電池のリサイクル

不要になった充電式電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。



Li-ion00

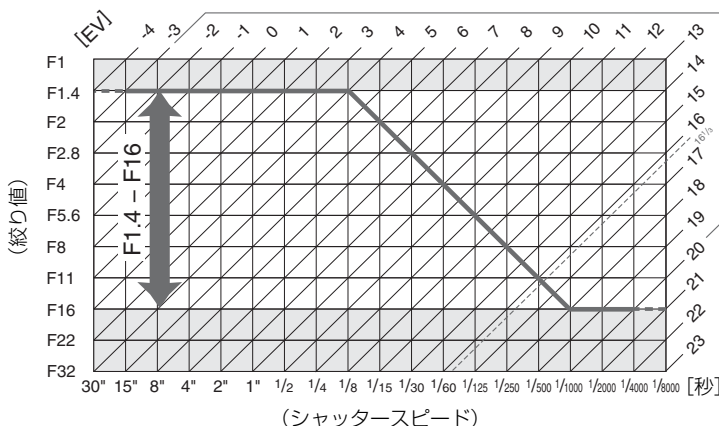
数字の有無と
数値は、電池
によって異な
ります。

露出モードP（プログラムオート）のプログラム線図

次のグラフは、露出モードがPのとき（□125）の露出制御プログラム（ISO 100の場合）を表しています。

—— ISO 100、開放絞りF1.4・最小絞りF16のレンズ
(例：AF-S NIKKOR 50mm f/1.4G) の場合

測光範囲：EV -3～20



- 測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO 100の場合 $16 \frac{1}{3}$ を超えるEV値では、全て $16 \frac{1}{3}$ として制御されます。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせになる前に、次の項目をご確認ください。

電源・表示関連

● 電源ONの状態で、カメラの操作ができない

- 画像の記録などの処理が終わるまでお待ちください。
- 操作できない状態が続くときは、電源をOFFにする操作をしてください。
- 電源がOFFにならない場合は、バッテリーを入れ直してください。
- ACアダプター使用時は付け直してください。
 - 記録中であったデータは保存されません。
 - 保存済みのデータはバッテリーやAC アダプターの取り外しでは失われます。

● ファインダー内がはっきり見えない

- ファインダー内の見え方は、視度調節ノブを回して調節できます（□34）。
- 視度調節の範囲を超える補正が必要な場合は、別売の接眼補助レンズをお使いになることをおすすめします（□35、418）。

● ファインダー内が暗い

バッテリー残量は充分ですか？バッテリーが入っていない場合や、入っていても残量がない場合は、ファインダー内が暗く表示される場合があります（□18、36）。

● ファインダー内や表示パネル、画像モニターの表示が、すぐに消えてしまう

カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] や c4 [モニターのパワーオフ時間] で、表示が消えるまでの時間を設定できます（□325、326）。

● 表示パネルやファインダー内の表示が薄い、表示が遅い

低温や高温のときは表示の濃度が変わったり、応答速度が遅くなる場合があります。

撮影関連

● 電源をONしてから、撮影できる状態になるまでに時間がかかる

メモリーカード内にフォルダーや画像が大量にあるときは、ファイル検索のため時間がかかる場合があります。

● シャッターがきれない

- 残量のあるメモリーカードが入っていますか？（□29、37）
- Gタイプ、Eタイプレンズ以外のCPUレンズを装着している場合は、レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい数値）に設定しないとシャッターがきれません。上面表示パネルに**fE E**と表示されている場合、カスタムメニュー f4 [コマンドダイヤルの設定] の [絞り値の設定方法] を [絞りリング] に設定すると、レンズの絞りリングで絞り値を設定できます（□348）。
- 露出モード**M**でシャッタースピードを**b1/100**（バルブ）または**- -**（タイム）に設定し、そのまま露出モードを**S**に変更した場合は、シャッタースピードを再設定してから撮影してください（□448）。
- セットアップメニュー [カードなし時リリース] が [リリース禁止] になっていませんか？（□376）

● シャッターがきれるのが遅い

カスタムメニュー d5 [露出ディレーモード] を [しない] にしてください（□328）。

● 連続撮影できない

HDR撮影時は、連続撮影できません（□181）。

● ピントが合わない

- マニュアルフォーカスになっていませんか？オートフォーカスで撮影するには、フォーカスモードセクターを**AF**に合わせてください（□94）。
- 次のような被写体では、オートフォーカスではピントが合わせづらい場合があります。マニュアルフォーカス、フォーカスロックを利用して撮影してください（□105、108）。
明暗差がはっきりしない/遠くのものや近くのものが混在する/連続した繰り返しパターン/輝度差が著しく異なる/背景に対して主要被写体が小さい/絵柄が細かい

● 設定できるシャッタースピードの範囲が狭い

フラッシュ撮影時は、シャッタースピードが制限されます。フラッシュ撮影時の同調シャッタースピードは、カスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] で、1/250～1/60秒の範囲で設定できます。[1/250秒(オートFP)] に設定して、別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを使用すると、全シャッタースピードに同調可能なオートFPハイスピードシンクロが可能です (□331)。

● シャッターボタンを半押ししても、フォーカスロックされない

AFモードが**AF-C**に設定されている場合、サブセレクターの**中央**を押してフォーカスをロックしてください (□105)。

● フォーカスポイントを選べない

- フォーカスポイントロックレバーが**L** (ロック) の位置になっていませんか？ (□103)
- AFエリアモードがオートエリアAFのときは、選べません (□99)。
- AF エリアモードを顔認識 AF にしてライブビュー撮影を行っている場合は、選べません (□47)。
- 画像の再生時またはメニューの操作時には、フォーカスポイントを選択できません (□237、276)。
- 半押しタイマーがオフになっていませんか？フォーカスポイントを選ぶには、シャッターボタンを半押しして半押しタイマーをオンにしてください (□40)。

● AFモードを変更できない

カスタムメニュー a10 [AFモードの制限] を [制限しない] に設定してください (□321)。

● 画像の記録に時間がかかる

静止画撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] が [する] になっていませんか？ (□303)

● 画像にノイズ（ざらつき、むら、すじ、輝点）が発生する

- ISO感度を低く設定して撮影すると、ざらつき、むら、すじ、輝点を低減できます。
- シャッタースピードが1秒より低速な場合は、静止画撮影メニュー〔**長秒時ノイズ低減**〕を〔**する**〕にして撮影すると、むら、輝点を低減できます（□303）。
- 高温となる場所での撮影や長時間露出撮影などでカメラが熱くなっている場合は、むら、輝点が強調されることがあります。カメラの電源をOFFにしてカメラ内部の温度が下がるまで涼しいところにしばらく置いてから撮影すると、むら、輝点を低減できます。
- 一部のスピードライトを使用したときに ISO 感度を高く設定して撮影すると、すじが発生することがあります。この場合、ISO感度を下げて撮影してください。
- 次の場合、静止画撮影メニューまたは動画撮影メニューの〔**高感度ノイズ低減**〕を〔**しない**〕以外に設定すると、ざらつきを低減できます（□303、310）。
 - ISO感度を高く設定している場合
 - 〔**感度自動制御**〕を〔**する**〕にしてISO感度が高くなった場合
- 次の条件で撮影する場合、ISO感度を高く設定しているとざらつき、むら、すじ、輝点が強調されることがあります。
 - アクティブD-ライティングを〔**しない**〕以外に設定して撮影する場合
 - 〔**ピクチャーコントロール**〕で〔**フラット**〕（□170）を選んで撮影する場合
 - ピクチャーコントロール調整で調整する値が大きい場合（□172）
 - 多重露出撮影する場合
 - 長時間露出撮影する場合
 - 高温となる場所で撮影する場合

● ライブビュー表示中の画像モニターに表示された明るさと、撮影した画像の明るさ（露出）が違う

ライブビュー時に画像モニターの明るさを調整しても、撮影した画像には反映されません（□61）。

● 動画撮影時に画面にちらつきや横縞が生じる

動画撮影メニュー〔**フリッカー低減**〕の設定を、カメラをお使いになる地域の電源周波数に合わせてください（□311）。

● ライブビューで横帯状の明るい部分が生じる

撮影している周囲でスピードライトやフラッシュなどが発光されたり、イルミネーションなどの点滅する光源がある場合には、画面の一部が明るくなったり、明るい横帯が発生することがあります。


● 画像にゴミが写り込む

- レンズの前面または背面（マウント側）が汚れていませんか？
- 撮像素子の前面にあるローパスフィルターにゴミが付着していませんか？イメージセンサークリーニングを行ってください（□426）。

● ライブビューが開始されなかったり、自動的に終了する

- 次のような場合は、高温によるカメラへの損傷を抑えるために、ライブビューの開始を制限したり自動的に終了したりすることがあります。
 - 撮影時の気温が高い場合
 - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行った場合
 - 連続撮影を行った直後など
- カメラが熱くなってライブビューを開始できない場合は、カメラ内部の温度が下がるまでライブビューを一時休止してください。このとき、カメラボディー表面が熱くなることがありますが故障ではありません。

● ライブビューで画面にノイズ（ざらつき、むら、すじ、輝点）が発生する

- ライブビューで長時間カメラを使用すると、カメラ内部の温度が上昇することがあるため、ざらつき、むら、輝点が発生する場合があります。撮影時以外は、ライブビューを終了してください。
- ライブビュー時、 ボタンで画面を拡大すると（□45）、ざらつき、むら、すじや色の変化が発生しやすくなります。
- 動画撮影メニューの「**画像サイズ/フレームレート**」の設定によっては（□65）、撮影した動画のざらつき、むら、輝点の見え方が異なります。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータが取得できない

被写体が明るすぎるか、暗すぎます（□162）。

● ホワイトバランスのプリセットマニュアルのデータとして設定できない画像がある

この機種以外のカメラで撮影した画像は、プリセットマニュアルデータとして設定することはできません（□167）。

● ホワイトバランス（WB）ブラケット撮影ができない

- RAW または RAW を含む画質モードの場合、ホワイトバランスブラケット撮影はできません（□88、143）。
- ホワイトバランスブラケットと多重露出による撮影を同時に行うことはできません（□220）。

● 「ピクチャーコントロール」の効果が安定しない

「ピクチャーコントロール」、[カスタムピクチャーコントロール] の調整画面で、[輪郭強調]、[明瞭度]、[コントラスト]、[色の濃さ（彩度）] のいずれかが [A]（オート）に設定されています。ピクチャーコントロールの効果を一定にするには、これらの項目を [A]（オート）以外に設定してください（□174）。



● 測光モードが変更できない

AEロック中は、測光モードを変更できません (□135)。

● 露出補正ができない

露出モードが**M**の場合、露出補正を行っても、露出インジケータの表示が変わるだけで、シャッタースピードと絞り値は変化しません (□137)。

● 画像の一部が赤っぽくなる

シャッタースピードを**bulb** (バルブ) または**- -** (タイム) にした場合など、長時間露出で撮影すると、画像の一部が赤っぽくなる場合があります。この現象は、静止画撮影メニュー [長秒時ノイズ低減] を [する] に設定することで低減できます (□303)。

● 動画に音声録音されない

動画撮影メニュー [マイク感度] が [録音しない] になっていませんか？ (□309)

再生関連

● RAW画像が表示されない

「画質モード」を「RAW+FINE★」、「RAW+FINE」、「RAW+NORMAL★」、「RAW+NORMAL」、「RAW+BASIC★」、「RAW+BASIC」にして撮影した画像は、JPEG画像しか再生されません (□89)。

● 他のカメラで撮影した画像が表示されない

この機種以外のカメラで撮影した画像は、正常に表示されないことがあります。

● 全ての画像が表示されない

再生メニュー「再生フォルダー設定」を「全てのフォルダー」にしてください (□286)。

● 画像の縦位置・横位置が正しく表示されない

- 再生メニュー「縦横位置情報の記録」が「しない」になっていませんか？ (□293)
- 再生メニュー「縦位置自動回転」が「しない」になっていませんか？ (□293)
- 撮影直後の画像確認では自動回転はしません (□291)。
- カメラを上向き・下向きにして撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります (□293)。

● 画像が削除できない

画像にプロテクトが設定されていませんか？ (□254)

● 画像が編集できない

このカメラでは編集できない画像です (□383)。

● 画像を記録したのに「撮影画像がありません」と表示される

再生メニュー「再生フォルダー設定」を「全てのフォルダー」にしてください (□286)。

● ダイレクトプリントができない

RAW画像やTIFF画像はダイレクトプリントできません (□270)。

● RAW画像をプリントできない

- 画像編集メニューの「RAW現像」などでRAW画像からJPEG画像を作成してからプリントしてください (□384)。
- RAW画像はパソコンに転送してから、Capture NX-Dなどのソフトウェアを使ってプリントしてください (□264)。

● 画像がHDMI対応機器で再生できない

HDMIケーブルが正しく接続されているか確認してください (□273)。

● Capture NX-Dでイメージダストオフ機能が動作しない

次の場合は、イメージセンサークリーニングにより、ローパスフィルター表面のゴミの位置が変わってしまうため、イメージダストオフ機能を使用できません。

- イメージセンサークリーニングを実行する前に撮影した画像に対して、クリーニング後に取得したイメージダストオフデータを使ってゴミの写り込みを取り除こうとしたとき
- イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータを使って、クリーニング後に撮影した画像に対してゴミの写り込みを取り除こうとしたとき (□□364)

● [ピクチャーコントロール]、[アクティブD-ライティング]、[ヴィネットコントロール] の効果がパソコンで確認できない

RAW画像で記録した場合、当社製ソフトウェア以外では機能しません。RAW画像の現像はCapture NX-Dをお使いください。

● 画像をパソコンに転送できない

お使いのパソコンのOSによっては、カメラをパソコンに接続して画像を転送できないことがあります。カードリーダーなどの機器を使って、メモリーカードの画像をパソコンに保存してください。

その他

● 撮影日時が正しく表示されない






カメラの内蔵時計は合っていますか？ カメラの内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないため、定期的に日時設定を行うことをおすすめします (□□26、358)。

● 表示されているメニュー項目が選べない


- 一部のメニュー項目は、カメラの設定状況によって選べない場合があります。
 - セットアップメニュー [電池チェック] は電源に別売のパワーコネクターとACアダプターを使用している場合は選べません (□□377)。
-

警告メッセージ


上面表示パネル、ファインダー、画像モニターに表示される警告メッセージの意味は次の通りです。







こんなとき		原因	対処方法	📖
上面表示 パネル	ファインダー 内表示			
fE E (点滅)	fE E (点滅)	レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	レンズの絞りリングを最小絞り（最も大きい値）にしてください。	25
		バッテリー残量は残りわずかです。	バッテリー交換の準備をしてください。	36
 (点滅)	 (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> • バッテリーが消耗しています。 	<ul style="list-style-type: none"> • バッテリーを交換してください。 	21
		<ul style="list-style-type: none"> • バッテリーとの情報通信ができません。 	<ul style="list-style-type: none"> • バッテリーを充電してください。 	18
		<ul style="list-style-type: none"> • カメラと通信できないバッテリーを使用しています。 	<ul style="list-style-type: none"> • このバッテリーは使用できません。ニコンサービス機関にご相談ください。 	417、482
		<ul style="list-style-type: none"> • バッテリーの温度が高くなっています。 	<ul style="list-style-type: none"> • 極端に消耗したバッテリーを使用している場合は、充電してください。 	18
 (点滅)	—	内蔵時計の日時が設定されていません。	日時を設定してください。	xix、21、417
				—
				26

こんなとき		原因	対処方法	
上面表示 パネル	ファインダー 内表示			
∅F	∅F	開放絞りからの絞り段数が表示されています。非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態で、レンズの開放絞り値が設定されていません。	レンズの開放絞り値を設定すると、レンズの絞り値が表示されます。	231
—	 (点滅)	オートフォーカスでピント合わせができません。	構図を変えるか、マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。	39、 108
bulb (点滅)	bulb (点滅)	露出モードが S のときにシャッタースピードが bulb （バルブ）にセットされています。	<ul style="list-style-type: none"> シャッタースピードを変えてください。 露出モードMで撮影してください。 	126、 128
-- (点滅)	-- (点滅)	露出モードが S のときにシャッタースピードが -- （タイム）にセットされています。	<ul style="list-style-type: none"> シャッタースピードを変えてください。 露出モードMで撮影してください。 	126、 128
busy (点滅)	busy (点滅)	カメラが処理を行っています。	カメラが処理を終えるまでお待ちください。	—
—	 (点滅)	スピードライトがフル発光しました。	撮影に必要な光量が不足している可能性があります。撮影距離、絞り値、調光範囲、ISO感度などをご確認ください。	186

こんなとき		原因	対処方法	
上面表示 パネル	ファインダー 内表示			
(シャッタースピード表示、 絞り値表示のいずれかと、 露出インジケータが点滅)	被写体が明るすぎてカ メラの制御範囲を超え ています。		<ul style="list-style-type: none"> • ISO感度を低くしてく ださい。 	117
			<ul style="list-style-type: none"> • 露出モードがPのとき は市販のNDフィル ター（光量調節用） を使用してください （S、Aのときに下記の 操作を行っても警告 表示が消えない場合 も同様に対応してく ださい）。 	417
			<ul style="list-style-type: none"> • 露出モードがSのとき はシャッタースピー ドをより高速側に セットしてください。 	126
			<ul style="list-style-type: none"> • 露出モードがAのとき は絞りを絞り込んで ください（より大き い数値）。 	127
	被写体が暗すぎて、 カメラの制御範囲を超 えています。		<ul style="list-style-type: none"> • ISO感度を高くしてく ださい。 	117
			<ul style="list-style-type: none"> • 露出モードがPのとき は別売スピードライ トを使用してくださ い（S、Aのときに下 記の操作を行っても 警告表示が消えない 場合も同様に対応し てください）。 	186
			<ul style="list-style-type: none"> • 露出モードがSのとき はシャッタースピー ドをより低速側に セットしてください。 	126
			<ul style="list-style-type: none"> • 露出モードがAのとき は絞りを開いてくだ さい（より小さい数値）。 	127

こんなとき		原因	対処方法	📖
画像モニター	上面表示パネル			
メモリーカードが入っていません。	(-E-)	メモリーカードが入っていないか、正しくセットされていません。	メモリーカードを正しくセットしてください。	29
このメモリーカードにアクセスできません。カードを交換してください。	[Card、Err] (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> メモリーカードへのアクセス異常です。 新規フォルダーが作成できません。 	<ul style="list-style-type: none"> このカメラ用のメモリーカードであるかどうかを確認してください。 メモリーカードが壊れている可能性があります。ニコンサービス機関までご連絡願います。 メモリーカードに記録されている画像を削除して、メモリーカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 新しいメモリーカードに交換してください。 	466 482 256、265 29
このメモリーカードは初期化(フォーマット)されていません。フォーマットしてください。		(For) (点滅)	<ul style="list-style-type: none"> メモリーカードが正しく初期化されていません。 	32、357 29
ライブビューを開始できません。しばらくお待ちください。	—	カメラ内部の温度が高くなっています。	カメラ内部の温度が下がるまで、ライブビュー撮影または動画撮影を一時休止してください。	57

こんなとき		原因	対処方法	📖
画像モニター	上面表示パネル			
撮影画像がありません。	—	<ul style="list-style-type: none"> • 撮影画像がありません。 • 再生するフォルダーの指定に問題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> • 画像が記録されているメモリーカードを入れてください。 • 再生メニューの「再生フォルダー設定」で、表示可能な画像があるフォルダーを選んでください。 	29 286
全ての画像が非表示に設定されています。	—	記録されている画像が非表示設定されているために表示されません。	再生メニューの「 非表示設定 」で、画像の非表示設定を解除してください。	286
このファイルは表示できません。	—	<ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションソフトで編集された画像やDCF規格外の画像ファイルのため再生できません。 • 画像ファイルに異常があるため再生できません。 	アプリケーションソフトで編集された画像を上書き保存しないでください。	—
このファイルは選択できません。	—	編集できない画像です。	このカメラで撮影または編集した画像しか画像編集できません。	383
この動画は編集できません。	—	編集できない画像です。	<ul style="list-style-type: none"> • このカメラで撮影した動画しか編集できません。 • 2秒未満の動画は編集できません。 	— 82
プリンターの状態を確認してください。※	—	プリンターに異常があります。	用紙切れなどエラーの原因を取り除いた後、「 継続 」を選んで  ボタンを押すと、プリントが再開されます（エラー内容によっては、「 継続 」を選べない場合があります）。	270

こんなとき		原因	対処方法	
画像モニター	上面表示パネル			
用紙を確認してください。※	—	指定したサイズの用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、 [継続] を選んで  ボタンを押して、プリントを再開してください。	270
紙詰まりです。※	—	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、 [継続] を選んで  ボタンを押して、プリントを再開してください。	270
用紙がありません。※	—	用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、 [継続] を選んで  ボタンを押して、プリントを再開してください。	270
インクを確認してください。※	—	インクに異常があります。	インクを確認した後、 [継続] を選んで  ボタンを押して、プリントを再開してください。	270
インクがありません。※	—	インクがなくなりました。	インクを交換した後、 [継続] を選んで  ボタンを押して、プリントを再開してください。	270

※ プリンターの使用説明書も併せてご覧ください。

主な仕様

ニコンデジタルカメラ D5

型式

型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
レンズマウント	ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付）
実撮影画角	ニコンFXフォーマット

有効画素数

有効画素数	2082万画素
-------	---------

撮像素子

方式	35.9 × 23.9 mmサイズCMOSセンサー
総画素数	2133万画素
ダスト低減機能	イメージセンサークリーニング、イメージダストオフデータ取得（Capture NX-Dが必要）

記録形式

記録画素数	<ul style="list-style-type: none">• 撮像範囲 [FX (36×24) 1.0×] の場合： 5568×3712ピクセル（サイズL） 4176×2784ピクセル（サイズM） 2784×1856ピクセル（サイズS）• 撮像範囲 [1.2× (30×20) 1.2×] の場合： 4640×3088ピクセル（サイズL） 3472×2312ピクセル（サイズM） 2320×1544ピクセル（サイズS）• 撮像範囲 [DX (24×16) 1.5×] の場合： 3648×2432ピクセル（サイズL） 2736×1824ピクセル（サイズM） 1824×1216ピクセル（サイズS）• 撮像範囲 [5:4 (30×24)] の場合： 4640×3712ピクセル（サイズL） 3472×2784ピクセル（サイズM） 2320×1856ピクセル（サイズS）• 動画の画像サイズを3840×2160に設定し、動画撮影中に静止画撮影した場合： 3840×2160ピクセル

記録形式

記録画素数	<ul style="list-style-type: none"> • 動画の画像サイズを1920×1080または1280×720、動画撮影メニュー〔撮像範囲〕を〔FX〕に設定し、動画撮影中に静止画撮影した場合： 5568×3128ピクセル（サイズL） 4176×2344ピクセル（サイズM） 2784×1560ピクセル（サイズS） • 動画の画像サイズを1920×1080または1280×720、動画撮影メニュー〔撮像範囲〕を〔DX〕に設定し、動画撮影中に静止画撮影した場合： 3648×2048ピクセル（サイズL） 2736×1536ピクセル（サイズM） 1824×1024ピクセル（サイズS） • 動画の画像サイズを1920×1080 クロップに設定し、動画撮影中に静止画撮影した場合： 1920×1080ピクセル
画質モード	<ul style="list-style-type: none"> • RAW 12ビット/14ビット（ロスレス圧縮、圧縮、非圧縮）、サイズL/M/S選択可能（サイズM/Sは12ビット、ロスレス圧縮に固定） • TIFF（RGB） • JPEG-Baseline準拠、圧縮率（約）：FINE（1/4）、NORMAL（1/8）、BASIC（1/16）サイズ優先または画質優先選択可能 • RAWとJPEGの同時記録可能
ピクチャーコントロールシステム	スタンダード、ニュートラル、ビビッド、モノクローム、ポートレート、風景、フラット、いずれも調整可能、カスタムピクチャーコントロール登録可能
記録媒体	<ul style="list-style-type: none"> • XQDカード対応機種：XQDカード • CFカード対応機種：コンパクトフラッシュカード（Type I、UDMA7対応）
ダブルスロット	メモリーカードの順次記録、同時記録、RAW + JPEG分割記録ならびにカード間コピー可能
対応規格	DCF 2.0、Exif 2.3、PictBridge

ファインダー

ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用一眼レフレックス式ファインダー
視野率	<ul style="list-style-type: none"> • FX：上下左右とも約100%（対実画面） • 1.2×：上下左右とも約97%（対実画面） • DX：上下左右とも約97%（対実画面） • 5:4：上下約100%、左右約97%（対実画面）
倍率	約0.72倍（50mm f/1.4レンズ使用、 ∞ 、 -1.0 m^{-1} のとき）
アイポイント	接眼レンズ面中央から17 mm（ -1.0 m^{-1} のとき）
視度調節範囲	$-3\sim+1\text{ m}^{-1}$
ファインダー スクリーン	B型クリアマットスクリーンⅨ （AFエリアフレーム付、構図用格子線表示可能）
ミラー	クイックリターン式
プレビュー	Pv ボタンによる絞り込み可能、露出モード A 、 M では設定絞り値まで絞り込み可能、 P 、 S では制御絞り値まで絞り込み可能
レンズ絞り	瞬間復元式、電子制御式

レンズ

交換レンズ	<ul style="list-style-type: none"> • G、EまたはDタイプレンズ（PCレンズ一部制限あり） • G、EまたはDタイプ以外のAFレンズ（Ⅸ用レンズ、F3AF用レンズ使用不可） • Pタイプレンズ • DXレンズ（撮像範囲は [DX (24×16) 1.5×]） • 非CPUレンズ（ただし、非AIレンズは使用不可）：露出モードA、Mで使用可能 • 開放F値がF5.6以上明るいレンズで、フォーカスイド可能。ただしフォーカスポイント15点（選択可能9点）は、F8以上明るいレンズで、フォーカスイド可能。
-------	---

シャッター

型式	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター、電子先幕シャッター（ミラーアップ撮影時）
シャッタースピード	1/8000～30秒（1/3、1/2、1ステップに変更可能）、Bulb、Time、X250
フラッシュ同調 シャッタースピード	X=1/250秒、1/250秒以下の低速シャッタースピードで同調



リリース機能	
リリースモード	S (1コマ撮影)、 CL (低速連続撮影)、 CH (高速連続撮影)、 Q (静音撮影)、 ☺ (セルフタイマー撮影)、 MUP (ミラーアップ撮影)
連続撮影速度	CL : 約1~10コマ/秒 CH : 約10~12コマ/秒、約14コマ/秒 (ミラーアップ) 静音連続撮影: 約3コマ/秒
セルフタイマー	作動時間: 2、5、10、20秒、撮影コマ数: 1~9コマ、 連続撮影間隔: 0.5、1、2、3秒
露出制御	
測光方式	180Kピクセル (約180,000ピクセル) RGBセンサーによるTTL 開放測光方式
測光モード	<ul style="list-style-type: none"> • マルチパターン測光: 3D-RGBマルチパターン測光Ⅲ (G、E またはDタイプレンズ使用時)、RGBマルチパターン測光Ⅲ (その他のCPUレンズ使用時)、RGBマルチパターン測光 (非CPUレンズのレンズ情報手動設定時) • 中央部重点測光: ϕ 12 mm相当を測光 (中央部重点度約75%)、ϕ 8 mm、ϕ 15 mm、ϕ 20 mm、画面全体の平均のいずれかに変更可能 (非CPUレンズ使用時はϕ 12 mm) • スポット測光: 約ϕ 4 mm相当 (全画面の約1.5%) を測光、フォーカスポイントに連動して測光位置可動 (非CPUレンズ使用時は中央に固定) • ハイライト重点測光: G、EまたはDタイプレンズ使用時のみ
測光範囲	<ul style="list-style-type: none"> • マルチパターン測光、中央部重点測光: -3~20 EV • スポット測光: 2~20 EV (ISO 100、f/1.4レンズ使用時、常温20℃) • ハイライト重点測光: 0~20 EV
露出計連動	CPU連動方式、AI方式併用
露出モード	P : プログラムオート (プログラムシフト可能)、 S : シャッター優先オート、 A : 絞り優先オート、 M : マニュアル
露出補正	範囲: ± 5 段、補正ステップ: 1/3、1/2、1ステップに変更可能
AEロック	輝度値ロック方式
ISO感度 (推奨露光指数)	ISO 100~102400 (1/3、1/2、1ステップ)、ISO 100に対し約0.3、0.5、0.7、1段 (ISO 50相当) の減感、 ISO 102400に対し約0.3、0.5、0.7、1段、2段、3段、4段、5段 (ISO 3280000相当) の増感、感度自動制御が可能
アクティブ D-ライティング	オート、より強め 2、より強め 1、強め、標準、弱め、しない



オートフォーカス

方式	TTL 位相差検出方式: フォーカスポイント153点(選択可能55点) <ul style="list-style-type: none"> クロスタイプセンサー 99点 (選択可能35点) F8対応15点 (選択可能9点) マルチCAM20Kオートフォーカスセンサーモジュールで検出、AF微調節可能
検出範囲	-4~+20 EV (ISO 100、常温 (20℃))
レンズサーボ	<ul style="list-style-type: none"> オートフォーカス: シングルAFサーボ (AF-S) またはコンティニュアスAFサーボ (AF-C)、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行 マニュアルフォーカス (M): フォーカスイド可能
フォーカスポイント	フォーカスポイント153点 <ul style="list-style-type: none"> AF55点設定時: 55点のフォーカスポイントから選択可能 AF15点設定時: 15点のフォーカスポイントから選択可能
AFエリアモード	シングルポイントAF モード、ダイナミックAF モード (9点、25点、72点、153点)、3D-トラッキング、グループエリアAF モード、グループエリアAFモード (HL)、グループエリアAFモード (VL)、オートエリアAFモード
フォーカスロック	サブセクターの 中央 押し、またはシングルAFサーボ (AF-S) 時にシャッターボタン半押し

フラッシュ

調光方式	180Kピクセル (約180,000ピクセル) RGB センサーによる TTL 調光制御 : i-TTL-BL調光 (マルチパターン測光、中央部重点測光またはハイライト重点測光)、スタンダードi-TTL 調光 (スポット測光) 可能
フラッシュモード	先幕シンクロ、スローシンクロ、後幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロ、後幕スローシンクロ、発光禁止 <ul style="list-style-type: none"> オートFPハイスピードシンクロ可能
調光補正	範囲: -3~+1段、補正ステップ: 1/3、1/2、1ステップ
レディーライト	別売スピードライト使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅
アクセサリシュー	ホットシュー (ISO 518) 装備: シンクロ接点、通信接点、セーフティロック機構 (ロック穴) 付
ニコンクリエイティブライティングシステム	対応
電波制御アドバンストワイヤレスライティング	対応



フラッシュ	
ユニファイドフラッシュコントロール	対応
シンクロターミナル	シンクロターミナル (ISO 519) 装備 (外れ防止ネジ付)
ホワイトバランス	
ホワイトバランス	オート (3種)、電球、蛍光灯 (7種)、晴天、フラッシュ、曇天、晴天日陰、プリセットマニュアル (6件登録可、ライブビュー時にスポットホワイトバランス取得可能)、色温度設定 (2500K~10000K)、いずれも微調整可能
ブラケティング	
ブラケティング	AEブラケティング、フラッシュブラケティング、ホワイトバランスブラケティング、アクティブD-ライティングブラケティング
ライブビュー機能	
撮影モード	📷 (静止画ライブビュー) モード (無音撮影可能)、🎥 (動画ライブビュー) モード
レンズサーボ	<ul style="list-style-type: none"> ● オートフォーカス (AF) : シングルAFサーボ (AF-S)、常時AFサーボ (AF-F) ● マニュアルフォーカス (M)
AFエリアモード	顔認識AF、ワイドエリアAF、ノーマルエリアAF、ターゲット追尾AF
フォーカス	コントラストAF方式、全画面の任意の位置でAF可能 (顔認識AFまたはターゲット追尾AFのときは、カメラが決めた位置でAF可能)
動画機能	
測光方式	撮像素子によるTTL測光方式
測光モード	マルチパターン測光、中央部重点測光、ハイライト重点測光
記録画素数/ フレームレート	<ul style="list-style-type: none"> ● 3840×2160 (4K UHD) : 30p/25p/24p ● 1920×1080 : 60p/50p/30p/25p/24p ● 1280×720 : 60p/50p ● 1920×1080 クロップ : 60p/50p/30p/25p/24p ※ 60p : 59.94fps, 50p : 50fps, 30p : 29.97fps, 25p : 25fps, 24p : 23.976fps ※ 標準/★高画質選択可能 (3840×2160は★高画質のみ)
ファイル形式	MOV
映像圧縮方式	H.264/MPEG-4 AVC
音声記録方式	リニアPCM



動画機能	
録音装置	内蔵ステレオマイク、外部マイク使用可能、マイク感度設定可能
感度	<ul style="list-style-type: none"> ● 露出モードM：ISO 100～102400（1/3、1/2、1ステップ）、ISO 102400に対し約0.3、0.5、0.7、1段、2段、3段、4段、5段（ISO 3280000相当）の増感、感度自動制御（ISO 100～Hi 5）が可能、制御上限感度が設定可能 ● 露出モードP、S、A：感度自動制御（ISO 100～Hi 5）、制御上限感度が設定可能
その他の機能	インデックスマーク、微速度撮影、電子手ブレ補正
画像モニター	
画像モニター	3.2型TFT液晶モニター（タッチパネル）、約236万ドット（XGA）、視野角170°、視野率約100%、明るさ調整可能
再生機能	
再生機能	1コマ再生、サムネイル（4、9、72分割）、拡大再生、動画再生、スライドショー（静止画/動画選択再生可能）、ヒストグラム表示、ハイライト表示、撮影情報表示、位置情報表示、撮影画像の縦位置自動回転、レーティング、音声メモ入力/再生可能、IPTCプリセット添付/表示可能
インターフェース	
USB	SuperSpeed USB（USB 3.0 Micro-B端子）（標準装備されたUSBポートへの接続を推奨）
HDMI出力	HDMI端子（Type C）装備
外部マイク入力	ステレオミニジャック（φ3.5mm）、プラグインパワーマイク対応
ヘッドホン出力	ステレオミニジャック（φ3.5 mm）
10ピンターミナル	<ul style="list-style-type: none"> ● リモートコントロール：10ピンターミナルに接続 ● GPS：GPSユニットGP-1/GP-1A（別売）を10ピンターミナルに接続。または、10ピンターミナルに接続したGPS変換コードMC-35（別売）を介して、NMEA0183 Ver. 2.01 およびVer. 3.01に準拠したGPS機器（D-sub 9ピンケーブル併用）に接続 ● ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10（WR用変換アダプター WR-A10が必要）/WR-1

インターフェース

有線LAN	RJ-45コネクター
	<ul style="list-style-type: none">● 準拠規格：IEEE802.3ab（1000BASE-T） / IEEE802.3u（100BASE-TX） / IEEE802.3（10BASE-T）● データ転送速度（規格値※）：10/100/1000Mbps（自動認識）● ポート：1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T兼用ポート（AUTO-MDIX） ※ 表示の数値は、規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
拡張端子	WT-6、WT-5用

表示言語

表示言語	日本語、英語
------	--------

電源

使用電池	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18c 1個使用
	※ EN-EL18cの代わりに EN-EL18b/EN-EL18a/EN-EL18も使えます。ただし、EN-EL18を使用した場合、EN-EL18c/EN-EL18b/EN-EL18aを使用したときよりも撮影可能コマ数（電池寿命）が減少します（□470）。
ACアダプター	ACアダプター EH-6b（パワーコネクター EP-6と組み合わせて使用）（別売）

三脚ネジ穴

三脚ネジ穴	1/4（ISO 1222）
-------	---------------

寸法・質量

寸法（W×H×D）	約160×158.5×92 mm
質量	● XQD カード対応機種：約1405 g（バッテリーおよびXQDカード2枚を含む、ボディーキャップ、アクセサリシューカバーを除く）、約1235 g（本体のみ）
	● CFカード対応機種：約1415 g（バッテリーおよびCFカード2枚を含む、ボディーキャップ、アクセサリシューカバーを除く）、約1240 g（本体のみ）

動作環境

温度	0℃～40℃
湿度	85%以下（結露しないこと）


- 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、CIPA（カメラ映像機器工業会）規格またはガイドラインに準拠しています。
- 仕様中のデータは、フル充電バッテリー使用時のものです。
- 製品の的外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。



バッテリーチャージャー MH-26a

電源	AC 100~240 V、50/60 Hz
定格入力容量	33~43VA
充電出力	DC 12.6 V、1.2 A
適応充電電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL18c/EN-EL18b/ EN-EL18a/EN-EL18
充電時間（1本あたり）	約2時間35分 ※残量のない状態からの充電時間（周囲温度25℃）
使用温度	0℃~40℃
寸法（W×H×D）	約160×85×50.5 mm
電源コード	長さ約1.5 m、日本国内専用AC 100V対応
質量	約285 g（接点保護カバー（2枚）を含む、電源コードを除く） 約265 g（本体のみ）

製品に表示されている記号の意味は下記の通りです。

～ AC（交流）、＝ DC（直流）、 クラスⅡ機器（二重絶縁構造）

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL18c

形式	リチウムイオン充電電池
定格容量	10.8 V、2500 mAh
使用温度	0℃~40℃
寸法（W×H×D）	約56.5×27×82.5 mm
質量	約160 g（端子カバーを除く）

- 製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

このカメラの準拠規格

- **Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0** : 各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。
- **Exif Version 2.3** : (Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras) : デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
- **PictBridge** : デジタルカメラとプリンターメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接印刷するための標準規格です。
- **HDMI (High-Definition Multimedia Interface)** : 家庭用電化製品およびAV機器用のマルチメディアインターフェース規格です。1本のケーブルをつなぐだけで、画像、音声、制御信号をHDMI対応機器に送信できます。

商標説明

- XQDはソニー株式会社の商標です。
- CompactFlash (コンパクトフラッシュ) は米国SanDisk 社の商標です。
- Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- MacおよびOSXは米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- IOSの商標は、米国およびその他の国におけるCiscoのライセンスに基づき使用しています。
- PictBridge ロゴは商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

HDMI

- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

FreeType License (FreeType2)

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2012 The FreeType Project (<http://www.freetype.org>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

MIT License (HarfBuzz)

本製品のソフトウェアの著作権の一部は、© 2016 The HarfBuzz Project (<http://www.freedesktop.org/wiki/Software/HarfBuzz>) のものです。すべての権利はその所有者に帰属します。

バッテリーチャージャー MH-26aの キャリブレーションについて

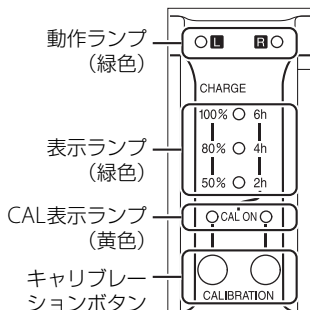
バッテリーチャージャー MH-26a は、バッテリー容量を正確に表示できるかどうか検査し、調整するキャリブレーション機能を装備しています。

キャリブレーションの必要性と進行状況は、右図のランプの点灯状況で確認できます。

CAL 表示ランプが点滅している場合は、点滅した側に装着したバッテリーにキャリブレーションの必要があることを示しています。

キャリブレーションを行うには、点滅している CAL 表示ランプの真下にあるキャリブレーションボタンを約1秒押してください。キャリブレーション

中は、バッテリーを装着した側の動作ランプが点滅します。キャリブレーションに必要な時間は、次の表の通りです。



		キャリブレーションに必要な時間			
		約2時間以内	約2～4時間	約4～6時間	約6時間以上
表示ランプ (緑色)	2h	○ 消灯	○ 点灯	○ 点灯	○ 点灯
	4h	○ 消灯	● 消灯	○ 点灯	○ 点灯
	6h	○ 消灯	● 消灯	● 消灯	○ 点灯
CAL表示ランプ (黄色) CAL ON (L) / (R)		○ 点灯	○ 点灯	○ 点灯	○ 点灯

CAL表示ランプが点滅しても、必ずしもキャリブレーションボタンを押してバッテリーのキャリブレーションを行う必要はありません。また、キャリブレーションは途中で中断することもできます。

- CAL表示ランプの点滅時にキャリブレーションボタンを押さなかった場合は、約10秒後に通常の充電を開始します。
 - 途中でキャリブレーションを中断する場合は、もう一度キャリブレーションボタンを押します。測定が中断され、充電が開始されます。
- キャリブレーションが完了すると、CAL表示ランプおよび全ての表示ランプが消灯し、充電を開始します。

こんなときは…

- バッテリーを装着していないのにLおよびRの動作ランプとCAL表示ランプが交互に点滅する
チャージャーに異常が発生しました。直ちに電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- バッテリー装着時にLまたはRの動作ランプとCAL表示ランプが交互に点滅する
充電時にバッテリーまたはチャージャーの異常が発生しました。直ちにバッテリーを取り外し、電源プラグをコンセントから抜いた後、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

2本のバッテリーを装着した場合

L側、R側の両方にバッテリーを装着している場合、装着した順番に1本ずつ充電します。CAL表示ランプが点滅しているときにキャリブレーションボタンを押すと、まずは最初に装着したバッテリーのキャリブレーションを行い、その後充電を行います。1本目のバッテリーの充電が終わるまで、他のバッテリーはキャリブレーションも充電もできません。



使用できるメモリーカード

■ XQDカード対応機種

- XQDカードが使用できます。
- 動画撮影には、最大45MB/s (300倍速) 以上の転送速度を持つメモリーカードをおすすめします。転送速度が遅いメモリーカードでは、動画の記録が途中で終了したり、カメラでの動画再生がスムーズに行われないことがあります。
- メモリーカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、メモリーカードメーカーにご相談ください。

■ CFカード対応機種

- Type IのCFカードが使用できます。Type IIのCFカードやマイクロドライブは使用できません。
- 動画撮影には、最大45MB/s (300倍速) 以上の転送速度を持つメモリーカードをおすすめします。転送速度が遅いメモリーカードでは、動画の記録が途中で終了したり、カメラでの動画再生がスムーズに行われないことがあります。
- メモリーカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、メモリーカードメーカーにご相談ください。

記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数

撮像範囲（□84）、画質モード（□88）、画像サイズ（□91）の組み合わせによって、64GBのメモリーカードに記録できるコマ数、および連続撮影できるコマ数は、次のようになります※1。ただし、カードの種類や撮影条件によって、コマ数は増減することがあります。

■【撮像範囲】が【FX（36×24）1.0×】の場合

画質モード	画像サイズ	1コマあたりのファイルサイズ	記録可能コマ数※2	連続撮影可能コマ数※2、3	
				XQDカード	CFカード
RAW (ロスレス圧縮RAW/12ビット記録)	L	約19.3 MB	1700コマ	200コマ	119コマ
	M	約13.9 MB	2400コマ	200コマ	172コマ
	S	約10.5 MB	3100コマ	200コマ	200コマ
RAW (ロスレス圧縮RAW/14ビット記録)	L	約24.2 MB	1300コマ	200コマ	82コマ
RAW (圧縮RAW/12ビット記録)	L	約16.8 MB	2300コマ	200コマ	153コマ
RAW (圧縮RAW/14ビット記録)	L	約20.8 MB	1900コマ	200コマ	103コマ
RAW (非圧縮RAW/12ビット記録)	L	約33.2 MB	1700コマ	197コマ	92コマ
RAW (非圧縮RAW/14ビット記録)	L	約43.1 MB	1300コマ	102コマ	65コマ
TIFF (RGB)	L	約62.5 MB	952コマ	92コマ	67コマ
	M	約35.6 MB	1600コマ	119コマ	87コマ
	S	約16.4 MB	3500コマ	126コマ	125コマ
FINE※4	L	約10.5 MB	4300コマ	200コマ	200コマ
	M	約6.4 MB	7100コマ	200コマ	200コマ
	S	約3.4 MB	13300コマ	200コマ	200コマ
NORMAL※4	L	約5.3 MB	8400コマ	200コマ	200コマ
	M	約3.3 MB	13800コマ	200コマ	200コマ
	S	約1.8 MB	25300コマ	200コマ	200コマ
BASIC※4	L	約2.8 MB	16200コマ	200コマ	200コマ
	M	約1.8 MB	26000コマ	200コマ	200コマ
	S	約1.0 MB	45400コマ	200コマ	200コマ

■■【撮像範囲】 が【DX (24×16) 1.5×】の場合

画質モード	画像 サイズ	1コマあたりの ファイルサイズ	記録可能 コマ数※2	連続撮影可能 コマ数※2、3	
				XQD カード	CF カード
RAW (ロスレス圧縮RAW/12ビット記録)	L	約9.1 MB	3800コマ	200コマ	200コマ
	M	約6.7 MB	5100コマ	200コマ	200コマ
	S	約5.2 MB	6500コマ	200コマ	200コマ
RAW (ロスレス圧縮RAW/14ビット記録)	L	約11.2 MB	3000コマ	200コマ	200コマ
RAW (圧縮RAW/12ビット記録)	L	約8.0 MB	5000コマ	200コマ	200コマ
RAW (圧縮RAW/14ビット記録)	L	約9.7 MB	4200コマ	200コマ	200コマ
RAW (非圧縮RAW/12ビット記録)	L	約14.9 MB	3800コマ	200コマ	200コマ
RAW (非圧縮RAW/14ビット記録)	L	約19.1 MB	3000コマ	200コマ	133コマ
TIFF (RGB)	L	約27.4 MB	2100コマ	200コマ	107コマ
	M	約15.9 MB	3600コマ	200コマ	200コマ
	S	約7.6 MB	7200コマ	200コマ	200コマ
FINE※4	L	約5.2 MB	8800コマ	200コマ	200コマ
	M	約3.4 MB	13600コマ	200コマ	200コマ
	S	約2.1 MB	22100コマ	200コマ	200コマ
NORMAL※4	L	約2.7 MB	17100コマ	200コマ	200コマ
	M	約1.8 MB	25700コマ	200コマ	200コマ
	S	約1.1 MB	40600コマ	200コマ	200コマ
BASIC※4	L	約1.4 MB	31500コマ	200コマ	200コマ
	M	約1.0 MB	46500コマ	200コマ	200コマ
	S	約0.7 MB	67300コマ	200コマ	200コマ

※1 Lexar Professional 2933x XQD 2.0 / Lexar Professional 1066x UDMA 7 CompactFlashのメモリーカードを使用した場合（2016年3月現在）

※2 撮影条件により、記録可能コマ数と連続撮影可能コマ数は増減することがあります。

※3 ISO感度がISO 100の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。次のような場合、連続撮影可能コマ数は減少します。

- [画質モード] で画質を優先した ([★] が付いた) 項目に設定してJPEG画像を撮影した場合
- [自動ゆがみ補正] (□□305) を [する] に設定した場合

※4 1コマあたりのファイルサイズおよび記録可能コマ数は、[画質モード] でサイズを優先した ([★] が付いていない) 項目に設定されている場合です。画質を優先した ([★] が付いた) 項目に設定した場合、記録可能コマ数は減少します。

カスタムメニュー d2 [連続撮影コマ数] (📖 327)

カスタムメニュー d2 [連続撮影コマ数] では、連続撮影時の連続撮影コマ数を1～200コマの範囲で設定できます。



撮影可能コマ数（電池寿命）について

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18c（2500 mAh）による撮影可能コマ数（電池寿命）

- 撮影可能コマ数（1コマ撮影モード）：約3780コマ（CIPA基準準拠※1）
- 撮影可能コマ数（連続撮影モード）：約8160コマ（当社試験条件※2）
- 動画記録可能時間：約110分※3

※1 初期設定条件で30秒間隔ごとに撮影レンズを無限遠から至近に1往復フォーカシング動作をさせて1コマ撮影する。ライブビュー撮影なし。装着レンズAF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8E ED VR、温度23（±2）℃。

※2 画質モードNORMAL、画像サイズL、シャッタースピード1/250秒、シャッターの半押しを3秒間持続後、撮影レンズを無限遠から至近間を3往復フォーカシング動作させ6回連続リリースした後、画像モニターを5秒間点灯させ、消灯後半押しタイマーがオフになるまで放置。以後同じ動作を繰り返す。装着レンズAF-S VR ED 70-200mm f/2.8G（VR機能OFF）、温度23℃。

※3 電池寿命測定方法を定めたCIPA（カメラ映像機器工業会）規格による実撮影電池寿命です。装着レンズAF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8E ED VR、温度23（±2）℃。カメラは初期設定状態。

- 1回の動画撮影で記録可能な最長時間は29分59秒です。
- 1つの動画ファイルで記録可能な最大ファイルサイズは4GBです。
- カメラが熱くなった場合、連続撮影時間内でも動画記録が終了することがあります。

※ EN-EL18cの代わりにEN-EL18b/EN-EL18a/EN-EL18も使えます。ただし、EN-EL18を使用した場合、EN-EL18c/EN-EL18b/EN-EL18aを使用したときよりも撮影可能コマ数（電池寿命）が減少します。

※ バッテリーの充電状態、撮影間隔やメニュー画面からの設定条件などの使用環境によって電池寿命が異なります。

次の場合などはバッテリーの消耗が早くなります。

- ライブビューなどで画像モニターを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAW、TIFF（RGB）に設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合
- 有線LANを使用した場合
- アクセサリーを装着して使用した場合
- VRレンズ使用時にVR（手ブレ補正）機能をONにした場合
- AF-PLens使用時にズーム操作を繰り返した場合

Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL18cの性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、十分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにお使いください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー残量が減ってしまいます。
- 定期的にセットアップメニューの【電池チェック】（□377）で、バッテリーの状態をご確認いただくことをおすすめします。「キャリブレーション：●CAL」と表示された場合は、バッテリーチャージャー MH-26aで、EN-EL18cのキャリブレーションを行ってください（□464）。また、半年以上使用していないバッテリーは、キャリブレーションしてから充電してください。

索引

マーク・英数字

P (プログラムオート)	124, 125
S (シャッター優先オート)	124, 126
A (絞り優先オート)	124, 127
M (マニュアル)	124, 128
S (1コマ撮影)	110
CL (低速連続撮影)	110, 326
CH (高速連続撮影)	110, 326
Q (静音撮影)	111
⌚ (セルフタイマー撮影)	111, 114
MUP (ミラーアップ撮影)	111, 116
📷 (クイック設定ポジション)	111, 113
[□] (シングルポイントAF)	99, 101
[◇] (ダイナミックAF)	99, 101
[⋮] (グループエリアAF)	100, 101
[📷] (オートエリアAF)	100, 101
👤 (顔認識AF)	47
📷 (ワイドエリアAF)	47
📷 (ノーマルエリアAF)	47
🎯 (ターゲット追尾AF)	47
📷 (マルチパターン測光)	122, 324
📷 (中央部重点測光)	122, 324
📷 (スポット測光)	122
📷* (ハイライト重点測光)	122
Fn1 (ファンクション) ボタン	334, 352
Fn2 (ファンクション) ボタン	334, 352
Fn3 (ファンクション) ボタン	255, 259, 334, 352
Pv (プレビュー) ボタン	45, 127
📷 (インフォ) ボタン	56, 66, 212
i ボタン	50, 61, 242
📷 (ライブビュー) ボタン	43, 58, 164, 351
📷 (連続撮影可能コマ数)	39, 112, 467
📷 スイッチの機能	351

📷 使用時の感度自動制御	332
📷 使用時の制御上限感度 (感度自動制御)	120
10ピンターミナル	2, 234, 420
12ビット記録	90
14ビット記録	90
180Kピクセル (約180,000ピクセル) RGBセンサー	188, 457, 458
1.2× (30×20) 1.2× (撮像範囲)	84, 87
1コマ撮影	110
1コマ表示	237
2点拡大	51, 52
3D-RGBマルチパターン測光III	123
3D-トラッキング	99, 101, 318
3D-トラッキングの顔認識	318
3D-トラッキングの捕捉領域	318
5:4 (30×24) (撮像範囲)	84, 87
ACアダプター	417, 423
ADLブラケット	146
Adobe RGB (色空間)	302
AE-Lマーク	134
AE・フラッシュブラケット	139
AEブラケット	139
AEロック	134
AF-C (コンティニュアスAFサーボ)	97, 315
AF-Cモード時の優先	315
AF-F (常時AFサーボ)	46
AF-ONボタン	98, 106, 320
AF-S (シングルAFサーボ)	46, 97, 316
AF-Sモード時の優先	316
AFエリアフレーム	34
AFエリアモード	47, 99, 320
AFエリアモードの限定	320
AF点数切り換え	318
AF微調節	362
AFモード	46, 97, 321
AFモードの制限	321

AFモードボタン	46, 48, 97, 100
AFロックオン	317
A-M切り換えスイッチ	25
BASIC	88
BASIC★	88
BKTの順序	333
BKT変化要素 (Mモード)	333
BKTボタン	139, 143, 146, 184, 222
Camera Control Pro 2	420
Capture NX-D	i, 364
CFカード	30, 466
CPU信号接点	406
CPUレンズ	25, 404, 406
DCF Version 2.0	463
DX (24×16) 1.5× (撮像範囲)	84, 85, 87
DX自動切り換え (撮像範囲)	85
DXフォーマット	84
DXベースの (動画) フォーマット	68
Dタイプレンズ	406
D-ライティング	389
Exif Version 2.3	463
Eタイプレンズ	406
FINE	88
FINE★	88
FP発光	331
FVロック	195
FX (36×24) 1.0× (撮像範囲)	84, 87
FXフォーマット	84
FXベースの (動画) フォーマット	68
Gタイプレンズ	406
HDMI (High-Definition Multimedia Interface)	273, 463
HDR (ハイダイナミックレンジ)	181
Hi (ISO感度)	118
H.264	459
INDEXプリント	272
IPTC	368
ISO感度	117, 119, 308, 322
ISO感度設定ステップ幅	322
i-TTL調光	188, 411
JPEG	83, 88, 384
Li-ionリチャージャブルバッテリー	i, 18, 462
Lo (ISO感度)	118
L (画像サイズ)	91
M (画像サイズ)	91
M (マニュアルフォーカス)	49, 108
NEF	88
NORMAL	88
NORMAL★	88
PictBridge (ピクトブリッジ)	270, 463
PRE (プリセットマニュアル) ...	150, 159
RAW	88, 90, 384
RAW+JPEG分割記録 (スロット2の機能)	93
RAW圧縮 (RAW記録)	90
RAW記録	90
RAW現像	384
RGBヒストグラム表示	246
RGBマルチパターン測光	123, 231, 407
sRGB (色空間)	302
S (画像サイズ)	91
TIFF (RGB)	88
USBケーブル	i, 265, 270
UTC	26, 235, 250
ViewNX-i	i, 264, 265
WBブラケット (WB-BKT)	143
WT-5	268, 418
WT-6	268, 418
XQDカード	30, 466

ア

アイピース	35
アイピースシャッターレバー	115
アオリ効果	392
赤目軽減	191
赤目補正	390
明るさ (ピクチャーコントロール)	173

アクセサリ	
（使用できるアクセサリ）	417
アクセサリシューカバー	13
アクティブD-ライティング	179
アクティブD-ライティング ブラケット	146
圧縮RAW	90
圧縮方式（RAW記録）	90
後幕シンクロモード	191
位置情報	234, 250
イメージセンサークリーニング	426
イメージダストオフ	364, 446
イメージダストオフデータ取得	364
イルミネーター	3, 330
イルミネーター点灯	330
色合い（色相）（ピクチャー コントロール）	173
色温度	149, 151, 156
色温度設定	150
色空間	302
色の濃さ（彩度）（ピクチャー コントロール）	173
印刷（プリント）	270
インジケータの+/-方向	350
インターバルタイマー撮影	225
インデックスプリント	272
インデックスマーキング	60
インフォ画面	212, 361
インフォ画面の表示設定	361
ヴィネットコントロール	304
ウォームトーン（フィルター効果）	392
オートFPハイスピードシンクロ	331
オート（ホワイトバランス）	149, 151
オートエリアAF	100, 101
オートフォーカス	46, 47, 94, 99, 105, 107
オートブラケット	138, 333
音声メモ	259
音声メモの設定	371

力

カードなし時リリース	376
カードの初期化（フォーマット）	32, 357
外部マイク	2, 71, 309, 421
開放F値	231, 407
開放絞り	231, 407
顔認識	324
顔認識AF	47
画角	409
拡大表示	252
拡張端子	2, 418
画質モード	88
カスタムピクチャーコントロール	175, 309
カスタムボタンの機能	334, 352
カスタムメニュー	312
カスタムメニューの管理	314
風切り音低減	310
画像合成	394
画像コピー	288
画像コメント	366
画像サイズ	91
画像サイズ/フレームレート	65
画像情報	243
画像編集メニュー	381
画像モニター	237, 326, 358, 359
傾き補正	390
カメラ設定の保存と読み込み	378
カメラの初期化	380
感度自動制御	119
基準露出レベルの調節	324
キャリブレーション	464
距離基準マーク	109
記録可能コマ数	467
記録ビットモード（RAW記録）	90
記録フォルダー設定	299
クール（モノトーン）	393
クイック調整	173
クイックワイヤレス	204
クリーニングミラーアップ	428

クリエイティブライティングシステム	410
グループエリアAF	100, 101
グループ発光	202
クロスセンサー	95
蛍光灯 (ホワイトバランス)	149
言語 (Language)	357
現在地の設定 (地域と日時)	26, 358
高感度 (Hi)	118
高感度ノイズ低減	303, 310
高速連続撮影	110, 326
コマ送り	79, 292, 349
コマンドダイヤルの設定	347
コンティニュアスAFサーボ (AF-C)	97, 315
コントラスト (ピクチャー コントロール)	173

サ

最近設定した項目	403
最小絞り	25, 124
サイズ	69, 91, 386, 387
再生	41, 78, 237, 273
再生画面設定	287
再生フォルダー設定	286
再生メニュー	285
先幕シンクロモード	191
削除	42, 256
削除後の次再生画像	292
撮影情報	248
撮影直後の画像確認	239, 291
撮像範囲	50, 61, 68, 84
サブコマンドダイヤルで画像送り	349
サブセクター	105, 134
サマータイム (夏時間)	27, 358
サムネイル	237, 346
自動ゆがみ補正	305
視度調節機能	34, 418
絞り値	124, 127, 128, 132, 348
絞り値のロック	132, 347
絞り優先オート	127

シャッタースピード	124, 126, 128, 132
シャッタースピードと絞り値のロック	347
シャッタースピードのロック	132, 347
シャッターボタン	39, 105, 134, 195
シャッターボタンAEロック	325
シャッター優先オート	126
順次記録 (スロット2の機能)	93
常時AFサーボ (AF-F)	46
焦点距離の設定	231
初期化 (フォーマット)	32, 357
初期設定一覧	216, 276
白黒 (モノトーン)	393
シングルAFサーボ (AF-S)	46, 97, 316
シングルポイントAF	99, 101
シンクロナイザ	2, 187
水準器	56, 66, 340, 360
水準器表示	360
推奨メモリーカード	466
スカイライト (フィルター効果)	392
スタンダード-iTTL調光	188, 411
スタンダード (ピクチャーコントロール)	170
ステレオミニプラグケーブル用 端子カバー	422
スピードライト	186, 410, 413
スポット測光	122
スポットホワイトバランス	164
スライドショー	294
スローシンクロモード	191
スロット2の機能	93
スロット/フォルダー指定メニュー	242
スロット切り換え	168, 238, 382
静音撮影	111
静音連続撮影	111
制御上限感度 (感度自動制御)	120
静止画Lv画面のホワイトバランス	51
静止画撮影メニュー	296
静止画撮影メニューの拡張	298
静止画撮影メニューの管理	297

晴天 (ホワイトバランス)	150
晴天日陰 (ホワイトバランス)	150
接眼補助レンズ	418
設定の保存	378
セットアップメニュー	356
セピア (モノトーン)	393
セルフタイマー	111, 114, 325
全押し (シャッターボタン)	40
全画像削除	257
選択画像削除	257
増灯発光モード (フラッシュ発光) ...	202
増灯リピーティング発光	206
測光モード	122

タ

ターゲット追尾AF	47
ダイナミックAF	99, 101, 322
タイマー (セルフタイマー)	114, 325
タイム撮影 (長時間露出)	130
多重露出	220
タッチ操作	11, 240
縦位置自動回転	293
縦位置シャッターボタンロックレバー	38, 98
縦横位置情報の記録	293
縦/横位置フォーカス切換	319
地域と日時	26, 358
着脱指標	24, 25
中央部重点測光	122, 324
中央部重点測光範囲	324
中央ボタンの機能	345
調光補正	193
長時間露出	130
調色 (ピクチャーコントロール)	173, 174
長秒時ノイズ低減	303
著作権情報	367
ツールボタンリセット	216
通信ユニット	268
低感度 (Lo)	118
低速限界設定 (感度自動制御)	120

低速連続撮影	110, 326
デモモード	376
テレビ	273
電球 (ホワイトバランス)	149
電源コード	20
電子音設定	373
電子先幕シャッター	328
電池チェック	377
電波制御アドバンストワイヤレス ライティング	199
動画	58, 78, 80
動画ISO感度設定	308
動画記録先	307
動画撮影ボタン	59
動画撮影メニュー	306
動画撮影メニューのリセット	307
動画の画質	65
動画編集	80, 83
動画ライブビュー	58
統合表示	251
同調シャッタースピード	331, 441
登録項目の削除 (マイメニュー)	401
登録項目の順序変更 (マイメニュー)	402
時計用電池	27, 431
トリミング	386
曇天 (ホワイトバランス)	150

ナ

夏時間の設定 (地域と日時)	27, 358
日時の設定 (地域と日時)	27, 358
ニュートラル (ピクチャーコントロール)	170
ネットワーク	268
ノーマルエリアAF	47
ノイズ低減	303

ハ

ハイダイナミックレンジ	181
ハイライト重点測光	122
ハイライト表示	62



バックアップ記録 (スロット2の機能)	93
発光禁止	191, 337, 376
発光モード (フラッシュ発光)	189
バッテリー	i, 18, 462, 464
バッテリーチャージャー	i, 18, 462, 464
バルブ撮影 (長時間露出)	130
パワーオフ時間	326
パワーコネクター	417, 423
パワー絞リ	353
範囲指定 (PictBridge)	271
半押しAFレンズ駆動	320
半押し (シャッターボタン)	39
半押しタイマー	40, 325
非CPUレンズ	231, 405, 407
非圧縮RAW	90
光制御アドバンストワイヤレスライティング	198
ピクチャーコントロール	170, 309
被写界深度	127
ヒストグラム表示	246, 247, 346
微速度撮影	73
日付と時刻を設定する	26
日付の表示順 (地域と日時)	27, 358
日付プリント (PictBridge)	271
ピッチング	340, 360
ビビッド (ピクチャーコントロール)	170
非表示設定	286
標準表示	244
ピント	39
ファームウェアバージョン	380
ファイル名設定	302, 307
ファインダー (視度調節)	34, 418
ファインダー内格子線表示	329
フィルター効果	392
フィルター効果 (ピクチャーコントロール)	173, 174
風景 (ピクチャーコントロール)	170
フォーカスエイド	109

フォーカスポイント	39, 47, 95, 96, 99, 103, 321, 322
フォーカスポイント循環選択	321
フォーカスポイント表示の設定	322
フォーカスモード	46, 94, 108
フォーカスモード切り換えスイッチ	25, 108
フォーカスモードセレクター	46, 94, 108
フォーカスリング	24, 49, 108
フォーカスロック (AFロック)	105
フォーマット (カードの初期化)	32, 357
フチ設定 (PictBridge)	271
ブラケットング	139, 143, 146
フラッシュ	186
フラッシュ (ホワイトバランス)	150
フラッシュインフォ画面	209
フラッシュ撮影同調速度	331
フラッシュ使用時の露出補正	332
フラッシュ時シャッタースピード制限	332
フラッシュ発光	189, 197, 202
フラッシュブラケットング	139, 333
フラッシュモード	191, 192
フラット (ピクチャーコントロール)	170
フレンジバック	109
プリセットフォーカスポイント	336, 345
プリセットマニュアル (ホワイトバランス)	150, 159
フリッカー低減	218, 311
プリント	270
プリント実行 (PictBridge)	271, 272
プリント設定 (PictBridge)	272
フレームレート	65
プログラムオート	125
プログラムシフト	125
プログラム線図	438
プロテクト	254
ヘッドホン音量	62

編集前後の画像表示	397
ポートレート （ピクチャーコントロール）	170
ボタン照明	3, 330
ボタンのホールド設定	350
ボディーキャップ	24, 419
ホワイトバランス	149, 308
ホワイトバランスブラケティング （WBブラケティング）	143

マ

マイク	259, 309, 421
マイク感度	309
枚数指定 (PictBridge)	271
マイメニュー	399
マニュアル（露出）	128
マニュアルフォーカス	49, 108
マルチセクターの半押し起動	350
マルチパターン測光	122, 324
ミラーアップ撮影	111, 116
ミレッド	155
無音撮影	51, 53
無線LAN	268, 418
明瞭度	173
メモリーカード	29, 93, 357, 466
モデリング発光	127, 332
モニターの明るさ	61, 358
モニターのカラーカスタマイズ	359
モニターのパワーオフ時間	326
モニター発光	188, 196
モノクローム （ピクチャーコントロール）	170
モノトーン	393

ヤ

有線LAN	268
ゆがみ補正	391
ユニファイドフラッシュ コントロール	187
用紙設定 (PictBridge)	271
予測駆動フォーカス	98

ラ

ライブビュー	43, 58
ライブビュー撮影	43
ライブビューセクター	43, 58
ライブビューボタンの設定	351
リサイズ	387
リセット	216, 298, 307, 314
リモートコード	71, 420
リモコン（WR）設定	199, 374
リモコン（WR）のFnボタンの機能	375
輪郭強調	173
レーティング	255
レディーライト	186, 458
レリーズモード	110
レリーズモードの限定	327
レンズ（使用できるレンズ）	404
レンズ情報手動設定	231, 232
レンズ着脱指標	24
レンズマウント	25, 109
連続撮影	110, 111
連続撮影後の再生画像	292
連続撮影コマ数	327
連続撮影速度	326
連動レリーズ	268
連動レリーズモード設定	327
連番モード	328
ローリング	340, 360
録音帯域	310
露出	122, 124, 134, 136, 138
露出インジケータ	129
露出設定ステップ幅	322
露出・調光補正ステップ幅	323
露出ディレーモード	328
露出プレビュー	44, 45
露出補正	136, 323
露出補正簡易設定	323
露出モード	124
ロスレス圧縮RAW	90

ワ

ワイドエリアAF	47
ワイヤレス設定 (フラッシュ発光)	197
ワイヤレストランスミッター	268
ワイヤレスリモートコントローラー	71, 199, 374, 375, 418



A series of horizontal lines for writing practice, consisting of 18 evenly spaced lines across the page.

ニコンプラザについて

ニコンプラザは、ショールーム、サービスセンター、ギャラリーを統合したニコン映像製品の総合情報拠点です。

※ ニコンプラザサービスセンターでは持ち込み修理の受け付けも行っていきます。



ニコンプラザショールーム ナビダイヤル

0570-02-8080



ニコンプラザサービスセンター ナビダイヤル

0570-02-8060

- 音声ガイダンスにしたがってご利用ください。
- ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、ニコンカスタマーサポートセンター (03) 6702-0577 におかけください。

ニコンプラザの所在地、営業時間などについては、下記URLをご覧ください。

<http://www.nikon-image.com/support/showroom/>



修理サービスのご案内

■インターネットでのお申込み

ニコンイメージングジャパン修理センターで承ります。
下記のホームページからお申込みいただけます。

<http://www.nikon-image.com/support/repair/>



●ニコンピックアップサービスで発送する場合

梱包資材のお届け・修理センターへのお引き取り、修理後のお届け・集金までをニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）が一括して代行するサービスです。全国一律の料金にて承ります（大きさや重さには制限があり、取り扱いできない製品もあります）。

●ご自身で発送する場合

インターネットでお申込みいただいた後、お客様ご自身で修理品を梱包し、修理センターまで発送してください。

株式会社ニコンイメージングジャパン修理センター

〒230-0052 横浜市鶴見区生麦2-2-26 修理センターナビダイヤル 0570-02-8200

※ 修理センターでは、宅配便、郵送をお受けします。ご来所の方の受付はしておりません。

■お電話でのお申込み

お電話でのお申込みの場合は、ニコンピックアップサービスをご利用いただけます。



ニコンピックアップサービス専用 フリーダイヤル（ヤマト運輸にて承ります）

0120-02-8155

営業時間：9：00～18：00（年末年始 12/29～1/4 を除く毎日）

※ 上記フリーダイヤルは、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）にて承ります。修理内容に関するお問い合わせにはお答えできません。修理内容に関するお問い合わせは修理センターへお願いします。

■サービスセンターでのお手続き

ニコンプラザのサービスセンター窓口でお見積り・受付をいたします。

✓ 修理品をお預けいただく場合のご注意

- ボディーキャップやレンズキャップが付属している製品の場合は、製品保護のため、装着してお預けください。
- 修理に必要と思われるもの以外の付属品は、ご自身で保管ください。
- カメラなどの修理では、受付や修理の過程で撮影データをやむを得ず消去する場合があります。大切なデータは必ずバックアップをお取りください。



補修性能部品と修理可能期間について

補修性能部品（機能維持に必要な部品）の保有期間内（製造打ち切り後7年を目安）を、修理可能期間とさせていただきます。なお、部品保有期間の経過後も修理できる場合がありますので、ニコンサービス機関、ご購入店または最寄りの販売店にお問い合わせください。また、水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、保有期間内であっても修理できません。この故障や破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

修理に関するお問い合わせ先

株式会社ニコンイメージングジャパン修理センター



修理センター ナビダイヤル

0570-02-8200

営業時間：9：30～18：00（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日）

- ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、ニコンカスタマーサポートセンター（03）6702-0577 におかけください。

製品の使い方に関するお問い合わせ先

■インターネットでのお問い合わせ

<http://www.nikon-image.com/support/contact/>

■お電話でのお問い合わせ

お電話でお問い合わせいただく前に本説明書の「故障かな？と思ったら」をご参照ください。



ニコンカスタマーサポートセンター ナビダイヤル

0570-02-8000

営業時間：9：30～18：00（年末年始、夏期休業日等を除く毎日）

- ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、ニコンカスタマーサポートセンター（03）6702-0577 におかけください。
- ファクシミリは、（03）5977-7499 にお送りください。

お問い合わせ時お願い

- おわかりになる範囲で「製品名」、「製品番号」、「ご購入日」、問題が発生した場合は「手順」、「現象（表示されたメッセージ）」、「発生頻度」などをご確認のうえ、お問い合わせください。



■ ニコンイメージング会員「製品登録」のご案内

ニコンでは製品を安全に、安心してご使用いただくため「製品登録」へのご協力をお願いしております。ご登録いただいた製品に関するファームアップ情報や重要なお知らせなどをメールでご案内いたします。

■製品登録方法

製品は、「ニコンイメージング会員」（無料）の「製品登録」ページからご登録いただけます。ニコンイメージング会員登録および製品登録は以下ニコンホームページからお手続きください。

ニコンイメージング会員のご案内

<http://www.nikon-image.com/enjoy/membership/about/>

■ニコンイメージング会員とは

登録製品に関するサポート情報・ニコン製品情報や、お得で便利な会員特典※などフォトライフをよりお楽しみいただくための会員サービスです。

※特典は登録製品ごとに異なります。

■ご注意

- ご登録にはメールアドレスとインターネットに接続できる環境が必要です。
- 登録製品の製品番号（製品本体および保証書に記載）が必要です。
- 特典の内容は、予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。



■ ニコンイメージングサポートページのご案内

<http://www.nikon-image.com/support/>

最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデート情報をご覧ください。製品をより有効にご利用いただくために、定期的なアクセスをおすすめします。



株式会社 **ニコン**

株式会社 **ニコン イメージング ジャパン**

Printed in Japan

SB9A06(10)

6MB28810-06

© 2016 Nikon Corporation